2024年度

履 修 要 項

東京福祉大学
TOKYO UNIVERSITY OF SOCIAL WELFARE

池袋・王子キャンパス

社 会 福 祉 学 部
保 育 児 童 学 部
心 理 学 部
教 育 学 部

履修要項について

この「履修要項」は、東京福祉大学の学生が、授業を受けるにあたって留意しなければならないことや、卒業に必要な単位をどのように修得すればよいかを学則および学部の規程に基づいて編集したものです。

授業科目の履修計画やそのための手続きの詳細については、年度当初のオリエンテーションで説明をしますが、皆さんは、この「履修要項」を熟読し、卒業まで機会のあるごとに参照し、十分に活用してください。そして、不明なところがある場合には、教務課やアカデミックアドバイザーの指導を受け、疑問の解明につとめてください。自己流の解釈や伝聞などに頼って間違えることのないように十分注意してください。

各年度の授業科目の講義内容については、毎年発行する「シラバス（授業概要）」を参照してください。

この「履修要項」は、入学年度のみ１人に１部配付します。紛失者に対する再配付は行わないので、卒業するまで紛失しないようにしてください。

ただし、「履修要項」の一部が変更される場合には、オリエンテーション時の説明や追補版の配付もしくは掲示でお知らせします。

目　　次

履修要項について

目次

授業について

1. 大学における授業とは…… 9
2. セメスター制度…… 12
3. 単位制…… 12
4. 教室外の学習（授業の事前学習・事後学習等）…… 13
5. シラバス…… 13
6. 科目の区分…… 13
7. 科目番号…… 13
8. 単位の認定…… 14
9. 成績の評価…… 14
10. 授業時間…… 15
11. オフィスアワー…… 15
12. アカデミックアドバイザー（担任）…… 15
13. 休　　講…… 16
14. 補　　講…… 16
15. 集中講義…… 16
16. 欠席扱いの免除…… 16
17. 交通機関が不通となった場合の授業の取り扱い…… 17
18. 学生による授業評価…… 17
19. パソコンの使用について…… 18
20. 学生への連絡…… 19

履修科目の登録について

履修科目の決定から履修登録まで …… 23
1. 履修科目登録にあたって…… 24
2. 時間割の作成…… 24
3. 履修科目登録書類の作成…… 26
4. 履修登録届の提出…… 27
5. 資格の登録…… 27
6. 履修登録科目の確認…… 28
7. 学業成績通知書の配付…… 29

履修について

東京福祉大学学則（抄）　…… 33
東京福祉大学科目履修規程（抄）　…… 36

Ⅰ．社会福祉学部のカリキュラムについて
1.社会福祉学科　社会福祉専攻　社会福祉コースのカリキュラム
1-1. 社会福祉学科　教育の目的…… 37
1-2. 社会福祉学科 社会福祉専攻 教育課程の編成･実施の方針（カリキュラム・ポリシー）…… 37
1-3. 卒業に必要な単位数…… 37
1-4. 履修する上での注意事項…… 38
1-5. カリキュラム…… 40
1-6. 資格取得に必要な単位…… 43

2. 社会福祉学科　精神保健福祉専攻のカリキュラム
2-1. 社会福祉学科　教育の目的…… 44
2-2. 社会福祉学科　精神保健福祉専攻 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）…… 44
2-3. 卒業に必要な単位数…… 44
2-4. 履修する上での注意事項…… 45
2-5. カリキュラム…… 47
2-6. 資格取得に必要な単位…… 51

3. 社会福祉学科　経営福祉専攻のカリキュラム
3-1. 社会福祉学科　教育の目的…… 52
3-2. 社会福祉学科　経営福祉専攻 教育課程の編成･実施の方針（カリキュラム・ポリシー）…… 52
3-3. 卒業に必要な単位数…… 52
3-4. 履修する上での注意事項…… 52
3-5. カリキュラム…… 55
3-6. 資格取得に必要な単位…… 58

4. 社会福祉学科　心理福祉専攻のカリキュラム
4-1. 社会福祉学科　教育の目的…… 59
4-2. 社会福祉学科　心理福祉専攻 教育課程の編成･実施の方針（カリキュラム・ポリシー）…… 59
4-3. 卒業に必要な単位数…… 59
4-4. 履修する上での注意事項…… 59
4-5. カリキュラム…… 62
4-6. 資格取得に必要な単位…… 65

Ⅱ．保育児童学部のカリキュラムについて
1.保育児童学科のカリキュラム
1-1. 保育児童学科 教育の目的 …… 66
1-2. 保育児童学科 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）…… 66
1-3. 卒業に必要な単位数…… 66
1-4. 履修する上での注意事項…… 66
1-5. カリキュラム…… 70
1-6. 資格取得に必要な単位…… 73

Ⅲ．心理学部のカリキュラムについて
1.心理学科のカリキュラム
1-1. 心理学科 教育の目的 …… 74
1-2. 心理学科 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） …… 74
1-3. 卒業に必要な単位数…… 74
1-4. 履修する上での注意事項…… 74
1-5. カリキュラム…… 78
1-6. 資格取得に必要な単位…… 81

Ⅳ．教育学部のカリキュラムについて
1.教育学科　学校教育専攻のカリキュラム
1-1. 教育学科 教育の目的 …… 82
1-2. 教育学科 学校教育専攻 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） …… 82
1-3. 卒業に必要な単位数…… 82
1-4. 履修する上での注意事項…… 82
1-5. カリキュラム…… 85
1-6. 資格取得に必要な単位…… 90

2.教育学科　国際教育専攻　国際教育コースのカリキュラム
2-1. 教育学科 教育の目的 …… 91
2-2. 教育学科 国際教育専攻 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） …… 91
2-3. 卒業に必要な単位数…… 91
2-4. 履修する上での注意事項…… 92
2-5. カリキュラム…… 94
2-6. 資格取得に必要な単位…… 97

３.教育学科　国際教育専攻　日本語教育コースのカリキュラム
3-1. 教育学科 教育の目的 …… 98
3-2. 教育学科 国際教育専攻　日本語教育コース　教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） …… 98
3-3. 卒業に必要な単位数…… 98
3-4. 履修する上での注意事項…… 99
3-5. カリキュラム……101
3-6. 資格取得に必要な単位……103

Ⅴ．キャリア開発教育について ……104

Ⅵ．取得できる資格 ……106

Ⅶ．資格取得の方法
1. 社会福祉士受験資格の取得について……111
2. 精神保健福祉士受験資格の取得について……118
3. 教育職員免許状の取得について……123
4. 保育士資格の取得について……154
5. 第一種衛生管理者免許の取得について……160
6. 社会教育主事【基礎資格】の取得について……162
7. 認定心理士資格の取得について……163
8. 公認心理師基礎受験資格（大学）の取得について……165
9. ﾚｸﾘｴｰｼｮﾝ・ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ資格の取得について……167
10. ｽｸｰﾙｿｰｼｬﾙﾜｰｶｰ資格の取得について ……168
11. 任用資格の取得について……169

Ⅷ．卒業研究 ……171

履修モデル

社会福祉学部
1. 社会福祉専攻　社会福祉コース（社会福祉士＋福祉科教諭（高校））　……181
2. 精神保健福祉専攻　（精神保健福祉士＋社会福祉士）……182
3. 経営福祉専攻　（社会福祉士）……183
4. 心理福祉専攻　（認定心理士＋公認心理師）……184

保育児童学部
5. 保育児童学科 保育・幼児教育コース（保育士＋幼稚園教諭）……185
6. 保育児童学科 保育・初等教育コース（保育士＋幼稚園教諭＋小学校教諭）…186
7. 保育児童学科 子ども福祉コース（保育士＋社会福祉士）……187
8. 保育児童学科 子ども発達心理コース（保育士）……188
9. 保育児童学科　芸術福祉コース ……189

心理学部
10. 心理学科　総合心理学コース（認定心理士）　……190
11. 心理学科　発達・教育心理学コース（認定心理士＋養護教諭一種教員免許状）　…191
12. 心理学科　臨床心理学コース（認定心理士＋公認心理師）　……192
13. 心理学科　犯罪心理学コース（認定心理士）　……193
14-1. 心理学科　福祉心理学コース①（認定心理士＋社会福祉士受験資格）…194
14-2. 心理学科　福祉心理学コース②（認定心理士＋精神保健福祉士受験資格）…195
15. 心理学科　社会・ビジネス心理学コース ……196

教育学部
16-1. 教育学科 学校教育専攻（小学校教諭一種免許状）……197
16-2. 教育学科 学校教育専攻（小学校教諭一種免許状＋英語科教諭一種免許状（中学・高校））…198
16-3. 教育学科 学校教育専攻　ICTコース
（小学校教諭一種免許状＋情報科教諭一種免許状（高校））…199
17. 教育学科 学校教育専攻（英語科教諭一種免許状（中学・高校））…200
18. 教育学科 学校教育専攻（情報科教諭一種免許状（高校））……201
19. 教育学科 学校教育専攻（養護教諭・保健科教諭一種免許状（中学・高校））…202
20. 教育学科 学校教育専攻（認定心理士＋養護教諭一種免許状）……203
21. 教育学科 学校教育専攻（教育心理）……204
22. 教育学科 国際教育専攻 国際教育コース（小学校教諭－種免許状＋海外留学）…205
23. 教育学科 国際教育専攻 国際教育コース（英語科教諭一種免許状（中学・高校＋海外留学）…206
24. 教育学科 国際教育専攻 日本語教育コース（日本語教員）……207

参考資料　学費納入（予定）について ……208

授業について

授業について

オリエンテーションを終えると、すぐに授業が始まります。ここには、授業を受けるために前もって知っておかなければならないことが記載してあります。

1. 大学における授業とは

大学における授業は、高等学校までの授業とは異なり、所属する学科・専攻・コースに定められた授業科目の中より、必修科目と受講を希望する選択科目を習い修める（「履修」という）ことになります。

皆さんは、自分自身の目標に応じた科目を選択し、自分自身の時間割を作成します。目標が達成できるように、主体的に４年間の履修計画を立ててください。

年度はじめに作成した自分の時間割を「履修登録」（後項で詳述）として申請し、授業を受けることになります。

東京福祉大学では、日本の大学のみならず、国際舞台で活躍している一流の学者、教授陣の多数によって教員を構成し、アメリカなどの大学教育のよい面と日本の大学教育のよい面の両方を取り入れた授業を行います。アメリカの大学教育は、学生の潜在能力を伸ばすことに集中した授業を行っています。そのため、暗記を重視することはありません。重視しているのは、与えられたテーマを把握し、分析し、思考し、論理的に解答を導き出す学習です。必要に応じて参考書や資料を使い、先達の学説の中に自分の考えを入れて文章をまとめたり、ディスカッションにより他者のさまざまな考えにふれて新たな発見をしたり、ディベートにより一貫した論理展開を学んだりします。このような授業を通して、学生は思考力や課題探求能力を身につけていきます。これまでの日本の教育では決まった一つの解答を出すことが教育の中心でした。これからの日本を取り巻く不透明な社会では、正解は一つではなく、複数あってもよいのです。大切なことは解答に至るまでの思考過程や論理展開であることを授業を通じて理解していきます。

〇授業における心構えⅠ

本学では教育効果を高めるため、教員の授業内容・授業方法の改善、教科書や参考書を学生が読めば理解できるわかりやすいものにするなど、効果的な教授法の向上への取り組みをしています。教員は、学期ごとに各科目が終了することを前提として、「この科目を学べばこのような知識・技術と学問的能力が身につく」という教育目標としての各授業科目のシラバスを明確に設定し、学期のはじめに学生に示します。そのために教員は知識や技術の向上についての具体的目標、参考文献、試験方法、授業進度、教科書・参考書の選択などを各科目について適正かつ合理的に設定し、学生に示します。その他、教員の効果的な教え方の能力向上のため、ファカルティ・ディベロップメントを重視し、全教員がそのために勉強に努めています。

ファカルティ・ディベロップメントとは、教員が授業内容・方法、教科書・参考書の選択の仕方などを改善し、学生の能力を向上させるための組織的な取り組みの総称です。その意味するところは極めて広範にわたりますが、具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、学生に学習意欲をどのようにもたせるか、授業方法、効果的な試験の方法、論文の指導方法などについての研究会の開催、新任教員が効果的に教室運営をするための研修会の開催などを挙げることができます。

従来の日本の大学においてよく見受けられるのは、教員が学生の前に立って、教科書や資料を教壇から一方的に熱心に解説したり、難解な専門用語や難しい理論を解説しているだけの授業です。このような授業で、学生が内容を理解しているかどうかにかかわらず講義を進めてしまうと、学生は、難解な専門用語を理解できず、授業は退屈で、居眠りやおしゃべりなど授業と関係のな

いことを始めたくなります。また、学生に教科書や資料をあてて立たせて読ませたり、グループでディスカッションをさせる場合でも、意味のわからない難解な専門用語ばかりが並ぶ教科書や、精練されていない参考文献を使っていたのでは、いくら読んでも漢字も読めず、大事なポイントすらつかめません。

教員は、学生が読んでわかるような資料を教員自らが作成し、他の教職員にもそれを読んでもらい、本当に学生が読んで理解できる書き方かどうかといった意見を聞きながら書き直し、より読みやすくわかりやすい資料にして、学生に配付します。皆さんはその教科書や参考書、資料を授業の中で熟読し、他の学生と何が大事か、どこが問題点なのかについて話し合い、その上で、大切な部分を自分なりの意見を含めて文章にします。それから、学生同士で、自分達でまとめた文章を添削し合ったり意見を出し合いながら、よりよい文章にしていきます。この積み重ねが、本当の読解力・分析力・課題探求能力・文章力・創造力を生むのであって、教員が難しい教科書や資料を授業の中で解説したり、専門用語・学術用語を一方的に解説するだけでは、学生の能力を伸ばす質の高い教育効果はまったく望めません。

○授業における心構えⅡ

より質の高い教育効果をあげるために、皆さんは授業中、次のことを守らなくてはなりません。

① 携帯電話、スマートフォンの電源は、授業中は必ず切っておいてください。授業中、こっそりメールを見たり、廊下に出て話すということはやめましょう。授業の主役である皆さんが教室にいなくては話にならないからです。

② 座席は、男女混合で座ります。仲のよい同性と隣同士で座ってはいけません。異性同士、あるいは年齢差がある者、置かれた状況が異なる者、あるいは価値観の違う者が隣同士で座り、ディスカッションをすることで、一つの考えに固執することなく、幅広い考え方を身につけることができます。その際、自分とは異質なものに対して反論することは、自己の古い考えを壊し始めたために、視界が広がり出したことにつながるということを皆さんは理解しなくてはなりません。

③ 座席は前の方から順に座ります。後ろの方で学生がばらばらに間をあけて座っていては、教員の目はゆきとどかず、皆さんの理解度を顔を見ながら確認できません。教室にいるすべての学生が理解しているかどうかを確かめていくには、できるだけ教員と学生が近い距離のもとで、共に学び合う姿勢を持つことが重要です。

④ 居眠りや私語、飲食などをせず、真剣に授業に取り組んでください。

このように、本学では学生が授業の中心となって勉強できる授業を行い、さらに教員は本当に皆さんが理解しているかを把握するために、少なくとも、次のような具体的な確認を授業の中で行います。

① 黒板の前ではなく、学生の席の間をゆっくり歩き、学生に大きな声で質問しながらの対話方式で授業を行います。黒板の前に立っているだけでは、皆さんの様子がつかめないからです。

② 履修者名簿ではなく学生の顔や様子を見てあて、学生が積極的に授業に参加できるように、音読でも発表でもとにかく機会を作って起立させ、必ず発言を促します。その際、学生のどのような考えをも否定しません。その中に良い考えも含まれているからです。積極的に発言してください。

教室で他の学生の前に立っての教科書、参考書などの音読は、内容を学生全員で確認するという意味で大変重要です。ゆっくりと、どのページのどの行かを確認しながら読み進めます。読み違いや読めない漢字などは、すぐに教員が指摘して、まず、他の学生に直すように指示をし、その後、教員がわかりやすく、正しい言葉を教えます。また、他の学生が発表したら、クラス全員で必ず毎回拍手をします。

③ 発言の際は必ず起立してください。座ったままでは、周囲の学生が発言の内容に注目できないためです。また、大教室の場合は、皆さんもマイクを使い、マイクで全員に聞こえるようにします。せっかくの皆さんの発言を、小さな声で教員とその学生の周囲だけの話にしてしまうと、他の学生がよく聞き取れず、授業に集中することができないからです。

④ 教員は板書をできるだけ行いません。板書が必要な場合は、皆さんに書いてもらうようにします。これは自分自身の理解の確認にもなります。

⑤ 授業は難しい言葉や専門用語を使わず、日常的なわかりやすい言葉で進めます。また、教科書・参考書は一方的に解説しなくても、学生が読めば理解できるものを選び、重要な点を学生に発言させます。授業中、皆さんは重要な部分をチェックし、アンダーラインを引いてください。

基本的には、学生が自分で重要なポイントをつかみ、自分の文章で整理し書き直すという学問の基礎能力を養うのが目標です。知識は詰め込んで覚えても消えやすいものですが、このように理論的に思考する能力さえ身につけておけば、知識はいつでも取り出すことができます。

⑥ 成績評価は学生の努力や主体性に重点を置き、厳格な基準で行います。全授業に参加して初めて、成績評価の対象になります。欠席は減点であり、授業において発表した学生、特に自分自身の考えを発表した学生は、その回数が多いほど高く評価されます。

学習の主体はあくまでも皆さん学生です。そのために教員は難しい専門用語のみによる一方的な知識の伝達に終始することはありません。たとえ、100～300人といった多人数による授業であったとしても、クラスをいくつかの小グループに分けて、ディスカッション形式などを取り入れ、学生一人ひとりが授業に参加できるようにします。ディスカッションの中で、グループの話し合いの中心となる学生をグループに決めさせ、教員の代わりにテーマを追求し、さまざまな意見や考えを引き出していきます。そうすることで、大教室における授業でもクラス全員が授業に参加できる少人数制クラスに変わります。

進度はゆっくりでも、皆さんが確実に内容を理解したかどうかがもっとも大切です。授業では退屈そうな学生や後ろの席に座って授業に集中していない学生を中心にあてて、意見を述べてもらうので、皆さんは積極的に授業に参加してください。

〇事前学習・事後学習・レポートについて

授業では前もって読んでこなければならない教科書、教材のページをシラバスで指定しますので、皆さんは必ずその部分を読み、予習した上で授業に臨んでください。どこが重要な部分であるか、また疑問点はどこか、授業であてられても答えられるよう、また、学生同士でグループディスカッションできるよう準備してください。学生が読んで理解したことや調べたこと、疑問に思うことをディスカッションし、他の学生の意見や考え方を互いに学んでいくことは大切なことです。授業の復習もきちんと行うようにしてください。

次に、皆さんはシラバスで指定されたレポートを提出してください。教科書を読み、重要なところをおさえながら、自分で調べたことや他の参考書の学説や考えも含め、まとめていきます。提出されたレポートは、教員が何度も添削し、何度も書き直しをさせ、Aの評価がとれるよう指導します。最初にまあまあよいレポートが書けている学生でも、それ以上努力しなければ、よい評価はしません。どれだけ努力したかによって評価するからです。

毎日、教科書・参考書をよく読み、授業の中で自分の考えや調べたことを発表し、他の学生の発表や考え方をも学び、レポートを何回も書き直し作成することによって、大学生として学ぶべき社会福祉・保育・教育・心理の各科目や一般教養について基本的な理解と学問の基礎能力を養うことができます。教員が説明した知識のみを覚えてくるといった暗記を問うための試験は本学では行いません。

2. セメスター制度

セメスター制度とは、1年間を春期・秋期の2期に分け、学期（セメスター）ごとに授業科目を完結させる制度です。

春期は4月から9月まで、秋期は10月から2月まで授業が行われます。

ただし、一部の授業科目では、春期・秋期で通して行われる通年型（通年科目）をとる科目もあります。また、特定の期間に集中して授業を行う授業科目や学外で行われる特殊な授業科目もあります。

これまでの日本の多くの大学においては、一つの授業科目を1年間を通して履修する通年制がとられてきました。しかし、欧米をはじめとする諸外国では、複数学期制で授業を行うセメスター制の方が主流です。セメスター制では、単に1年を複数学期（セメスター）に分割するだけではなく、一つの授業科目の履修を一学期という短期間に完全に修了させることを目的としています。セメスター制の利点は、少数科目を一つの学期の中で集中的に履修することによって、学習効果をより高めることができる点にあります。

セメスター制採用のもう一つの利点は、学年開始時期が異なる大学から、または異なる大学への転・編入学が円滑に行えるという点にあります。日本においては、これまで4月が学年開始時期であり、通常9月が開始時期である海外からの留学生あるいは帰国生徒の受け入れ、及び海外の大学への日本からの留学において、半年間のブランクができるという問題がありました。

東京福祉大学では、秋期入学も設定し、留学生・帰国生徒の受け入れや本学からの海外留学が円滑に行えるように配慮しています。

東京福祉大学では、留学生を対象とした担当の教職員を置き、特に入学時のさまざまな相談に対応できるようにし、また、教員が各授業科目においても秋期入学生のケアを担当し、春期入学生との交流が行われるよう、配慮しています。

3. 単位制

本学における授業科目の履修については、文部科学省令「大学設置基準」を踏まえて定められた学則に基づいて行われます。

単位制とは、授業科目ごとに一定の基準で定められている学修により単位を修得するもので、各大学で定める一定の授業科目について、一定の単位を修得することによって卒業が認められます。

1単位は、個々の授業科目について教員が教室などで行う授業時間と学生が教室外で行う事前・事後の準備学習の合計で標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成され、その所定の時間を学修、試験の上、平素の成績などを総合的に評価して合格と判定されたときに認められます。

この単位の集積によって各学科・専攻・コースで定められた卒業の要件を満たしていくことになります。

単位の数え方は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果や授業時間外に必要な学修等を考慮し、計算されます。講義・演習科目は、15～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

実習については、30～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって1単位とします。

期末試験は、15週の授業とは別に行われます。

4. 教室外の学習（授業の事前学習・事後学習等）

1単位とは、教室外の学習を含めた標準45時間の学修をもって認定することを基本としています。授業時間のみで学習効果を上げることは非常に難しいことです。学生は授業時間以外の時間に事前・事後学習などを行うことにより、知識を深め理解することに努めると共に、興味・関心の幅を広げ、自ら学ぼうとする意欲を持つ必要があります。本学では、授業内容に関する宿題や課題が適宜学生に課され、学生は課された学習に対して自己責任のもとに自主的な学習を進めていかなければなりません。課題は次回の授業の際に提出し、担当教員が採点して学生にフィードバックします。

また、本学では国内外におけるボランティア活動を奨励しています。ボランティア活動は、教室では学び得ない人間関係を学んだり、さまざまな経験を得ることができる重要な場です。

5. シラバス

本学では、責任ある授業運営と学生の卒業時における質を確保するため、効果的で円滑な授業運営に努めるものとし、そのため、シラバスを授業科目ごとに作成し、各セメスターの開始前に学生に提示することとしています。

シラバスには、授業科目名、担当教員名、科目番号、授業目標及び期待される学習効果（この科目を履修することによって習得できる知識・技術と能力・資格などを明示）、履修条件、各回ごとの授業展開及び授業内容、事前・事後学習についての教科書・参考文献などの具体的な指示、成績評価の方法・規準、オフィスアワー、教員から学生へのメッセージ、学習課題などを記載することとしています。

シラバスは、学生が各授業科目の事前・事後学習などを進めるための基本となるとともに、学生が履修する選択科目を決定するための資料、学生による授業評価の資料などにも使われています。

シラバスに明示された授業計画を変更する場合には、事前に適切な方法で、学生に周知するものとしています。

6. 科目の区分

各学科・専攻・コースに定められた授業科目（各学科・専攻・コースの「カリキュラム」参照）は、卒業要件により必修科目・選択必修科目・選択科目・資格課程科目に区分されています。

必 修 科 目：必ず履修しなければならない授業科目
選択必修科目：選択肢の中から一定の単位数の科目を必ず履修しなければならない授業科目
選 択 科 目：希望により履修することができる授業科目
他専攻の開講科目（演習・実習など一部の授業科目は除く）
資格課程科目：教員免許状取得に必要な科目など、特定の資格取得を目的とした授業科目

7. 科目番号

科目番号とは、授業科目を分類する目的で付けられた番号をいいます。本学では、アルファベットと数字が組み合わさった部分を指します。

この科目番号は、その授業科目の開講学部、総合科目・専門科目などの科目の種類、履修の年次、必修・選択などの種類、履修の順番などで分類されています。皆さんは毎学期、資格取得や卒業に向かい、計画的に適切な授業を順序良く履修していくことが必要となります。言い換えれば、この科目番号の情報は、履修計画上とても重要です。適切な履修計画を立てるための指針と

してこの科目番号の情報を大いに活用してください。

8. 単位の認定

履修した科目の単位の認定は、原則として、**授業実時数の４分の３以上（１５回中１２回以上、３０回中２３回以上）の出席**を満たし、試験の上、平素の成績を含め総合的に評価して、合格と判定されたときに認定されます。試験の方法は、筆記試験・口頭試験・レポートなどによりますが、実習・実技などの科目は、平常の成績をもって試験成績に代えることもあります。

出席日数が不足したり、途中で履修（受講）を放棄したような場合は、その科目は、無資格となり単位認定の対象とはなりません。

9. 成績の評価

成績の評価は、次のようになります。

判定	合格				不合格		保留
	100点～90点	89点～80点	79点～70点	69点～60点	59点～0点	無資格	
評　価	A	B＋	B	C	F		I
G　P	4	3	2	1	0		

無資格：授業の出席日数不足などで成績評価を受ける資格がないこと。

ＧＰＡ制度について

本学ではＧＰＡ制度を実施しています。各科目とも5段階（Ａ・Ｂ＋・Ｂ・Ｃ・Ｆ）で成績評価され、それぞれに対して、4・3・2・1・0のグレード・ポイントを付与し、1単位当たりの平均、ＧＰＡ（グレード・ポイント・アベレージ：Grade Point Average）を算出します。**単位修得はＣ評価でも可能ですが、卒業のためには通算のＧＰＡが2.0以上であることが必要となります。**3セメスター（1年半）連続してＧＰＡが2.0未満の学生に対しては、退学勧告がなされます（ただし、突然退学勧告がなされるわけではなく、学部長などから学生に学習指導・生活指導を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となります）。

※ GPA 算出方法　GPA　＝〔(GP×単位）+（GP×単位）+　（GP×単位）+…〕÷　全履修単位数

※ 一度Ｆ評価（不合格：GP＝0）をとった単位は、再履修して合格しても、GPA 評価の対象となります。(F 評価は、卒業するまで履修単位数に計上されます。)

成績評価「I」（Incomplete）について

やむを得ない理由により、学期終了時に成績の確定が困難な学生については、以下の手続きをとった場合に限り、保留を意味する「I」（Incomplete）の評価を得ることができます。

１．学生は、該当学期終了時までに、次の書類を授業担当教員に提出する。
　(1)　試験またはレポートが提出できなかった理由を書いた申請書
　(2)　医師の診断書、またはやむを得ない事情を証明する書類
２．学生は、試験または必要なレポートなどを次学期終了時までに、授業担当教員に提出する。

注1)　原則として、４年次秋期には、成績「I」評価にはならない。
注2)　成績「I」評価については、ＧＰＡ評価の対象とはならない。
注3)　「I」評価にするか否かについては、授業担当教員が決定するものとする。
注4)　「I」評価が付された学生は速やかに、授業担当教員に相談に行くこと。
注5)　「I」評価が付された科目については、評価が確定次第、履修した学期のＧＰＡ値に加算される。

10. 授業時間

授業は1時限90分で行われます。

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限
9:00～ 10:30	10:45～ 12:15	13:10～ 14:40	14:55～ 16:25	16:40～ 18:10	18:25～ 19:55

11. オフィスアワー

授業時間のみでなく、学習準備及び復習に関しても教員が指導し、学生が教員の研究室を訪ね、直接きめ細かな指導を受けることができるよう、オフィスアワーという時間枠を各教員が設定しています。これは授業とは別の時間に設定していますので、学生が授業では理解できなかった部分を解決したり、興味・関心のある分野について個人的に指導を受けることが可能となり、授業の理解度や研究の質の向上に役立ちます。また、課題ができない学生のためには、資料の調べ方やレポートの書き方をわかるまで、一人ひとり、丁寧に指導し、学生が学習及び研究目標を確立するために指導を行います。

12. アカデミックアドバイザー（担任）

アカデミックアドバイザーとは、皆さんの学業や学生生活に関する相談を受ける学業相談員のことで、専任教員が分担して受け持っています。相談内容は、履修計画・学習目標に関すること、学習する上での問題、大学生活に関すること、各教員の専門分野に関すること、卒業研究に関することなどです。履修に関する問題には、教務課の職員と連携して皆さんの相談を受けます。そのため、各学期の始めには、アカデミックアドバイザーの教員と面談する必要があります。

また、事情があって長期欠席、休学、退学などを考えている場合には、まず相談すべき窓口はアカデミックアドバイザーとなります。学生生活を送る上で問題が生じた場合は、担当のアカデミックアドバイザーの教員が皆さんの対応をいたしますので、本学の特長ともいえるアカデミックアドバイザー制度を自分の学業のために十分に活用してください。なお、アカデミックアドバイザーを訪問する際には、オフィスアワーを確認してから研究室を訪ねてください。

※　上記の問題以外での、おもに健康、生活、経済、就職に関わるような問題については、それぞれ保健相談室、学生相談室、教務課、就職支援室、教職課程支援室、福祉専門職支援室などで皆さんの相談を受けています。詳しくは「学生生活の手引き」を参照してください。

13. 休　　講

授業担当の教員がやむを得ない理由や都合により授業を休むときは休講となります。このようなときには事前に休講通知が大学ホームページに掲載されます。
また、急に休講になったときは、教務課職員が教室へ連絡に行きます。
なお、授業時間が始まって15分以上たっても担当の教員が教室にみえない時は、教務課へ連絡し指示を受けてください。

14. 補　　講

授業が大学行事や休講などで予定の回数を実施できなかった場合に補講が行われます。実施日については、事前に担当教員から指示があるとともに、補講通知が大学のホームページに掲載されます。

15. 集中講義

集中講義は、原則として、年間学事予定で定められている期間に実施されます。
受講を希望する科目が集中講義の場合は、履修登録時に登録をしてください。
ただし、集中講義については一定期間内に開講されることになりますので、多くの集中講義科目を履修登録しても全ての科目が受講できるとは限りません。
集中講義期間中の詳細な時間割は、原則として集中講義期間の2週間前までに掲示でお知らせします。

16. 欠席扱いの免除

実習、忌引き、学校感染症などによる理由で授業を欠席したときは、「欠席扱いの免除（公欠）」の申請ができます。4～12は教務課で申請を受け付けます。**申請期限は、欠席扱い免除（公欠）終了後2週間以内です。ただし、以下の1～5・7・12は事前の届け出が必要です。**
なお、公欠は出席扱いではありません。課題や補講などが課されますので、必ず授業担当教員に確認をしてください。
欠席扱いの免除（公欠）となるものは、以下の場合に限ります。

1	実習	大学が正規の課程の実習として認めた期間。 【申請先】教育実習：キャリア支援室
2	施設・学校などへの訪問	教育実習などの事前打ち合せ・依頼など、大学が認めた施設・学校などへの訪問の日時。 【申請先】　教育実習関係：キャリア支援室
3	就職活動	会社説明会・採用試験などでやむを得ない場合に限り認める。 【申請先】　キャリア支援室
4	本学主催の短期研修・行事などへ参加した場合	アメリカ夏期短期研修などの海外研修への参加や、赤城山宿泊研修などの行事にスタッフとして参加した場合。
5	公民としての権利の行使	選挙権、その他公民として権利を行使する日時。
6	忌引き	原則として、父母が死亡した場合には連続して７日以内、３親等以内の親族が死亡した場合には連続して３日以内の忌引きを認める。ただし、遠隔地出身者の場合には、相当の考慮をする場合がある。※会葬礼状などの提出により発行。

7	近親者の法事・結婚式など	大学が認めたものについて、１日限り認める。ただし、遠隔地出身者の場合には、相当の考慮をする場合がある。 ※　保証人が記入した証明文書の提出により発行。
8	地震などの自然災害や騒乱により、通学が著しく困難な場合	大学が認めたものについては、欠席扱いの免除（公欠）または休講とする。
9	交通機関のストライキが発生した場合	スト路線及びスト終了時間などを考慮し、欠席扱いの免除（公欠）または休講とする。
10	交通機関が遅延した場合	遅延証明書の提出をもって、遅延時間により、欠席扱いの免除（公欠）とする。
11	学校感染症など	医師が必要と認めた場合。 （インフルエンザなど大学指定の治癒証明書または診断書などを提出のこと）
12	その他	学長が認めた活動。

注：4～12 の申請先：教務課

17. 交通機関が不通となった場合の授業の取り扱い

自然災害などの発生により警報などが発令されたり、その他の通学及び授業の実施を困難にする理由で、池袋キャンパスではJR山手線、東京メトロ有楽町線及び丸の内線のいずれか、王子キャンパスではJR京浜東北線、山手線、高崎線、宇都宮線及び東京メトロ南北線のいずれかが不通となった場合は、授業・補講を次のように取り扱います。

① 東京23区内、東京都全域又は関東地方全域に暴風、大雪などの警報が発令された場合、授業を休講とする。ただし、警報が解除された場合は下表の通りとする。

警報解除の時間	授業の取扱い
午前６時までに解除された場合	平常通り授業を実施
午前６時以降午前 10 時までに解除された場合	１限及び２限は休講 ３限以降は授業を実施
午前 10 時以降午後２時までに解除された場合	４限まで休講 ５限以降は授業を実施
午後２時までに警報が解除されなかった場合	終日休講

②上記①以外の理由により、交通機関が全面不通となった場合は以下の通りとする。

・午前６時の時点で全面不通の場合　１限及び２限は休講
　　３限以降は授業を実施
・午前10時の時点で全面不通の場合　終日休講

18. 学生による授業評価

東京福祉大学では、学生による授業評価を導入しており、多項目にわたる授業評価票を使用して、教員の教育活動を学生が評価します。刺激的で魅力的な授業を学生に提供するため、教員が以下のような細かい点に常に配慮しているかどうか、皆さんも学期の終わりに真剣に評価してください。

① 教員の授業進行について
(a)　授業の進行が適切であり、大きな声で学生の理解度に合わせて進度を調整した。
(b)　講義・ディスカッション・発表の際、科目や問題などの重要なポイントを的確に押さえて

いた（押さえさせていた）。
(c) 極力、専門用語の使用を避け、わかりやすい言葉で説明を行っていた。
(d) 予習、復習を助ける勉強方法が明示されていた。
(e) 出欠を正確にとっていた。
(f) 授業開始・終了時間が守られていた。
(g) 居眠りや私語をしそうな学生に質問や教科書をあてて立たせて読ませていた。
(h) 授業中の飲食について厳格であった。

② 教員の授業内容について
(a) 十分な準備を行い、授業への取り組みが熱心であった。
(b) 学生の感情や要求に的確に反応し、学生が理解しながら授業を受けているかどうかを常に認識していた。
(c) 科目内容に対して学問的にしっかり把握し、明確かつ適切な例を使用した。
(d) 学生が質問し、教員と反対の意見を述べたり、自分の主張をできるような雰囲気を授業中作っていた。また、努力している学生を皆の前でよく誉めていた。
(e) 常に学生が主体となって授業に参加できるよう、教員が学生にわかりやすい教科書を選択し、対話方式でその教科書を学生にあてて立たせて読ませたり、ディスカッションを取り入れたり、親切にやさしく質問に応えていた。
(f) 授業以外の時間（オフィスアワーなど）における、アドバイスが有用であった。
(g) レポート、宿題に対して詳しく十分な指示を出していた。
(h) 試験・レポート・宿題について添削やコメントがなされ、有意義なアドバイスが付され速やかに返却された。

③ 教材について
(a) 教科書の選択にあたっては、専門用語を羅列した難解なものではなく、わかりやすいものが選択されており、適切であった。
(b) 参考書は、読みやすく理解しやすいものが適切かつ十分に指定されていた。
(c) 配付資料・視聴覚教材（OHC・ビデオなど）の利用が効果的であった。

さらに、教育活動の評価にあたっては、教育内容についても適切なものであるかどうかという視点から評価を行い、改善、充実に役立てます。
なお、授業評価の集計結果については、学生と教職員を対象に図書館にて開示を行っています。閲覧を希望する場合は、図書館にて所定の手続きを行ってください。

19. パソコンの使用について

情報化社会の現在、パソコンの活用は大学生にとって必要条件です。本学ではインターネットを有効に活用した教育・研究方法を展開します。したがって、本学でのパソコンの活用は、補助的なものではなく、授業中における情報の検索や資料の収集、レポートの作成などに及びます。
また、基本的に、提出するレポートなどの作成は、パソコンの使用が要求されることになります。

○ インターネット接続（池袋キャンパス）
インターネットへの接続には、パソコンなどが設置されている情報処理学習室１(14 号館 3 階)、情報処理学習室２（14 号館 4 階)、情報処理学習室３（14 号館 4 階）の他、無線 LAN の設備のある教室などで自分のノートパソコンから繋げることができます。
なお、学内でノートパソコンをインターネットに接続するには、教務課で所定の手続きを取る必要があります。手続きに関する質問は教務課もしくは「情報処理演習」担当教員を訪ねてください。

○ 情報処理学習室１・２・３（14 号館)、図書閲覧室（大学附属図書館池袋分室)、学生ラウンジ（７号館)、学生自習室（８号館)、ラーニングコモンズ（９号館）の利用（池袋キャンパス）

情報処理学習室は、授業以外の 9:00～19:45 の時間帯（土曜日は 9:00～17:45）に、図書閲覧室は 9:30～20:00（土曜日は 9:30～17:30）に、学生ラウンジ、学生自習室は 9:00～20:00（土曜日は 9:00～18:00）に、ラーニングコモンズは９：00～19：45（土曜日は９：00～17：45）に学習を目的として利用することができます。利用の際は利用規則を厳守してください。

○ インターネット接続（王子キャンパス）

インターネットへの接続には、パソコンなどが設置されている情報処理学習室１（２号館９階)、情報処理学習室２（２号館１０階）の他、無線 LAN の設備のある教室などで自分のノートパソコンから繋げることができます。無線 LAN の接続可能エリア等の詳細は、掲示等で確認してください。

なお、学内でノートパソコンをインターネットに接続するには、教務課で所定の手続きを取る必要があります。手続きに関する質問は教務課もしくは「情報処理演習」担当教員を訪ねてください。

○ 情報処理学習室１（２号館９階）、情報処理学習室２（２号館１０階）、図書閲覧室（大学付属図書館王子分室）、学生ラウンジ（１号館１階、２号館１３階）、ラーニングコモンズ（２号館３階）の利用（王子キャンパス）

情報処理学習室は、授業以外の 9:00～19:45 の時間帯（土曜日は 9:00～17:45）に、図書閲覧室は９：30～20：00（土曜日は９：30～17：30）に、学生ラウンジ及びラーニングコモンズは９：00～20：00（土曜日は９：00～18：00）に、学習を目的として利用することができます。利用の際は利用規則を厳守してください。

○ 学生用ホームページ

学部生・大学院生を対象とした学生用ホームページを開設しています。このホームページはインターネットを通じて大学から学生へ情報提供を行うことを目的としており、学生への連絡事項（休講・補講など）などの情報を見ることができます。

学生用ホームページは大学ホームページ（http://www.tokyo-fukushi.ac.jp/）からリンクされています。学内関係者専用のホームページであるため、ユーザ名・パスワードによる認証が必要となります。下記の例を参照の上、該当する内容を入力して接続してください。

※学生用ホームページへの接続
- ユーザ名　：　“学籍番号”
- パスワード　：　“氏名の苗字”＋“@”

（例：学籍番号 T24111000、氏名：東福太郎(Toufuku Taro)
→　ユーザ名：T24111000、パスワード toufuku@　）

20. 学生への連絡

本学では、学生への連絡は、掲示板への掲示および学生用メールアドレスへの連絡を原則とします。

掲示板は、登校したら必ず見るようにしてください。登校できない場合には、友人同士で連絡を取り合うなど、見落としのないよう十分注意してください。

また、緊急時の連絡（災害時や行事などの変更の連絡）に際し、学生個々のメールアドレスへの一斉送信にて連絡を行います。そのため、緊急時に直接連絡が取れる携帯電話などのメールアドレスの登録をしてください。またメールアドレス変更の際は、教務課で登録変更の手続きを行ってください。

＜注意＞

大学への電話による問い合わせには、一切応じられませんので注意してください。

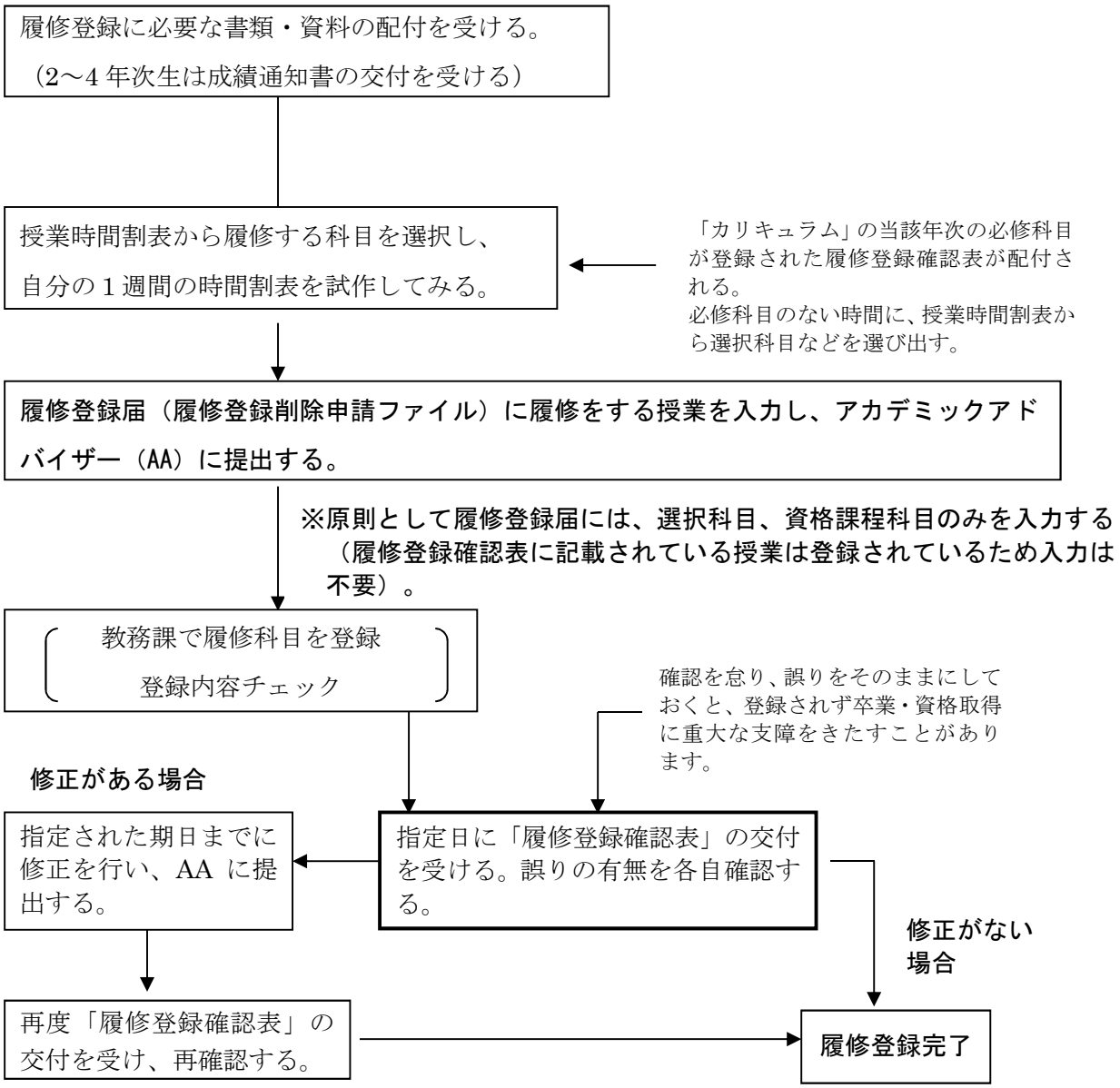
履修科目の登録について

履修科目の登録について

履修科目の登録とは、授業を受けて単位を修得するために、年度のはじめに、当該年度の履修計画を立て、履修する科目をあらかじめ登録する手続きのことです。この登録をしないと当該科目の単位の認定を受けることはもちろん、授業を受けることもできません。この履修登録は年度はじめの重要な手続きといえます。怠って１年間を無駄にすることのないよう十分に注意してください。

なお、秋期のはじめには、履修計画変更による履修登録の変更が可能です。

履修科目の決定から履修登録まで



１．　履修科目登録にあたって

履修登録は、各自が所属する学部・学科・専攻・コースに開講されている科目の中から、当該年度に履修する科目を決定することから始まります。履修科目を決定するためには、まず、自分の将来の目標を見定める必要があります。

本学では、皆さんの多様な将来の目標に添えるよう、資格・免許状取得のための課程を多数開設しています。自分の目標を達成するためには、どのような資格・免許状を取得する必要があるのかを、「Ⅵ.取得できる資格」をよく読み検討してください。次に、その資格・免許状を取得するために必要な単位を、各学科・専攻などの「カリキュラム」、「Ⅶ.資格取得の方法」で確認し、履修計画を作成してください。その際には、「履修計画を作成するにあたって」や各学科・専攻などの「履修モデル」を参考に無理のない履修計画を立てる必要があります。最後に、その履修計画の中から、当該年度に履修する科目を決定し、以下の手続きにより登録を行ってください。

１－１履修科目登録の手続き

① 「授業時間割表」を、毎年度授業開始前に大学ホームページに告示します。
　履修科目登録のために必要な資料は、以下の通りです。
　　１） 履修登録確認表（当該年度の必修科目を記載）
　　２） 履修登録届（履修登録削除申請ファイル）

② 履修登録期間、必要書類の提出期日などについては、メール等で告示されます。

③ **指定された期日までに履修科目登録を行わなかったり、間違った登録を行うと、授業を受ける資格がなくなります。**したがって、単位認定もされませんので、登録手続きには十分注意してください。

④ 一度履修登録した科目は、指定された期間以外には変更・削除、および登録科目の追加をすることはできません。

２．時間割の作成

① 配付された成績通知書（2年生以上）で、前年度までに修得した単位、直前の学期のGPAを確認します。

② 配付された履修登録確認表（当該年度の必修科目を記載）で、受講する必要のある必修科目を確認します。

③ 各学科・専攻・コースの「カリキュラム」をよく読み、当該年度に必ず履修しなければならない科目および履修したい科目を決めます。
　授業内容については、シラバス（授業概要）で確認してください。

④ 授業時間割表の必修科目が開講されていない曜日・時限の中から、履修する必要のある選択科目、資格課程科目を選択します。授業時間割表は、「カリキュラム」に基づいて記載されています。曜日・時限・講師・教室などを確認してください。

⑤ クラスが指定されている科目は、原則として指定されたクラスで受講しなければなりません。**希望資格や再履修のため履修を希望する科目が同一時限に複数開講されているなどの場合に限り、指定されたクラス以外の授業の受講を希望することができます。ただし受講定員などにより、履修を認められないことがあります。**

⑥ **履修規程により履修登録できる上限は、原則として1学期間に24単位、年間42単位です。**本学では、GPAに応じて履修上限単位を以下のように設定しています。上限を超えて履修登録する場合は、アカデミックアドバイザーから十分な指導を受け、承認を得る必要があります。

　ア　直前の学期のGPAが3.5以上　　30単位
　イ　直前の学期のGPAが3.0以上3.5未満　28単位

ウ　直前の学期のGPAが2.5以上3.0未満　24単位
エ　直前の学期のGPAが2.0以上2.5未満　20単位
オ　直前の学期のGPAが2.0未満　16単位
※　上記は、直前の学期において、16単位以上を修得している場合に適用されます。
※　入学時など、直前の学期のGPAがない場合は、24単位が上限となります。

⑦　**春期の履修登録では、秋期分についても上限単位の範囲内で登録を行います。**秋期の履修登録単位の上限は春期のGPAに応じて決定されます。登録単位の増減などが必要になった場合は、秋期の登録修正期間に修正してください。直前の学期のGPAが 2.0未満の場合は、春期に履修登録できる上限単位数は、1学期間で16単位、年間で32単位となります。

＜注意＞

① セメスター制により、4単位の授業科目は、1週間につき2時限の開講となります。
② 授業科目は、それぞれ開講年次が決められています。開講年次が自分の年次よりも下の年次であるならば履修することが可能です。上の年次の場合は、履修することができません。
③ 同一年度に、同一名称の科目を再履修することはできません。なお、卒業年次生であっても、認められませんので注意してください。
④ 一度単位を修得した科目を、もう一度履修登録することはできません。担当の先生が異なっても、同一名称の科目を重複して履修することはできません。
⑤ 前年度までに履修した科目のうち、単位が認定されなかった科目を次年度以降に再び履修することを再履修といいます。その科目が必修科目である場合は、必ず再履修し、単位を修得しなければなりません。選択必修科目の場合は、同区分の他の科目で必要単位を満たす場合には、再履修の必要はありませんが、資格取得に必要な科目もありますので注意してください。特に指定がない場合は、どのクラスでも受講できますが、受講者数が定員を超えたなどの理由で受講できないことがあります。
⑥ 開講年次が自分の年次よりも下の科目を受講する場合や、やむを得ない理由で指定されたクラス以外の授業の受講を希望する場合でも、定員を超えたなどの理由により、受講できないことがあります。
⑦ 演習・実習の履修科目については、事前に本人の希望を調査し、本人の科目履修状況・成績などにより演習担当教員、実習施設、実習時期などが調整される場合があります。
⑧ 卒業研究については、4年次春期に指導教員（主査）が開講するクラスを登録することによって、履修登録を行います。ただし、3年次12月初旬の定められた期間に研究題目・計画書を教務課に提出し、卒業研究の仮登録を行った学生に限り履修登録が認められます。
⑨ 社会福祉学科と心理学科の卒業研究、保育児童学科の保育児童専門演習、保育実践演習、教育学科の専門演習、心理学科の心理学研究法演習Ⅰ・Ⅱの時間割については、担当教員と相談の上、曜日・時限を決定してください。担当教員の授業コード・曜日・時限を登録することによって、履修登録を行います。
⑩ 時間割が変更されることがあります。その場合は、掲示によって連絡をするので見落としのないよう注意してください。

【他学部・他学科・他専攻開講科目の履修について】

① 他学部・他学科・他専攻に開講されている科目を、選択科目・資格課程科目として履修し、卒業要件単位に含むことができます。
② 他学部・他学科・他専攻に開講されている科目を修得することによって、自学科・自専攻以外で取得が可能な教育職員免許状、社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格などを取得することが可能です。ただし、取得できない資格・免許状もありますので、注意してください。詳細は、各学科・専攻の「カリキュラム」「Ⅵ. 取得できる資格」「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。

３．履修科目登録書類の作成

３－１　時間割の確認

① 試作した自分の時間割に間違いのないことを再度確認します。**履修登録できる上限単位を越える場合は、必ずアカデミックアドバイザーに相談し、指導と承認を受けてください。**

３－２ 履修登録届（履修登録削除申請用ファイル）の入力

① 時間割で自分の履修する必要がある授業を確認後、「履修登録届」を作成します。
② 各自の履修登録確認表に記載されている授業科目は、自動的に登録されていますので、履修登録届に入力する必要はありません。ただし、編入生は、履修するすべての科目を登録する必要があります。
③ 履修登録申請には、学籍番号、氏名、授業コード、授業名、開講学期、開講時限、担当教員が必要になります。記載が必要な授業情報については、授業時間割表に記載がされていますので、そちらを参照してください。履修登録・削除申請には、それらの記載とともに、登録か、削除かを選択する必要があります。選択欄にどちらを行うのか各々の欄にチェック（○印）の記載も忘れないようにしてください。履修登録・削除申請は、**学籍番号と、授業コードが優先されます。**学籍番号を誤ると、他の人の履修登録に影響し、授業コードを誤ると、履修エラーの原因になりますので十分に注意してください。
　履修登録届に、学籍番号、氏名、６桁の授業コード、授業名、開講学期、開講時限、担当教員を記載してください。授業を登録する場合は「登録」欄に「○」を、削除する場合は「削除」欄に「○」を入力してください。授業コードなどの必要な情報は、授業時間割表に掲載しています。
④ 履修登録届に、学籍番号、氏名、6桁の授業コード、授業名、開講学期、開講時限、担当教員が正しく入力されているかを必ず確認してください。学籍番号を誤ると他の人の履修登録に影響し、授業コードを誤ると履修エラーの原因になりますので十分注意してください。
⑤ 複数の資格を取得するなどで、指定されたクラスで必修科目を受講できず、指定されたクラス以外で履修を希望する場合は、既に登録されている必修科目を必ず削除（「削除」欄に「○」を記入するとともに、学籍番号、氏名、６桁の授業コード、授業名、開講学期、開講時限、担当教員を入力）し、履修を希望する授業科目を登録してください。
⑥ **履修登録に修正（登録・削除）がある場合のみ、期日までに「履修登録届」をアカデミックアドバイザーに提出してください。**
⑦ この作業は、慎重かつ丁寧に行い、最後に間違いがないかどうかの照合確認を必ず行ってください。

＜注意＞
　履修登録にあたって不明な点が生じた場合は、アカデミックアドバイザーに相談をしてください。

４．履修登録届（履修登録削除申請ファイル）の提出

「履修登録届」は、指定された日時までに本人が必ずアカデミックアドバイザーへ提出してください。**学生が直接教務課へ「履修登録届」を提出しても受付されませんので注意してください。**

指定された期日までに履修登録を行わなかったり、間違った登録を行うと、授業を受ける資格がなくなります。また、何らかの理由で履修を取りやめる場合には、期日内に削除の手続きを済ませないと、未履修ではなくＦ評価と判定されますので注意してください。

５．資格の登録

取得を希望する資格などの登録は、1年次春期に「資格登録届（履修登録削除申請ファイル）」を使用して行います。学籍番号、学生氏名を入力の上、登録欄または削除欄に「○」を入力し、取得を希望する資格の資格コード、資格名を所定の欄に入力してください（スクールソーシャルワーカー資格のみ３年次春期に登録）。ただし、卒業時に取得可能な任用資格については、1年次秋期に自動登録となりますので登録は不要です（心理学科、教育学科学校教育専攻及び、国際教育コースの社会福祉主事任用資格を除く）。

本学において取得できる資格･免許状については、「Ⅵ.取得できる資格」、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。この登録を怠ると資格に関する科目の履修、資格の取得、資格証明書の発行などができなくなりますので注意してください。

資格の追加登録、取り消しは、登録期間（春期秋期の学期始めの履修登録・修正期間及び、秋期の資格修正期間（1月）（取り消しのみ））に、「資格登録届」を使用して行います。期間以外の追加登録、取り消しは、原則として認めませんので、十分注意してください。また、資格の取り消しの際は、アカデミックアドバイザーおよび、保証人の許可が必要となります。

なお、一度納入した資格課程履修費などについては、原則として返金を行いません。

資格コード、資格名は下記のとおりです。

資　格　名	取得が可能な学科・専攻		資格コード
	自学科・自専攻	他学科・他専攻	
社会福祉士受験資格	Ｓ（全員）	ＮＣＢPWＰＪ（希望者）	１０１
精神保健福祉士受験資格	Ｃ（全員）	PWＰ（希望者）	１０２
認定心理士資格	Ｐ（全員） PWＥ（希望者）	－	１０３
公認心理師受験基礎資格（大学）	ＰPW（希望者）	－	１２８
社会教育主事【基礎資格】/社会教育士	ＳＮＣＢPW（希望者）	ＪＰＥ（希望者）	１０５
保育士資格	ＳＣ（保育児童福祉専修合格者） Ｊ（希望者）	－	１０６
介護福祉士受験資格	Ｎ（全員）	－	１１４
第一種衛生管理者免許	ＳＮＣＢPW（希望者）	－	１１５
養護教諭一種免許状	Ｅ（希望者）	ＳＮＣＢPWＰＪ（希望者）	１０８
幼稚園教諭一種免許状	Ｊ（希望者）	Ｅ（希望者）	１１０
小学校教諭一種免許状	Ｊ（希望者） ＥEI（希望者）	ＳＮＣＢPW（希望者） Ｐ（希望者）	１１１
高等学校教諭一種免許状（福祉）	ＳＮＣＢPW（希望者）	ＰＪ（希望者）	１０４
高等学校教諭一種免許状（公民）	ＳＮＣＢPW（希望者）	ＰＪＥ（希望者）	１１２
高等学校教諭一種免許状（保健）	Ｅ（希望者）	ＳＣＢＰＪ（希望者）	１１６
中学校教諭一種免許状（保健）	Ｅ（希望者）	ＳＣＢＰＪ（希望者）	１１７
高等学校教諭一種免許状（英語）	ＥEI（希望者）	－	１１８
中学校教諭一種免許状（英語）	ＥEI（希望者）	－	１１９
高等学校教諭一種免許状（情報）	Ｅ（希望者）	－	１２０
特別支援学校教諭一種免許状	ＳＮＣＢPW（希望者）	ＪＰＥ（希望者）	１２１
レクリエーションインストラクター資格	ＳＮＣＢPWＰＪＥEI（希望者）		１２４
スクールソーシャルワーカー資格	ＳＣＢPW（2 年終了時通算 GPA3.5 以上）の希望者		１２６
社会福祉主事任用資格	ＳＮＣＢPWＪEJ（全員）　ＰEEI（希望者）※p.175 参照		２０１
児童指導員任用資格	ＳＮＣＢPWＰＪＥEI EJ（全員）		―
児童福祉司任用資格（要実務経験）	ＳＮＣＢPWＰＪＥEI EJ（全員）		―
身体障害者福祉司任用資格	ＳＮＣＢPWＰＪＥEI EJ（全員）		―
知的障害者福祉司任用資格	ＳＮＣＢPWＰＪＥEI EJ（全員）		―

社会福祉学部　Ｓ：社会福祉学科　社会福祉専攻 社会福祉コース
Ｎ：社会福祉学科　社会福祉専攻 介護福祉コース
Ｃ：社会福祉学科　精神保健福祉専攻
Ｂ：社会福祉学科　経営福祉専攻
PW：社会福祉学科　心理福祉専攻
保育児童学部　Ｊ：保育児童学科
教育学部　Ｅ：教育学科　学校教育専攻
EI：教育学科　国際教育専攻　国際教育コース
EJ：教育学科　国際教育専攻　日本語教育コース
心理学部　Ｐ：心理学科

６．履修登録科目の確認

指定した期日に「履修登録確認表」を各自に配付します。自分の授業計画と相違がないか（自分が受講しようとしている科目が全て登録されているか、登録した覚えのない科目が登録され

ていないか）を確認してください。

履修登録された科目が曜日･時限順に記載されています。曜日、時限、科目名、担当教員名、教室に誤りがないかを確認してください。

修正、追加などがある場合は、修正期間に手続きを行ってください。修正などを行った場合には、再度「履修登録確認表」を交付しますので、受け取った後、誤りがないかをよく確認してください。**修正期間を過ぎてからの修正、追加は、一切認められませんので注意してください。**

また、授業を受けてみたものの、授業内容が勉強したいものと違っていた場合や、授業について行けるだけの知識が不足していた場合、履修科目数を減らしたい場合など、そのままでは単位を修得することが難しく、不合格となることでGPAが下がることにならないかについても、よく考える必要があります。**修正期間内に削除の手続きをせず、自ら履修を放棄した場合は、F評価（GP＝0）となり、後々までGPAの値に大きな影響を及ぼします**ので、注意してください。

【履修登録確認表の見方】

① 単位修得状況欄には、現在までの修得単位と履修単位が記載されています。各学科・専攻の「カリキュラム」を参照し、卒業に必要な単位を履修しているか、**GPAに応じた履修上限単位の目安**を超えて履修登録していないかを、確認してください。

② **履修登録確認表に記載されているGPAは、通算GPAとなります。**

③ 登録に間違いがある（「エラー」という）場合は、科目名の左側の「エラー欄」にエラーナンバーが表示されます。表示されたエラーの内容を、下部の「エラーメッセージ欄」で確認し、修正をしてください。

④ **「エラー欄」にエラーの表示がなくても間違えて登録されることがあります。**
これは、履修を希望しない科目でも登録可能な科目のコードが記されている場合、履修登録が可能なためです。**自分の履修科目表と配付された履修登録確認表の全ての項目を確認してください。**特に複数クラスが開設されている科目は、コード間違いをおこしやすいので注意してください。

⑤ 卒業年次生については、履修登録後に卒業見込・資格取得見込判定を行います。判定結果にエラーがあった場合は、履修登録確認表に記載されます。不明な点はアカデミックアドバイザーに確認してください。

７．学業成績通知書の配付

各学期の終了後に、学業成績通知書を個別に配付します。各自でよく確認をし、学習に役立ててください。なお、本学では成績通知書は、別途保証人にも郵送（春期成績：10月中旬、秋期成績：3月中旬）することとしています。

＜注意＞

① 履修登録がなされていない授業科目については、成績は付されません。

② 通年科目の成績は、秋期終了時に付されます。

履修について

履修について

履修とは、皆さんが所属している学部・学科・専攻・コースに定めてある授業科目（カリキュラム）を習い修めることで、それによって必要な単位を修得し、卒業の要件を満たしていくことになります。

東京福祉大学では、学則に基づき規程が定めてあります。皆さんは、それぞれの規程に従い履修しなければなりません。

東京福祉大学学則（抄）

第１章　総　　則

第５節　教育課程及び履修方法

（教育課程の編成）

第８条の２　本学の教育課程は、教育基本法、学校教育法及び大学設置基準等の関連法令に基づくとともに、本学の建学の精神・使命や教育の目的を達成するため、本学の定める教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、編成するものとする。

（授業科目の区分）

第９条　本学において教育する授業科目は、総合教育科目、専門教育科目及び資格に関する教育科目に分ける。

（授業科目及び単位数）

第10条　本学において教育する授業科目及びその単位数等を別表１に定める。また、その履修方法、経過措置等の詳細については、「東京福祉大学　教育課程及び履修方法に関する規程」に定める。

ただし、社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻介護福祉コースについては別表２に定め、別表２に定める領域「介護」における科目については、合併授業（社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻介護福祉コースと他の学科、専攻、コース等と同時に授業を行うことをいう。以下、同じ。）を行わない。

また、社会福祉学部社会福祉学科及び保育児童学部保育児童学科に設ける社会福祉士養成課程については別表３に、それぞれ定め、別表３に定める実習演習科目については、合同授業（社会福祉学部社会福祉学科及び保育児童学部保育児童学科の社会福祉士養成課程の学級間において同時に授業を行うことをいう。以下、同じ。）又は合併授業（社会福祉学部社会福祉学科及び保育児童学部保育児童学科の社会福祉士養成課程と他の学科、専攻、コース等と同時に授業を行うことをいう。以下、同じ。）を行わない。

また、社会福祉学部社会福祉学科、心理学部心理学科に設ける精神保健福祉士養成課程については別表４に定め、別表４に定める実習演習科目については、合同授業（社会福祉学部社会福祉学科、心理学部心理学科の精神保健福祉士養成課程の学級間において同時に授業を行うことをいう。以下、同じ。）又は合併授業（社会福祉学部社会福祉学科、心理学部心理学科の精神保健福祉士養成課程と他の学科、専攻、コース等と同時に授業を行うことをいう。以下、同じ。）を行わない。

２　資格に関する教育科目並びに別表１から別表５に定める授業科目の外、必要に応じ適宜開設する授業科目については別に定める。

（授業科目の配当・公示）

第11条　教育課程は、総合教育科目については主として第１年次及び第２年次に、専門教育科

目については一部を第１年次及び第２年次に、大部分を第３年次及び第４年次に配当して編成する。
２　各授業科目の担当教員、授業時間割等は毎学年の始めに公示する。

（責任ある授業運営）
第12条　効果的で円滑な授業運営及び責任ある授業運営を行うために必要な教育内容、教育方法、成績評価及び教育効果等については別に定める。

（単位数の算定方法等）
第13条　授業科目を履修した学生に対しては、試験の上、学業成績を総合的に判定し、合格した学生には単位を与える。
２　各授業科目に対する単位数は、１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準によって計算する。
（１）　講義及び演習については、15～30時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。
（２）　実技及び実習については、30～45時間までの範囲で本学が定める時間の授業をもって１単位とする。
（３）　１つの授業科目について、講義、演習、実技及び実習のうち２つ以上の方法の併用により行う場合については、その組み合わせに応じ、前２号に規定する基準を考慮して、本学が定める時間の授業をもって１単位とする。
（４）　卒業研究等については４単位とする。

（卒業要件）
第14条　本学を卒業するためには原則として４年以上在学し、社会福祉学部及び保育児童学部においては128単位以上を、教育学部及び心理学部においては124単位以上を修得しなければならない。なお、他学部の科目を履修し、取得した単位を卒業要件単位（社会福祉学部128単位、教育学部124単位、心理学部124単位、保育児童学部128単位）に算入することができる。ただし、第36条に定めるＧＰＡの通算が2.0以上でなければ卒業を認定することはできないものとする。
２　前項に定めるもののほか、教育職員免許状、社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格、介護福祉士資格（平成28年度入学者より介護福祉士受験資格）、保育士資格、社会教育主事等の資格・免許等を取得しようとする者は、当該関係法令及び本学が別に定めるところに従い履修し、所定の単位を修得しなければならない。
３　本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学の定めるところにより他の大学、短期大学（外国の大学等へ留学等を含む）、専修学校において履修した授業科目について修得した単位を、60単位を超えない範囲で本学における授業科目の履修により修得したものとみなし、単位を与えることができる。ただし、社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻介護福祉コースにおける、社会福祉士介護福祉士学校指定規則別表４の介護の領域に係る科目については、これを認めない。
　なお、社会福祉学部社会福祉学科及び保育児童学部保育児童学科に設ける社会福祉士養成課程において、社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、当該関係法令等に従い、ソーシャルワーク実習指導とソーシャルワーク実習を一体不可分のものとして扱い、個別の認定は行わない。また、社会福祉学部社会福祉学科、心理学部心理学科に設ける精神保健福祉士養成課程において、精神保健福祉士受験資格を取得しようとする者は、当該関係法令等に従い、精神保健福祉実習指導と精神保健福祉実習を一体不可分のものとして扱い、個別の認定は行わない。
４　本学が教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の専攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本学における授業科目の履修とみなし、

前項の規定により修得した単位を含めて、60単位を超えない範囲で単位を与えることができる。ただし、社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻介護福祉コースにおける、社会福祉士介護福祉士学校指定規則別表４の介護の領域に係る科目については、これを認めない。

なお、社会福祉学部社会福祉学科及び保育児童学部保育児童学科に設ける社会福祉士養成課程において、社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、当該関係法令等に従い、ソーシャルワーク実習指導とソーシャルワーク実習を一体不可分のものとして扱い、個別の認定は行わない。

また、社会福祉学部社会福祉学科、心理学部心理学科に設ける精神保健福祉士養成課程において、精神保健福祉士受験資格を取得しようとする者は、当該関係法令等に従い、精神保健福祉実習指導と精神保健福祉実習を一体不可分のものとして扱い、個別の認定は行わない。

5　本学が教育上有益と認めるときには、学生が本学に入学する前に、大学、短期大学、専修学校において履修・修得した授業科目の単位並びに前項に規定する学修を、本学入学後に本学の授業科目を履修・修得したものとみなすことができる。ただし、社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻介護福祉コースにおける、社会福祉士介護福祉士学校指定規則別表４の介護の領域に係る科目については、これを認めない。

なお、社会福祉学部社会福祉学科及び保育児童学部保育児童学科に設ける社会福祉士養成課程において、社会福祉士受験資格を取得しようとする者は、当該関係法令等に従い、ソーシャルワーク実習指導とソーシャルワーク実習を一体不可分のものとして扱い、個別の認定は行わない。

また、社会福祉学部社会福祉学科、心理学部心理学科に設ける精神保健福祉士養成課程において、精神保健福祉士受験資格を取得しようとする者は、当該関係法令等に従い、精神保健福祉実習指導と精神保健福祉実習を一体不可分のものとして扱い、個別の認定は行わない。

6　本学における授業科目については、本学の通信教育課程において、当該科目の規定単位を修得することによっても単位を認定できるものとする。

7　社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻介護福祉コースにおいては、各科目の出席時間数が「社会福祉士介護福祉士学校指定規則（平成20年3月24日文部科学省・厚生労働省令第2号）」に定める時間数の３分の２（介護実習においては５分の４）に満たない者については、当該科目を不合格とする。

8　社会福祉学部社会福祉学科社会福祉専攻介護福祉コースにおいては、本学で教育上有益と認めるときは、社会福祉及び介護福祉士法第40条第２項第１号から第３号までの規定に基づく学校または養成施設において履修した科目については、学生からの申請に基づき、本コースにおける教育内容に相当すると認められた場合には、本コースの授業科目を履修・修得したものとみなすことができる。

9　保育児童学部保育児童学科においては、本学で教育上有益と認めるときは、学生が在学中に他の指定保育士養成施設において履修した教科目又は入学前に指定保育士養成施設で履修した教科目について修得した単位を、30単位を超えない範囲で当該教科目に相当する教科目の履修により修得したものとみなすことができる。

10　保育児童学部保育児童学科においては、指定保育士養成施設以外の学校等（学校教育法による大学、高等専門学校、高等学校の専攻科若しくは盲学校、聾学校若しくは養護学校の専攻科、専修学校の専門課程又は同法第56条第１項に規定する者を入学資格とする各種学校をいう。）で履修した教科目について修得した単位については、保育児童学科で設定する教養科目に相当する教科目について、30単位を超えない範囲で修得したものとみなすことができる。

東京福祉大学科目履修規程（抄）

（趣旨）

第１条　この規程は、東京福祉大学学則（以下、「学則」という。）第９条から第13条に定める履修方法の施行に関し、必要な事項を定めるものとする。

（手続き）

第２条　履修科目届は、毎年度ごとに定められた手続きにより行わなければならない。

２　履修科目届の手続き等については別に定める。

（履修科目の登録の上限）

第３条　単位制度の実質化を図るため、授業は教室における授業と学生の教室外学習を合わせた充実した授業展開を実現させるものとし、学生が履修登録できる単位数の上限を、原則として１学期間に24単位、年間42単位とする。ただし、編入学生については、この限りでない。

２　履修登録と成績評価との関連性を明確化するため、直前学期のGPAに基づき、原則として次の単位数を上限として設定する。ただし、直前学期において、16単位以上を修得している場合に適用される。また、入学時や休学など、直前の学期のGPAが無い場合は、24単位を上限とする。

（１）　直前の学期のGPAが3.5以上　30単位
（２）　直前の学期のGPAが3.0以上3.5未満　28単位
（３）　直前の学期のGPAが2.5以上3.0未満　24単位
（４）　直前の学期のGPAが2.0以上2.5未満　20単位
（５）　直前の学期のGPAが2.0未満　16単位

３　通年科目については、その科目の単位数を春期・秋期に２分割し、それぞれの学期の履修単位とする。

４　春期の履修登録では、秋期についても上限単位の範囲内で仮登録できるものとする。

（開講科目）

第４条　総合教育科目及び専門教育科目の区分ごとの開講科目は、学則別表第１号による。

（卒業研究）

第５条　卒業研究の履修にあたっては、所属専攻の教員を主査として届け出るものとする。

２　主査の届出及び変更等については、別に定める。

Ⅰ．社会福祉学部のカリキュラムについて

１．社会福祉学科　社会福祉専攻　社会福祉コースのカリキュラム

１－１．社会福祉学科　教育の目的

現代社会のなかで絶え間なく変化する福祉ニーズに対応でき、実践力が備わった即戦力の社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士等の福祉人材並びに社会福祉関連施設等の管理・運営者を養成する。

１－２．社会福祉学科　社会福祉専攻　社会福祉コース　教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

グローバリゼーションの進展とともに、わが国はさまざまの問題に直面している。社会福祉士は多様化する現代社会において潤滑油として働く国家資格である。授業科目配置は、総合教育科目と専門教育科目とが緊密に連携している。実習は通年型又は集中型のプログラムで行い、並行して少人数クラスの演習に参加する。総じて、問題を抱える人たちの相談援助活動を担う豊かな感性と幅広い知識を習得する。あるいは社会福祉の知識・技術に加えて、社会福祉関連施設等の管理・運営に必要なマネジメント力を習得する。

１－３．卒業に必要な単位数

(1)　社会福祉コース

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と選択科目を、合計128単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。選択科目には、資格課程科目を含みます。

総合教育科目					専門教育科目	必修科目	選択科目	合計
基礎教育科目	健康教育科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育科目	教養教育科目	ｷｬﾘｱ開発教育科目	専門基幹科目			
必修 6	選必 2	選必 4	必修 12	必修 12	必修 66	102	26	128

(2)　社会福祉コース（保育児童福祉専修も履修の場合）

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と選択科目を、合計128単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。保育士資格取得のためには、必修科目102 単位の他、選択科目から保育士資格取得のための科目を82単位修得する必要があります。詳細は、「Ⅶ.資格取得の方法」を参照してください。

総合教育科目						専門教育科目		必修科目	選択科目	合計
基礎教育科目	健康教育科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育科目	教養教育科目		ｷｬﾘｱ開発教育科目	専門基幹科目	専門展開科目			
必修 6	選必 2	選必 4	必修 12	選択 6	必修+資格 26	必修 66	選択 62	102	82	184

１−４．履修する上での注意事項

(1)　総合教育科目

①　基礎教育科目
「社会福祉入門」「情報処理演習Ⅰ」の2科目6単位のすべてが必修になります。これらの科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。

②　健康教育科目
1科目2単位以上を履修してください。「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」はレクリエーション・インストラクター資格を取得するための必修科目です。レクリエーション・インストラクター資格の取得についての詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。

③　コミュニケーション教育科目
2科目4単位以上を履修してください。履修科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。
「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修が認められます。
※　原則として、母国語が中国語の場合は「中国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」、母国語が韓国語の場合は「韓国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められません。

④　教養教育科目
「文章表現」「心理学概論」「人体の構造と機能及び疾病」「社会学概論」「福祉と教育」「教養基礎演習Ⅰ」の6 科目12 単位は必修科目となります。「教養基礎演習Ⅰ」については、「Ⅴ．キャリア開発教育について」を参照してください。

⑤　キャリア開発教育科目
本学では、キャリア形成を支援するため、キャリア開発教育科目を開講しています。
1,2年次に開講される「教養基礎演習Ⅱ・Ⅲ」は必修です。
3,4年次に開講される「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」は必修です。国家試験の合格を目指すための科目です。
保育士を志望する場合（保育児童福祉専修）、1年次に開講される「保育キャリア基礎演習」、2年次に開講される「保育キャリア応用演習」、3年次に開講される「保育キャリア展開演習」、4年次に開講される「保育キャリア実践演習」を受講してください。
教員採用を希望する場合、1,2年次に開講される「教員基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3,4年次に開講される「教員開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。養護教諭希望者は、それらに加え、2年次に開講される「養護教諭基礎演習Ⅰ」、3,4年次に開講される「養護教諭開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。
また、3,4年次開講の「キャリア開発演習Ⅰ（教養）」「キャリア開発演習Ⅱ（教養）」は、選択科目ですが、一般企業への就職や教員・保育士以外の公務員採用を希望する場合、積極的に履修することを推奨しています。

(2)　専門教育科目

1）専門基幹科目（専攻・コース別必修科目）

専門基幹科目には、社会福祉専攻　社会福祉コースの専門教育の基幹となる必修科目が開講されています。26科目66単位が必修となります。

① 「ソーシャルワーク基礎実習」(3年次春期集中)の履修
　この科目の履修には、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の単位を修得していなければなりません。
　なお、「ソーシャルワーク基礎実習」の履修には「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」と併行して履修する必要があります。

② 「ソーシャルワーク実習」(3年次秋期)の履修
　この科目の履修には、「ソーシャルワーク基礎実習」の単位を修得していなければなりません。
　なお、「ソーシャルワーク実習」は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」と併行して履修する必要があります。
　高等学校教諭一種免許状（福祉）の取得を希望する学生は、「ソーシャルワーク実習」は、介護実習が可能な施設での実習が必要となります。配属を希望する際に注意してください。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照してください。

③ 社会福祉士受験資格の取得
　「Ⅶ. 資格取得の方法　1. 社会福祉士受験資格の取得について」を参照してください。

2）専門展開科目（選択科目）

　専門展開科目には、専門教育のさらなる展開を図るため、福祉、福祉関連領域、保育、教育・特別支援教育の各分野に関係する科目が選択科目として開講されています。
　各分野に開講されている教育職員免許状（高等学校教諭「福祉」「公民」・特別支援学校教諭）、社会教育主事（基礎資格）などの資格課程科目を履修することによって、資格・免許状を取得することが可能です。ただし、資格課程登録をしていない場合は、履修が認められない科目があります。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。

① 「ソーシャルワーク実習Ⅱ」(4年次春期・選択）の履修
　この科目の履修には、「ソーシャルワーク実習」の単位を修得していなければなりません。

② 卒業研究の履修
　「Ⅷ. 卒業研究」を参照してください。

3）資格課程科目

　他学科などに開講されている科目を履修することによって、教育職員免許状（小学校教諭：保育児童学科、養護教諭：教育学科）などを取得することが可能です。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。
　資格課程科目は、卒業要件単位（128単位）に含むことが可能です。

1−5．社会福祉学科　社会福祉専攻　社会福祉コース　カリキュラム

(1) 総合教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**社会福祉入門□☆◎**	2							2科目 6単位 必修
		情報処理演習Ⅰ☆＊	4							
	健康教育科目	健康・スポーツ☆＊	2	レクリエーションワーク※	2					1科目 2単位以上 習得
				レクリエーション理論	2					
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊★	2	情報処理演習Ⅱ ⁂	4	情報処理演習Ⅲ	4			2科目以上 4単位以上 習得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
		中国の文化と言語Ⅰ★	2							
		中国の文化と言語Ⅱ	2							
		韓国の文化と言語Ⅰ	2							
		韓国の文化と言語Ⅱ	2							
		＄日本の文化と言語Ⅰ＆	2							＄外国人 留学生のみ
		＄日本の文化と言語Ⅱ＆	2							
	教養教育科目	**文章表現☆**	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			6科目 12単位 必修
		心理学概論□◎△	2							
		人体の構造と機能及び疾病□◎	2							
		社会学概論□△	2							
		福祉と教育☆	2							
		教育学概論☆◎△○	2							
		法学概論△	2							
		法学（憲法）☆＊	2	法学Ⅱ（民法、行政法）△	4					
		政治学（国際政治を含む）△	2	経済学（国際経済を含む）△	2	国際関係論（国際法を含む）△	2			
		哲学▼	2							
		倫理学▼	2							
		日本史	2							
		世界史	2							
		統計学	2							
		生物学	2	生理学■	4					
		音楽★	2							
		表現☆	2	生涯学習概論 ⁂ ◆	4					
		人権教育 ⁂	2							
		ボランティア論 ⁂ ※	2							
		ジェンダー論▲	2							
		死生学	2							
		少年と犯罪	2							
		国際社会と日本▲	2							
		多文化理解入門	2							
		多文化コミュニケーション	2							
		ヒューマンライフとサービス	2							
		アジア文化論	2							
		経営学入門	2							
		会計学入門	2							
		生活の中の福祉	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発科目					**社会福祉士養成演習Ⅰ□**	2	**社会福祉士養成演習Ⅱ□**	4	4科目 12単位 必修
		教養基礎演習Ⅱ	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	キャリア開発演習Ⅰ(教養)	4	キャリア開発演習Ⅱ(教養)	4	
		保育キャリア基礎演習☆	2	保育キャリア応用演習☆	4	保育キャリア展開演習☆	4	保育キャリア実践演習☆	4	
		教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	
				養護教諭基礎演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	2	

注1)　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2)　情報処理演習Ⅲは、情報処理演習Ⅱ履修者のみ受講可能。文章表現Ⅲは、文章表現Ⅱを履修した後に履修すること。

注3)　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注4)　□（社会福祉士国家試験受験資格）、☆（保育士資格　☆必修　★選択必修）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂ 選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」　△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、■（第一種衛生管理者免許）、♪（スクールソーシャルワーカー　♪必修　♭選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注5)　保育士資格を取得するには、コミュニケーション教育科目の★印が付された２科目４単位のうちから、１科目２単位以上を修得すること。

注6)　＆ 外国人留学生は履修することが望ましい。

(2)-1 専門教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門基幹科目		社会福祉原論□☆◎	4	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□☆◎	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□	4	社会福祉運営管理論□	2	26科目 66単位 必修
		高齢者福祉論□◎	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□	4	権利擁護と成年後見□	2	更生保護□	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅰ□☆	2	障害者福祉論□◎	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ□◎	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ□	2	
		ソーシャルワークの基盤と専門職 □☆◎	2	児童・家庭福祉論□☆◎♪※	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□	2			
				地域福祉論□※	4	ソーシャルワーク基礎実習□	2			
				社会保障論□◎△	4	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ◎□	2			
				公的扶助論□♪	2	ソーシャルワーク実習◎□	6			
				ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□	2	社会調査法□	2			
				ソーシャルワーク演習Ⅱ□☆	2					
				ソーシャルワーク演習Ⅲ□	2					
				保健医療□	2					
専門教育科目	専門展開科目（福祉）	海外福祉事情Ⅰ	2	人間行動と社会環境	2	医療ソーシャルワーク実践論	4	卒業研究	4	
		海外福祉事情Ⅱ	2	国際福祉研究	2	高齢者支援展開論※	2	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	
				発達と老化の理解Ⅱ◎	2	ケアマネジメント論	2			
				認知症の理解Ⅰ◎	2	ケアマネジメント演習	2			
				障害の理解Ⅰ◎	2	国際福祉論▲	2			
				身体構造と機能Ⅰ◎	2	福祉事業所経営管理論Ⅰ	2			
				介護概論◎	2	福祉事業所経営管理論Ⅱ	2			
	専門展開科目（福祉関連領域）			保育原理☆	2	子ども家庭支援論☆	2			
				社会的養護Ⅰ☆	2	子どもの食と栄養☆☯	2			
				子どもの保健☆	2	公衆衛生	2			
				障害児療育☆	2	臨床心理学★▲	2			
				児童・家庭福祉論Ⅱ★	2	カウンセリング演習	4			
				精神保健学♪	2	障害児・者の心理▲☯	2			
				発達心理学 ⁂	2	精神疾患とその治療☯	4			
				社会心理学▲	2					
				カウンセリングの基礎	2					
				教育心理学◎△○♭	2					

注1） 社会福祉士受験資格の取得に必要な科目については、「Ⅶ. 資格取得の方法　1. 社会福祉士受験資格の取得について」を確認すること。

(2)-2 専門教育科目（資格科目）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門展開科目（福祉関連資格）					スクールソーシャルワーク論♪ スクールソーシャルワーク実習指導♪	2 1	スクールソーシャルワーク演習♪ スクールソーシャルワーク実習♪	1 2	スクールソーシャルワーカー資格登録者のみ履修可
				健康管理学（健康相談活動を含む）■	2	労働衛生学■ 労働安全衛生法（じん肺法を含む）■ 労働法（労働基準法）▲■	4 2 2			第一種衛生管理者免許資格登録者のみ履修可（労働法を除く）
	専門展開科目（保育）	保育者論☆ 子どもと音楽☆	2 2	保育の心理学☆ 保育内容総論☆ 保育内容（言葉）☆ 保育内容（健康）☆ 社会的養護Ⅱ☆ 子どもの健康と安全☆ 乳児保育Ⅰ☆ 幼児理解☆ 子どもと健康☆ 子どもと造形☆ 図画工作Ⅰ☆ 図画工作Ⅱ★ 音楽Ⅱ★	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	保育の心理学Ⅱ★ 子ども家庭支援の心理学☆ 保育カリキュラム論☆ 保育内容（人間関係）☆ 保育内容（環境）☆ 子育て支援☆ 保育実習指導Ⅰ☆ 保育実習Ⅰ（施設）☆ 保育実習Ⅰ（保育所）☆ 乳児保育Ⅱ☆	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	保育実習指導Ⅱ☆注2) 保育実習指導Ⅲ☆注2) 保育実習Ⅱ(保育所)☆注2) 保育実習Ⅲ（施設）☆注2) 保育実践演習☆	2 2 2 2 2	保育児童福祉専修のみ受講可 ☆印 50単位修得
	専門展開科目（教育・特別支援教育）	教師論◎△○♭ 教育課程論◎△○ 教育行財政※⁂	2 2 2	児童生徒指導論（進路指導を含む）◎△○♭ 特別活動の指導法◎△○ 教育方法論（ICT活用含む）◎△○ 教育法規◎△○♭ 特別ニーズ教育論◎△○※♭ 総合的な学習の時間の指導法◎△○	2 2 2 2 2 2	教育相談（カウンセリングを含む）◎△○♭ 教育実習指導（中等）◎△ 福祉科指導法◎ 公民科指導法Ⅰ△ 公民科指導法Ⅱ△	2 1 4 2 2	教職実践演習（中・高）◎△ 教育実習（中等）Ⅰ◎△	2 2	◎△印 12科目23単位 ＋4単位修得 ○印 9科目18単位修得
				生涯学習支援論◆	4	社会教育経営論◆ 社会教育演習◆	4 1	社会教育課題研究◆ 社会教育実習◆	2 1	◆印 5科目12単位修得
				障害児教育論● 知的障害者の心理・生理・病理● 肢体不自由者の心理・生理・病理● 肢体不自由教育Ⅰ●	2 2 2 2	病弱者の心理・生理・病理● 視覚障害者、聴覚障害者の心理・生理・病理● 知的障害教育Ⅰ● 知的障害教育Ⅱ● 肢体不自由教育Ⅱ● 病弱教育Ⅰ● 病弱教育Ⅱ● 障害児教育課程論● 重複障害・LD等教育総論● 特別支援教育実習指導●	2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	特別支援教育実習●	2	●印 15科目29単位修得
				肢体不自由教育総論	2	知的障害教育総論 病弱教育総論 聴覚障害者の言語障害指導	2 2 2			

注1)　専門展開科目（保育）は、保育児童福祉専修合格者のみ資格課程登録のうえ履修可。
注2)　保育士資格を取得するには、「保育実習Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（施設）」のいずれかを履修すること。また、「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修する場合は「保育実習指導Ⅱ」を、「保育実習Ⅲ（施設）」を履修する場合は「保育実習指導Ⅲ」をあわせて履修すること。
注3)　教育職員免許状の取得に必要な科目については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。
~~注4)~~　「（2）-2 専門教育科目（資格科目）」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。
注5)　教職実践演習には「中・高」「養護教諭」「小学校」があるので、複数の免許を希望する場合はそれぞれの教職実践演習を履修すること。
注6)　高等学校教諭一種「公民」を取得する場合は、「哲学」「倫理学」のいずれかを履修の上、必修科目を除く▲または⁂の中から6単位以上を履修すること。

(3) 資格課程科目

区分			1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
保育児童学科科目	小学校教諭	教職	教師論▽	2	教育方法論（ICT 活用含む）▽	2	教育相談（カウンセリングを含む）▽	2			▽印 51単位 習得
			教育学概論▽	2	教育法規▽	2					
			教育課程論▽	2	特別活動の指導法▽	2					
					児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	2					
					教育心理学▽	2					
					特別ニーズ教育論▽※	2					
					総合的な学習の時間の指導法 ▽	2					
					国語科指導法（書写を含む）▽	2	社会科指導法▽	2	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	
					算数科指導法▽	2	理科指導法▽	2	教育実習（初等）Ⅱ▽	2	
					体育科指導法▽	2	生活科指導法▽	2	教職実践演習（小学校）▽	2	
					音楽科指導法▽	2	家庭科指導法▽	2			
					図画工作科指導法▽	2	道徳の指導法▽	2			
					外国語の指導法▽	2	教育実習指導（初等）Ⅱ▽	1			
					外国語活動の指導法	2					
		教科	音楽▽	2	体育▽	2	社会▽	2			▽印 20単位 習得
			国語（書写を含む）▽	2	図画工作Ⅰ▽	2	理科▽	2			
			算数▽	2	図画工作Ⅱ	2	生活▽	2			
			外国語▽	2	音楽Ⅱ	2	家庭▽	2			
教育学科科目	養護教諭				衛生学○	2	栄養学（食品学含む）○	2	養護実習○	4	○印 39単位 習得
					学校保健学（学校安全を含む）○	2	健康相談活動の理論と方法 ○	2	看護臨床実習○	2	
					養護教育学○	2	看護学（救急処置を含む）○	4	教職実践演習（養護）○	2	
					解剖生理学Ⅰ○	2	地域看護学○	2			
					病原微生物学○	2	養護実習指導○	1			
					精神保健学○	2	看護臨床実習指導○	2			
							公衆衛生○	2			
							臨床心理学○	2			
							道徳の指導法○	2			
					免疫学概論☯	2					
					薬理学概説（薬物乱用防止を含む）☯	2					
					解剖生理学Ⅱ☯	2					

注1）「(3) 資格課程科目」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注2）小学校教諭一種を含む複数の教育職員免許状を取得する場合は、教師論、教育学概論、教育法規、教育方法論（ICT 活用含む）、特別活動の指導法、児童生徒指導論（進路指導を含む）、教育心理学、教育課程論、教育相談（カウンセリングを含む）、特別ニーズ教育論、総合的な学習の時間の指導法の 11 科目 22 単位はそれぞれの免許種別から単位を修得すること。

1－6．資格取得に必要な単位

《社会福祉専攻　社会福祉コース》（卒業要件単位：128単位）

社会福祉専攻 社会福祉コース	総合教育科目					小計	専門教育科目		資格科目	合計
	基礎	健康	コミュニケーション	教養	キャリア		専門基幹	専門展開		
卒業要件 （社会福祉士受験資格）	必修 6	選必 2	選必 4	必修 12	必修+資格 12	36	必修 66	選択（総合教育科目含む）26	―	128
保育士（保育児童福祉専修のみ）	6	2	4	18	26	56	66	62	―	184
高等学校教諭（福祉）	6	2	4	16	26	54		39	―	159
高等学校教諭（福祉・特支）	6	2	4	16	26	54		68	―	188
高等学校教諭（福祉・公民）	6	2	4	30	26	68		49	―	183
高等学校教諭（福祉・公民・特支）	6	2	4	30	26	68		78	―	212
スクールソーシャルワーカー	6	2	4	12	12	36		26	―	128
社会教育主事（基礎資格）	6	2	4	16	12	40		22	―	128
第一種衛生管理者	6	2	4	16	12	40		22	―	128
小学校教諭	6	2	4	14	26	52		―	71	189
養護教諭	6	2	4	16	36	64		20	39	189

２．社会福祉学科 精神保健福祉専攻のカリキュラム

２−１．社会福祉学科　教育の目的

現代社会のなかで絶え間なく変化する福祉ニーズに対応でき、実践力が備わった即戦力の社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士等の福祉人材並びに社会福祉関連施設等の管理・運営者を養成する。

２−２．社会福祉学科　精神保健福祉専攻　教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

われわれの生きる時代は「脳の世紀」とも、あるいは「心の世紀」とも呼ばれる。精神保健福祉士は医療と福祉の両方にまたがるユニークな専門職である。本専攻では、科目履修しだいで、社会福祉士の資格も合わせて取得することが可能である。実習は通年型又は集中型のプログラムで行い、病院、施設、地域と多岐にわたる。総じて、心を病む人たちと近親者の相談援助活動を担う確かな知識と柔軟な技術を習得する。

２−３．卒業に必要な単位数

（1）精神保健福祉専攻

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と選択科目を、合計128単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。選択科目には、資格課程科目を含みます。

総合教育科目					専門教育科目	必修科目	選択科目	合計
基礎教育科目	健康教育科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育科目	教養教育科目	ｷｬﾘｱ開発教育科目	専門基幹科目			
必修 6	選必 2	選必 4	必修 12	必修 12	必修 68	104	24	128

（2）精神保健福祉専攻（保育児童福祉専修も履修の場合）

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と選択科目を、合計128単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。保育士資格取得のためには、必修科目104単位の他、選択科目から保育士資格取得のための科目を88単位修得する必要があります。詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。

総合教育科目						専門教育科目		必修科目	選択科目	合計
基礎教育科目	健康教育科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育科目	教養教育科目		ｷｬﾘｱ開発教育科目	専門基幹科目	専門展開科目			
必修 6	選必 2	選必 4	必修 12	選択 6	必修+資格 26	必修 68	選択 68	104	88	192

２−４．履修する上での注意事項

（1）総合教育科目

① 基礎教育科目
「社会福祉入門」「情報処理演習Ⅰ」の2科目6単位が必修になります。これらの科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。

② 健康教育科目
1科目2単位以上を履修してください。「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」はレクリエーション・インストラクター資格を取得するための必修科目です。レクリエーション・インストラクター資格の取得についての詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。

③ コミュニケーション教育科目
2科目4単位以上を履修してください。履修科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。
「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修が認められます。
※ 原則として、母国語が中国語の場合は「中国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」、母国語が韓国語の場合は「韓国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められません。

④ 教養教育科目
「文章表現」「心理学概論」「人体の構造と機能及び疾病」「社会学概論」「福祉と教育」「教養基礎演習Ⅰ」の6科目12単位は必修科目となります。「教養基礎演習Ⅰ」については、「Ⅴ．キャリア開発教育について」を参照してください。

⑤ キャリア開発教育科目
本学では、キャリア形成を支援するため、キャリア開発教育科目を開講しています。
1,2年次に開講される「教養基礎演習Ⅱ・Ⅲ」は必修です。
3,4年次に開講される「精神保健福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」は必修です。「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」は資格希望者のみ履修可になります。これらの科目は、国家試験の合格を目指すための科目です。受験予定者は必ず履修してください。
保育士を志望する場合（保育児童福祉専修）、1年次に開講される「保育キャリア基礎演習」、2年次に開講される「保育キャリア応用演習」、3年次に開講される「保育キャリア展開演習」、4年次に開講される「保育キャリア実践演習」を受講してください。
教員採用を希望する場合、1,2年次に開講される「教員基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3,4年次に開講される「教員開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。養護教諭希望者は、それらに加え、2年次に開講される「養護教諭基礎演習Ⅰ」、3,4年次に開講される「養護教諭開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。
また、3,4年次開講の「キャリア開発演習Ⅰ（教養）」「キャリア開発演習Ⅱ（教養）」は、選択科目ですが、一般企業への就職や教員・保育士以外の公務員採用を希望する場合、積極的に履修することを推奨しています。

（2）専門教育科目

1）専門基幹科目（専攻別必修科目）

専門基幹科目には、各専攻の専門教育の基幹となる必修科目が開講されています。専門基幹科目24科目68単位が必修となります。

① 「ソーシャルワーク基礎実習」(3年次春期集中・必修)の履修

この科目の履修には、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」および「精神保健福祉演習Ⅰ」「精神保健福祉実習指導Ⅰ」の単位を修得していなければなりません。
なお、「ソーシャルワーク基礎実習」は「精神保健福祉実習指導Ⅱ」と併行して履修する必要があります。

② 「精神保健福祉実習」(3年次秋期・必修)の履修
「ソーシャルワーク基礎実習」の単位を修得していなければなりません。
なお、「精神保健福祉実習」は、「精神保健福祉実習指導Ⅲ」と併行して履修する必要があります。

③ 精神保健福祉士受験資格の取得
「Ⅶ. 資格取得の方法　2. 精神保健福祉士受験資格の取得について」を参照してください。

④ 社会福祉士受験資格の取得
社会福祉専攻社会福祉コースの専門基幹科目として開講されている、国家試験の受験資格指定科目を履修することにより、受験資格の取得が可能です。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　1. 社会福祉士受験資格の取得について」を参照してください。

⑤ 「ソーシャルワーク実習」(4年次春期)の履修
この科目の履修には、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」「ソーシャルワーク演習Ⅲ」「ソーシャルワーク基礎実習」「精神保健福祉実習」の単位を修得していなければなりません。
なお、「ソーシャルワーク実習」は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」と併行して履修する必要があります。
高等学校教諭一種免許状（福祉）の取得を希望する学生は、「ソーシャルワーク実習」は、介護実習が可能な施設での実習が必要となります。配属を希望する際に注意してください。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照してください。

2）専門展開科目（選択科目）

専門展開科目には、専門教育のさらなる展開を図るため、福祉、福祉関連領域、保育、教育・特別支援教育の各分野に関係する科目が選択科目として開講されています。
各分野に開講されている教育職員免許状（高等学校教諭「福祉」「公民」・特別支援学校教諭）、社会教育主事（基礎資格）などの資格課程科目を履修することによって、資格・免許状を取得することが可能です。ただし、資格課程登録をしていない場合は、履修が認められない科目があります。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。

卒業研究の履修についての詳細は、履修要項の「Ⅷ. 卒業研究」を参照してください。

3）資格課程科目

他学科などに開講されている科目を履修することによって、教育職員免許状（小学校教諭：保育児童学科、養護教諭：教育学科）などを取得することが可能です。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。
資格課程科目は、卒業要件単位（128単位）に含むことが可能です。

2−5．社会福祉学科　精神保健福祉専攻　カリキュラム

(1) 総合教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**社会福祉入門□◇☆◎**	2							2科目 6単位 必修
		情報処理演習Ⅰ☆＊	4							
	健康教育科目	健康・スポーツ☆＊	2	レクリエーションワーク※	2					1科目 2単位以上 修得
				レクリエーション理論	2					
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊★	2	情報処理演習Ⅱ ⁂	4	情報処理演習Ⅲ	4			2科目以上 4単位以上 修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
		中国の文化と言語Ⅰ★	2							
		中国の文化と言語Ⅱ	2							
		韓国の文化と言語Ⅰ	2							
		韓国の文化と言語Ⅱ	2							
		＄日本の文化と言語Ⅰ＆	2							＄外国人 留学生のみ
		＄日本の文化と言語Ⅱ＆	2							
	教養教育科目	**文章表現☆**	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			6科目 12単位 必修
		心理学概論□◇◎△	2							
		人体の構造と機能及び疾病 □◇◎	2							
		社会学概論□◇△	2							
		福祉と教育☆	2							
		教育学概論☆◎△○	2							
		法学概論△	2							
		法学（憲法）☆＊	2	法学Ⅱ（民法、行政法）△	4					
		政治学（国際政治を含む）△	2	経済学（国際経済を含む）△	2	国際関係論（国際法を含む）△	2			
		哲学▼	2							
		倫理学▼	2							
		日本史	2							
		世界史	2							
		統計学	2							
		生物学	2	生理学■	4					
		音楽★	2							
		表現☆	2	生涯学習概論 ⁂ ◆	4					
		人権教育 ⁂	2							
		ボランティア論 ⁂ ※	2							
		ジェンダー論▲	2							
		死生学	2							
		少年と犯罪	2							
		国際社会と日本▲	2							
		多文化理解入門	2							
		多文化コミュニケーション	2							
		ヒューマンライフとサービス	2							
		アジア文化論	2							
		経営学入門	2							
		会計学入門	2							
		生活の中の福祉	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目					**精神保健福祉士養成演習Ⅰ◇**	2	**精神保健福祉士養成演習Ⅱ◇**	4	4科目 12単位 必修
						社会福祉士養成演習Ⅰ□	2	社会福祉士養成演習Ⅱ□	4	
		教養基礎演習Ⅱ	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	キャリア開発演習Ⅰ（教養）	4	キャリア開発演習Ⅱ（教養）	4	
		保育キャリア基礎演習☆	2	保育キャリア応用演習☆	4	保育キャリア展開演習☆	4	保育キャリア実践演習☆	4	
		教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	
				養護教諭基礎演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	2	

注1）単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）情報処理演習Ⅲは、情報処理演習Ⅱ履修者のみ受講可能。文章表現Ⅲは、文章表現Ⅱを履修した後に履修すること。

注3）**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注4）□（社会福祉士国家試験受験資格）、◇（精神保健福祉士国家試験受験資格）、☆（保育士資格　☆必修　★選択必修）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂ 選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」　△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、■（第一種衛生管理者免許）、♪（スクールソーシャルワーカー　♪必修　♭選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注5）保育士資格を取得するには、コミュニケーション教育科目の★印が付された２科目４単位のうちから、１科目２単位以上を修得すること。

注6）社会福祉士受験資格の資格希望者は、「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること。

注7）＆ 外国人留学生は履修することが望ましい。

(2) -1 専門教育科目

区分			1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門基幹科目	精神保健福祉専攻	社会福祉原論◇□◎☆	4	地域福祉論◇□※	4	権利擁護と成年後見◇□	2	精神保健福祉演習Ⅲ◇	2	24科目 68単位 必修
			精神保健学◇♪	4	社会保障論◇□◎△	4	精神保健福祉演習Ⅱ◇	2	更生保護◇□	2	
			ソーシャルワーク演習Ⅰ◇□☆	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ◇□	4	ソーシャルワークの理論と方法（専門）◇	4			
			ソーシャルワークの基盤と専門職◇□☆◎	2	障害者福祉論◇□◎	2	精神保健福祉実習指導Ⅱ◇	2			
					精神疾患とその治療◇☯	4	精神保健福祉実習指導Ⅲ◇	2			
					精神障害リハビリテーション論◇	2	ソーシャルワーク基礎実習◇□	2			
					精神保健福祉の原理◇	4	精神保健福祉実習◇	6			
					精神保健福祉制度論◇	2	社会調査法◇□	2			
					精神保健福祉実習指導Ⅰ◇	2					
					精神保健福祉演習Ⅰ◇	2					
		社会福祉専攻 社会福祉コース	高齢者福祉論□◎	2	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□☆◎	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□	4	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ◎□	2	社会福祉士 （□印36単位修得）
					公的扶助論□♪	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ□	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ◎□	2	
					ソーシャルワーク演習Ⅱ□☆	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□	2	ソーシャルワーク実習◎□	6	
					児童・家庭福祉論□☆◎♪※	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ□	2	
					保健医療□	2			社会福祉運営管理論□	2	
	専門展開科目（福祉）		海外福祉事情Ⅰ	2	人間行動と社会環境	2	医療ソーシャルワーク実践論	4	卒業研究	4	
			海外福祉事情Ⅱ	2	国際福祉研究	2	高齢者支援展開論※	2			
					発達と老化の理解Ⅱ◎	2	ケアマネジメント論	2			
					認知症の理解Ⅰ◎	2	ケアマネジメント演習	2			
					障害の理解Ⅰ◎	2	国際福祉論▲	2			
					身体構造と機能Ⅰ◎	2	福祉事業所経営管理論Ⅰ	2			
					介護概論◎	2	福祉事業所経営管理論Ⅱ	2			
	専門展開科目（福祉関連領域）				保育原理☆	2	子ども家庭支援論☆	2			
					社会的養護Ⅰ☆	2	子どもの食と栄養☆☯	2			
					子どもの保健☆	2	公衆衛生	2			
					障害児療育☆	2	臨床心理学★▲	2			
					児童・家庭福祉論Ⅱ★	2	カウンセリング演習	4			
					発達心理学⁂	2	障害児・者の心理▲☯	2			
					社会心理学▲	2					
					カウンセリングの基礎	2					
					教育心理学◎△○♭	2					

注1） 社会福祉士受験資格の取得に必要な科目については、「Ⅶ. 資格取得の方法　1. 社会福祉士受験資格の取得について」を確認すること。

(2) -2 専門教育科目（資格科目）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門展開科目（福祉関連資格）					スクールソーシャルワーク論♪ スクールソーシャルワーク実習指導♪	2 1	スクールソーシャルワーク演習♪ スクールソーシャルワーク実習♪	1 2	スクールソーシャルワーカー資格登録者のみ履修可
				健康管理学（健康相談活動を含む）■	2	労働衛生学■ 労働安全衛生法（じん肺法を含む）■ 労働法（労働基準法）▲■	4 2 2			第一種衛生管理者免許資格登録者のみ履修可（労働法を除く）
	専門展開科目（保育）	保育者論☆ 子どもと音楽☆	2 2	保育の心理学☆ 保育内容総論☆ 保育内容（言葉）☆ 保育内容（健康）☆ 社会的養護Ⅱ☆ 子どもの健康と安全☆ 乳児保育Ⅰ☆ 幼児理解☆ 子どもと健康☆ 子どもと造形☆ 図画工作Ⅰ☆ 図画工作Ⅱ★ 音楽Ⅱ★	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	保育の心理学Ⅱ★ 子ども家庭支援の心理学☆ 保育カリキュラム論☆ 保育内容（人間関係）☆ 保育内容（環境）☆ 子育て支援☆ 保育実習指導Ⅰ☆ 保育実習Ⅰ（施設）☆ 保育実習Ⅰ（保育所）☆ 乳児保育Ⅱ☆	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	保育実習指導Ⅱ☆注2) 保育実習指導Ⅲ☆注2) 保育実習Ⅱ（保育所）☆注2) 保育実習Ⅲ（施設）☆注2) 保育実践演習☆	2 2 2 2 2	保育児童福祉専修のみ履修可 ☆印 50単位 修得
	専門展開科目（教育・特別支援教育）	教師論◎△○♭ 教育課程論◎△○ 教育行財政※⁂	2 2 2	児童生徒指導論（進路指導を含む）◎△○♭ 特別活動の指導法◎△○ 教育方法論（ICT活用含む）◎△○ 教育法規◎△○♭ 特別ニーズ教育論◎△○※♭ 総合的な学習の時間の指導法◎△○	2 2 2 2 2 2	教育相談（カウンセリングを含む）◎△○♭ 教育実習指導（中等）◎△ 福祉科指導法◎ 公民科指導法Ⅰ△ 公民科指導法Ⅱ△	2 1 4 2 2	教職実践演習（中・高）◎△ 教育実習（中等）Ⅰ◎△	2 2	◎△印 12科目23単位 ＋4単位 修得 ○印 9科目 18単位 修得
				生涯学習支援論◆	4	社会教育経営論◆ 社会教育演習◆	4 1	社会教育課題研究◆ 社会教育実習◆	2 1	◆印 5科目12単位 修得
				障害児教育論● 知的障害者の心理・生理・病理● 肢体不自由者の心理・生理・病理● 肢体不自由教育Ⅰ●	2 2 2 2	病弱者の心理・生理・病理● 視覚障害者、聴覚障害者の心理・生理・病理● 知的障害教育Ⅰ● 知的障害教育Ⅱ● 肢体不自由教育Ⅱ● 病弱教育Ⅰ● 病弱教育Ⅱ● 障害児教育課程論● 重複障害・LD等教育総論● 特別支援教育実習指導●	2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	特別支援教育実習●	2	●印 15科目 29単位 修得
				肢体不自由教育総論	2	知的障害教育総論 病弱教育総論 聴覚障害者の言語障害指導	2 2 2			

注1) 専門展開科目（保育）は、保育児童福祉専修合格者のみ資格課程登録のうえ履修可。
注2) 保育士資格を取得するには、「保育実習Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（施設）」のいずれかを履修すること。また、「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修する場合は「保育実習指導Ⅱ」を、「保育実習Ⅲ（施設）」を履修する場合は「保育実習指導Ⅲ」をあわせて履修すること。
注3) 教育職員免許状の取得に必要な科目については、「Ⅶ. 資格取得の方法 4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。
注4) 「(2) -2 専門教育科目（資格科目）」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。
注5) 教職実践演習には「中・高」「養護教諭」「小学校」があるので、複数の免許を希望する場合はそれぞれの教職実践演習を履修すること。
注6) 高等学校教諭「公民」を取得する場合は、「哲学」「倫理学」のいずれかを履修の上、必修科目を除く▲または⁂ の中から8単位以上を履修すること。

(3) 資格課程科目

区分			1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
保育児童学科科目	小学校教諭	教職	教師論▽	2	教育方法論（ICT 活用含む）▽	2					51単位修得
			教育学概論▽	2	教育法規▽	2					
			教育課程論▽	2	特別活動の指導法▽	2	教育相談（カウンセリングを含む）▽	2			
					児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	2					
					教育心理学▽	2					
					特別ニーズ教育論▽※	2					
					総合的な学習の時間の指導法▽	2					
					国語科指導法（書写を含む）▽	2	社会科指導法▽	2	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	
					算数科指導法▽	2	理科指導法▽	2	教育実習（初等）Ⅱ▽	2	
					体育科指導法▽	2	生活科指導法▽	2	教職実践演習（小学校）▽	2	
					音楽科指導法▽	2	家庭科指導法▽	2			
					図画工作科指導法▽	2	道徳の指導法▽	2			
					外国語活動の指導法	2	教育実習指導（初等）Ⅱ▽	1			
					外国語の指導法▽	2					
		教科	音楽▽	2	体育▽	2	社会▽	2			20単位修得
			国語（書写を含む）▽	2	図画工作Ⅰ▽	2	理科▽	2			
			算数▽	2	図画工作Ⅱ	2	生活▽	2			
			外国語▽	2	音楽Ⅱ	2	家庭▽	2			
教育学科科目	養護教諭				衛生学○	2	栄養学（食品学含む）○	2	養護実習○	4	○印39単位修得
					学校保健学（学校安全を含む）○	2	健康相談活動の理論と方法　○	2	看護臨床実習○	2	
					養護教育学○	2	看護学（救急処置を含む）○	4	教職実践演習（養護）○	2	
					解剖生理学Ⅰ○	2	地域看護学○	2			
					病原微生物学○	2	養護実習指導○	1			
					精神保健学○	2	看護臨床実習指導○	2			
							公衆衛生○	2			
							臨床心理学○	2			
							道徳の指導法○	2			
					免疫学概論☯	2					
					薬理学概説（薬物乱用防止を含む）☯	2					
					解剖生理学Ⅱ☯	2					

注1)　「(3) 資格課程科目」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。詳細については、「Ⅶ 資格取得の方法」を参照すること。

注2)　小学校教諭を含む複数の教育職員免許状を取得する場合は、教師論、教育学概論、教育法規、教育方法論（ICT 活用含む）、特別活動の指導法、児童生徒指導論（進路指導を含む）、教育心理学、教育課程論、教育相談（カウンセリングを含む）、特別ニーズ教育論、総合的な学習の時間の指導法の 11 科目 22 単位はそれぞれの免許種別から単位を修得すること。

２−６．資格取得に必要な単位

《精神保健福祉専攻》（卒業要件単位：128単位）

精神保健福祉専攻	総合教育科目					小計	専門教育科目			資格科目	合計
							専門基幹		専門展開		
	基礎	健康	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	教養	キャリア		必修	選択	選択（総合教育科目含む）		
卒業要件 （精神保健福祉士受験資格）	必修 6	選必 2	選必 4	必修 12	必修+資格 12	36	68	24		―	128
保育士 （保育児童福祉専修のみ）	6	2	4	18	26	56	68	6	62	―	192
社会福祉士受験資格	6	2	4	12	18	42		36	―	―	146
スクールソーシャルワーカー	6	2	4	12	12	36		2	22	―	128
社会福祉士受験資格 高等学校教諭（福祉）	6	2	4	16	32	60		36	39	―	203
社会福祉士受験資格 高等学校教諭（福祉・特支）	6	2	4	16	32	60		36	68	―	232
社会福祉士受験資格 高等学校教諭（福祉・公民）	6	2	4	30	32	74		36	49	―	227
高等学校教諭（公民）	6	2	4	30	26	68		―	35	―	171
高等学校教諭（公民・特支）	6	2	4	30	26	68		―	64	―	200
社会教育主事（基礎資格）	6	2	4	16	12	40		―	20	―	128
第一種衛生管理者	6	2	4	16	12	40		―	20	―	128
小学校教諭	6	2	4	14	26	52		―	―	71	191
養護教諭	6	2	4	16	36	64		―	20	39	191

※　卒業要件単位には、精神保健福祉士受験資格取得のための単位を含んでいる。

※　高等学校教諭（福祉）を取得するために必要な単位数には、社会福祉士受験資格取得のための単位を含んでいる。

３.社会福祉学科　経営福祉専攻のカリキュラム

３－１．社会福祉学科　教育の目的

現代社会のなかで絶え間なく変化する福祉ニーズに対応でき、実践力が備わった即戦力の社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士等の福祉人材並びに社会福祉関連施設等の管理・運営者を養成する。

３－２．社会福祉学科　経営福祉専攻　教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

少子高齢化、多様な福祉ニーズへの対応など、わが国はさまざまな問題に直面し、社会福祉施設や企業等においても解決すべき問題が山積みしている。

本専攻では、社会福祉関連施設・機関、病院、企業等の管理・運営者として、地域の実情に即した福祉人材の配置や企画運営力を習得する。そのため、専門教育科目を中心に、合理的・健全な運営を行うために必要なマネジメント力を習得するとともに、社会福祉士受験資格取得もめざせるカリキュラムを編成し、経営福祉の知識・技術・価値倫理を習得する。

３－３．卒業に必要な単位数

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と選択科目を、合計128単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。選択科目には、資格課程科目を含みます。

総合教育科目					専門教育科目			必修科目	選択科目	合計
基礎教育科目	健康教育科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育科目	教養教育科目	ｷｬﾘｱ開発教育科目	専門基幹科目		専門展開科目			
必修 6	選必 2	選必 4	必修 12	必修 14	必修 30	選必 4	必修 38	110	18	128

３－４．履修する上での注意事項

（1）総合教育科目

① 基礎教育科目

「社会福祉入門」「情報処理演習Ⅰ」の2科目6単位が必修になります。これらの科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。

② 健康教育科目

1科目2単位以上を履修してください。「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」はレクリエーション・インストラクター資格を取得するための必修科目です。レクリエーション・インストラクター資格の取得についての詳細は、履修要項の「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。

③ コミュニケーション教育科目

2科目4単位以上を履修してください。履修科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。

「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修が認められます。

※ 原則として、母国語が中国語の場合は「中国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」、母国語が韓国語の

場合は「韓国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められません。

④ 教養教育科目
「文章表現」「心理学概論」「人体の構造と機能及び疾病」「社会学概論」「福祉と教育」「教養基礎演習Ⅰ」の6 科目12 単位は必修科目となります。「教養基礎演習Ⅰ」については、履修要項の「Ⅴ．キャリア開発教育について」を参照してください。

⑤ キャリア開発教育科目
本学では、キャリア形成を支援するため、キャリア開発教育科目を開講しています。
1,2年次に開講される「教養基礎演習Ⅱ・Ⅲ」、3,4年次に開講される「キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ（教養）」は必修です。それぞれ履修し、合計4科目14単位を必ず修得してください。
社会福祉士受験資格を志望する場合、3年次に開講される「社会福祉士養成演習Ⅰ」、4年次に開講される「社会福祉士養成演習Ⅱ」を必ず受講してください。
教員採用を希望する場合、1,2年次に開講される「教員基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3,4年次に開講される「教員開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。養護教諭希望者は、それらに加え、2年次に開講される「養護教諭基礎演習Ⅰ」、3,4年次に開講される「養護教諭開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。

(2) 専門教育科目

1) 専門基幹科目

専門基幹科目には、経営福祉専攻の専門教育の基幹となる必修科目・選択科目が開講されています。10科目30単位が必修、及び選択科目より2科目4単位以上を修得となります。

① 社会福祉士受験資格の取得
社会福祉専攻社会福祉コースの専門基幹科目として開講されている、国家試験の受験資格指定科目を履修することにより、受験資格の取得が可能です。詳細は、履修要項の「Ⅶ．資格取得の方法　1．社会福祉士受験資格の取得について」を参照してください。

② 「ソーシャルワーク基礎実習」(3年次秋期集中)の履修
「ソーシャルワーク基礎実習」は社会福祉士受験資格を取得するための本学独自の必修科目です。この科目の履修には、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の単位を修得していなければなりません。
なお、「ソーシャルワーク基礎実習」は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」と併行して履修する必要があります。

③ 「ソーシャルワーク実習」(4年次春期)の履修
経営福祉専攻の学生が社会福祉士受験資格の取得を希望する場合には、「ソーシャルワーク実習」を4年次春期（6月・7月～8月）に集中して履修します。この科目の履修には、「ソーシャルワーク基礎実習」の単位を修得していなければなりません。
なお、「ソーシャルワーク実習」は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」と併行して履修する必要があります。
高等学校教諭一種免許状（福祉）の取得を希望する学生は、「ソーシャルワーク実習」は、介護実習が可能な施設での実習が必要となります。配属を希望する際に注意してください。詳細は、履修要項の「Ⅶ．資格取得の方法　4．教育職員免許状の取得について」を参照してください。

2）専門展開科目

専門展開科目には、専門教育のさらなる展開を図るため、経営、福祉、福祉関連領域、教育・特別支援教育の各分野に関係する科目が必修及び選択科目として開講されています。経営分野で開講している18科目38単位は必修となります。

各分野に開講されている教育職員免許状（高等学校教諭「福祉」「公民」・特別支援学校教諭）、社会教育主事（基礎資格）などの資格課程科目を履修することによって、資格・免許状を取得することが可能です。ただし、資格課程登録をしていない場合は、履修が認められない科目があります。詳細は、履修要項の「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。

卒業研究の履修についての詳細は、履修要項の「Ⅷ．卒業研究」を参照してください。

3）資格課程科目

他学科などに開講されている科目を履修することによって、教育職員免許状（小学校教諭：保育児童学科、養護教諭：教育学部教育学科）などを取得することが可能です。詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。

資格課程科目は、卒業要件単位（128単位）に含むことが可能です。

3−5．社会福祉学科　経営福祉専攻　カリキュラム

(1) 総合教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
	基礎教育科目	**社会福祉入門□◎**	2							2科目 6単位 必修
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
	健康教育科目	健康・スポーツ＊	2	レクリエーションワーク※	2					1科目 2単位以上 修得
				レクリエーション理論	2					
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2	情報処理演習Ⅱ ⁂	4	情報処理演習Ⅲ	4			2科目以上 4単位以上 修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
		中国の文化と言語Ⅰ	2							
		中国の文化と言語Ⅱ	2							
		韓国の文化と言語Ⅰ	2							
		韓国の文化と言語Ⅱ	2							
		＄日本の文化と言語Ⅰ＆	2							＄外国人 留学生のみ
		＄日本の文化と言語Ⅱ＆	2							
	教養教育科目	**文章表現**	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			6科目 12単位 必修
		心理学概論□◎△	2							
		人体の構造と機能及び疾病□◎	2							
		社会学概論□△	2							
		福祉と教育	2							
		教育学概論◎△○	2							
		法学概論△	2							
		法学（憲法）＊	2	法学Ⅱ（民法、行政法）△	4					
		政治学（国際政治を含む）△	2	経済学（国際経済を含む）△	2	国際関係論（国際法を含む）△	2			
		哲学▼	2							
		倫理学▼	2							
		日本史	2							
		世界史	2							
		統計学	2							
		生物学	2	生理学■	4					
		音楽	2							
		表現	2	生涯学習概論 ⁂ ◆	4					
		人権教育 ⁂	2							
		ボランティア論 ⁂ ※	2							
		ジェンダー論▲	2							
		死生学	2							
		少年と犯罪	2							
		国際社会と日本▲	2							
		多文化理解入門	2							
		多文化コミュニケーション	2							
		ヒューマンライフとサービス	2							
		アジア文化論	2							
		経営学入門	2							
		会計学入門	2							
		生活の中の福祉	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）**	4	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）**	4	4科目 14単位 必修
						社会福祉士養成演習Ⅰ□	2	社会福祉士養成演習Ⅱ□	4	
		教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	
				養護教諭基礎演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	2	

注1)　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2)　情報処理演習Ⅲは、情報処理演習Ⅱ履修者のみ受講可能。文章表現Ⅲは、文章表現Ⅱを履修した後に履修すること。

注3)　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注4)　□（社会福祉士国家試験受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」　△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、■（第一種衛生管理者免許）、♪（スクールソーシャルワーカー　♪必修　♭選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、履修要項の「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注5)　社会福祉士受験資格の資格希望者は、「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること。

注6)　＆ 外国人留学生は履修することが望ましい。

(2) -1 専門教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門基幹科目	**社会福祉原論□◎**	4	**ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□◎**	2	**ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□**	4	**社会福祉運営管理論□**	2	10科目 30単位 必修
		ソーシャルワークの基盤と専門職□◎	2	**ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□**	4	**社会調査法□**	2			
				地域福祉論□※	4					
				社会保障論□◎△	4					
				公的扶助論□♪	2					
		高齢者福祉論□◎	2	障害者福祉論□◎	2	権利擁護と成年後見□	2	更生保護□	2	2科目以上 4単位以上 修得
				児童・家庭福祉論□◎♪※	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ□	2	
				保健医療□	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ□	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ◎□	2	
				ソーシャルワーク演習Ⅰ□	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ□◎	2	ソーシャルワーク実習◎□	6	
				ソーシャルワーク演習Ⅱ□	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□	2			
						ソーシャルワーク基礎実習□	2			
	専門展開科目（経営）	**社会福祉経営論**	2	**医療経営論**	2	**経営管理論**	2	**人事管理論**	2	18科目 38単位 必修
		暮らしと経済	2	**会計学**	2	**経営組織論**	2	**起業経営論**	2	
		経営学（非営利組織の経営含む）	2	**簿記**	4	**企業統治論（非営利企業を含む）**	2			
		福祉と経営Ⅰ	2	**マーケティング論**	2	**経営戦略論**	2			
		福祉と経営Ⅱ	2	**社会政策論**	2	**開発経済論**	2			
				金融論	2					
	専門展開科目（福祉）	海外福祉事情Ⅰ	2	人間行動と社会環境	2	医療ソーシャルワーク実践論	4	卒業研究	4	
		海外福祉事情Ⅱ	2	国際福祉研究	2	高齢者支援展開論※	2	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	
				発達と老化の理解Ⅱ◎	2	ケアマネジメント論	2			
				認知症の理解Ⅰ◎	2	ケアマネジメント演習	2			
				障害の理解Ⅰ◎	2	国際福祉論▲	2			
				身体構造と機能Ⅰ◎	2	福祉事業所経営管理論Ⅰ	2			
				介護概論◎	2	福祉事業所経営管理論Ⅱ	2			
	専門展開科目（福祉関連領域）			保育原理	2	子ども家庭支援論	2			
				社会的養護Ⅰ	2	子どもの食と栄養☯	2			
				子どもの保健	2	公衆衛生	2			
				障害児療育	2	臨床心理学▲	2			
				児童・家庭福祉論Ⅱ	2	カウンセリング演習	4			
				精神保健学♪	2	障害児・者の心理▲☯	2			
				発達心理学※	2	精神疾患とその治療☯	4			
				社会心理学▲	2					
				カウンセリングの基礎	2					
				教育心理学◎△○♭	2					

注1） 社会福祉士受験資格の取得に必要な科目については、履修要項の「Ⅶ. 資格取得の方法　1. 社会福祉士受験資格の取得について」を確認すること。

(2) -2 専門教育科目（資格科目）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門展開科目（福祉関連資格）					スクールソーシャルワーク論♪ スクールソーシャルワーク実習指導♪	2 1	スクールソーシャルワーク演習♪ スクールソーシャルワーク実習♪	1 2	スクールソーシャルワーカー資格登録者のみ履修可
				健康管理学（健康相談活動を含む）■	2	労働衛生学■ 労働安全衛生法（じん肺法を含む）■ 労働法（労働基準法）▲■	4 2 2			第一種衛生管理者免許資格登録者のみ履修可（労働法を除く）
	専門展開科目（教育・特別支援教育）	教師論◎△○♭ 教育行財政※⁂ 教育課程論◎△○	2 2 2	児童生徒指導論（進路指導を含む）◎△○♭ 特別活動の指導法◎△○ 教育方法論（ICT活用含む）◎△○ 教育法規◎△○♭ 特別ニーズ教育論◎△○※♭ 総合的な学習の時間の指導法◎△○	2 2 2 2 2 2	教育相談（カウンセリングを含む）◎△○♭ 教育実習指導（中等）◎△	2 1	教職実践演習◎△（中・高） 教育実習（中等）Ⅰ◎△	2 2	◎△印 12科目23単位 ＋4単位修得 ○印 9科目18単位 修得
						福祉科指導法◎ 公民科指導法Ⅰ△ 公民科指導法Ⅱ△	4 2 2			
				生涯学習支援論◆	4	社会教育経営論◆ 社会教育演習◆	4 1	社会教育課題研究◆ 社会教育実習◆	2 1	◆印 5科目12単位 修得
				障害児教育論● 知的障害者の心理・生理・病理● 肢体不自由者の心理・生理・病理● 肢体不自由教育Ⅰ●	2 2 2 2	病弱者の心理・生理・病理● 視覚障害者、聴覚障害者の心理・生理・病理● 知的障害教育Ⅰ● 知的障害教育Ⅱ● 肢体不自由教育Ⅱ● 病弱教育Ⅰ● 病弱教育Ⅱ● 障害児教育課程論● 重複障害・LD等教育総論● 特別支援教育実習指導●	2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	特別支援教育実習●	2	●印 15科目29単位 修得
				肢体不自由教育総論	2	知的障害教育総論 病弱教育総論 聴覚障害者の言語障害指導	2 2 2			

注1） 教育職員免許状の取得に必要な科目については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。

注2） 「（2）-2 専門教育科目（資格科目）」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。教職実践演習には「中・高」「養護教諭」「小学校」があるので、複数の免許を希望する場合はそれぞれの教職実践演習を履修すること。

注3） 高等学校教諭一種「公民」を取得する場合は、「哲学」「倫理学」のいずれかを履修の上、必修科目を除く▲または⁂ の中から6単位以上を履修すること。

(3) 資格課程科目

区分			1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
保育児童学科科目	小学校教諭	教職	教師論▽	2	教育法規▽	2	教育相談（カウンセリングを含む）▽	2			▽印 51単位 修得
			教育学概論▽	2	教育方法論（ICT 活用含む）▽	2					
			教育課程論▽	2	特別活動の指導法▽	2					
					児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	2					
					教育心理学▽	2					
					特別ニーズ教育論▽※	2					
					総合的な学習の時間の指導法▽	2					
					国語科指導法（書写を含む）▽	2	社会科指導法▽	2	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	
					算数科指導法▽	2	理科指導法▽	2	教育実習（初等）Ⅱ▽	2	
					体育科指導法▽	2	生活科指導法▽	2	教職実践演習（小学校）▽	2	
					音楽科指導法▽	2	家庭科指導法▽	2			
					図画工作科指導法▽	2	道徳の指導法▽	2			
					外国語の指導法▽	2	教育実習指導（初等）Ⅱ▽	1			
					外国語活動の指導法	2					
		教科	音楽▽	2	体育▽	2	社会▽	2			▽印 20 単位 修得
			国語（書写を含む）▽	2	図画工作Ⅰ▽	2	理科▽	2			
			算数▽	2	図画工作Ⅱ	2	生活▽	2			
			外国語▽	2	音楽Ⅱ	2	家庭▽	2			
教育学科科目	養護教諭				衛生学○	2	栄養学（食品学含む）○	2	養護実習○	4	○印 39単位 修得
					学校保健学（学校安全を含む）○	2	健康相談活動の理論と方法○	2	看護臨床実習○	2	
					養護教育学○	2	看護学（救急処置を含む）○	4	教職実践演習（養護）○	2	
					解剖生理学Ⅰ○	2	地域看護学○	2			
					病原微生物学○	2	養護実習指導○	1			
					精神保健学○	2	看護臨床実習指導○	2			
							公衆衛生○	2			
							臨床心理学○	2			
							道徳の指導法○	2			
					免疫学概論☯	2					
					薬理学概説（薬物乱用防止を含む）☯	2					
					解剖生理学Ⅱ☯	2					

注1）「(3) 資格課程科目」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。詳細については、履修要項の「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。
注2）小学校教諭一種を含む複数の教育職員免許状を取得する場合は、教師論、教育学概論、教育法規、教育方法論（ICT 活用含む）、特別活動の指導法、児童生徒指導論（進路指導を含む）、教育心理学、教育課程論、教育相談（カウンセリングを含む）、特別ニーズ教育論、総合的な学習の時間の指導法の 11 科目 22 単位はそれぞれの免許種別から単位を修得すること。

3－6．資格取得に必要な単位

《経営福祉専攻》（卒業要件単位：128単位）

社会福祉専攻 経営福祉コース	総合教育科目					小計	専門教育科目				資格科目 (他学科)	合計
							専門基幹		専門展開			
	基礎	健康	コミュニケーション	教養	キャリア		必修	選択 (選択必修)	必修	選択（総合教育科目、専門基幹科目含む）		
卒業要件	6	2	4	12	14	38	30	4	38	18	―	128
社会福祉士受験資格	6	2	4	12	20	44	30	36	38	―	―	148
高等学校教諭（福祉）	6	2	4	16	34	62		36		39	―	205
高等学校教諭 （福祉・特支）	6	2	4	16	34	62		36		68	―	234
高等学校教諭 （福祉・公民）	6	2	4	30	34	76		36		49	―	229
社会教育主事 （基礎資格）	6	2	4	16	14	42		4		16	―	130
第一種衛生管理者	6	2	4	16	14	42		4		14	―	128
小学校教諭	6	2	4	14	28	54		4		―	71	197
養護教諭	6	2	4	16	38	66		4		20	39	197

※　高等学校教諭（福祉）を取得するために必要な単位数には、社会福祉士受験資格取得のための単位を含んでいる。

４．社会福祉学科　心理福祉専攻のカリキュラム

４－１．社会福祉学科　教育の目的

現代社会のなかで絶え間なく変化する福祉ニーズに対応でき、実践力が備わった即戦力の社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士等の福祉人材並びに社会福祉関連施設等の管理・運営者を養成する。

４－２．社会福祉学科　心理福祉専攻　教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

少子高齢化、多様な福祉ニーズへの対応など、わが国はさまざまな問題に直面している。
本専攻では、社会福祉学の知識・技術を習得するとともに、心理学についての理解を深めることで、福祉や心理などの分野で応用するための力を身につけるための科目を配置する。また、社会福祉士や精神保健福祉士受験資格等の取得や、公認心理師受験に必要な学部要件を満たすカリキュラムを編成する。

４－３．卒業に必要な単位数

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と選択科目を、合計128単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。選択科目には、資格課程科目を含みます。

総合教育科目					専門教育科目		合計		
基礎教育科目	健康教育科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育科目	教養教育科目	キャリア開発教育科目	専門基幹科目	専門展開科目	必修	選択	
必修 10	必修 2	選必 4	必修 14	必修 14	必修 30	必修 22	96	32	128

４－４．履修する上での注意事項

（1）総合教育科目

① 基礎教育科目
「社会福祉入門」「情報処理演習Ⅰ」「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「心理学入門」の5科目10単位のすべてが必修になります。これらの科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。

② 健康教育科目
1科目2単位以上を履修してください。「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」はレクリエーション・インストラクター資格を取得するための必修科目です。レクリエーション・インストラクター資格の取得についての詳細は、履修要項の「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。

③ コミュニケーション教育科目
2科目4単位以上を履修してください。履修科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。
「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修が認められます。
※ 原則として、母国語が中国語の場合は「中国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」、母国語が韓国語の場合は「韓国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められません。

④ 教養教育科目
「文章表現」「心理学概論」「人体の構造と機能及び疾病」「社会学概論」「統計学」「福祉と教育」「教養基礎演習Ⅰ」の7科目14単位は必修となります。「教養基礎演習Ⅰ」については、「Ⅴ．キャリア開発教育について」を参照してください。

⑤ キャリア開発教育科目
本学では、キャリア形成を支援するため、キャリア開発教育科目を開講しています。
1,2年次に開講される「教養基礎演習Ⅱ・Ⅲ」、3,4年次に開講される「キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ（教養）」は必修です。それぞれ履修し、合計4科目14単位を必ず修得してください。
3,4年次に開講される「精神保健福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」、「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」は資格希望者のみ履修可になります。これらの科目は、国家試験の合格を目指すための科目です。受験予定者は必ず履修してください。
教員採用を希望する場合、1,2年次に開講される「教員基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3,4年次に開講される「教員開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。養護教諭希望者は、それらに加え、2年次に開講される「養護教諭基礎演習Ⅰ」、3,4年次に開講される「養護教諭開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。

（2）専門教育科目

1）専門基幹科目

専門基幹科目には、専門教育の基幹となる必修科目が開講されています。10科目30単位が必修となります。

専門基幹科目に開講された科目を履修することにより、社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格、教育職員免許状などの資格課程科目を履修することによって、資格などを取得することが可能です。ただし、資格課程登録をしていない場合は、履修が認められない科目があります。詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。

① 社会福祉士受験資格の取得
指定科目を履修することにより、受験資格の取得が可能です。詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法　1．社会福祉士受験資格の取得について」を参照してください。

② 精神保健福祉士受験資格の取得
指定科目を履修することにより、受験資格の取得が可能です。詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法　2．精神保健福祉士受験資格の取得について」を参照してください。

③ 「ソーシャルワーク基礎実習」(3年次秋期集中)の履修
「ソーシャルワーク基礎実習」は社会福祉士受験資格を取得するための本学独自の必修科目です。この科目の履修には、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の単位を修得していなければなりません。
なお、「ソーシャルワーク基礎実習」は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」と併行して履修する必要があります。

④ 「ソーシャルワーク実習」(4年次春期)の履修
心理福祉専攻の学生が社会福祉士受験資格の取得を希望する場合には、「ソーシャルワーク実習」を4年次春期（6月・7月～8月）に集中して履修します。この科目の履修には、「ソーシャルワーク基礎実習」の単位を修得していなければなりません。
なお、「ソーシャルワーク実習」は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」と併行して履修する必要があります。

高等学校教諭一種免許状（福祉）の取得を希望する学生は、「ソーシャルワーク実習」は、介護実習が可能な施設での実習が必要となります。配属を希望する際に注意してください。詳細は、履修要項の「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照してください。

⑤　「精神保健福祉実習」(3年次秋期集中・4年次春期集中)の履修
心理福祉専攻の学生が、精神保健福祉士受験資格の取得を希望する場合は、「精神保健福祉実習（A）」を3年次秋期（集中）に、「精神保健福祉実習（B）」を4年次春期（集中)にそれぞれ行うことで「精神保健福祉実習」の履修となります。
「精神保健福祉実習（A）」を行うには、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「精神保健福祉演習Ⅰ」「精神保健福祉実習指導Ⅰ」の単位を修得していなければなりません。また、「精神保健福祉実習指導Ⅱ」を3年次秋期に、「精神保健福祉実習指導Ⅲ」を4年次春期に履修する必要があります。

2）専門展開科目

専門展開科目には、専門教育のさらなる展開を図るため、心理、関連領域、福祉、教育の各分野に関係する科目が選択科目として開講されています。心理分野で開講している6科目22単位は必修となります。

各分野に開講されている科目を履修することにより、認定心理士資格、公認心理師受験基礎資格（大学）の取得が可能となります。認定心理士資格、公認心理師受験資格の詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　8. 認定心理士資格の取得について」および「Ⅶ. 資格取得の方法　9. 公認心理師受験資格の取得について」を参照してください。

①　「心理実習」（4年次）の履修
公認心理師受験基礎資格（大学）の取得を希望する場合は、4年次に指定された施設において80時間以上の実習を行います。
「心理実習」に参加するには資格登録を行ったうえで3年次秋期までに必要な科目を修得し、通算GPAが3.0以上の実習参加条件を満たしている必要があります。詳細は「Ⅶ. 資格取得の方法　9. 公認心理師受験資格の取得について」を参照してください。

3）資格課程科目

他学科などに開講されている科目を履修することによって、教育職員免許状（小学校教諭・養護教諭）などを取得することが可能です。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。
資格課程科目は、卒業要件単位（128単位）に含むことが可能です。

4−5．社会福祉学科　心理福祉専攻　カリキュラム

(1) 総合教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
	基礎教育科目	**社会福祉入門□◇◎**	2							5科目 10単位 必修
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
		基礎演習Ⅰ	1	**基礎演習Ⅱ**	1					
		心理学入門☆	2							
	健康教育科目	健康・スポーツ＊	2	レクリエーションワーク※	2					1科目 2単位以上 修得
				レクリエーション理論	2					
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2	情報処理演習Ⅱ ⁂	4	情報処理演習Ⅲ	4			2科目以上 4単位以上 修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
		中国の文化と言語Ⅰ	2							
		中国の文化と言語Ⅱ	2							
		韓国の文化と言語Ⅰ	2							
		韓国の文化と言語Ⅱ	2							
		＄日本の文化と言語Ⅰ＆	2							＄外国人 留学生のみ
		＄日本の文化と言語Ⅱ＆	2							
	教養教育科目	**文章表現**	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			7科目 14単位 必修
		心理学概論□◇◎△㊍☆	2							
		人体の構造と機能及び疾病 □◇◎㊍	2							
		社会学概論□◇△	2							
		統計学	2							
		福祉と教育	2							
		教育学概論◎△○	2							
		法学概論△	2							
		法学（憲法）＊	2	法学Ⅱ（民法、行政法）△	4					
		政治学（国際政治を含む）△	2	経済学（国際経済を含む）△	2	国際関係論（国際法を含む）△	2			
		哲学▼	2							
		倫理学▼	2							
		日本史	2							
		世界史	2							
		生物学	2	生理学■	4					
		音楽	2							
		表現	2	生涯学習概論 ⁂◆	4					
		人権教育 ⁂	2							
		ボランティア論 ⁂※	2							
		ジェンダー論▲	2							
		死生学	2							
		少年と犯罪	2							
		国際社会と日本▲	2							
		多文化理解入門	2							
		多文化コミュニケーション	2							
		ヒューマンライフとサービス	2							
		アジア文化論	2							
		経営学入門	2							
		会計学入門	2							
		生活の中の福祉	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）**	4	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）**	4	4科目 14単位 必修
						社会福祉士養成演習Ⅰ□	2	社会福祉士養成演習Ⅱ□	4	
						精神保健福祉士養成演習Ⅰ◇	2	精神保健福祉士養成演習Ⅱ◇	4	
		教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	
				養護教諭基礎演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	2	

注1)　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2)　情報処理演習Ⅲは、情報処理演習Ⅱ履修者のみ受講可能。文章表現Ⅲは、文章表現Ⅱを履修した後に履修すること。

注3)　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注4)　□（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、㊍（公認心理師受験基礎資格）、☆（認定心理士資格）、■（第一種衛生管理者免許）、♪（スクールソーシャルワーカー　♪必修　♭選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注5)　各国家試験受験資格を希望する学生は、「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」、「精神保健福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること。

注6)　＆ 外国人留学生は履修することが望ましい。

(2) -1 専門教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門基幹科目	**社会福祉原論□◇◎**	4	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□◎	2	**ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□**	4	**社会福祉運営管理論□**	2	10科目 30単位 必修
		ソーシャルワークの基盤と専門職□◇◎	2	**ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□◇**	4	**社会調査法□◇**	2			
				地域福祉論□◇※	4					
				社会保障論□◇◎△	4					
				公的扶助論□♪	2					
				障害者福祉論□◇◎	2	権利擁護と成年後見□◇	2			
				ソーシャルワーク演習Ⅰ□◇	2	ソーシャルワークの理論と方法（専門）◇	4			
				ソーシャルワーク演習Ⅱ□	2					
				保健医療□	2					
		高齢者福祉論□◎	2	児童・家庭福祉論□◎※	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ□	2	更生保護□◇	2	
						ソーシャルワーク演習Ⅳ□◎	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ□	2	
						ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ□◎	2	
						ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□	2	ソーシャルワーク実習□◎	6	
						ソーシャルワーク基礎実習□	2			
				精神保健福祉制度論◇	2	精神保健福祉演習Ⅰ◇	2	精神保健福祉演習Ⅲ◇	2	
				精神障害リハビリテーション論◇	2	精神保健福祉演習Ⅱ◇	2	精神保健福祉実習指導Ⅲ◇	2	
				精神保健学◇♪	4	精神保健福祉実習指導Ⅰ◇	2	精神保健福祉実習◇注2)注3)	6	
				精神保健福祉の原理◇	4	精神保健福祉実習指導Ⅱ◇	2			
	専門展開科目（心理）	**心理学統計法㊃☆**	2	社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊃☆	4					6科目 22単位 必修
		発達心理学※㊃☆	4	**心理学実験㊃☆**	4					
				臨床心理学概論㊃☆	4					
				知覚・認知心理学㊃☆	4					
		心理学を活かしたキャリアデザイン	2	学習・言語心理学㊃	2	心理学研究法☯㊃☆	4	心理実習㊃	2	公認心理師 受験基礎資格 20科目48単位 修得 心理演習・公認心理師の職責・心理実習は公認心理師受験基礎資格登録者のみ履修可能
				精神疾患とその治療◇☯㊃	4	心理的アセスメント㊃☆	4	心理学研究法演習Ⅱ	2	
				心理学的支援法（基礎）㊃	2	教育・学校心理学㊃☆	4	卒業研究	4	
				心理学を活かしたキャリアマネジメント	2	心理学的支援法（演習）㊃☆	2			
						障害者・障害児心理学㊃☆	2			
						神経・生理心理学㊃	2			
						健康・医療心理学㊃	2			
						産業・組織心理学㊃	2			
						司法・犯罪心理学㊃	2			
						感情・人格心理学㊃	2			
						社会・集団・家族心理学（家族）㊃	2			
						心理学的支援法（心理療法）㊃	2			
						福祉心理学㊃	2			
						関係行政論㊃	2			
						心理演習㊃	2			
						公認心理師の職責㊃	2			
						自殺対策論	2			
						心理検査法演習	2			
						心理学研究法演習Ⅰ	2			
	専門展開科目（福祉）	海外福祉事情Ⅰ	2	人間行動と社会環境	2	医療ソーシャルワーク実践論	4	ソーシャルワーク実習Ⅱ	4	
		海外福祉事情Ⅱ	2	国際福祉研究	2	高齢者支援展開論※	2			
				発達と老化の理解Ⅱ◎	2	ケアマネジメント論	2			
				認知症の理解Ⅰ◎	2	ケアマネジメント演習	2			
				障害の理解Ⅰ◎	2	国際福祉論▲	2			
				身体構造と機能Ⅰ◎	2	福祉事業所経営管理論Ⅰ	2			
				介護概論◎	2	福祉事業所経営管理論Ⅱ	2			
	専門展開科目（福祉関連領域）			保育原理	2	子ども家庭支援論	2			
				社会的養護Ⅰ	2	子どもの食と栄養☯	2			
				子どもの保健	2	公衆衛生	2			
				障害児療育	2					
				児童・家庭福祉論Ⅱ	2					

注1) 社会福祉士受験資格の取得に必要な科目については、履修要項の「Ⅶ. 資格取得の方法 1. 社会福祉士受験資格の取得について」を確認すること。

注2) 「心理演習」「公認心理師の職責」「心理実習」は資格課程登録（公認心理師受験基礎資格）をしていない場合は履修不可。

注3) 「精神保健福祉実習」は3年次秋期からの開始となるが、履修登録は4年次に行う。

(2) -2 専門教育科目（資格科目）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門展開科目（福祉関連資格）					スクールソーシャルワーク論 ♪ スクールソーシャルワーク実習指導 ♪	2 1	スクールソーシャルワーク演習 ♪ スクールソーシャルワーク実習 ♪	1 2	スクールソーシャルワーカー資格登録者のみ履修可
				健康管理学（健康相談活動を含む）■	2	労働衛生学■ 労働安全衛生法（じん肺法を含む）■ 労働法（労働基準法）▲■	4 2 2			第一種衛生管理者免許資格登録者のみ履修可（労働法を除く）
	専門展開科目（教育・特別支援教育）	教師論◎△○♭ 教育行財政※⁂ 教育課程論◎△○	2 2 2	児童生徒指導論（進路指導を含む）◎△○♭ 特別活動の指導法◎△○ 教育方法論（ICT活用含む）◎△○ 教育法規◎△○♭ 教育心理学◎△○ 特別ニーズ教育論◎△○※♭ 総合的な学習の時間の指導法◎△○	2 2 2 2 2 2 2	教育相談（カウンセリングを含む）◎△○♭ 教育実習指導（中等）◎△	2 1	教職実践演習◎△（中・高） 教育実習（中等）Ⅰ◎△	2 2	◎△印 13科目25単位 ＋4単位修得 ○印 10科20単位 修得
						福祉科指導法◎ 公民科指導法Ⅰ△ 公民科指導法Ⅱ△	4 2 2			
				発達心理学 ⁂ 社会心理学▲	2 2	臨床心理学▲ 障害児・者の心理▲☯	2 2			
				生涯学習支援論◆	4	社会教育経営論◆ 社会教育演習◆	4 1	社会教育課題研究◆ 社会教育実習◆	2 1	◆印 5科目12単位修得
				障害児教育論● 知的障害者の心理・生理・病理● 肢体不自由者の心理・生理・病理● 肢体不自由教育Ⅰ●	2 2 2 2	病弱者の心理・生理・病理● 視覚障害者、聴覚障害者の心理・生理・病理● 知的障害教育Ⅰ● 知的障害教育Ⅱ● 肢体不自由教育Ⅱ● 病弱教育Ⅰ● 病弱教育Ⅱ● 障害児教育課程論● 重複障害・LD等教育総論● 特別支援教育実習指導●	2 2 2 2 2 2 2 2 2 1	特別支援教育実習●	2	●印 15科目29単位 修得
				肢体不自由教育総論	2	知的障害教育総論 病弱教育総論 聴覚障害者の言語障害指導	2 2 2			

注1） 教育職員免許状の取得に必要な科目については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。
注2） 「 (2) -2 専門教育科目（資格科目）」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。
注3） 教職実践演習には「中・高」「養護教諭」「小学校」があるので、複数の免許を希望する場合はそれぞれの教職実践演習を履修すること。
注4） 高等学校教諭一種「公民」を取得する場合は、「哲学」「倫理学」のいずれかを履修の上、必修科目を除く▲または⁂の中から6単位以上を履修すること。

(3) 資格課程科目

区分			1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
保育児童学科科目	小学校教諭	教職	教師論▽	2	教育法規▽	2	教育相談（カウンセリングを含む）▽	2			▽印 51単位 修得
			教育学概論▽	2	教育方法論（ICT活用含む）▽	2					
			教育課程論▽	2	特別活動の指導法▽	2					
					児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	2					
					教育心理学▽	2					
					特別ニーズ教育論▽※	2					
					総合的な学習の時間の指導法▽	2					
					国語科指導法（書写を含む）▽	2	社会科指導法▽	2	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	
					算数科指導法▽	2	理科指導法▽	2	教育実習（初等）Ⅱ▽	2	
					体育科指導法▽	2	生活科指導法▽	2	教職実践演習（小学校）▽	2	
					音楽科指導法▽	2	家庭科指導法▽	2			
					図画工作科指導法▽	2	道徳の指導法▽	2			
					外国語の指導法▽	2	教育実習指導（初等）Ⅱ▽	1			
					外国語活動の指導法	2					
		教科	音楽▽	2	体育▽	2	社会▽	2			▽印 20単位 修得
			国語（書写を含む）▽	2	図画工作Ⅰ▽	2	理科▽	2			
			算数▽	2	図画工作Ⅱ	2	生活▽	2			
			外国語▽	2	音楽Ⅱ	2	家庭▽	2			
教育学科科目	養護教諭				衛生学○	2	栄養学（食品学含む）○	2	養護実習○	4	○印 39単位 修得
					学校保健学（学校安全を含む）○	2	健康相談活動の理論と方法　○	2	看護臨床実習○	2	
					養護教育学○	2	看護学（救急処置を含む）○	4	教職実践演習（養護）○	2	
					解剖生理学Ⅰ○	2	地域看護学○	2			
					病原微生物学○	2	養護実習指導○	1			
					精神保健学○	2	看護臨床実習指導○	2			
							公衆衛生○	2			
							臨床心理学○	2			
							道徳の指導法○	2			
					免疫学概論☯	2					
					薬理学概説（薬物乱用防止を含む）☯	2					
					解剖生理学Ⅱ☯	2					

注1）「(3) 資格課程科目」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。詳細については、履修要項の「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。
注2）小学校教諭一種を含む複数の教育職員免許状を取得する場合は、教師論、教育学概論、教育法規、教育方法論（ICT活用含む）、特別活動の指導法、児童生徒指導論（進路指導を含む）、教育心理学、教育課程論、教育相談（カウンセリングを含む）、特別ニーズ教育論、総合的な学習の時間の指導法の11科目22単位はそれぞれの免許種別から単位を修得すること。

４－６．資格取得に必要な単位

《心理福祉専攻》（卒業要件単位：128単位）

心理福祉専攻	総合教育科目					小計	専門教育科目				資格科目（他学科）	合計
							専門基幹		専門展開			
	基礎	健康	コミュニケーション	教養	キャリア		必修	選択	必修	選択（総合教育科目、専門基幹科目含む）		
卒業要件	必修 10	選必 2	選必 4	必修 14	必修+資格 14	44	30	―	22	32	―	128
認定心理士	10	2	4	14	14	44	30	―	22	32	―	128
公認心理師受験基礎資格（学部科目）	10	2	4	14	14	44		―		48	―	144
社会福祉士受験資格	10	2	4	14	20	50		36		―	―	138
精神保健福祉士受験資格	10	2	4	14	20	50		42		4	―	148
高等学校教諭（福祉）	10	2	4	18	34	68		36		39	―	195
高等学校教諭（福祉・特支）	10	2	4	18	34	68		36		68	―	224
高等学校教諭（福祉・公民）	10	2	4	32	34	82		36		49	―	219
社会教育主事（基礎資格）	10	2	4	18	14	48		―		28	―	128
第一種衛生管理者	10	2	4	18	14	48		―		28	―	128
小学校教諭	10	2	4	16	28	60		―		―	71	183
養護教諭	10	2	4	18	38	72		―		20	39	183

※　高等学校教諭（福祉）を取得するために必要な単位数には、社会福祉士受験資格取得のための単位を含んでいる。

Ⅱ．保育児童学部のカリキュラムについて

１．保育児童学科のカリキュラム

１−１．保育児童学科　教育の目的

子どもを取り巻く現代社会の問題を正しく理解し、的確かつ柔軟な実践力を備えた、多様な保育ニーズに対応できる、保育士、幼稚園教諭、保育教諭等、子育て支援・幼児教育の専門家を養成する。

１−２．保育児童学科　教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

保育児童学科は、保育専門職者の育成が主目的であって、乳幼児の保育実践力に加えて、子どもを取り囲む環境の改善、地域における子育て支援活動、保護者の育児相談などにも対応できる人材の育成を目指している。

専門基礎として1年次に保育児童学概論、2年次に保育児童基礎演習、4年次に卒業研究に相当する保育児童専門演習などを配置し、理論と実技を統合しながら学習できるようカリキュラム編成している。保育士資格以外に社会福祉士受験資格、幼稚園教諭、小学校教諭、特別支援学校教諭、養護教諭の免許状等を取得可能な科目を配置し、子ども、家族、地域という広い範囲の社会システムに焦点をあてながら、保育及び教育の専門家養成を想定している。

１−３．卒業に必要な単位数

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と選択科目を、合計128単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。卒業と同時に保育士資格を取得するためには、124単位が必修となります。選択科目には、資格課程科目を含みます。

総合教育科目					専門教育科目				合計		
基礎教育科目	健康教育科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育科目	教養教育科目	ｷｬﾘｱ開発教育科目	専門基幹科目	専門科目Ⅰ	専門科目Ⅱ	専門展開科目	必修科目	選択科目	
必修 6	必修 2	必修 6	必修 10	必修 14	必修 8	必修 28	必修 28	—	102	26	128

１−４．履修する上での注意事項

保育児童学部では、希望の資格や将来の進路ごとに以下の4つのコースを設けています。各コースごとにそれぞれ興味を持った分野を中心に学習できます。また、コースにより、幼稚園教諭、小学校教諭の免許状取得や、社会福祉士などの資格取得のための科目、心理学分野の科目を学習することができます。

各コースの履修方法については、「履修モデル　保育児童学部保育児童学科」の各コースの履修モデルを参照してください。

● 保育・幼児教育コース

保育士に加えて幼稚園教諭一種免許状を取得し、総合的に保育・幼児教育を学べるコース。

● 保育・初等教育コース
保育士に加えて幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得し、乳幼児から児童まで対応できる人材を養成するコース。

● 子ども福祉コース
保育に加えて福祉も同時に学び、児童福祉施設や児童相談所など、児童福祉方面への進路を考えている方のための福祉系・保育系の公務員をめざすコース。

● 子ども発達心理コース
保育に加えて心理学も同時に学び、こどもの発達について心理学の方面からアプローチするコース。こどもの心理的な支援に加え、保護者の子育て支援もできる人材を養成。

● 芸術福祉コース
保育、福祉に加えて芸術分野に対する造詣をさらに深め、感性を豊かに育み、「芸術」と保育、福祉系科目を学び、「福祉」との新たな発見・発展を学ぶコース。

(1) 総合教育科目

① 基礎教育科目
「保育児童学概論」「人権教育」「保育児童基礎演習」の3科目6単位のすべてが必修になります。これらの科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。

② 健康教育科目
「健康・スポーツ」の1科目2単位は必修科目です。指定された開講年次に必ず履修してください。また、「健康・スポーツ」の単位修得には「赤城山宿泊研修」と「合同スポーツデイ」への参加が条件となりますので、注意してください。
「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」は、レクリエーション・インストラクター資格を取得するための必修科目です。レクリエーション・インストラクター資格の取得についての詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。

③ コミュニケーション教育科目
「アメリカの文化と言語Ⅰ」「情報処理演習Ⅰ」の2科目6単位は必修科目です。コミュニケーション教育科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。
「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修が認められます。
※ 原則として、母国語が中国語の場合は「中国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」、母国語が韓国語の場合は「韓国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められません。

④ 教養教育科目
「社会福祉入門」「文章表現」「法学（憲法）」「福祉と教育」「教養基礎演習Ⅰ」の5 科目10 単位は、必修科目です。全て修得してください。
「教養基礎演習Ⅰ」「教養基礎演習Ⅱ」「教養基礎演習Ⅲ」については、「Ⅴ. キャリア開発教育について」を参照してください。
「心理学概論」「人体の構造と機能及び疾病」「社会学概論」は、社会福祉士受験資格を取得するための必修科目となります。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　1. 社会福祉士受験資格の取得について」を参照してください。「社会福祉入門」は社会福祉士受験資格取得のための本学独自の必修科目です。

⑤ キャリア開発教育科目
本学では、キャリア形成を支援するため、キャリア開発教育科目を開講しています。
1年次に開講される「保育キャリア基礎演習」、「教養基礎演習Ⅱ」の中から1科目2単位を、2年次に開講される「保育キャリア応用演習」「教養基礎演習Ⅲ」の中から1科目4単位を、3年次に開講される「保育キャリア展開演習」「キャリア開発演習Ⅰ（教養）」の中から1科目4単位を、4年次に開講される「保育キャリア実践演習」「キャリア開発演習Ⅱ（教養）」の中から1科目4単位をそれぞれ選択し、合計4科目を必ず修得（選択必修）してください。ただし、保育士資格を志望する場合は、各学年の「保育キャリア～」を履修してください。
社会福祉士受験資格を志望する場合、3年次に開講される「社会福祉士養成演習Ⅰ」、4年次に開講される「社会福祉士養成演習Ⅱ」を必ず履修してください。
教員採用を希望する場合、1,2年次に開講される「教員基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3,4年次に開講される「教員開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。養護教諭希望者は、それらに加え、2年次に開講される「養護教諭基礎演習Ⅰ」、3,4年次に開講される「養護教諭開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。

(2) 専門教育科目

専門教育科目には、専門基幹科目、専門科目Ⅰ・Ⅱ、専門展開科目、が開講されています。

① 専門基幹科目
4科目8単位のすべてが必修となります。

② 専門科目Ⅰ
14科目28単位のすべてが必修となります。

③ 専門科目Ⅱ
14科目28単位が必修となります。

④ 専門展開科目
「保育実習指導Ⅰ」「保育実習Ⅰ（保育所・施設）」「保育実践演習」は、保育士資格を取得するための必修科目となります。また、「保育実習Ⅱ（保育所）」と「保育実習Ⅲ（施設）」、「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習指導Ⅲ」は、いずれかを選択必修する必要があります。すなわち、保育士資格を取得するためには、専門展開科目の中から合計6科目12単位を修得する必要があります。

⑤ 「保育実習Ⅰ（保育所）・（施設）」(2年次秋期・3年次春期)の履修
この科目の履修には、「保育児童基礎演習」「児童・家庭福祉論」「社会福祉」「保育原理」の単位を履修する必要があり、2年次秋期に「保育実習指導Ⅰ」を「保育実習Ⅰ（保育所）」と併行して履修しなければなりません。

⑥ 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」(4年次春期)の履修
この科目の履修には、「保育実習Ⅰ（保育所）・（施設）」の単位を修得した上で、「保育実習指導Ⅱ」または「保育実習指導Ⅲ」を併行して履修しなければなりません。

⑦ 幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状の取得
専門教育科目には、幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得するための必修科目が開講されています。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照してください。

⑧ 社会福祉士受験資格の取得

「社会保障論」は、社会福祉士の受験資格を取得するための必修科目となりますので、取得を希望する場合は、必ず履修してください。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　1. 社会福祉士受験資格の取得について」を参照してください。

(3) 資格課程科目

資格課程科目や他学科などに開講されている科目を履修することによって、教育職員免許状（幼稚園教諭・小学校教諭：保育児童学科、養護教諭：教育学部教育学科、特別支援学校教諭・高等学校教諭「福祉」「公民」：社会福祉学科）や社会福祉士受験資格、社会教育主事（基礎資格）を取得することが可能です（**ただし高等学校教諭「福祉」の資格登録には社会福祉士受験資格を同時に資格登録する必要があります**）。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。

資格課程科目は、卒業要件単位（128単位）に含むことが可能です。

① 「ソーシャルワーク実習」の履修について

保育児童学科の学生が社会福祉士受験資格の取得を希望する場合には、「ソーシャルワーク実習」は、3年次秋期（2月～3月）と、4年次春期（6月）に履修します。詳細は「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の授業において説明しますが、「Ⅶ. 資格取得の方法　1．社会福祉士受験資格の取得について」も参照してください。

１－５. 保育児童学科　カリキュラム

(1) 総合教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**保育児童学概論**	2	**保育児童基礎演習☆**	2					3科目 6単位 必修
		人権教育▲▼	2							
	健康教育科目	**健康・スポーツ☆＊**	2	レクリエーションワーク※	2					1科目 2単位 必修
				レクリエーション理論	2					
	コミュニケーション教育科目	**アメリカの文化と言語Ⅰ☆＊**	2							2科目 6単位 必修
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
		中国の文化と言語Ⅰ	2							
		中国の文化と言語Ⅱ	2							
		韓国の文化と言語Ⅰ	2							
		韓国の文化と言語Ⅱ	2							
		情報処理演習Ⅰ☆＊	4	情報処理演習Ⅱ▲▼	4	情報処理演習Ⅲ	4			
		＄日本の文化と言語Ⅰ＆	2							＄外国人留学生のみ
		＄日本の文化と言語Ⅱ＆	2							
	教養教育科目	**社会福祉入門☆□**	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			5科目 10単位 必修
		文章表現☆	2							
		法学（憲法）☆＊	2	法学Ⅱ（民法、行政法）	4					
		福祉と教育☆	2							
		法学概論	2							
		心理学概論□	2							
		人体の構造と機能及び疾病□	2							
		社会学概論□	2							
		政治学（国際政治を含む）	2	経済学（国際経済を含む）	2	国際関係論（国際法を含む）	2			
		哲学	2							
		倫理学	2							
		日本史	2							
		世界史	2							
		統計学	2							
		生物学	2							
		ボランティア論※	2							
		ジェンダー論	2							
		死生学	2							
		少年と犯罪	2							
		国際社会と日本	2							
		多文化理解入門	2							
		多文化コミュニケーション	2							
		ヒューマンライフとサービス	2							
		アジア文化論	2							
		経営学入門	2							
		会計学入門	2							
		生活の中の福祉	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	保育キャリア基礎演習☆	2	保育キャリア応用演習☆	4	保育キャリア展開演習☆	4	保育キャリア実践演習☆	4	各年次、保育キャリア基礎（応用・展開・実践）演習又は教養基礎演習Ⅱ・Ⅲ及びキャリア開発演習Ⅰ・Ⅱのいずれかを選択必修
		教養基礎演習Ⅱ	2	教養基礎演習Ⅲ	4	キャリア開発演習Ⅰ（教養）	4	キャリア開発演習Ⅱ（教養）	4	
		教員基礎演習Ⅰ▽●○	2	教員基礎演習Ⅱ▽●○	4	教員開発演習Ⅰ▽●○	4	教員開発演習Ⅱ▽●○	4	
				養護教諭基礎演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	2	
						社会福祉士養成演習Ⅰ□	2	社会福祉士養成演習Ⅱ□	4	

注1）単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）情報処理演習Ⅲは、情報処理演習Ⅱ履修者のみ受講可能。文章表現Ⅲは、文章表現Ⅱを履修した後に履修すること。

注3）**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注4）☆（保育士資格　☆必修　★選択）、□（社会福祉士国家試験受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修）、△（幼稚園教諭　△必修、▲選択）、▽（小学校教諭　▽必修　▼選択）、●（特別支援学校教諭　必修）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注5）＆ 外国人留学生は履修することが望ましい。

(2) 専門教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門基幹科目	**児童・家庭福祉論□☆※**	2	**社会福祉☆**	2					4科目 8単位 必修
		教育学概論☆△▽	2	**教育心理学△▽**	2					
	専門科目Ⅰ（児童の理解と発達支援）	**保育者論☆△**	2	**保育原理☆**	2	**子ども家庭支援論☆**	2			14科目 28単位 必修
		保育の心理学☆	2	**社会的養護Ⅰ☆**	2	**子ども家庭支援の心理学☆**	2			
				保育の心理学Ⅱ☆	2	**子どもの食と栄養☆○**	2			
				子どもの保健☆	2	**児童・家庭福祉論Ⅱ☆**	2			
				子どもの健康と安全☆	2	**臨床心理学☆○**	2			
				乳児保育Ⅰ☆	2					
				障害児療育☆▲▼	2					
	専門科目Ⅱ（保育の内容・方法）	**保育内容（表現）☆△**	2	**社会的養護Ⅱ☆**	2	**保育内容（人間関係）☆△**	2	**保育児童専門演習☆**	2	14科目 28単位 必修
		保育内容（健康）☆△	2	**保育内容（言葉）☆△**	2	**保育内容（環境）☆△**	2			
		図画工作Ⅰ☆▽	2	**保育内容総論☆△**	2					
		音楽実践演習	2	**音楽実践演習Ⅱ**	2					
		子どもと音楽☆△	2	**子どもと健康☆△**	2					
				子どもと造形☆△	2					
				幼児理解☆△	2	保育カリキュラム論☆△	2	保育内容総論Ⅱ☆△	2	保育士 5科目 10単位 修得（☆印） 幼稚園：△ 4科目8単位 小学校：▽ 6科目12単位 修得
				教育方法論（ICT活用含む）△▽	2	子育て支援☆	2			
						乳児保育Ⅱ☆	2			
		音楽★▽	2	体育▽	2					
				音楽科指導法▽	2					
				図画工作科指導法▽	2					
				体育科指導法▽	2					
				音楽Ⅱ★▼	2	児童文化論▲▼	2			
				図画工作Ⅱ★▼	2	音楽Ⅲ★	2			
	専門展開科目			保育実習指導Ⅰ☆	2	保育実習Ⅰ（施設）☆	2	保育実習指導Ⅱ☆ 注2)	2	保育士 6科目 12単位 修得 (☆印)
				保育実習Ⅰ（保育所）☆	2			保育実習指導Ⅲ☆ 注2)	2	
								保育実習Ⅱ（保育所）☆ 注2)	2	
								保育実習Ⅲ（施設）☆ 注2)	2	
								保育実践演習☆	2	
						家族心理学	2			
						障害児・者の心理	2			
						発達相談	2			
		子どもと言葉△	2	子どもと人間関係△	2	教育相談（カウンセリングを含む）△▽	2			幼稚園：△ 4科目 8単位 小学校：▽ 10科目20単位 修得
		国語（書写を含む）▽	2	子どもと環境△	2	道徳の指導法▽	2			
		算数▽	2	国語科指導法（書写を含む）▽	2	生活▽	2			
		海外福祉事情Ⅰ	2	算数科指導法▽	2	生活科指導法▽	2			
		海外福祉事情Ⅱ	2	児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	2	社会保障論□	4			
				総合的な学習の時間の指導法▽	2	国際福祉論	2			
				外国語活動の指導法▼	2					
				精神保健学	2					
				国際福祉研究	2					
		造形芸術Ⅰ	2	造形芸術Ⅱ	2					
		音楽芸術Ⅰ	2	音楽芸術Ⅱ	2					

注1） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注2） 保育士資格取得のためには、「保育実習Ⅱ（保育所）」または「保育実習Ⅲ（施設）」のいずれかを履修すること。また、「保育実習Ⅱ（保育所）」を履修する場合は「保育実習指導Ⅱ」を、「保育実習Ⅲ（施設）」を履修する場合は「保育実習指導Ⅲ」をあわせて履修すること。

注3） 保育士資格または幼稚園教諭免許状資格の登録者は、「音楽実践演習Ⅲ」を履修することが望ましい。

(3) 資格課程科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
資格課程科目	教職共通	教師論▽	2	教育法規△▽	2			教職実践演習（小学校）▽	2	幼：6単位 小：12単位 幼小両方の場合 14単位修得
		教育課程論▽	2	特別活動の指導法▽	2					
		教育行財政※▲▼	2	特別ニーズ教育論△▽※	2			教職実践演習（幼稚園）△	2	
	教育実習（初等）					教育実習指導（初等）Ⅰ△	1	教育実習（初等）Ⅱ△▽	2	幼：5単位 小：5単位 幼小両方の場合 6単位修得
						教育実習指導（初等）Ⅱ▽	1			
						教育実習（初等）Ⅰ△▽	2			
	小学校	外国語▽	2	外国語の指導法▽	2	社会▽	2			8科目 16単位 修得
						理科▽	2			
						家庭▽	2			
						社会科指導法▽	2			
						理科指導法▽	2			
						家庭科指導法▽	2			
	社会福祉士	高齢者福祉論□	2	社会福祉原論□	4	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□	4	社会福祉運営管理論□	2	23科目 58単位 修得
				ソーシャルワークの基盤と専門職□	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□	4	更生保護□	2	
				ソーシャルワークの基盤と専門職(専門)□	2	公的扶助論□	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ□	2	
				障害者福祉論□	2	権利擁護と成年後見□	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ□	2	
				地域福祉論※□	4	ソーシャルワーク演習Ⅲ□	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ□	2	
				ソーシャルワーク演習Ⅰ□	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□	2	ソーシャルワーク実習□注5)	6	
				ソーシャルワーク演習Ⅱ□	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□	2			
				保健医療□	2	社会調査法□	2			
教育学科科目	教職（中等）	教師論○	2	教育方法論（ICT活用含む）○	2	教育相談（カウンセリングを含む）○	2	教職実践演習（養護）○	2	養護教諭 ○印 27科目 57単位 修得
		教育学概論○	2	教育心理学○	2	道徳の指導法○	2			
		教育課程論○	2	教育法規○	2					
				特別活動の指導法○	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）○	2					
				特別ニーズ教育論○※	2					
				総合的な学習の時間の指導法○	2					
	養護教諭			衛生学○	2	公衆衛生○	2	養護実習○	4	
				学校保健学（学校安全を含む）○	2	健康相談活動の理論と方法　○	2	看護臨床実習○	2	
				養護教育学○	2	看護学（救急処置を含む）○	4			
				解剖生理学Ⅰ○	2	地域看護学○	2			
				病原微生物学○	2	養護実習指導○	1			
				精神保健学○	2	看護臨床実習指導○	2			
				解剖生理学Ⅱ☯	2	栄養学（食品学含む）☯	2			
				免疫学概論☯	2					
				薬理学概説（薬物乱用防止を含む）☯	2					

注1) 養護教諭を希望する場合は、教職（中等）の13科目26単位は、教育学部開講の中等クラス科目を履修すること。また、養護教諭を含む複数の教育職員免許状を取得する場合、それぞれの種別の科目を履修して単位を修得すること。

注2) 小学校教諭のみの一種免許状を取得する場合は、教育実習（初等）Ⅰは4年次に実施する。また、幼稚園教諭と小学校教諭の両方の一種免許状を取得する場合は、教育実習（初等）Ⅰは4年次に実施し、教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱを幼稚園・小学校で、各々1回ずつ実施する。その場合、教育実習指導（初等）は、Ⅰ・Ⅱの両方を履修する必要がある。

注3) 教職実践演習には「養護教諭」「小学校」「幼稚園」があるので、複数の免許を希望する場合はそれぞれの教職実践演習を履修すること。

注4) 「(3) 資格課程科目」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注5) 「ソーシャルワーク実習」は3年次秋期末に行われるが、履修登録は4年次に行う。

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
社会福祉学科科目	特別支援学校教諭			障害児教育論●	2	病弱者の心理・生理・病理●	2	特別支援教育実習●	2	●印 15科目 29単位 修得
				肢体不自由者の心理・生理・病理●	2	視覚障害者、聴覚障害者の心理・生理・病理●	2			
				知的障害者の心理・生理・病理●	2	知的障害教育Ⅰ●	2			
				肢体不自由教育Ⅰ●	2	知的障害教育Ⅱ●	2			
						肢体不自由教育Ⅱ●	2			
						病弱教育Ⅰ●	2			
						病弱教育Ⅱ●	2			
						障害児教育課程論●	2			
						重複障害・LD等教育総論●	2			
						特別支援教育実習指導●	1			
				肢体不自由教育総論	2	知的障害教育総論	2			
						病弱教育総論	2			
	社会教育主事			生涯学習概論◆☯	4	社会教育経営論◆	4	社会教育課題研究◆	2	64科目 16単位 修得
				生涯学習支援論◆	4	社会教育演習◆	1	社会教育実習◆	1	
						高齢者支援展開論※	2			

注1) 「(3) 資格課程科目」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

１－６．資格取得に必要な単位

《保育児童学科》（卒業要件単位：128単位）

保育児童学科	総合教育科目					小計	専門教育科目				選択科目 資格科目	合計
	基礎	健康	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ	教養	キャリア		専門 基幹	専門 科目Ⅰ	専門 科目Ⅱ	専門 展開		
卒業要件	必修 6	必修 2	必修 6	必修 10	必修+資格 14	38	必修 8	必修 28	必修 28	－	26	128
保育士	6	2	6	10	14	38	8	28	38	12	4	128
幼稚園教諭（保育士）	6	2	6	10	14	38			40	20	11	147
小学校教諭（保育士）	6	2	6	10	28	52			50	32	33	203
幼稚園・小学校教諭（保育士）	6	2	6	10	28	52			50	38	36	212
幼稚園・特別支援学校（保育士）	6	2	6	10	28	52			40	20	40	190
小学校・特別支援学校（保育士）	6	2	6	10	28	52			50	32	62	232
養護教諭（保育士）	6	2	6	10	38	62			38	12	57	205
社会福祉士受験資格（保育士）	6	2	6	16	20	50			38	16	58	198
社会福祉士受験資格・幼稚園教諭（保育士）	6	2	6	16	20	50			40	24	69	219

※　特別支援学校教諭一種免許状の取得には、基礎資格として、小学校、中学校、高等学校または幼稚園の教諭の普通免許状を有する必要がある。ただし、採用試験受験の際には、幼稚園以外の小学校、中学校、高等学校免許状の取得が条件付けられていることが多くあるので、注意すること。

Ⅲ．心理学部のカリキュラムについて

１．心理学科のカリキュラム

１−１．心理学科　教育の目的

現代社会が抱えるさまざまな問題に心理学の観点からアプローチでき、心理の職域のみならず近接領域である福祉・教育分野並びに一般企業でも即戦力として実践的な能力を発揮できる人材を養成する。

１−２．心理学科　教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- 「心の仕組み」を学ぶ科目、「心の問題」を紐解く実践的な科目、「心のケア」について学ぶ科目等を通して、科学としての心理学、応用としての心理学を深く学ぶ。
- 専門展開科目において、心理学の各分野の理解を深めると共に、公認心理師資格に必要な学部要件を満たすカリキュラムも学修でき、さらに社会福祉、精神保健福祉、教育などの心理学に密接した分野でのヒューマンサービスを学び、各現場で応用するための力を身につける。

１−３．卒業に必要な単位数

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と選択科目を、合計124単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。選択科目には、資格課程科目を含みます。

総合教育科目					専門教育科目	合計		
基礎教育科目	健康教育科目	ｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ教育科目	教養教育科目	キャリア開発教育科目	専門基幹科目	必修	選択	
必修 8	必修 4	選必 4	必修 10	必修 14	必修 44	84	40	124

１−４．履修する上での注意事項

心理学科では、希望の資格や将来の進路ごとに以下の6つのコースを設けています。コースごとにそれぞれ興味を持った心理学分野を中心に学習できます。また、コースにより、社会福祉士や精神保健福祉士などの福祉の資格、養護教諭、特別支援学校教諭、小学校教諭の免許状取得のための科目を専門的に学習することができます。

各コースの履修方法については、「履修モデル　心理学部心理学科」の各コースの履修モデルを参照してください。

● 総合心理学コース

広く総合的に心理学を学べるコース。

● 発達・教育心理学コース
子どもに関わる仕事に興味のある学生のためのコース。教育現場でも活躍できるよう教員免許状が取得可能。

● 臨床心理学コース
心の問題を抱えた人々の援助法を中心に学ぶコース。大学院進学、公認心理師、臨床心理士取得を視野に入れた学習を行います。

● 犯罪心理学コース
非行や犯罪に関わる心理に興味がある学生のためのコース。警察官や法務教官などの公務員もめざせます。

● 福祉心理学コース
心理学の知識を福祉現場で生かしていきたいという方のためのコース。

● 社会・ビジネス心理学コース
一般企業で活躍する営業・人事等さまざまな職種で心理学の知識を生かしたい方のためのコース。

(1) 総合教育科目

① 基礎教育科目
「基礎演習Ⅰ」「基礎演習Ⅱ」「心理学入門」「情報処理演習Ⅰ」の4科目8単位のすべてが必修になります。これらの科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。

② 健康教育科目
「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」は必修科目です。指定された開講年次に必ず履修してください。「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」は、レクリエーション・インストラクター資格を取得するための必修科目となります。レクリエーション・インストラクター資格の取得についての詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。

③ コミュニケーション教育科目
2科目4単位以上を履修してください。履修科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。
「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修が認められます。
※ 原則として、母国語が中国語の場合は「中国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」、母国語が韓国語の場合は「韓国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められません。

④ 教養教育科目
「文章表現」「統計学」「心理学概論」「福祉と教育」「教養基礎演習Ⅰ」の5科目10単位は必修となります。「教養基礎演習Ⅰ」「教養基礎演習Ⅱ」「教養基礎演習Ⅲ」については、「Ⅴ. キャリア開発教育について」を参照してください。
なお、「人体の構造と機能及び疾病」「社会学概論」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」は、社会福祉士受験資格指定科目、「人体の構造と機能及び疾病」「社会学概論」「ソーシャルワーク演習Ⅰ」は精神保健福祉士受験資格指定科目となりますので、受験資格取得希望者は必ず履修してください。また、「社会福祉入門」は社会福祉士・精神保健福祉士受験資格取得のための本学独自の必修科目ですので、受験資格取得希望者は必ず履修してください。

⑤ キャリア開発教育科目

本学では、キャリア形成を支援するため、キャリア開発教育科目を開講しています。

1,2年次に開講される「教養基礎演習Ⅱ・Ⅲ」、3,4年次に開講される「キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ（教養）」は必修です。それぞれ履修し、合計4科目14単位を必ず修得してください。

3,4年次に開講される「精神保健福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」、「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」は資格希望者のみ履修可になります。これらの科目は、国家試験の合格を目指すための科目です。受験予定者は必ず履修してください。

教員採用を希望する場合、1,2年次に開講される「教員基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、3,4年次に開講される「教員開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。養護教諭希望者は、それらに加え、2年次に開講される「養護教諭基礎演習Ⅰ」、3,4年次に開講される「養護教諭開発演習Ⅰ・Ⅱ」を受講してください。

（2）専門教育科目

1）専門基幹科目

専門基幹科目には、専門教育の基幹となる必修科目が開講されています。14科目44単位が必修となります。

専門基幹科目に開講された必修科目などを履修することにより、認定心理士資格の取得が可能となります。認定心理士資格、公認心理師受験資格の詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　8. 認定心理士資格の取得について」および「Ⅶ. 資格取得の方法　9. 公認心理師受験資格の取得について」を参照してください。

2）専門展開科目（選択科目）

専門展開科目には、専門教育のさらなる展開を図るため、心理、関連領域、福祉、教育の各分野に関係する科目が選択科目として開講されています。

各分野に開講されている社会福祉士受験資格、精神保健福祉士受験資格、教育職員免許状などの資格課程科目を履修することによって、資格などを取得することが可能です。ただし、資格課程登録をしていない場合は、履修が認められない科目があります。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。

① 社会福祉士受験資格の取得

指定科目を履修することにより、受験資格の取得が可能です。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　1. 社会福祉士受験資格の取得について」を参照してください。

② 精神保健福祉士受験資格の取得

指定科目を履修することにより、受験資格の取得が可能です。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　2. 精神保健福祉士受験資格の取得について」を参照してください。

③ 「ソーシャルワーク基礎実習」(3年次秋期集中)の履修

「ソーシャルワーク基礎実習」は社会福祉士受験資格を取得するための本学独自の必修科目です。この科目の履修には、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク演習Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の単位を修得していなければなりません。

なお、「ソーシャルワーク基礎実習」は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」と併行して履修する必要があります。

④ 「ソーシャルワーク実習」(4年次春期)の履修

心理学科の学生が社会福祉士受験資格の取得を希望する場合には、「ソーシャルワーク実習」を4年次春期（6月・7月～8月）に集中して履修します。この科目の履修には、「ソーシャ

ルワーク基礎実習」の単位を修得していなければなりません。
　なお、「ソーシャルワーク実習」は、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」と併行して履修する必要があります。
　高等学校教諭一種免許状（福祉）の取得を希望する学生は、「ソーシャルワーク実習」は、介護実習が可能な施設での実習が必要となります。配属を希望する際に注意してください。詳細は、履修要項の「Ⅶ．資格取得の方法　4．教育職員免許状の取得について」を参照してください。

⑤　「精神保健福祉実習」(3年次秋期集中・4年次春期集中)の履修
　心理学科の学生が、精神保健福祉士受験資格の取得を希望する場合は、「精神保健福祉実習（A）」を3年次秋期（集中）に、「精神保健福祉実習（B）」を4年次春期（集中)にそれぞれ行うことで「精神保健福祉実習」の履修となります。
　「精神保健福祉実習（A）」を行うには、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「精神保健福祉演習Ⅰ」「精神保健福祉実習指導Ⅰ」の単位を修得していなければなりません。また、「精神保健福祉実習指導Ⅱ」を3年次秋期に、「精神保健福祉実習指導Ⅲ」を4年次春期に履修する必要があります。

⑥　「心理実習」（4年次）の履修
　公認心理師受験基礎資格（大学）の取得を希望する場合は、4年次に指定された施設において80時間以上の実習を行います。
　「心理実習」に参加するには資格登録を行ったうえで3年次秋期までに必要な科目を修得し、通算GPAが3.0以上の実習参加条件を満たしている必要があります。詳細は「Ⅶ．資格取得の方法　9．公認心理師受験資格の取得について」を参照してください。

⑦　卒業研究の履修
　卒業研究を履修する場合には、「心理学研究法演習Ⅰ」「心理学研究法演習Ⅱ」を履修する必要があります。詳細は、「Ⅷ．卒業研究」を参照してください。

3）資格課程科目

　他学科などに開講されている科目を履修することによって、教育職員免許状（小学校教諭・養護教諭・保健科教諭（中学・高校）：教育学部教育学科、福祉科教諭・公民科教諭（高校）・特別支援学校教諭：社会福祉学部社会福祉学科）、社会教育主事（基礎資格）などを取得することが可能です。詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。
　資格課程科目は、卒業要件単位（124単位）に含むことが可能です。

1−5．心理学科　カリキュラム

(1) 総合教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**基礎演習Ⅰ**	1	**基礎演習Ⅱ**	1					4科目 8単位 必修
		心理学入門	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
	健康教育科目	**レクリエーションワーク※**	2							2科目 4単位 必修
		レクリエーション理論	2							
		健康・スポーツ＊	2							
	コミュニケーション教育科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2	情報処理演習Ⅱ ⁂	4	情報処理演習Ⅲ	4			2科目以上 4単位以上 修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
		中国の文化と言語Ⅰ	2							
		中国の文化と言語Ⅱ	2							
		韓国の文化と言語Ⅰ	2							
		韓国の文化と言語Ⅱ	2							
		＄日本の文化と言語Ⅰ＆	2							＄外国人 留学生のみ
		＄日本の文化と言語Ⅱ＆	2							
	教養教育科目	**文章表現**	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			5科目 10単位 必修
		統計学	2							
		心理学概論□◇◎△㊏	2							
		福祉と教育	2							
		人体の構造と機能及び疾病□◇◎㊏	2							
		社会学概論□◇△	2							
		教育学概論	2							
		法学概論△	2							
		法学（憲法）＊	2	法学Ⅱ（民法、行政法）△	4					
		政治学（国際政治を含む）△	2	経済学（国際経済を含む）△	2	国際関係論（国際法を含む）△	2			
		哲学▼	2							
		倫理学▼	2							
		日本史	2							
		世界史	2							
		生物学	2	生理学	4					
		社会福祉入門□◇◎	2							
		音楽	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ□◇	2					
		表現	2	ソーシャルワーク演習Ⅱ□	2					
		人権教育 ⁂	2							
		ボランティア論※⁂	2	生涯学習概論◆⁂	4					
		ジェンダー論▲	2							
		死生学	2							
		少年と犯罪	2							
		国際社会と日本▲	2			比較社会史	2			
		アジア文化論	2							
		多文化理解入門	2							
		多文化コミュニケーション	2							
		ヒューマンライフとサービス	2							
		経営学入門	2							
		会計学入門	2							
		生活の中の福祉	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）**	4	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）**	4	4科目 14単位 必修
						社会福祉士養成演習Ⅰ□	2	社会福祉士養成演習Ⅱ□	4	
						精神保健福祉士養成演習Ⅰ　◇	2	精神保健福祉士養成演習Ⅱ　◇	4	
		教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	
				養護教諭基礎演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	2	

注1）単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）情報処理演習Ⅲは、情報処理演習Ⅱ履修者のみ受講可能。文章表現Ⅲは、文章表現Ⅱを履修した後に履修すること。

注3）**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注4）□（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、㊏（公認心理師受験基礎資格）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注5）各国家試験受験資格を希望する学生は、「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」、「精神保健福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること。

注6）＆ 外国人留学生は履修することが望ましい。

(2) 専門教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門基幹科目	**心理学統計法㊏**	**2**	**社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊏**	**4**	**教育・学校心理学㊏**	**4**			14科目 44単位 必修
		発達心理学㊏	**4**	**心理学的支援法（基礎）㊏**	**2**	**心理学的支援法（演習）㊏**	**2**			
		心理学を活かしたキャリアデザイン	**2**	**心理学実験㊏**	**4**	**障害者・障害児心理学㊏**	**2**			
				臨床心理学概論㊏	**4**	**心理学研究法☯㊏**	**4**			
				知覚・認知心理学㊏	**4**	**心理的アセスメント㊏**	**4**			
				心理学を活かしたキャリアマネジメント	**2**					
	専門展開科目（心理）			学習・言語心理学㊏	2	神経・生理心理学㊏	2	心理学研究法演習Ⅱ	2	「心理演習」 「公認心理師の職責」 「心理実習」 は公認心理師受験基礎資格登録者のみ履修可能 （資格科目）
				精神疾患とその治療◇☯㊏	4	健康・医療心理学㊏	2	卒業研究	4	
						産業・組織心理学㊏	2	心理実習㊏	2	
						司法・犯罪心理学㊏	2			
						感情・人格心理学㊏	2			
						社会・集団・家族心理学（家族）㊏	2			
						心理学的支援法（心理療法）㊏	2			
						心理検査法演習	2			
						心理学研究法演習Ⅰ	2			
						福祉心理学㊏	2			
						関係行政論㊏	2			
						心理演習㊏	2			
						公認心理師の職責㊏	2			
						自殺対策論	2			
	専門展開科目（関連）			薬理学概説（薬物乱用防止を含む）☯	2	社会病理	2			
						社会政策	2			
						労働法（労働基準法）▲	2			
						発達相談※	2			
	専門展開科目（福祉）	社会福祉原論□◇◎	4	障害者福祉論□◇◎	2	権利擁護と成年後見□◇	2			社会福祉士 □24科目 62単位修得 精神保健福祉士 ◇21科目 60単位修得
				社会保障論□◇◎△	4					
				地域福祉論□◇※	4					
				公的扶助論□	2					
				保健医療□	2					
				ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□◎	2					
		高齢者福祉論□◎	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□◇	4	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□	4	更生保護□◇	2	
		ソーシャルワークの基盤と専門職□◇◎	2	児童・家庭福祉論□◎※	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ□	2	社会福祉運営管理論□	2	
						ソーシャルワーク演習Ⅳ□◎	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ□	2	
						ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ□◎	2	
						ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□	2	ソーシャルワーク実習□◎	6	
						ソーシャルワーク基礎実習　□	2			
						社会調査法□◇	2			
				精神保健福祉の原理◇	4	精神保健福祉演習Ⅰ◇	2	精神保健福祉演習Ⅲ◇	2	
				精神障害リハビリテーション論◇	2	精神保健福祉演習Ⅱ◇	2	精神保健福祉実習指導Ⅲ◇	2	
				精神保健福祉制度論◇	2	精神保健福祉実習指導Ⅰ◇	2	精神保健福祉実習◇[注4]	6	
				精神保健学◇	4	精神保健福祉実習指導Ⅱ◇	2			
						ソーシャルワークの理論と方法（専門）◇	4			

注1) 専門展開科目（福祉）のうち、国家試験受験資格の取得に必要な科目（社会福祉士　□、精神保健福祉士　◇：資格課程登録をしていない場合は履修不可）については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を確認すること。

注2) 卒業研究を履修する場合は、「心理学研究法演習Ⅰ」「心理学研究法演習Ⅱ」を履修すること。

注3) 「心理演習」「公認心理師の職責」「心理実習」は資格課程登録（公認心理師受験基礎資格）をしていない場合は履修不可。

注4) 「精神保健福祉実習」は3年次秋期からの開始となるが、履修登録は4年次に行う。

(3) 資格課程科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
資格課程科目	教育（初等）	教師論▽	2	教育方法論（ICT活用含む）▽	2	道徳の指導法▽	2	教職実践演習（小学校）▽	2	小学校教諭 教育（初等）から 13科目 26単位
		教育学概論▽	2	児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	2	教育相談（カウンセリングを含む）▽	2			
		教育課程論▽	2	特別活動の指導法▽	2					
				教育心理学▽	2					
				教育法規▽	2					
				特別ニーズ教育論▽※	2					
				総合的な学習の時間の指導法▽	2					
	教育（中等）	教師論◎△○	2	教育方法論（ICT活用含む）◎△○	2	道徳の指導法＊＊○	2	教職実践演習（中・高）◎△	2	高校 教育（中等）から 12科目24単位 修得 養護教諭 教育（中等）から 13科目26単位 修得 福祉 ＋17単位 公民 ＋7単位
		教育学概論◎△○	2	児童生徒指導論（進路指導を含む）◎△○	2	教育相談（カウンセリングを含む）◎△○	2			
		教育課程論◎△○	2	特別活動の指導法◎△○	2			教職実践演習（養護）○	2	
				教育心理学◎△○	2					
				教育法規◎△○	2					
				特別ニーズ教育論◎△○※	2					
				総合的な学習の時間の指導法◎△○	2					
				発達と老化の理解Ⅱ◎	2	教育実習指導（中等）◎△	1	教育実習（中等）Ⅰ◎△	2	
				認知症の理解Ⅰ◎	2	福祉科指導法◎	4			
				障害の理解Ⅰ◎	2	公民科指導法Ⅰ△	2			
				身体構造と機能Ⅰ◎	2	公民科指導法Ⅱ△	2			
				介護概論◎	2	国際福祉論▲	2			
				発達心理学 ⁂	2	高齢者支援展開論※	2			
				社会心理学▲	2					
	特別支援学校教諭			障害児教育論●	2	病弱者の心理・生理・病理●	2	特別支援教育実習●	2	15科目 29単位 修得
				知的障害者の心理・生理・病理●	2	知的障害教育Ⅰ●	2			
				肢体不自由者の心理・生理・病理●	2	知的障害教育Ⅱ●	2			
				肢体不自由教育Ⅰ●	2	肢体不自由教育Ⅱ●	2			
						病弱教育Ⅰ●	2			
						病弱教育Ⅱ●	2			
						視覚障害者、聴覚障害者の心理・生理・病理●	2			
						障害児教育課程論●	2			
						重複障害・LD等教育総論●	2			
						特別支援教育実習指導●	1			
				肢体不自由教育総論	2	知的障害教育総論	2			
						病弱教育総論	2			
						聴覚障害者の言語障害指導	2			
	小学校	音楽▽	2	国語(書写を含む)▽	2	社会▽	2			小学校 教諭 25科目 49単位 修得
				算数▽	2	理科▽	2			
				音楽Ⅱ▽	2	生活▽	2			
				図画工作Ⅰ▽	2	家庭▽	2			
				図画工作Ⅱ▽	2	社会科指導法▽	2			
				体育▽	2	理科指導法▽	2			
				外国語▽	2	生活科指導法▽	2			
				国語科指導法(書写を含む)▽	2	家庭科指導法▽	2			
				算数科指導法▽	2					
				音楽科指導法▽	2	教育実習指導（初等）▽	1	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	
				図画工作科指導法▽	2			教育実習（初等）Ⅱ▽	2	
				体育科指導法▽	2					
				外国語の指導法▽	2					
				外国語活動の指導法▼	2					

注1）「(3)資格課程科目」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。

注2）教職実践演習には「中・高」「養護教諭」があるので、複数の免許を希望する場合はそれぞれの教職実践演習を履修すること。

注3）＊＊道徳の指導法は、中学校教諭、養護教諭の免許状を取得する場合は必修のこと。

注4）小学校教諭を含む複数の教育職員免許状を取得する場合は、教師論、教育学概論、教育法規、教育方法論（ICT活用含む）、特別活動の指導法、児童生徒指導論（進路指導を含む）、教育心理学、教育課程論、教育相談（カウンセリングを含む）、特別ニーズ教育論、総合的な学習の時間の指導法の11科目22単位はそれぞれの免許種別から単位を修得すること。

注5）高等学校教諭一種「公民」を取得する場合は、「哲学」「倫理学」のいずれかを履修の上、必修科目を除く▲または⁂（一部除く）の中から6単位を履修すること。なお、発達心理学を選択する場合は、心理学部必修の4単位の他に社会福祉学部開講の2単位の方も履修すること。 詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
資格課程科目	養護教諭			衛生学○	2	公衆衛生○	2			16科目 35単位 修得
				学校保健学（学校安全を含む）○	2	栄養学（食品学含む）○	2			
				養護教育学○	2	臨床心理学○▲	2			
				解剖生理学Ⅰ○	2	健康相談活動の理論と方法　○	2			
				病原微生物学○	2	看護学（救急処置を含む）○	4			
				精神保健学○	2	地域看護学○	2			
				医学概論（小児保健を含む）　☯	2	養護実習指導○	1	養護実習○	4	
						看護臨床実習指導○	2	看護臨床実習○	2	
				解剖生理学Ⅱ☯	2	児童環境保健論☯	2			
				免疫学概論☯	2					
	社会教育主事			生涯学習支援論◆	4	社会教育経営論◆	4	社会教育課題研究◆	2	5科目 12単位 修得
						社会教育演習◆	1	社会教育実習◆	1	

注1）　教育職員免許状、社会教育主事（基礎資格）の取得に必要な科目については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

1－6. 資格取得に必要な単位

《心理学科》（卒業要件単位：124単位）

心理学科	総合教育科目					小計	専門教育科目		資格課程科目	合計
	基礎	健康	コミュニケーション	教養	キャリア		専門基幹	専門展開		
卒業要件 (認定心理士)	必修 8	必修 4	選必 4	必修 10	選必+資格 14	40	必修 44	選択（総合教育科目含む） 40	―	124
公認心理師基礎受験資格（学部科目）	8	4	4	12	14	42	44	40	―	126
社会福祉士受験資格	8	4	4	20	20	56		62	―	162
精神保健福祉士受験資格	8	4	4	18	20	54		64	―	162
社会福祉士受験資格 高等学校教諭（福祉）	8	6	4	22	34	74		62	41	221
社会福祉士受験資格 高等学校教諭（福祉・公民）	8	6	4	36	34	88		62	51	245
高等学校教諭（公民）	8	6	4	28	28	74		4	37	159
社会教育主事（基礎資格）	8	4	4	14	14	44		24	12	124
＋特別支援学校教諭	―	―	―	―	―	―		―	＋29	―
小学校教諭	8	6	4	12	28	58		―	75	177
養護教諭	8	6	4	12	38	68		―	61	173

※　高等学校教諭（福祉）を取得するために必要な単位数には、社会福祉士受験資格取得のための単位を含んでいる。

Ⅳ．教育学部のカリキュラムについて

１．教育学科　学校教育専攻のカリキュラム

１−１．教育学科　教育の目的

入学後に3つの専攻・コースから希望に合わせてそれぞれのカリキュラムを学ぶ。学校教育専攻では、本学の学生参加型・対話型の授業を通して、その教育方法を身に付け、卒業後、教育現場で「アクティブ・ラーニング」が実践できる教員を養成する。

また、国際教育専攻ではグローバル化する社会の中で、グローバルな教育現場に対応できる国際理解力やグローバルレベルでの健康問題に対処できる国際的知見と視野を備えたグローバルな教育人材を養成する。

１−２．教育学科　学校教育専攻　教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- 初年次教育においては、教養基礎演習をはじめとする総合教育科目で教養を身に付けつつ、教員になるために必要な基礎知識・求められる資質、能力について学ぶ。
- キャリア支援教育を初年次から 4 年次まで段階的に配置し、教員採用試験合格に向けた科目編成が行われている。具体的にはキャリア基礎科目を 1,2 年次に配置し、教員採用試験の基本情報を初年次より学ぶことができる。またキャリア開発科目を 3,4 年次に配置し、教員採用試験に向けた具体的対策が段階的に可能な科目編成が行われている。

１−３．卒業に必要な単位数

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と選択科目を、合計124単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。選択科目には、資格課程科目を含みます。

総合教育科目	専門教育科目				必修	選択	合計
	教育	保健・養護	心理・発達	演習・実習			
必修+選必※1 42	必修※2 16	―	―	必修 2	60	64	124

※1 小学校教諭一種免許状取得者で、2種類以上の免許状を取得し、レクリエーション・インストラクター資格の取得を希望しない場合は必修38 単位とする。
※2 教育職員免許状を取得しない場合は、すべてを選択科目とする。

１−４．履修する上での注意事項

教育学科学校教育専攻では、取得を希望する教育職員免許状・資格の種別により、**小学校教諭コース**（小学校教諭）、**養護・保健科教諭コース**（養護教諭・保健科教諭（中学校・高等学校））、**英語科教諭コース**（英語科教諭（中学校・高等学校））、**情報科教諭コース**（情報科教諭（高等学校））、**教育心理コース**（認定心理士）、**ICT コース**（情報科教諭・小学校教諭）を設けています。いずれの**コース**においても他の免許状などを取得することは可能です。また、他学部開講科目を履修することにより、幼稚園教諭：保育児童学部保育児童学科、特別支援学校教諭及び公民科教諭（高等学校）：社会福祉学部社会福祉学科の取得も可能です。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法 4. 教育職員免許状の取得について」を参照してください。

取得を希望する免許・資格の登録は、1 年次秋期の履修登録にて行いますが、1 年次春期に履

修登録を行うにあたっても、将来の目標をよく考えた上で、履修科目を決定してください。
以下の注意事項と「1-5. 教育学科 カリキュラム」「1-6. 資格取得に必要な単位」「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」「履修計画を作成するにあたって」「履修モデル」などを熟読し、無理のない履修計画を立ててください。

(1) 総合教育科目

「文章表現」「人権教育」「健康・スポーツ」「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」「アメリカの文化と言語Ⅰ」「法学（憲法）」「法学概論」「福祉と教育」「教養基礎演習Ⅰ」の12 科目28 単位は必修になります。これらの科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。
「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修が認められます。
※ 原則として、母国語が中国語の場合は「中国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」、母国語が韓国語の場合は「韓国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められません。

① 「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」は、レクリエーション・インストラクター資格を取得するための必修科目となります。レクリエーション・インストラクター資格の取得についての詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。
小学校教諭一種免許状取得者で、2種類以上の免許状を取得し、レクリエーション・インストラクター資格の取得を希望しない場合は、選択科目となります。

② 「心理学入門」「心理学概論」は認定心理士資格を取得するための必修科目です。

③ 「教養基礎演習Ⅰ」については、「Ⅴ. キャリア開発教育について」を参照してください。

④ キャリア開発教育科目
本学では、キャリア形成を支援するため、キャリア開発教育科目を開講しています。
1年次に開講される「教員基礎演習Ⅰ」は必修です。
2年次に開講される「教員基礎演習Ⅱ」「教養基礎演習Ⅲ」の中から1科目4単位を、3年次に開講される「教員開発演習Ⅰ」「キャリア開発演習Ⅰ（教養）」の中から1科目4単位を、4年次に開講される「教員開発演習Ⅱ」「キャリア開発演習Ⅱ（教養）」の中から1科目4単位をそれぞれ選択し、合計4科目を必ず修得（選択必修）してください。ただし、教員採用を希望する場合は、各学年の「教員～」を履修してください。
また、養護教諭希望者は、2年次に「養護教諭基礎演習Ⅰ」、3年次に「養護教諭開発演習Ⅰ」、4年次に「養護教諭開発演習Ⅱ」を必ず履修してください。
詳細については、「Ⅴ. キャリア開発教育について」を参照してください。

(2) 専門教育科目

1) 教育分野

教育分野は、取得を希望する教育職員免許状の種類によって、さらに共通、小学校、英語、情報の４つの分野に分かれています。教育職員免許状の取得についての詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照してください。

① 初等分野・中等分野は、主に「教育の基礎的理解に関する科目」を開講しています。
「教師論」「教育学概論」「教育法規」「教育課程論」「教育方法論（ICT活用含む)」「教育心理学」「児童生徒指導論（進路指導を含む)」「教育相談（カウンセリングを含む）」の8科目16単位は必修科目です。また、「特別活動の指導法」「特別ニーズ教育論」「総合的な学習の時

間の指導法」は、小学校教諭、養護教諭、中学校教諭（保健科・英語科）、高等学校教諭（保健科・英語科・情報科）の養成課程で、「道徳の指導法」は、小学校教諭、中学校教諭（保健科・英語科）、養護教諭の養成課程で必修科目となっています。

ただし、教育職員免許状を取得しない場合は、すべてが選択科目となります。

なお、「教育心理学」「教育相談（カウンセリングを含む）」は認定心理士資格を取得するための必修科目です。

② 小学校分野は、小学校教諭免許状を取得するための科目を開講しています。

小学校教諭免許状を取得するためには、21科目42単位の修得が必要となります。

③ 英語分野は、英語科教諭免許状を取得するための科目を開講しています。

英語科教諭免許状を取得するためには、21科目46単位の修得が必要となります。なお、選択科目として開講している8科目16単位についても、英語科教諭として必須の内容であることから、すべてを履修することが望ましいとしています。

また、小学校教諭免許状の取得希望者は、指定された8科目16単位を履修することが望ましいとしています。

④ 情報分野は、情報科教諭免許状を取得するための科目を開講しています。

情報科教諭免許状を取得するためには、14科目28単位の修得が必要となります。なお、選択科目として開講している5科目10単位についても、情報科教諭として必須の内容であることから、すべてを履修することが望ましいとしています。

2） 養護･保健分野

養護・保健分野には、養護教諭免許状、保健科教諭免許状を取得するための科目を開講しています。養護教諭免許状を取得するためには、11科目24単位以上の修得が必要となります。　保健科教諭免許状を取得するためには、12科目30単位以上の修得が必要となります。

3） 心理・発達分野

心理・発達分野には、主に認定心理士資格を取得するための科目を開講しています。

認定心理士資格を取得するためには､指定科目40単位の修得が必要となります｡詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法　8. 認定心理士資格の取得について」を参照してください。

4） 演習・実習分野

「専門演習」の1科目2単位は必修です。また、演習・実習分野には、各種の教育職員免許状を取得するために必要な演習科目、実習科目を開講しています。

実習科目については、各免許状に指定された教育実習科目を履修する必要があります。教育実習の詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照してください。

（3）資格課程科目

他学科などに開講されている科目を履修することによって、教育職員免許状（幼稚園教諭：保育児童学科、特別支援学校教諭・公民科教諭：社会福祉学科）、社会教育主事(基礎資格)などを取得することが可能です。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。

資格課程科目は、卒業要件単位（124単位）に含むことが可能です。

1−5．教育学科　学校教育専攻　カリキュラム

(1) 総合教育科目

区分	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	**文章表現**	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			12科目 28単位 必修
	人権教育♪ ▼#	2							
	健康・スポーツ＊	2							
	レクリエーションワーク[注4]**※**	2							
	レクリエーション理論[注4]	2							
	情報処理演習Ⅰ＊	4	**情報処理演習Ⅱ◇♪**	4	情報処理演習Ⅲ◇	4			
	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
	アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	中国の文化と言語Ⅰ	2							
	中国の文化と言語Ⅱ	2							
	韓国の文化と言語Ⅰ	2							
	韓国の文化と言語Ⅱ	2							
	＄日本の文化と言語Ⅰ＆	2							＄「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は、外国人留学生のみ履修可
	＄日本の文化と言語Ⅱ＆	2							
	法学（憲法）＊	2							
	法学概論■	2							
	福祉と教育	2							
	社会学概論■	2							
	心理学概論☆■	2							
	心理学入門☆	2							
	社会福祉入門	2	法学Ⅱ（民法、行政法）■	4					
	政治学（国際政治を含む）■	2	経済学（国際経済を含む）■	2	国際関係論（国際法を含む）■	2			
	哲学%	2							
	倫理学%	2							
	日本史	2							
	世界史	2							
	生物学	2							
	統計学	2							
	表現	2	児童文化論	2					
	音楽▽	2							
	ボランティア論※♪	2							
	ジェンダー論♪	2							
	死生学	2							
	少年と犯罪	2							
	国際社会と日本♪	2							
	多文化理解入門	2							
	多文化コミュニケーション	2							
	ヒューマンライフとサービス	2							
	アジア文化論	2							
	経営学入門	2							
	会計学入門	2							
	生活の中の福祉	2							
	IT パスポート演習Ⅰ[注9]	2							
	IT パスポート演習Ⅱ[注9]	2							
	教養基礎演習Ⅰ	2							
	教養基礎演習Ⅱ	2	教養基礎演習Ⅲ	4	キャリア開発演習Ⅰ（教養）	4	キャリア開発演習Ⅱ（教養）	4	2-4年次は、教養基礎演習か教員基礎演習、キャリア開発演習（教養）か教員開発演習のどちらか1科目を選択必修 4科目14単位修得
	教員基礎演習Ⅰ▽○□◎◇●■	2	教員基礎演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅰ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	
			養護教諭基礎演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	2	

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。
注2） 情報処理演習Ⅲは、情報処理演習Ⅱ履修者のみ受講可能。文章表現Ⅲは、文章表現Ⅱを履修した後に履修すること。
注3） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。
注4） レクリエーションワーク、レクリエーション理論は、小学校教諭課程履修者で、2 種類以上の免許状を取得する場合は、選択科目となり、必修科目が 4 単位減となる。ただし、レクリエーション・インストラクター資格の取得を希望する場合は、必修科目となる。
注5） ＊（教職課程共通　＊必修　⁂ 選択）、▽（小学校教諭　▽必修　▼選択）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、□（英語科教諭）、◎（保健科教諭　◎必修　#選択）、◇（情報科教諭）、☆（認定心理士資格）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。
注6） 幼稚園教諭（△必修　▲選択）、特別支援学校教諭（●）、高等学校公民科教諭（■必修　%選択必修　♪選択）については、資格課程科目等を履修することによって取得可能。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。
注7） 「心理統計法」を受講する場合は、「統計学」を事前に受講することが望ましい。
注8） ＆ 外国人留学生は履修することが望ましい。
注9） IT パスポート演習Ⅰ・Ⅱは、小学校教諭と高校教諭（情報）の両方を履修する者（ICT コース）は必ず履修すること。

(2) 専門教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	教育（初等）	**教師論▽**	**2**	**教育方法論（ICT 活用含む）▽**	**2**	**教育相談（カウンセリングを含む）▽☆**	**2**			8科目 16単位 必修 教員免許を取得しない場合は選択 小学校教諭 教育（初等）から 12科目24単位修得 高校教諭 教育（中等）から 11科目22単位修得 中学校教諭・養護教諭 教育（中等）から 12科目24単位修得
		教育課程論▽	**2**	**教育法規▽**	**2**	道徳の指導法▽	2			
		教育学概論▽	**2**	**教育心理学▽☆**	**2**					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	**2**					
				特別活動の指導法▽	2					
				特別ニーズ教育論▽※	2					
				総合的な学習の時間の指導法▽	2					
	教育（中等）	**教師論○□◎◇■**	**2**	**教育方法論（ICT 活用含む）○□◎◇■**	**2**	**教育相談（カウンセリングを含む）○□◎◇■☆**	**2**			
		教育課程論○□◎◇■	**2**	**教育法規○□◎◇■**	**2**	道徳の指導法○＊＊	2			
		教育学概論○□◎◇■	**2**	**教育心理学○□◎◇■☆**	**2**					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）○□◎◇■	**2**					
				特別活動の指導法○□◎◇■	2					
				特別ニーズ教育論○□◎◇■※	2					
				総合的な学習の時間の指導法○□◎◇■	2					
	教育（共通）			学校経営 ⁂	2					
				生涯学習概論◆⁂	4					
	教育分野（小学校）	図画工作Ⅰ▽	2	国語(書写を含む) ▽	2	社会▽	2			小学校教諭 21科目 42単位 修得
				算数▽	2	理科▽	2			
				音楽Ⅱ▽	2	生活▽	2			
				図画工作Ⅱ▽	2	家庭▽	2			
				体育▽	2	社会科指導法▽	2			
				外国語▽	2	理科指導法▽	2			
				国語科指導法(書写を含む)▽	2	生活科指導法▽	2			
				算数科指導法▽	2	家庭科指導法▽	2			
				音楽科指導法▽	2					
				図画工作科指導法▽	2					
				体育科指導法▽	2					
				外国語の指導法▽	2					
				外国語活動の指導法▼	2					

注1) 教育職員免許状を取得しない場合は、教師論、教育課程論、教育学概論、教育方法論（ICT 活用含む）、教育法規、教育心理学、児童生徒指導論（進路指導を含む）、教育相談（カウンセリングを含む）の８科目については、すべてが選択科目となる。

注2) 道徳の指導法は、中学校教諭免許状（＊＊）、養護教諭免許状、小学校教諭免許状を取得する場合は、必修のこと。

注3) 複数の教育職員免許状を取得する場合、同じ科目名でも教育（初等）、教育（中等）、幼稚園教諭のそれぞれの科目の単位を修得しなければならないので注意すること。

注4) 小学校教諭と幼稚園教諭の両方の教育職員免許状を取得する場合、図画工作Ⅰ・Ⅱ、音楽、音楽Ⅱ、国語（書写を含む）、算数、体育、生活の８科目 16 単位は、教育分野（小学校）、幼稚園教諭のそれぞれの科目から単位を修得すること。

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	教育分野（英語）	英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）□▼	2	英語基礎演習Ⅲ（文法・作文）□	2	英米文学演習□	2			英語科教諭 21科目 46単位 必修
		英語基礎演習Ⅱ（文法・読解）□▼	2	英語講読Ⅳ□	2	英米児童文学演習□	2			
		英語講読Ⅰ□	2	英語講読Ⅴ□▼	2	英語コミュニケーションⅤ□	2			
		英語講読Ⅱ□▼	2	英語講読Ⅵ□	2	英語コミュニケーションⅥ□	2			
		英語講読Ⅲ□	2	英語コミュニケーションⅢ□	2	異文化理解□	2			
		英語コミュニケーションⅠ□▼	2	英語コミュニケーションⅣ□	2	英語科指導法Ⅰ□	4			
		英語コミュニケーションⅡ□▼	2			英語科指導法Ⅱ□	4			
						英語学演習Ⅰ（統語論）□	2			
						英語学演習Ⅱ（意味論）	2			
				英語学Ⅱ（英語の発音と音声）▼	2	英語学Ⅰ（英語の歴史）	2			
				英米文学と映像	2	英語学Ⅲ（英語の談話）	2			
				英米児童文学（作品論）▼	2	英文学（作家・作品論）	2			
						米文学（作家・作品論）	2			
	教育分野（情報）	社会情報学◇	2	コンピュータネットワークⅠ◇	2	データベース演習Ⅰ◇	2			情報科教諭 14科目 28単位 必修
		コンピュータサイエンスⅠ◇	2	コンピュータネットワークⅡ◇	2	データベース演習Ⅱ◇	2			
		コンピュータサイエンスⅡ◇	2	マルチメディア表現Ⅰ◇	2	システム設計◇	2			
		情報と職業◇	2			システム設計演習◇	2			
						情報セキュリティ◇	2			
						情報科指導法Ⅰ◇	2			
						情報科指導法Ⅱ◇	2			
				マルチメディア表現Ⅱ	2	ヒューマンメディア	2			
				メディア社会論	2	マルチメディアと学習環境	2			
				情報倫理	2					

注1） 小学校教諭課程履修者は、教育分野（英語）の中から▼印の付された８科目 16 単位を履修することが望ましい。

注2） 英語科教諭、情報科教諭課程履修者は、各免許課程の必修科目以外に、各分野に開講されている選択科目を履修することが望ましい。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	養護・保健			衛生学○◎	2	公衆衛生○◎	2			養護教諭 ○印 11科目 24単位 修得 保健科教諭 ◎印 12科目 30単位 修得
				学校保健学（学校安全を含む）○◎	2	栄養学（食品学含む）○◎	2			
				養護教育学○	2	健康相談活動の理論と方法　○	2			
				精神保健学○◎	2	看護学（救急処置を含む）○◎	4			
				病原微生物学○◎	2	地域看護学○	2			
				解剖生理学Ⅰ○◎	2					
				解剖生理学Ⅱ◎☯	2					
				保健科指導法Ⅰ◎	4					
				保健科指導法Ⅱ◎	4					
				医学概論（小児保健を含む）◎☯	2					
				免疫学概論☯	2	児童環境保健論☯＃	2			
				薬理学概説（薬物乱用防止を含む）☯	2	子どもの食と栄養☯＃	2			
				精神疾患とその治療☯＃	4					
	心理・発達	心理統計法☆	2	発達心理学☆※	2	臨床心理学☆○▼♪	2			認定心理師 ☆印 32単位 必修
				社会心理学☆♪	2	カウンセリング演習☆▼＃	4			
				心理学基礎実験☆	4	家族心理学☆	2			
						心理学研究法☆☯	4			
						心理検査法☆☯	4			
						心理療法概説☆☯	2			
						認知心理学☆	2			
						障害児・者の心理☆☯♪	2			
						発達相談※	2			
	演習・実習							**専門演習**	**2**	1科目 2単位 必修
								教職実践演習（中・高）□◎◇■	2	
				教育実習指導（初等）▽	1	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	教職実践演習（養護）○	2	
						教育実習（初等）Ⅱ▽	2	教職実践演習（小学校）▽	2	
						教育実習指導（中等）□◇■	1	教育実習（中等）Ⅰ□◇■	2	
								教育実習（中等）Ⅱ□	2	
				教育実習指導（中等）「保健」◎	1	教育実習（中等）Ⅰ「保健」◎	2			
						教育実習（中等）Ⅱ「保健」◎	2			
						養護実習指導○	1	養護実習○	4	
						看護臨床実習指導○	2	看護臨床実習○	2	

注1）　実習科目については、各教育職員免許状に指定された教育実習科目を履修すること。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。

注2）　「心理統計法」を受講するには、事前に「統計学」を履修していることが望ましい。

注3）　中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「保健」を取得する場合は、教育実習指導（中等）「保健」を2年次に履修し、教育実習（中等）Ⅰ「保健」及び教育実習Ⅱ「保健」は、3年次に履修すること。

注4）　中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」、高等学校教諭一種免許状「情報」の免許状を取得する場合は、教育実習指導（中等）を3年次に履修し、教育実習（中等）Ⅰ及び教育実習（中等）Ⅱは、4年次に履修すること。

注5）　小学校教諭免許と中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」を併せて取得する場合は、「教育実習（初等）Ⅰ」「教育実習（初等）Ⅱ」と「教育実習（中等）Ⅰ」を履修すること。

注6）　教職実践演習には「中・高」「養護教諭」「小学校」「幼稚園」があるので、複数の免許を希望する場合はそれぞれの教職実践演習を履修すること。

注7）　保健科教諭を取得する場合は、＃または※（一部除く）の中から、高等学校教諭は2単位以上を履修すること。

注8）　「教育実習（中等）」について、中学校教諭一種免許状を取得する場合は「教育実習（中等）Ⅰ」と「教育実習（中等）Ⅱ」の両方を履修すること。高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合は「教育実習（中等）Ⅰ」のみを履修すること。

(3) 資格課程科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
保育児童学科科目	幼稚園教諭	**教育学概論△**	**2**	**教育方法論（ICT活用含む）△**	**2**	**教育相談（カウンセリングを含む）△**	**2**	教職実践演習（幼稚園）△	2	26科目 51単位 修得
				教育法規△	**2**					
				教育心理学△	**2**					
				特別ニーズ教育論△※	2					
		保育者論△	2	幼児理解△	2	保育カリキュラム論△	2	保育内容総論Ⅱ△	2	
		保育内容（表現）△	2	保育内容総論△	2	保育内容（人間関係）△	2			
				保育内容（言葉）△	2	保育内容（環境）△	2			
				保育内容（健康）△	2	教育実習指導（初等）Ⅰ△	1	教育実習（初等）Ⅱ△	2	
						教育実習（初等）Ⅰ△	2			
		子どもと音楽△	2	子どもと人間関係△	2					
		子どもと言葉△	2	子どもと環境△	2					
				子どもと健康△	2					
				子どもと造形△	2					
社会福祉学科科目	特別支援学校教諭			障害児教育論●	2	病弱者の心理・生理・病理●	2	特別支援教育実習●	2	15科目 29単位 修得 (●印全て)
				知的障害者の心理・生理・病理●	2	視覚障害者、聴覚障害者の心理・生理・病理●	2			
				肢体不自由者の心理・生理・病理●	2	知的障害教育Ⅰ●	2			
				肢体不自由教育Ⅰ●	2	知的障害教育Ⅱ●	2			
						肢体不自由教育Ⅱ●	2			
						病弱教育Ⅰ●	2			
						病弱教育Ⅱ●	2			
						障害児教育課程論●	2			
						重複障害・LD等教育総論●	2			
						特別支援教育実習指導●	1			
				肢体不自由教育総論	2	知的障害教育総論	2			
						病弱教育総論	2			
						聴覚障害者の言語障害指導	2			
	公民科教諭			社会保障論■	4	公民科指導法Ⅰ■	2			3科目 8単位 修得
						公民科指導法Ⅱ■	2			
	社会教育主事			生涯学習支援論◆	4	社会教育経営論◆	4	社会教育課題研究◆	2	5科目 12単位 必修
				児童・家庭福祉論※	2	社会教育演習◆	1	社会教育実習◆	1	
				地域福祉論※	4	高齢者支援展開論※	2			

注1) 教育職員免許状の取得に必要な科目については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。
注2) 小学校教諭のみ、幼稚園教諭のみ、の一種免許状を取得する場合は、教育実習（初等）Ⅰは各資格の配当年次に実施する。また、幼稚園教諭と小学校教諭の両方の一種免許状を取得する場合は、教育学科開講の教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱを小学校で実施し、保育児童学科の教育実習（初等）Ⅰを4年次に幼稚園で実施する。その場合、教育実習指導は、教育学科開講の、「教育実習指導（初等）」と保育児童学科開講の「教育実習指導（初等）Ⅰ」を履修する必要がある。
注3) 複数の教育職員免許状を取得する場合、同じ科目名でも教育（初等）、教育（中等）、幼稚園教諭のそれぞれの科目の単位を修得しなければならないので注意すること。
注4) 小学校教諭と幼稚園教諭の両方の教育職員免許状を取得する場合、図画工作Ⅰ・Ⅱ、音楽、音楽Ⅱ、国語（書写を含む）、算数、体育、生活の8科目16単位は、教育（小学校）、幼稚園教諭のそれぞれの科目から単位を修得すること（図画工作Ⅱ、音楽Ⅱは幼稚園教諭選択科目）。
注5) 高等学校教諭一種免許状「公民」を取得する場合は、「哲学」「倫理学」のいずれかを履修の上、♪または※（一部を除く）の中から6単位以上を履修すること。
注6) 社会教育主事（基礎資格）を取得する場合は、「Ⅶ資格取得の方法」を参照に、※の中から必要科目を選択履修すること。
注7) 「(3) 資格課程科目」については、該当する資格課程を登録していない場合は履修不可。

1－6．資格取得に必要な単位

《教育学科　学校教育専攻》（卒業要件単位：124単位）

教育学科 学校教育専攻	総合教育	専門教育科目					小計	選択科目（総合教育科目含む）		合計
		教育 初等・中等	教育分野	保健 養護	心理 発達	演習 実習		専門教育	資格課程	
卒業要件	必修+選必 42 注1)	必修 16	―	―	―	必修 2	60	選択 64	―	124
小学校教諭コース	44	24	42	―	―	9	119	5 (16)	―	124 (135)
英語科教諭コース	42	24	46	―	―	9	121	3 (16)	―	124 (137)
情報科教諭コース	46	22	28	―	―	7	103	21 (10)	―	124
小学校・英語科注1)	40	48	88	―	―	14	190	(16)	―	190 (206)
小学校・情報科注1)	44	46	70	―	―	14	174	(26)	―	174 (200)
養護教諭	52	24	―	24	2	13	115	9	―	124
養護・保健科教諭コース	52	24	―	36	2	20	134	―	―	134
養護教諭・小学校教諭注1)	50	48	42	24	2	20	186	(16)	―	186 (202)
教育心理（認定心理士）コース	46	4	―	―	32	2	84	40	―	124
認定心理士・養護教諭	56	24	―	24	32	13	149	―	―	149
認定心理士・小学校教諭	48	24	42	―	32	9	155	(16)	―	155 (171)
小学校教諭・幼稚園教諭注1)	40	24	42	―	―	9	115	(16)	51	166 (182)
＋特別支援学校教諭	―	―	―	―	―	―	―	―	＋29	
高等学校教諭（公民）	56	22	―	―	―	7	85	31注2)	8	124
社会教育主事（基礎資格）注3)	42 ～44	0～2	―	―	―	2	44～48	62～68	12～18	124

（ ）内の数字は、各免許状・資格を取得する場合に、併せて履修することが望ましいとされている選択科目の単位数。

注1）小学校教諭課程履修者で2種以上の教員免許状を取得し、レクリエーション・インストラクター資格を取得しない場合は、4単位減（レクリエーション理論、レクリエーションワーク）となる。

注2）「哲学」「倫理学」のいずれかを含む。

注3）社会教育主事（基礎資格）については、各項目の選択科目の履修状況により、必要単位数が異なる。

２．教育学科　国際教育専攻　国際教育コース　のカリキュラム

２−１．教育学科　教育の目的

入学後に3つの専攻・コースから希望に合わせてそれぞれのカリキュラムを学ぶ。学校教育専攻では、本学の学生参加型・対話型の授業を通して、その教育方法を身に付け、卒業後、教育現場で「アクティブ・ラーニング」が実践できる教員を養成する。

また、国際教育専攻ではグローバル化する社会の中で、グローバルな教育現場に対応できる国際理解力やグローバルレベルでの健康問題に対処できる国際的知見と視野を備えたグローバルな教育人材を養成する。

２−２．教育学科　国際教育専攻　国際教育コース　教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

- グローバルな教育人材育成のために、教育内容を、多文化・国際理解領域、比較文化的日本文化理解領域、人間環境と国際保健領域、言語理解領域、異文化理解教育・日本語教育の 5 つの領域に分けカリキュラム編成を行う。
- 1 番目の多文化・国際理解領域では、国際教育の現場で必要となる多文化理解を促進する領域（多文化理解入門、多文化コミュニケーション等）と国際理解を促進する領域（国際社会と日本、国際社会理解入門、海外留学入門、国際理解実習等）に分け科目編成を行う。また海外の協定大学との交換留学制度を活用することで実践的な国際理解が可能な科目編成となっている。
- 2 番目の比較文化的日本文化理解領域では、他の地域文化との関連性から考察する比較文化的視点に配慮しながら科目構成を行う（東アジアの中の日本文化、比較日本文化論、比較文化学演習など）。
- 3 番目の人間環境と国際保健領域では、環境・保健の視点から国際教育を考察する科目編成を行う（人間環境学入門、国際保健学入門）。
- 4 番目の言語理解領域では、国際教育における言語理解を言語学的観点から考察する科目編成を行う（社会言語学、対照言語学、第二言語習得理論等）。
- 5 番目の日本語教育・異文化理解教育の領域では、グローバル時代の教育現場で必要となる異文化理解教育と日本語教育の実践力育成のための科目編成を行う（異文化コミュニケーション教育、日本語教育の理論と方法等）。

２−３．卒業に必要な単位数

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と、専門教育科目の選択科目30単位、合計124単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。

総合教育科目	専門教育科目				合計
	教育 初等・中等	国際	演習・実習	選択科目※1	
必修+選必 52	必修 16	必修 26	必修 2	選択 28	124

※1　専門教育科目の必修以外の科目から選択

２−４．履修する上での注意事項

(1) 総合教育科目

「文章表現」「人権教育」「健康・スポーツ」「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」「アメリカの文化と言語Ⅰ」「アメリカの文化と言語Ⅱ」「法学（憲法）」「法学概論」「福祉と教育」「国際社会と日本」「多文化理解入門」「多文化コミュニケーション」「アジア文化論」「教養基礎演習Ⅰ」の18科目38単位は必修になります。

「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修が認められます。

※ 原則として、母国語が中国語の場合は「中国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」、母国語が韓国語の場合は「韓国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められません。

① 「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」は、レクリエーション・インストラクター資格を取得するための必修科目となります。レクリエーション・インストラクター資格の取得についての詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法」を参照してください。

② 「教養基礎演習Ⅰ」については、「Ⅴ．キャリア開発教育について」を参照してください。

③ キャリア開発教育科目

本学では、キャリア形成を支援するため、キャリア開発教育科目を開講しています。

1年次に開講される「教員基礎演習Ⅰ」は必修です。

2年次に開講される「教員基礎演習Ⅱ」「教養基礎演習Ⅲ」から1科目4単位を、3年次に開講される「教員開発演習Ⅰ」「キャリア開発演習Ⅰ（教養）」から1科目4単位を、4年次に開講される「教員開発演習Ⅱ」「キャリア開発演習Ⅱ（教養）」から1科目4単位をそれぞれ選択し、合計3科目を必ず修得（選択必修）してください。ただし、教員採用を希望する場合は、各学年の「教員～」を履修してください。

(2) 専門教育科目

1）教育分野

教育分野は、初等、中等、国際、小学校、英語の5つの分野に分かれています。教育職員免許状の取得についての詳細は、「Ⅶ．資格取得の方法　4．教育職員免許状の取得について」を参照してください。

① 初等分野・中等分野は、主に「教育の基礎的理解に関する科目」を開講しています。

「教師論」「教育学概論」「教育法規」「教育課程論」「教育方法論（ICT活用含む）」「教育心理学」「児童生徒指導論（進路指導を含む）」「教育相談（カウンセリングを含む）」の8科目16単位は必修科目です。また、「特別活動の指導法」「特別ニーズ教育論」「総合的な学習の時間の指導法」は、小学校教諭、中学校教諭（英語科）、高等学校教諭（英語科）の養成課程で、「道徳の指導法」は、小学校教諭、中学校教諭（英語科）の養成課程で必修科目となっています。

② 国際教育コースでは、国際分野の科目を開講しています。

「日本文化研究」「言語学概論」「国際社会理解入門」「海外留学入門」「人間環境学入門」「日本語教育の理論と方法」「社会言語学」「異文化コミュニケーション教育」「国際保健学入門」「異文化理解」「異文化コミュニケーション教育演習」「国際社会理解研究Ⅰ」「国際社会理解研究Ⅱ」の13科目26単位が必修となります。

③　小学校分野は、小学校教諭免許状を取得するための科目を開講しています。
小学校教諭免許状を取得するためには、21科目42単位の修得が必要となります。

④　英語分野は、中学校高等学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」を取得するための科目を開講しています。
中学校高等学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」を取得するためには、20科目44単位の修得が必要となります。なお、選択科目として開講している8科目16単位についても、英語科教諭として必須の内容であることから、すべてを履修することが望ましいとしています。
また、小学校教諭免許状の取得希望者は、指定された8科目16単位を履修することが望ましいとしています。

※国際教育コースで教員免許状の取得を希望する場合は、小学校教諭一種免許状、中学校高等学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」のいずれかを選択してください。

※英語コースの学生が教員免許状の取得を希望する場合は、教職課程科目（資格・免許状取得に関する科目）は日本語の授業を履修すること。詳細はカリキュラム表を確認すること。

2）専門展開教育分野

専門展開教育分野として、情報、養護・保健、心理・発達の科目を開講しています。専門展開教育分野については、全て選択科目になります。

3）演習・実習分野

「専門演習」の1科目2単位は必修です。また、演習・実習分野には、各種の教育職員免許状を取得するために必要な演習科目、実習科目を開講しています。
実習科目については、各免許状に指定された教育実習科目を履修する必要があります。教育実習の詳細については、「Ⅶ．資格取得の方法　4．教育職員免許状の取得について」を参照してください。

（3）海外留学について

3年次秋期に協定校への海外留学を希望することができます。海外留学を希望する場合は3年次春期に「国際理解実習指導」を履修し、「国際理解実習」を3年次秋期に履修する必要があります。また、「国際理解実習」は半年の協定校への海外留学につき16単位までの単位認定とします。

２－５．教育学科　国際教育専攻　国際教育コース　カリキュラム

(1) 総合教育科目

区分	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	**文章表現**	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			18科目 38単位 必修
	人権教育▼	2							
	健康・スポーツ＊	2							
	レクリエーションワーク	2							
	レクリエーション理論	2							
	情報処理演習Ⅰ＊	4	**情報処理演習Ⅱ**	4	情報処理演習Ⅲ	4			
	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
	アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	中国の文化と言語Ⅰ	2							
	中国の文化と言語Ⅱ	2							
	韓国の文化と言語Ⅰ	2							
	韓国の文化と言語Ⅱ	2							
	＄日本の文化と言語Ⅰ＆	2							＄「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は、外国人留学生のみ履修可
	＄日本の文化と言語Ⅱ＆	2							
	法学（憲法）＊	2							
	法学概論	2							
	福祉と教育	2							
	国際社会と日本	2							
	多文化理解入門	2							
	多文化コミュニケーション	2							
	アジア文化論	2							
	社会学概論	2							
	心理学概論	2							
	心理学入門	2							
	社会福祉入門	2	法学Ⅱ（民法、行政法）	4					
	政治学（国際政治を含む）	2	経済学（国際経済を含む）	2	国際関係論（国際法を含む）	2			
	哲学	2							
	倫理学	2							
	日本史	2							
	世界史	2							
	生物学	2							
	統計学	2							
	表現	2	児童文化論	2					
	音楽▽	2							
	ボランティア論	2							
	ジェンダー論	2							
	死生学	2							
	少年と犯罪	2							
	ヒューマンライフとサービス	2							
	経営学入門	2							
	会計学入門	2							
	生活の中の福祉	2							
	教養基礎演習Ⅰ	2							
	教養基礎演習Ⅱ	2	教養基礎演習Ⅲ	4	キャリア開発演習Ⅰ（教養）	4	キャリア開発演習Ⅱ（教養）	4	各2-4年次は、教養基礎演習か教員基礎演習、キャリア開発演習（教養）か教員開発演習のどちらか1科目を選択必修 4科目14単位修得
	教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	

注1）情報処理演習Ⅲは、情報処理演習Ⅱ履修者のみ受講可能。文章表現Ⅲは、文章表現Ⅱを履修した後に履修すること。
注2）**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。
注3）＊（教職課程共通　＊必修　⁂ 選択）、▽（小学校教諭　▽必修　▼選択）、□（英語科教諭（中学・高校共通））の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。
注4）英語コースの学生が教員免許状取得を希望する場合、教職課程科目（注３に該当の資格・免許状取得に関する科目）は、日本語の授業を履修すること。
注5）＆ 外国人留学生は履修することが望ましい

(2) 専門教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	教育（初等）	**教師論▽**	**2**	**教育方法論（ICT 活用含む）▽**	**2**	**教育相談（カウンセリングを含む）▽**	**2**			8科目 16単位 必修 (注3) 小学校教諭 教育（初等）から 12科目24単位修得
		教育課程論▽	**2**	**教育法規▽**	**2**	道徳の指導法▽	2			
		教育学概論▽	**2**	**教育心理学▽**	**2**					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	**2**					
				特別活動の指導法▽	2					
				特別ニーズ教育論▽	2					
				総合的な学習の時間の指導法 ▽	2					
	教育（中等）	**教師論□**	**2**	**教育方法論（ICT 活用含む）□**	**2**	**教育相談（カウンセリングを含む）□**	**2**			高校教諭 教育（中等）から 11科目20単位修得 中学校教諭 教育（中等）から 12科目24単位修得
		教育課程論□	**2**	**教育法規□**	**2**	道徳の指導法＊＊注1)	2			
		教育学概論□	**2**	**教育心理学□**	**2**					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）□	**2**					
				特別活動の指導法□	2					
				特別ニーズ教育論□	2					
				総合的な学習の時間の指導法 □	2					
	教育（国際）	**日本文化研究**	**2**	**国際社会理解入門**	**2**	**国際保健学入門**	**2**	**国際社会理解研究Ⅰ**	**2**	13科目26単位 必修
		言語学概論	**2**	**海外留学入門**	**2**	**異文化理解□**	**2**	**国際社会理解研究Ⅱ**	**2**	
				人間環境学入門	**2**	**異文化コミュニケーション教育演習**	**2**			
				日本語教育の理論と方法	**2**					
				社会言語学	**2**					
				異文化コミュニケーション教育	**2**					
				東アジアの中の日本文化	2	比較文化学演習	2			
				比較日本文化論	2	対照言語学	2			
				第二言語習得理論	2	第二言語習得理論演習	2			
				日本語教授法Ⅰ	2	日本語教育演習	2			
				日本語学習とマルチメディア	2	日本語教授法Ⅱ	2			
	教育分野（小学校）	図画工作Ⅰ▽	2	社会▽	2					小学校教諭 21科目 42単位 修得
		国語(書写を含む) ▽	2	理科▽	2					
		算数▽	2	生活▽	2					
		体育▽	2	家庭▽	2					
		音楽Ⅱ▽	2	外国語▽	2	社会科指導法▽	2			
		図画工作Ⅱ▽	2	国語科指導法(書写を含む)▽	2	理科指導法▽	2			
				算数科指導法▽	2	生活科指導法▽	2			
				音楽科指導法▽	2	家庭科指導法▽	2			
				図画工作科指導法▽	2					
				体育科指導法▽	2					
				外国語の指導法▽	2					
				外国語活動の指導法▼	2					

注1)　道徳の指導法は、中学校教諭免許状を取得する場合は、必修のこと。

注2)　卒業に必要な単位として、30 単位分を専門教育科目の必修科目以外の科目から履修すること。

注3)　初等分野・中等分野のいずれかより同一科目を含まない 8 科目 16 単位を履修すること。

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	教育分野（英語）	英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）□▼	2	英語基礎演習Ⅲ（文法・作文）□	2	英米文学演習□	2			英語科教諭 20科目 44単位 必修
		英語基礎演習Ⅱ（文法・読解）□▼	2	英語講読Ⅳ□	2	英米児童文学演習□	2			
		英語講読Ⅰ□	2	英語講読Ⅴ□▼	2	英語コミュニケーションⅤ　□	2			
		英語講読Ⅱ□▼	2	英語講読Ⅵ□	2	英語コミュニケーションⅥ　□	2			
		英語講読Ⅲ□	2	英語コミュニケーションⅢ　□	2	英語科指導法Ⅱ□	4			
		英語コミュニケーションⅠ□▼	2	英語コミュニケーションⅣ□	2	英語学演習Ⅰ（統語論）□	2			
		英語コミュニケーションⅡ□▼	2	英語科指導法Ⅰ□	4					
				英語学Ⅱ（英語の発音と音声）▼	2	英語学演習Ⅱ（意味論）	2			
				英米文学と映像	2	英語学Ⅰ（英語の歴史）	2			
				英米児童文学（作品論）▼	2	英語学Ⅲ（英語の談話）	2			
						英文学（作家・作品論）	2			
						米文学（作家・作品論）	2			
	専門展開教育分野（情報）	社会情報学	2	コンピュータネットワークⅠ	2	データベース演習Ⅰ	2			選択科目
		コンピュータサイエンスⅠ	2	コンピュータネットワークⅡ	2	データベース演習Ⅱ	2			
		コンピュータサイエンスⅡ	2	マルチメディア表現Ⅰ	2	システム設計	2			
		情報と職業	2			システム設計演習	2			
						情報セキュリティ	2			
				マルチメディア表現Ⅱ	2	ヒューマンメディア	2			
				メディア社会論	2	マルチメディアと学習環境	2			
				情報倫理	2					

注1）小学校教諭課程履修者は、教育分野（英語）の中から▼印の付された８科目 16 単位を履修することが望ましい。

注2）英語科教諭は、免許課程の必修科目以外に、英語科教育分野に開講されている選択科目を履修することが望ましい。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
専門教育科目	専門展開教育分野（養護・保健）			衛生学	2	公衆衛生	2			選択科目
				学校保健学（学校安全を含む）	2	栄養学（食品学含む）	2			
				養護教育学	2	健康相談活動の理論と方法	2			
				精神保健学	2	看護学（救急処置を含む）	4			
				病原微生物学	2	地域看護学	2			
				解剖生理学Ⅰ	2	児童環境保健論	2			
				解剖生理学Ⅱ	2	子どもの食と栄養	2			
				医学概論（小児保健を含む）	2					
				免疫学概論	2					
				薬理学概説（薬物乱用防止を含む）	2					
				精神疾患とその治療	4					
	専門展開教育分野（心理・発達）	心理統計法	2	発達心理学	2	臨床心理学	2			選択科目
				社会心理学	2	カウンセリング演習	4			
				心理学基礎実験	4	家族心理学	2			
						心理学研究法	4			
						心理検査法	4			
						心理療法概説	2			
						認知心理学	2			
						障害児・者の心理	2			
						発達相談※	2			
	演習・実習							**専門演習**	**2**	1科目 2単位 必修
						教育実習指導（初等）▽	1	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	
								教育実習（初等）Ⅱ▽	2	
								教職実践演習（小学校）▽	2	
						教育実習指導（中等）□	1	教育実習（中等）Ⅰ□	2	
								教育実習（中等）Ⅱ□	2	
								教職実践演習（中・高）□	2	
						国際理解実習指導	1			
						国際理解実習	16			

注1） 実習科目については、各教育職員免許状に指定された教育実習科目を履修すること。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。

注2） 教職実践演習には「中・高」「小学校」があるので、希望する免許状の教職実践演習を履修すること。

注3） 海外留学を希望する場合は、国際理解実習指導を3年次春期に履修し、国際理解実習は3年次秋期に履修すること。

注4） 国際理解実習は、半年の協定校への海外留学につき16単位までの単位認定とする。

注5） 心理統計法は、統計学を先に履修したうえで履修すること。

注6） 「教育実習（中等）」について、中学校教諭一種免許状を取得する場合は「教育実習（中等）Ⅰ」と「教育実習（中等）Ⅱ」の両方を履修すること。高等学校教諭一種免許状のみを取得する場合は「教育実習（中等）Ⅰ」のみを履修すること。

２－６．資格取得に必要な単位

《教育学科　国際教育専攻　国際教育コース》（卒業要件単位：124単位）

教育学科	総合教育科目	専門教育科目				小計	専門教育科目	合計
		教育 初等・中等	国際	教育分野	演習・実習			
卒業要件	必修 52	必修 16	必修 26	―	必修 2	必修 96	選択 28	124
小学校教諭	54	24	26	42	9	155	(16)	155 (171)
英語科教諭（中高）	52	24	26	44	9	155	(16)	155 (171)

（ ）内の数字は、各免許状・資格を取得する場合に、履修することが望ましいとされている選択科目の単位数。

３．教育学科　国際教育専攻　日本語教育コースのカリキュラム

３−１．教育学科　教育の目的

入学後に3つの専攻・コースから希望に合わせてそれぞれのカリキュラムを学ぶ。学校教育専攻では、本学の学生参加型・対話型の授業を通して、その教育方法を身に付け、卒業後、教育現場で「アクティブ・ラーニング」が実践できる教員を養成する。

また、国際教育専攻ではグローバル化する社会の中で、グローバルな教育現場に対応できる国際理解力やグローバルレベルでの健康問題に対処できる国際的知見と視野を備えたグローバルな教育人材を養成する。

３−２．教育学科　国際教育専攻　日本語教育コース 教育課程の編成・実施の方針（カリキュラムポリシー）

- グローバルな日本語教員養成のため、教育内容を３つの領域に分けカリキュラム編成を行う。それらは、１.「言語に関わる領域」、2.「教育に関わる領域」、3.「社会・文化に関わる領域」である。
- 日本語を言語として専門的に教えるためには言語としての日本語と言語学全体の知識が必要なため、1の言語領域は日本語の言語学的構造を学ぶ「日本語の構造」領域（日本語学、日本語学演習）と言語学の理論（言語学概論、社会言語学、第二言語習得理論、等）を学ぶ「言語と社会」領域に分け科目編成を行う。
- 現代はグローバル化とともに異文化理解も重要なため、2の教育領域は、「日本語教育」領域（日本語教授法、等）と「異文化教育」領域（異文化接触と文化学習、異文化コミュニケーション教育、等）に分け科目編成を行う。
- 3の社会・文化領域は、「日本の社会・文化」と名付け、日本文化の特殊性に焦点を置く（日本文化研究、日本文学と文化、など）とともに、他の地域文化との関連性から考察する比較文化的視点に特に配慮しながら科目構成を行う（東アジアの中の日本文化、比較日本文化論、比較文化学演習など）。また他言語を学ぶことは言語習得の実践的理解にもつながるため、日本語以外の言語科目（アメリカの文化と言語、中国の文化と言語、韓国の文化と言語のうち１科目）を必修とする。

３−３．卒業に必要な単位数

授業科目は、総合教育科目、専門教育科目に区分され、総合教育科目、専門教育科目の必修科目（科目群別の選択必修科目を含む）と専門教育科目の選択科目を、合計124単位以上修得することによって卒業の要件を満たすことになります。

総合教育科目		専門教育科目				合計		
		専門教育共通	演習	日本語教育関連科目	専門展開科目	必修	専門教育選択	
必修 38	選必 14	必修 16	必修 2	必修 28	—	98	26	124

３－４．履修する上での注意事項

(1) 総合教育科目

「文章表現」「人権教育」「健康・スポーツ」「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」「日本の文化と言語Ⅰ」「法学（憲法）」「法学概論」「経済学(国際経済を含む)」「日本史」「国際社会と日本」「社会学概論」「福祉と教育」「教養基礎演習Ⅰ」「教員基礎演習Ⅰ」の17科目38単位は必修になります。これらの科目は、原則として、指定された開講年次に履修してください。

「アメリカの文化と言語Ⅰ」「中国の文化と言語Ⅰ」「韓国の文化と言語Ⅰ」のうちいずれか1科目2単位を履修してください。

※ 原則として、母国語が中国語の場合は「中国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」、母国語が韓国語の場合は「韓国の文化と言語Ⅰ・Ⅱ」の履修は認められません。

①「レクリエーションワーク」「レクリエーション理論」は、レクリエーション・インストラクター資格を取得するための必修科目となります。レクリエーション・インストラクター資格の取得についての詳細は、「Ⅵ．資格取得の方法」を参照してください。

②「教養基礎演習Ⅰ」については、「Ⅳ．キャリア開発教育について」を参照してください。

③キャリア開発教育科目

本学では、キャリア形成を支援するため、キャリア開発教育科目を開講しています。

1年次に開講される「教員基礎演習Ⅰ」は必修です。

2年次に開講される「教員基礎演習Ⅱ」「教養基礎演習Ⅲ」から1科目4単位を、3年次に開講される「教員開発演習Ⅰ」「キャリア開発演習Ⅰ（教養）」から1科目4単位を、4年次に開講される「教員開発演習Ⅱ」「キャリア開発演習Ⅱ（教養）」から1科目4単位をそれぞれ選択し、合計3科目を必ず修得（選択必修）してください。ただし、教員採用を希望する場合は、各学年の「教員～」を履修してください。

(2) 専門教育科目

1）共通分野

「教師論」「教育課程論」「教育学概論」「教育方法論（ICT活用含む)」「教育法規」「教育心理学」「児童生徒指導論（進路指導を含む)」「教育相談（カウンセリングを含む）」の8科目16単位は必修科目です。

2）演習分野

「専門演習」の1科目2単位は必修です。

3）日本語教育分野

必修14科目28単位を含み、56単位を【日本語教育関連科目】【専門展開科目】分野から選択履修してください。

4）専門展開科目

専門展開科目には、専門教育のさらなる展開を図るため、教育、教育関連領域、心理の各分野に関係する科目が選択科目として開講されています。

(3) 日本語教育実習

「日本語教育実習」の受講資格は、3 年秋期のオリエンテーション期間内に「日本語教員養成課程（副専攻)」もしくは「日本語教員養成課程（主専攻)」を資格登録した上で、3 年次春期終了時までに以下に定める科目の単位を良好な成績で修得した者で、教育学部長が日本語教育実習の受講が適当であることを認めたものとします。日本語教育実習受講資格を満たすことができない学生は、実習をすることができなくなりますので注意してください。また 3 年春期終了時以降、通算及び各学期の GPA が 2.0 に満たないものや性行に著しく問題のある者、及び心身の健康状態が日本語教育実習に耐えられないと思量される者等は、実習の実施を認めない場合があります。また外国人学生に関しては日本語能力試験の N1 取得者、または日本語教育専門教員の推薦があることが受講条件となります。

① 日本語教育実習受講のための必須修得単位

3 年次春期終了時に以下の科目を修得済みであること。

区分	修得科目
「日本の文化と言語」理解に関する総合教育科目必修 1 科目 2 単位	「日本の文化と言語 I」
「世界の文化と言語」理解に関する総合教育科目選択必修 1 科目 2 単位	「アメリカの文化と言語 I」、「中国の文化と言語 I」、「韓国の文化と言語 I」の中から 1 科目 2 単位を選択する。 外国人学生は自国文化に関する科目は除く。
日本語教育・異文化理解に関する専門教育科目 ※副専攻：必修 12 科目 24 単位 ※主専攻：必修 18 科目 36 単位	「日本語学概論」、「日本語教育概論」、「日本語学史」、「日本文化研究」、「日本語学 I」、「日本語学Ⅱ」、「日本語教授法 I」「言語学概論」、「第二言語習得理論」、「異文化接触と文化学習」、「東アジアの中の日本文化」、「異文化コミュニケーション教育」
	※主専攻のみ 「日本語学Ⅲ」、「日本語学 IV」、「日本語学 V」、「日本語学習とマルチメディア」、「社会言語学」、「比較日本文化論」

注1： 3 年次秋期に副専攻は「日本語教授法Ⅱ」、「第二言語習得理論演習」の 2 科目 4 単位を、主専攻は「異文化コミュニケーション教育演習」、「日本語教授法Ⅱ」、「第二言語習得理論演習」、「日本語教育演習」の 4 科目 8 単位を必ず履修すること。

注2： 3 年次編入生については 3 年次春期に履修した日本語教員養成課程(副専攻)または(主専攻）の資格必修科目全ての単位修得済であること、3 年次終了時までに選択必修 1 科目 2 単位を含む資格必修科目（副専攻：16 科目 32 単位、主専攻：24 科目 48 単位）を修得していることを日本語教育実習の受講条件とする。

３－５．教育学科　国際教育専攻　日本語教育コース　カリキュラム

(1) 総合教育科目

区　分	1　年　次	単位	2　年　次	単位	3　年　次	単位	4　年　次	単位	要履修単位
総合教育科目	**文章表現**	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			
	人権教育	2							
	健康・スポーツ	2							
	レクリエーションワーク	2							
	レクリエーション理論	2							
	情報処理演習Ⅰ	4	**情報処理演習Ⅱ**	4	情報処理演習Ⅲ	4			
	アメリカの文化と言語Ⅰ■◆☆	2							
	アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	中国の文化と言語Ⅰ■◆☆	2							17 科目
	中国の文化と言語Ⅱ	2							38 単位
	韓国の文化と言語Ⅰ■◆☆	2							必修
	韓国の文化と言語Ⅱ	2							
	日本の文化と言語Ⅰ□◇	2							
	日本の文化と言語Ⅱ＆	2							☆印
	法学（憲法）	2	法学Ⅱ（民法、行政法）	4					1 科目
	法学概論	2							2 単位
	経済学（国際経済を含む）	2							選択必修
	日本史	2							
	国際社会と日本	2			国際関係論（国際法を含む）	2			
	社会学概論	2							
	福祉と教育	2							
	心理学概論	2							
	心理学入門	2							
	社会福祉入門	2							
	政治学（国際政治を含む）	2							
	哲学	2							
	倫理学	2							
	世界史	2							
	人文地理	2							
	生物学	2							
	統計学	2							
	表現	2							
	音楽	2							
	ボランティア論	2							
	ジェンダー論	2							
	死生学	2							
	少年と犯罪	2							
	多文化理解入門	2							
	多文化コミュニケーション	2							教員基礎演習Ⅱ・教養基礎演習Ⅲから1科目4単位、教員開発演習Ⅰ・キャリア開発演習Ⅰから1科目4単位、教員開発演習Ⅱ・キャリア開発演習Ⅱから1科目4単位選択必修
	ヒューマンライフとサービス	2							
	アジア文化論	2							
	経営学入門	2							
	会計学入門	2							
	生活の中の福祉	2							
	教養基礎演習Ⅰ	2							
	教養基礎演習Ⅱ	2	教養基礎演習Ⅲ	4	キャリア開発演習Ⅰ	4	キャリア開発演習Ⅱ	4	
	教員基礎演習Ⅰ	2	教員基礎演習Ⅱ	4	教員開発演習Ⅰ	4	教員開発演習Ⅱ	4	

注1)　情報処理演習Ⅲは、情報処理演習Ⅱ履修者のみ受講可能。文章表現Ⅲは、文章表現Ⅱを履修した後に履修すること。
注2)　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。
注3)　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。
注4)　□（日本語教員　主専攻必修）、■（日本語教員　主専攻選択必修）、◇（日本語教員　副専攻必修）、◆（日本語教員　副専攻選択必修）
注5)　＆外国人留学生は履修することが望ましい。

(2) 専門教育科目

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	要履修単位
専門教育科目	専門教育科目【共通】	**教師論**	2	**教育方法論（ICT 活用含む）**	2	**教育相談（カウンセリングを含む）**	2			8科目 16単位 必修
		教育課程論	2	**教育法規**	2					
		教育学概論	2	**教育心理学**	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）	2					
	専門教育科目【演習】							**専門演習**	2	1科目 2単位 必修
	専門教育科目【日本語教育関連科目】	※副専攻必修								必修14科目28単位を含み、56単位を【日本語教育関連科目】【専門展開科目】分野から選択履修
		日本語学概論□◇	2	**日本語学Ⅰ（音声・音韻）□◇**	2	**日本語教授法Ⅱ□◇**	2	日本語教育実習Ⅰ□◇	2	
		日本語教育概論□◇	2	**日本語学Ⅱ（語彙・意味）□◇**	2	**第二言語習得理論演習□◇**	2			
		言語学概論□◇	2	**日本語学史□◇**	2					
		異文化接触と文化学習□◇	2	**日本語教授法Ⅰ□◇**	2					
		日本文化研究□◇	2	**東アジアの中の日本文化□◇**	2					
				異文化コミュニケーション教育□◇	2					
				第二言語習得理論□◇	2					
		※主専攻必修								
				日本語学Ⅲ（文法・文体）□	2	日本語学Ⅴ（談話）□	2			
				日本語学Ⅳ（文字・表記）□	2	日本語教育演習□	2			
				社会言語学□	2	異文化コミュニケーション教育演習□	2			
				比較日本文化論□	2					
				日本語学習とマルチメディア□	2					
		※主専攻選択								
				日本文学と文化	2	対照言語学	2	日本語教育実習Ⅱ	2	
						比較文化学演習	2			
						日本近代文学史	2			
						日本語学演習Ⅰ（文法・文体）	2			
						日本語学演習Ⅱ（文字・表記）	2			
						日本語学演習Ⅲ（談話）	2			

注1） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注2） 専門教育科目【共通】は、初等分野・中等分野のいずれかより同一科目を含まない8科目16単位を履修すること。

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	要履修単位
	専門教育科目【専門展開科目】	図画工作Ⅰ	2	特別活動の指導法	2	臨床心理学	2			
		英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）	2	発達心理学	2	道徳の指導法	2			
		英語基礎演習Ⅱ（文法・読解）	2	学校経営	2	社会	2			
		英語講読Ⅰ	2	生涯学習概論	4	理科	2			
		英語講読Ⅱ	2	国語(書写を含む)	2	生活	2			
		英語講読Ⅲ	2	算数	2	家庭	2			
		英語コミュニケーションⅠ	2	音楽Ⅱ	2	英語コミュニケーションⅤ	2			
		英語コミュニケーションⅡ	2	図画工作Ⅱ	2	英語コミュニケーションⅥ	2			
		社会情報学	2	体育	2	英語学Ⅰ（英語の歴史）	2			
		コンピュータサイエンスⅠ	2	国語科指導法(書写を含む)	2	英語学Ⅲ（英語の談話）	2			
		コンピュータサイエンスⅡ	2	英語基礎演習Ⅲ（文法・作文）	2	異文化理解	2			
		情報と職業	2	英語講読Ⅳ	2	データベース演習Ⅰ	2			
				英語講読Ⅴ	2	データベース演習Ⅱ	2			
				英語講読Ⅵ	2	情報セキュリティ	2			
				英語コミュニケーションⅢ	2	ヒューマンメディア	2			
				英語コミュニケーションⅣ	2	カウンセリング演習	4			
				英語学Ⅱ（英語の発音と音声）	2	心理療法概説	2			
				コンピュータネットワークⅠ	2	認知心理学	2			
				コンピュータネットワークⅡ	2	障害児・者の心理	2			
				マルチメディア表現Ⅰ	2	発達相談	2			
				マルチメディア表現Ⅱ	2	家族心理学	2			
				メディア社会論	2					
				情報倫理	2					
				社会心理学	2					

３－６　資格取得に必要な単位

≪教育学科　国際教育専攻　日本語教育コース≫　（卒業要件単位：124単位）

教育学科	総合教育科目		専門教育科目				小計	選択科目	合計
			共通	演習	日本語教育関連科目	専門展開科目		専門教育	
卒業要件	必修 38	選択必修 14	必修 16	必修 2	必修 28	—	必修 98	選択 26	124
日本語教員養成副専攻	38	14	16	2	30	—	100	24	124
日本語教員養成主専攻	38	14	16	2	46	—	116	(8)	124

※　「日本語教員」は法に基づく免許・資格制度ではありません。
※　（　）内の数値は、日本語教員養成の主専攻選択科目の単位数

Ⅴ．　キャリア開発教育について

本学では、皆さんのキャリア形成を支援するため、総合教育科目のキャリア開発教育科目として「教養基礎演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」「キャリア開発演習Ⅰ・Ⅱ」「教員基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「教員開発演習Ⅰ・Ⅱ」「養護教諭基礎演習Ⅰ」「養護教諭開発演習Ⅰ・Ⅱ」「保育キャリア基礎演習」「保育キャリア応用演習」「保育キャリア展開演習」「保育キャリア実践演習」を開講しています。これらの授業科目を皆さんの目標に合わせ受講することにより、皆さんの教養は確実に高まり、社会人として必要な基礎的知識はもちろんのこと、教員や保育士などに必要な専門的知識も著しく向上させることができます。それぞれの目標を達成できるように、積極的に授業に参加してください。

また、国家資格の取得を目指す学生のために、「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」「精神保健福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」「介護福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」を開講しています。

資格に関わるキャリア開発教育科目については、本学での資格取得に必要な科目となっています（詳細は各専攻のカリキュラム表を参照）。

本学では、授業の時間外においても、進路や学習の方法などについて、授業の担当教員やアカデミックアドバイザーの教員、キャリア支援室などから助言を受ける体制を整えたり、対策講座の開講など、皆さんのキャリア形成をバックアップしたいと考えています。

１．キャリア開発教育科目について

講義の概要

「教養基礎演習Ⅰ」は、アカデミックアドバイザーを中心とした演習として、４年間の生活の仕方の基礎を学習する科目で、１年次に開講します。

「教養基礎演習Ⅱ」「教養基礎演習Ⅲ」は、大学卒業程度の教養を身につけるために１・２年次に開講します。

「キャリア開発演習Ⅰ（教養）」「キャリア開発演習Ⅱ（教養）」は、教員・保育士以外の公務員や社会人に必要な教養を身につけるために、演習問題などを中心に幅広く学習する授業科目で、３・４年次に開講します。

「教員基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、教員になるための基礎知識や能力を身につけるために１・２年次に開講します。

「教員開発演習Ⅰ・Ⅱ」は教員に必要な専門知識を高めるための授業科目で、３・４年次に開講します。

「養護教諭基礎演習Ⅰ」は、養護教諭になるための基礎知識や能力を身につけるために２年次に開講します。

「養護教諭開発演習Ⅰ・Ⅱ」は養護教諭に必要な専門知識を高めるための授業科目で、３・４年次に開講します。

「保育キャリア基礎演習」「保育キャリア応用演習」「保育キャリア展開演習」「保育キャリア実践演習」は、保育士にとって必要な能力を高めるため、演習問題を中心に学習する授業科目です。

各「～開発演習Ⅱ」では、作文と面接指導を中心に授業を進め、応用能力を身につけることも目的としています。

学習の目標

キャリア開発教育科目を開講する主な目的は、以下の通りです。

(1)　大学卒業程度の教養を身につけること。

(2)　学生が希望する職種に就職するための一助となること。

この２つの目的を達成するために、次の学習目標を掲げています。

(1)　本科目の受講によって得た知識及び情報をもとに、大学卒業程度の幅広い教養を身につけるとともに、学生一人ひとりが自己の希望と適性に基づいて自らの進路を早期に発見し、進路に合わせた長期的・短期的な目標を設定しながら社会で果たすべき役割を自覚できる能力を身につけることが可能となります。

(2)　演習問題や進路に関するグループ学習・グループディスカッションを通して、問題解決能力を養うとともに、学生相互の援助・協力が可能となります。

(3)　学生の希望する進路を確実なものにするためには、学生個々の学力向上と的確な自己理解が不可欠です。そのため、全国模擬試験を実施するなど、必要な基礎学力を養成するとともに、自己の実力を把握します。

２．各種対策講座

資格取得に必要となるキャリア開発教育科目とは他に、公務員試験、保育士試験、各種国家資格試験、教員採用試験の対策講座を開講しています。1 次試験および 2 次試験対策として各種試験に有用な講義となっており、可能な限り受講を推奨しています。

Ⅵ. 取得できる資格

本学において所定の単位を修得することにより、取得できる免許状・資格は以下の通りです。
免許状・資格のなかには、取得できる学科などが限定されていたり、登録できるＧＰＡの基準が設けられていたり、履修費用が別途必要になるものもありますので、詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照してください。

(1)社会福祉士（国家資格）試験受験資格

社会福祉士とは、昭和63年4月1日から施行された社会福祉士及び介護福祉士法に基づいて、「社会福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上若しくは精神上の障害があること、または環境上の理由により、日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言・指導、福祉サービスを提供する者または医師その他の保健医療サービスを提供する者その他の関係者（福祉サービス関係者等）との連絡及び調整その他の援助を行うことを業とする者」をいいます。必要な単位を修得することにより、国家試験の受験資格が得られます。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【心理学科】

(2)介護福祉士（国家資格）試験受験資格

介護福祉士とは、昭和 63 年 4 月 1 日から施行された社会福祉士及び介護福祉士法に基づいて、「介護福祉士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、身体上又は精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある者につき心身の状況に応じた介護（喀痰吸引その他のその者が日常生活を営むのに必要な行為であって、医師の指示のもとに行われるものを含む。）を行い、並びにその者及びその介護者に対して介護に関する指導を行うことを業とする者」をいいます。必要な単位を修得することにより、国家試験の受験資格が得られます。

取得できる学科：【介護福祉コース】

(3)精神保健福祉士（国家資格）試験受験資格

精神保健福祉士とは、平成10年4月1日から施行された精神保健福祉士法に基づいて、「精神保健福祉士の名称を用いて、精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、又は精神障害者の社会復帰の促進を図ることを目的とする施設を利用している者の地域相談支援の利用に関する相談その他の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導、日常生活への適応のために必要な訓練その他の援助を行うことを業とする者」をいいます。必要な単位を修得することにより、国家試験の受験資格が得られます。

取得できる学科：【精神保健福祉専攻】【心理福祉専攻】【心理学科】

(4)教育職員免許状

Ａ. 高等学校教諭一種免許状「福祉」

平成12年の教育職員免許法の改正（免許教科「福祉」の新設など）を受けて、社会福祉学科では、平成13年度より、養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【心理学科】

Ｂ. 高等学校教諭一種免許状「公民」

社会福祉学科では、平成18年度より、養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【教育学科学校教育専攻】【心理学科】

Ｃ. 特別支援学校教諭一種免許状

特別支援学校の教諭になるための免許状です。社会福祉学科では、平成19年度より養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【教育学科学校教育専攻】【心理学科】

Ｄ. 幼稚園教諭一種免許状

幼稚園の教諭になるための免許状です。

保育児童学科では、平成17年度より養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【保育児童学科】【教育学科学校教育専攻】

Ｅ. 小学校教諭一種免許状

小学校の教諭になるための免許状です。

保育児童学科では、平成18年度より養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【保育児童学科】【社会福祉学科】

Ｆ. 小学校教諭一種免許状

小学校の教諭になるための免許状です。

教育学科では、平成19年度より養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【教育学科学校教育専攻・教育学科国際教育専攻国際教育コース】
【心理学科】

Ｇ. 養護教諭一種免許状

小・中・高等学校の養護教諭（保健室の教諭）になるための免許状です。

教育学科では、平成19年度より養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【教育学科学校教育専攻】【社会福祉学科】【保育児童学科】【心理学科】

Ｈ. 中学校教諭一種免許状「保健」

Ｉ. 高等学校教諭一種免許状「保健」

教育学科では、平成19年度より、養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【教育学科学校教育専攻】
【社会福祉学科　社会福祉コース・精神保健福祉専攻・経営福祉専攻】
【保育児童学科】【心理学科】

Ｊ. 中学校教諭一種免許状「英語」

Ｋ. 高等学校教諭一種免許状「英語」

教育学科では、平成19年度より、養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【教育学科学校教育専攻・教育学科国際教育専攻国際教育コース】

Ｌ. 高等学校教諭一種免許状「情報」

教育学科では、平成19年度より、養成課程が文部科学省に認定されています。

取得できる学科：【教育学科学校教育専攻】

(5)保育士資格（国家資格）

児童福祉法に定められた施設で、乳幼児から18歳までの児童保育に従事する時に必要な資格です。本学では、社会福祉学科は平成15年度より、保育児童学科は平成17年度より養成課程が厚生労働省に認定されています。

取得できる学科：【保育児童学科】
【社会福祉学科　社会福祉専攻　社会福祉コース・精神保健福祉専攻】

(6)第一種衛生管理者免許（国家資格）

職場における労働者の健康管理、快適な職場環境づくりを行うための国家資格です。常時50人以上の労働者を使用する事業所には、労働安全衛生法により衛生管理者の選任が義務づけられています。一種と二種があり、社会福祉学科では指定科目の修得により、一種の免許が無試験で取得できます。

取得できる学科：【社会福祉学科】

(7)社会教育主事［基礎資格］（社会教育士）（文部科学大臣認定資格）

社会教育主事は、都道府県及び市町村の教育委員会の事務局に置かれる専門的職員で社会教育を行う者に対する専門的技術的な助言・指導に当たる役割を担います。また、社会教育主事補は、社会教育主事の職務を補助する役割を担います。社会教育士は、専門知識を有していることを表す称号であり（国家資格ではない）今後、首長部局や NPO、民間企業の地域貢献部門等に配置され、社会教育主事と連携・協働して事業を実施することが期待されています。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【教育学科学校教育専攻】【心理学科】

(8)社会福祉主事任用資格（厚生労働大臣認定資格）

社会福祉主事とは、社会福祉法、生活保護法、児童福祉法等の施行に関する事務を担当するケースワーカーのことで、都道府県や市区町村に配置され、福祉事務所に所属します。大学などにおいて、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目3科目を修得し、卒業することにより取得します。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【教育学科】【心理学科】

(9)児童指導員任用資格（厚生労働大臣認定資格）

児童指導員とは、**児童福祉施設**に勤務し、子どもたちが豊かな人間に成長するよう、生活指導や学習指導、生活上のアドバイスなどを行う専門職員のことです。児童相談所や子どもの通学する学校との連絡、子どもをめぐる親との連絡・面接など、子どもの養育と社会関係の調整にも当たります。福祉系大学、もしくは心理学、教育学、社会学を専修する学科などを卒業することにより取得します。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【教育学科】【心理学科】

(10)児童福祉司任用資格（厚生労働大臣認定資格）

児童相談所で悩みや問題を持つ子どもやその親から相談を受け、学校や関係諸機関と連携しながら、自分達で問題を解決していけるよう援助、指導を行う児童福祉司に任用されるための資格です。平成17年4月１日以降は、児童福祉法の改正により、任用資格を得るために

は、福祉系大学、もしくは心理学、教育学、社会学を専修する学科などを卒業し、厚生労働省が定める施設（指定施設）において、1年以上相談援助業務を積むか、社会福祉士資格を取得する必要があります（児童福祉法第13条第2項第2号）。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【教育学科】【心理学科】

(11)身体障害者福祉司任用資格（厚生労働大臣認定資格）

福祉事務所や**身体障害者更生相談所**で、身体に障害を持つ方やその家族から相談を受け、リハビリテーションや社会復帰に関する指導などを行う身体障害者福祉司に任用されるための資格です。大学において厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修得し、卒業することにより取得します。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【教育学科】【心理学科】

(12)知的障害者福祉司任用資格（厚生労働大臣認定資格）

福祉事務所や**知的障害者更生相談所**で、知的障害者に関する日常生活、就職、施設入所などの相談、指導を行う知的障害者福祉司に任用されるための資格です。厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修得し、卒業することにより取得します。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【教育学科】【心理学科】

(13)認定心理士（＜公社＞日本心理学会認定資格）

認定心理士は、心理学の専門家として、仕事をする上で必要な、標準的、基礎的学力と技能を修得していることを証明する資格として、心理学系の4年制大学を卒業した人を対象に認定されます。大学卒業時に＜公社＞日本心理学会に申請すればこの資格が得られます。

取得できる学科：【心理福祉専攻】【心理学科】【教育学科学校教育専攻】

(14)公認心理師（国家資格）試験受験資格（公認心理師受験基礎資格（大学））

公認心理師とは、平成 29 年 9 月 15 日から施行された公認心理師法に基づいて公認心理師登録簿への登録を受け、公認心理師の名称を用いて、保健医療、福祉、教育その他の分野において、心理学に関する専門的知識及び技術をもって、次に掲げる行為を行うことを業とする者をいいます。

(1) 心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析
(2) 心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助
(3) 心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助
(4) 心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供

公認心理師国家試験受験資格を得るためには、大学において公認心理師になるために必要と定められた科目を全て修得した後（公認心理師受験基礎資格（大学）の取得）、大学院に進学し、省令で定める科目を修得、または特定の養成プログラムを擁すると国に認定された施設で働くことが必要です。

取得できる学科：【心理福祉専攻】【心理学科】

(15)レクリエーション・インストラクター資格（＜公財＞日本レクリエーション協会認定資格）

レクリエーションの技術指導の方法を習得し、様々な遊びを多くの人に提供することので

きる入門的な資格として、＜公財＞日本レクリエーション協会が認定する資格です。
本学では指定科目などの履修により、希望者が資格を取得できます。

取得できる学科：【社会福祉学科】【保育児童学科】【教育学科】【心理学科】

(16) スクール（学校）ソーシャルワーカー資格（＜一社＞日本社会福祉士養成校協会認定資格）

スクールソーシャルワーカーは、個々の児童生徒のニーズに応じて支援を行う、ソーシャルワークの専門職です。生徒の相談相手になったり一緒に活動したりという直接的支援だけでなく、保護者や教職員への気持ちの代弁、問題解決に必要な情報の提供、学校関係者と地域機関との連携の促進、児童相談所などの機関への橋渡しといった包括的な支援活動が求められます。これらの支援は、ソーシャルワークの専門知識と技術、およびその理念に基づいて行われる必要があるため、社会福祉士、または精神保健福祉士の資格を所有している必要があります。

本学では＜一社＞日本社会福祉士養成校協会よりスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程の認定を受けており、指定科目を履修し、社会福祉士または精神保健福祉士登録証の写しを提出することにより、教育課程修了証の交付を受けることが可能です。

取得できる学科：【社会福祉コース・精神保健福祉専攻・経営福祉専攻・心理福祉専攻】

Ⅶ.　資格取得の方法

１．社会福祉士受験資格の取得について

社会福祉士の受験資格を取得するためには、社会福祉士受験資格指定科目を修得しなければなりません。

本学では、社会福祉学科社会福祉専攻社会福祉コースの全学生が、社会福祉専攻介護福祉コース、精神保健福祉専攻、経営福祉専攻、心理福祉専攻、保育児童学科、心理学科では希望する学生が、受験資格を取得することができます。取得するためには、「社会福祉に関する科目を定める省令の一部を改正する省令」(令和２年文部科学省･厚生労働省令第１号)に規定された、下記の指定科目に該当する本学開講科目すべての単位を修得しなければなりません。

なお、「社会福祉士国家試験」の詳細については、公益財団法人 社会福祉振興・試験センターのホームページ（http://www.sssc.or.jp/）を参照してください。

	指定科目	本学開講科目（単位）	
1	医学概論	人体の構造と機能及び疾病	2
2	心理学と心理的支援	心理学概論	2
3	社会学と社会システム	社会学概論	2
4	社会福祉の原理と政策	社会福祉原論	4
5	社会福祉調査の基礎	社会調査法	2
6	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職	2
7	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2
8	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	4
9	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	4
10	地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論	4
11	福祉サービスの組織と経営	社会福祉運営管理論	2
12	社会保障	社会保障論　※1	4
13	高齢者福祉	高齢者福祉論	2
14	障害者福祉	障害者福祉論	2
15	児童・家庭福祉	児童・家庭福祉論	2
16	貧困に対する支援	公的扶助論	2
17	保健医療と福祉	保健医療	2
18	権利擁護を支える法制度	権利擁護と成年後見	2
19	刑事司法と福祉	更生保護	2
20	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
21	ソーシャルワーク演習（専門）	ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅳ ソーシャルワーク演習Ⅴ	2 2 2 2
22	ソーシャルワーク実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2 2 2
23	ソーシャルワーク実習	ソーシャルワーク実習	6

☆本学開講科目すべての単位を修得すること。

※1. 介護福祉コースでは、「社会保障論」の代わりの科目として、「社会保障制度Ⅰ」「社会保障制度Ⅱ」を受講すること。

(1)　実習の目的について

社会に貢献できる社会福祉士は、豊かな情操と確かな倫理観を備えもち、豊かな教養と専門知識に基づいて、福祉サービスを実践する能力を持っていることが必須です。

本学では、これに国際的視野を加え、福祉対象者を家庭・友人・職場との関わりの中で生活する個人として捉えるだけではなく、より大きな地域社会や日本という国家や国際社会の一員として捉え、最高の技術で援助サービスを実行できる人材を社会に送り出すことを目的としています。

そのために総合教育科目、専門教育科目において様々な必修・選択科目を用意し、皆さんの知識・技術を深めるために、４年間の学校生活を通して計 240～560 時間の現場実習を課しました。実習は、学校で学んだ原理や方法論を実際に援助技術として活用し、その経験により更に高度な技術を習得し、かつそれを通して社会福祉士としての自己を学び成長させることを目的としています。

(2)　ソーシャルワーク実習の概要

実習（実習施設の配属を含め）については、「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の授業の中で具体的なオリエンテーションが行われ、そこで「ソーシャルワーク実習の手引き」が配付されますので、よく読んで確認してください。

1)　社会福祉学部　社会福祉学科　社会福祉専攻　社会福祉コース

区　分	資格要件	履修時期		実習時間数	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	必修	2年次 秋期	10月 ～2月		
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ （ソーシャルワーク基礎実習と並行履修）	必修	3年次 春期	4月 ～9月		
ソーシャルワーク基礎実習※①　※⑤	必修		6月 集中	80時間	1日8時間 × 10日間
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ （ソーシャルワーク実習と並行履修）	必修	3年次 秋期	10月 ～2月		
ソーシャルワーク実習(A)※②※③※⑤	必修		10月～12月	184時間以上	週16時間（2日） ×11.5週間(23日間)
ソーシャルワーク実習(B)※②※③※⑤	必修		2月～3月	56時間以上	1日8時間 × 7日間
ソーシャルワーク実習Ⅱ※④　※⑤	選択	4年次 春期	4月 ～9月	240時間	週16時間（2日） ×15週間(30日間)

＜※注意＞

① 「ソーシャルワーク基礎実習」は、社会福祉士受験資格取得のための本学独自の必修科目。履修するには、「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の単位を修得していること。

② 「ソーシャルワーク実習」を履修するには、「ソーシャルワーク基礎実習」の単位を修得していること。

③ 「ソーシャルワーク実習」は、機能の異なる２ヶ所以上の実習施設等で実習を行うこととする。

④ 「ソーシャルワーク実習Ⅱ」は、社会福祉コースのみ履修可能となる。履修するには、「ソーシャルワーク実習」の単位を修得していること。

⑤ 実習配属は福祉実習専門部会の協議を経て決定する。
福祉実習専門部会の協議により、上記①②④の理由以外（2年次春期終了時の通算 GPA 値が 2.0 未満、社会性が身についていないと判断される場合等）によっても、実習配属を行わない場合がある。

2)　社会福祉学部　社会福祉学科　社会福祉専攻　介護福祉コース（希望者のみ）
　　社会福祉学部　社会福祉学科　精神保健福祉専攻（希望者のみ）

区　　分	資格要件	履修時期		実習時間数	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	必修	3年次 春期	4月 ～9月		
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	必修	3年次 秋期	10月 ～2月		
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ （ソーシャルワーク実習と並行履修）	必修	4年次 春期	4月 ～9月		
ソーシャルワーク実習(A) **※①　※②　※③**	必修		7月 ～8月	184時間 以上	1日8時間 × 23日間

＜※注意＞

① 「ソーシャルワーク実習」を履修するには、介護福祉コース・精神保健福祉専攻の学生は「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ」の単位を修得していること。

② 実習配属は福祉実習専門部会の協議を経て決定する。
福祉実習専門部会の協議により、上記①の理由以外（3年次春期終了時の通算GPA値が2.0未満、社会性が身についていないと判断される場合等）によっても、実習配属を行わない場合がある。

③ 介護実習Ⅰ～Ⅲ、または精神保健福祉実習を履修（履修中含む）した者は184時間以上（1日8時間×23日間）となる。

3)　社会福祉学部　社会福祉学科　社会福祉専攻　社会福祉コース　三年次編入生
　　社会福祉学部　社会福祉学科　経営福祉専攻（希望者のみ）
　　社会福祉学部　社会福祉学科　心理福祉専攻（希望者のみ）
　　心理学部　心理学科（希望者のみ）

区　　分	資格要件	履修時期		実習時間数	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	必修	3年次 春期	4月 ～9月		
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ （ソーシャルワーク基礎実習と並行履修）	必修	3年次 秋期	10月 ～2月		
ソーシャルワーク基礎実習（集中） **※①※③**	必修		2月～ 3月集中	80時間	1日8時間 × 10日間
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ （ソーシャルワーク実習と並行履修）	必修	4年次 春期	4月 ～9月		
ソーシャルワーク実習(B)※②※③※④	必修		6月	56時間 以上	1日8時間 × 7日間
ソーシャルワーク実習(A)※②※③※⑤	必修		7月～8月	184時間 以上	1日8時間 × 23日間

＜※注意＞

① 「ソーシャルワーク基礎実習」は、社会福祉士受験資格取得のための本学独自の必修科目。履修するには、「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の単位を修得していること。

② 「ソーシャルワーク実習」を履修するには、「ソーシャルワーク基礎実習」の単位を修得していて、「ソーシャルワーク実習指導Ⅲ」と同時に履修すること。

③ 実習配属は福祉実習専門部会の協議を経て決定する。

福祉実習専門部会の協議により、上記①②の理由以外（3 年次春期終了時の通算 GPA 値が 2.0 未満、社会性が身についていないと判断される場合等）によっても、実習配属を行わない場合がある。

④ 「ソーシャルワーク実習」は、機能の異なる 2 ヶ所以上の実習施設等で実習を行うこととする。

4) 保育児童学部　保育児童学科（希望者のみ）

区　　分	資格要件	履修時期		実習時間数	
ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	必修	3 年次春期	4 月～9 月		
ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（ソーシャルワーク実習（A）と並行して行う）	必修	3 年次秋期	10 月～2 月		
ソーシャルワーク実習(A) ※①※②※③※⑤	必修		2 月～3 月	184 時間以上	1 日 8 時間 × 23 日間
ソーシャルワーク実習(B) ※①※②※③※⑤	必修	4 年次春期	6 月	56 時間以上	1 日 8 時間 × 7 日間
ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（ソーシャルワーク実習（B）と並行履修）	必修		4 月～9 月		

＜※注意＞

① 「ソーシャルワーク実習」を履修するには、保育児童学科の学生は「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」の単位を修得していること。

② 「ソーシャルワーク実習」は、機能の異なる 2 ヶ所以上の実習施設等で実習を行うこととする。

③ 実習配属は福祉実習専門部会の協議を経て決定する。
福祉実習専門部会の協議により、上記①の理由以外（3 年次春期終了時の通算 GPA 値が 2.0 未満、社会性が身についていないと判断される場合等）によっても、実習配属を行わない場合がある。

④ 「ソーシャルワーク実習」の履修登録は 4 年次に行う。

※外国人留学生（日本語を第一言語としない）に求められる実習前の準備

実習では利用者や専門職との適切な関わりを持つためのコミュニケーション能力、様々な実習体験に対しての分析・考察力、それらを文章化し発表する能力が必要となります。外国人留学生で実習を履修する場合には、実習をクリアできるために必要な日本語能力を事前に準備されることが求められます。具体的には日本語能力試験で N1、生活・職能日本語検定試験で上級以上、実用日本語検定で準 B 級以上の証明書を保持すること、あるいはそれと同等とみなされる日本語能力の習得に努めてください。

(3) 社会福祉士国家試験受験資格を取得するために必要な費用

資格取得に伴う諸経費は、以下の通りです。

学科・専攻	課程履修費	ソーシャルワーク基礎実習費	ソーシャルワーク実習費	合計
社会福祉コース		23,000 円	53,000 円	76,000 円
経営福祉専攻		23,000 円	53,000 円	76,000 円
心理福祉専攻		23,000 円	53,000 円	76,000 円
心理学科		23,000 円	53,000 円	76,000 円
精神保健福祉専攻			53,000 円	53,000 円
介護福祉コース			53,000 円	53,000 円
保育児童学科	231,000 円		53,000 円	284,000 円

(4)　実習施設について

実習施設は、厚生労働省により定められている施設・機関において、以下の表の種別から福祉実習専門部会で配属を決定します。

法制上の区分	実習可能な施設種別
1. 児童福祉法(昭和 22 年法律第 164 号）に規定する施設	児童相談所、乳児院、母子生活支援施設、児童養護施設、福祉型障害児入所施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、児童家庭支援センター、指定発達支援医療機関、障害児通所支援事業及び障害児相談支援事業、小規模住居型児童養育事業を行う施設
2. 医療法（昭和 23 年法律第 205 号）に規定する施設	病院及び診療所
3. 身体障害者福祉法（昭和 24 年法律第 283 号）に規定する施設	身体障害者更生相談所及び身体障害者福祉センター
4. 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）に規定する施設	精神保健福祉センター
5. 生活保護法(昭和 25 年法律第 144 号）に規定する施設	救護施設、更生施設、授産施設及び宿泊提供施設
6. 社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）に規定する施設	福祉に関する事務所及び市町村の区域を単位とする社会福祉協議会の事務所
7. 売春防止法（昭和 31 年法律 118 号）に規定する施設	婦人相談所及び婦人保護施設
8. 知的障害者福祉法（昭和 35 年法律第 37 号）に規定する施設	知的障害者更生相談所
9. 障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和 35 年法律第 123 号）に規定する施設	広域障害者職業センター、地域障害者職業センター及び障害者就業・生活支援センター
10. 老人福祉法（昭和 38 年法律第 133 号）に規定する施設	老人デイサービスセンター、老人短期入所施設、養護老人ホーム、特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、老人福祉センター、老人介護支援センター及び有料老人ホーム並びに老人デイサービス事業
11. 母子及び父子並びに寡婦福祉法（昭和 39 年法律第 129 号）に規定する施設	母子・父子福祉センター
12. 更生保護事業法（平成 7 年法律第 86 号）に規定する施設	更生保護施設
13. 介護保険法(平成 9 年法律第 123 号）に規定する施設	介護老人保健施設、介護医療院及び地域包括支援センター並びに居宅サービス事業のうち通所介護、通所リハビリテーション、短期入所生活介護、短期入所療養介護又は特定施設入居者生活介護を行う事業、地域密着型サービス事業のうち地域密着型通所介護、認知症対応型通所介護、小規模多機能型居宅介護、認知症対応型共同生活介護、地域密着型特定施設入居者生活介護、地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護又は複合型サービスを行う事業、居宅介護支援事業、介護予防サービス事業のうち介護予防通所リハビリテーション、介護予防短期入所生活介護又は介護予

	防短期入所療養介護を行う事業、地域密着型介護予防サービス事業のうち介護予防認知症対応型通所介護、介護予防小規模多機能型居宅介護又は介護予防認知症対応型共同生活介護を行う事業、介護予防支援事業並びに地域支援事業のうち第一号通所事業又は第一号介護予防支援事業
14. 独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園法(平成 14 年法律第 167 号)に規定する施設	独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園が設置する施設
15. 発達障害者支援法(平成 16 年法律第 167 号)に規定する施設	発達障害者支援センター
16.障害者総合支援法（平成 17 年法律第 123 号）に規定する施設	障害者支援施設、福祉ホーム及び地域活動支援センター並びに障害福祉サービス事業のうち療養介護、生活介護、短期入所、重度障害者等包括支援、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援、自立生活援助及び共同生活援助を行う事業並びに一般相談支援事業又は特定相談支援事業、基幹相談支援センター
17. 高齢者又は身体障害者に対し老人福祉法第 10 条の 4 第 1 項第 2 号に規定する便宜又は障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律附則第 8 条 1 項第 6 号に規定する障害者デイサービスのうち同法附則第 34 条の規定による改正前の身体障害者福祉法第 4 条の 2 第 3 項に規定する身体障害者デイサービスを供与し、あわせて高齢者、身体障害者等に対する食事の提供その他の福祉サービスで地域住民が行うものを提供するための施設	
18. 前各号に準じる施設又は事業※	※【18】社会福祉士養成課程における相談援助実習を行う実習施設等の範囲について（令和 2 年 20 年 113 月 6 日社援発 0306 第 25 号厚生労働省社会・援護局長通知）
① 身体障害者福祉工場の設置運営要綱に基づく身体障害者福祉工場 ② 知的障害者福祉工場の設置運営要綱に基づく知的障害者福祉工場 ③ 重症心身障害児(者)通園事業実施要綱に基づく重症心身障害児(者)通園事業を行う施設 ④ ホームレス自立支援事業実施要綱に基づくホームレス自立支援センター ⑤ 地域福祉センター設置運営要綱に基づく地域福祉センター ⑥ 隣保館の設置運営に基づく隣保館 ⑦ 市町村子ども家庭総合支援拠点設置運営要網に基づく子ども家庭総合支援 ⑧ 子育て世代包括支援センターの設置運営に基づく子育て世代包括支援センター ⑨ 地域若者サポートステーション事業により設置される地域若者サポートステーション ⑩ 子ども・若者支援地域協議会設置・運営指針に基づく子ども・若者総合相談センター ⑪ 成年後見制度の利用の促進に関する法律に基づく権利擁護支援の地域連携ネットワークづくりにおいて設置される中核機関 ⑫ 「指定施設における業務の範囲等及び介護福祉士試験の受験資格の認定に係る介護等の業務の範囲等について」に掲げる施設 ⑬ 独立型社会福祉士事務所 ⑭ 福祉に関する業務を行うことが定款、実施要網等において明記されている法人	

★「社会福祉士介護福祉士養成施設指定規則第 3 条第 1 号ヲ及び第 5 条第 14 号イ、社会福祉士介護福祉士学校指定規則第 3 条第 1 号ヲ及び第 5 条第 14 号イ並びに社会福祉に関する科目を定める省令第 4 条第 6 号の規定に基づき厚生労働大臣が別に定める施設及び事業」（昭和 62 年厚生省告示第 203 号）（抄）（最終改正　令和 2 年 4 月 1 日施工）【「相談援助実習」における実習施設】より

(5)　実習巡回指導・帰校指導について

本学実習担当教員は、各々の担当実習生の実習期間中に実習先へ巡回指導のため訪問をします。そこでは現場実習指導者と学生の実習実施状況を把握し、学生への指導を通して、学習レベルに応じた課題・学習内容などの調整・変更を行います。

大学と実習施設・機関との綿密な連携のもと、実習現場での学びをより一層意義深いものとするため、週１回以上の定期的巡回指導、またそれに代わる方法として帰校指導日を設定しています。

(6)　福祉専門職支援について

本学では、実習担当職員によって構成されるキャリア支援室を設置しており、皆さんの実習についての計画・指導実施や実習についての相談に随時応じています。

２．精神保健福祉士受験資格の取得について

精神保健福祉士の受験資格を取得するためには、精神保健福祉士受験資格指定科目を修得しなければなりません。

本学では、社会福祉学科精神保健福祉専攻の全学生と、心理福祉専攻、心理学科の希望者が、受験資格を取得することができます。取得するためには、「精神障害者の保健及び福祉に関する科目を定める省令」（平成 23 年 8 月 5 日文部科学省・厚生労働省令第 3 号）に規定された、下記の指定科目に該当する本学開講科目すべての単位を修得しなければなりません。

なお、「精神保健福祉士国家試験」の詳細については、公益財団法人 社会福祉振興・試験センターのホームページ（http://www.sssc.or.jp/）を参照してください。

	指定科目	本学開講科目（単位）	
1	医学概論	人体の構造と機能及び疾病	2
2	心理学と心理的支援	心理学概論	2
3	社会学と社会システム	社会学概論	2
4	社会福祉の原理と政策	社会福祉原論	4
5	地域福祉と包括的支援体制	地域福祉論	4
6	社会保障	社会保障論	4
7	障害者福祉	障害者福祉論	2
8	権利擁護を支える法制度	権利擁護と成年後見	2
9	刑事司法と福祉	更生保護	2
10	社会福祉調査の基礎	社会調査法	2
11	精神医学と精神医療	精神疾患とその治療	4
12	現代の精神保健の課題と支援	精神保健学	4
13	ソーシャルワークの基盤と専門職	ソーシャルワークの基盤と専門職	2
14	精神保健福祉の原理	精神保健福祉の原理	4
15	ソーシャルワークの理論と方法	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	4
16	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	ソーシャルワークの理論と方法（専門）	4
17	精神障害リハビリテーション論	精神障害リハビリテーション論	2
18	精神保健福祉制度論	精神保健福祉制度論	2
19	ソーシャルワーク演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2
20	ソーシャルワーク演習（専門）	精神保健福祉演習Ⅰ 精神保健福祉演習Ⅱ 精神保健福祉演習Ⅲ	2 2 2
21	ソーシャルワーク実習指導	精神保健福祉実習指導Ⅰ 精神保健福祉実習指導Ⅱ 精神保健福祉実習指導Ⅲ	2 2 2
22	ソーシャルワーク実習	精神保健福祉実習	6

※本学開講科目すべての単位を修得すること。

(1)　実習の目的について

精神保健福祉士法の「精神保健福祉実習」における目標が示しているように、より高度な課程探究能力を相談援助の実践能力の養成を目的として、本学の精神保健福祉実習教育は次に掲げる内容を重視しています。

学生は精神保健福祉実習経験を通して、

① 精神保健福祉の理念と価値を学習する。
② 利用者との人権と精神保健福祉ニーズの独自性を学ぶ。
③ 問題解決に効果的な精神保健福祉援助方法を学習する。
④ 精神保健福祉専門職として職業倫理について学ぶ。
⑤ 精神保健福祉援助を評価する調査方法を学習する。
⑥ 施設・医療機関の機能、役割と職員の職種や職能について学ぶ。
⑦ 施設・医療機関の運営や社会資源の活用の方法を学習する。
⑧ 施設・医療機関を利用する人と家族との関係や支援のあり方について学ぶ。
⑨ 施設・医療機関と地域社会のあり方について学習する。

そのために総合教育科目、専門教育科目においてさまざまな必修・選択科目を用意し、皆さんの知識・技術を深めるために、4 年間の学校生活を通して計 230～310 時間の現場実習を課しました。実習は、学校で学んだ原理や方法論を実際に援助技術として活用し、その経験により更に高度な技術を習得し、かつそれを通して精神保健福祉士としての自己を学び成長させることを目的としています。

(2) 精神保健福祉実習の概要

実習（実習施設の配属を含め）については、「精神保健福祉実習指導Ⅰ」の授業の中で具体的なオリエンテーションが行われ、そこで「精神保健福祉実習の手引き」が配布されますので、よく読んで確認してください。

1) 社会福祉学部　社会福祉学科　精神保健福祉専攻

区　分	資格要件	履修時期		実習時間数	
精神保健福祉実習指導Ⅰ	必修	2 年次秋期	10 月～2 月		
精神保健福祉実習指導Ⅱ（ソーシャルワーク基礎実習と並行履修）	必修	3 年次春期	4 月～9 月		
ソーシャルワーク基礎実習※① ※③	必修		6 月集中	80 時間	1 日 8 時間 × 10 日間
精神保健福祉実習指導Ⅲ（精神保健福祉実習と並行履修）	必修	3 年次秋期	10 月～2 月		
精神保健福祉実習（A）※② ※③	必修		10 月～12 月	140 時間	週 16 時間（2 日）×9 週間(18 日間)
精神保健福祉実習（B）	必修		2 月～3 月	90 時間	1 日 8 時間 × 12 日間

＜※注意＞

① 「ソーシャルワーク基礎実習」は、精神保健福祉士受験資格取得のための本学独自の必修科目。履修するには、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」および「精神保健福祉演習Ⅰ」「精神保健福祉実習指導Ⅰ」の単位を修得していること。

② 「精神保健福祉実習」を履修するには、「ソーシャルワーク基礎実習」の単位を修得していること。

③ 実習配属は福祉実習専門部会の協議を経て決定する。
福祉実習専門部会の協議により、上記①②の理由以外（2 年次春期終了時の通算 GPA 値が 2.0 未満、社会性が身についていないと判断される場合等）によっても、実習配属を行わない場合がある。

2)　社会福祉学部　社会福祉学科　心理福祉専攻（希望者のみ）
心理学部　心理学科（希望者のみ）

区　　分	資格要件	履修時期		実習時間数	
精神保健福祉実習指導Ⅰ	必修	3年次春期	4月～9月		
精神保健福祉実習指導Ⅱ（精神保健福祉実習(A)と並行して行う）	必修	3年次秋期	10月～2月		
精神保健福祉実習(A)※①　※②　※③　※④	必修		2月～3月	140時間	1日8時間 × 18日間
精神保健福祉実習指導Ⅲ（精神保健福祉実習(B)と並行履修）	必修	4年次春期	4月～9月		
精神保健福祉実習(B)※③　※④	必修		7月～8月	90時間	1日8時間 × 12日間

＜※注意＞

①　「精神保健福祉実習」を履修するには、「ソーシャルワーク演習Ⅰ」および「精神保健福祉演習Ⅰ」「精神保健福祉実習指導Ⅰ」の単位を修得していること。

②　実習配属はソーシャルワーク実習部会の協議を経て、福祉実習専門部会で決定する。
福祉実習専門部会の協議により、上記①の理由以外（社会性が身についていないと判断される場合等）によっても、実習配属を行わない場合がある。

③　実習配属は福祉実習専門部会の協議を経て決定する。
福祉実習専門部会の協議により、上記①②の理由以外（2年次春期終了時の通算GPA値が2.0未満、社会性が身についていないと判断される場合等）によっても、実習配属を行わない場合がある。

④　「精神保健福祉実習」の履修登録は4年次に行う。

(3)　精神保健福祉士国家試験受験資格を取得するために必要な費用

資格取得に伴う諸経費は、以下の通りです。

学科・専攻	課程履修費	ソーシャルワーク基礎実習費	精神保健福祉実習費	合計
精神保健福祉専攻		23,000円	53,000円	76,000円
心理福祉専攻			53,000円	53,000円
心理学科			53,000円	53,000円

(4)　実習施設について

実習施設は、厚生労働省により定められている施設・機関において、以下の表の種別から福祉実習専門部会で配属を決定します。

法制上の区分	実習可能な施設種別
―	精神科病院
―	市役所、区役所、町村役場 ※ 精神障害者に対してサービスを提供する部署に限る
・地域保健法（昭和22年法律第101号）に規定する施設	保健所、市町村保健センター
・児童福祉法（昭和22年法律第164	障害児通所支援事業（医療型児童発達支援を除く。）、障害

号）に規定する施設	児相談支援事業を行う施設、児童自立生活援助事業を行う施設、乳児院、児童相談所、母子生活支援施設、児童養護施設、福祉型障害児入所施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、児童家庭支援センター ※ 精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
・医療法（昭和 23 年法律第 205 号）に規定する施設	病院、診療所 ※ 精神病床を有するもの又は精神科若しくは心療内科を広告しているものに限る
・精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和 25 年法律第 123 号）に規定する施設	精神保健福祉センター
・生活保護法（昭和 25 年法律第 144 号）に規定する施設	救護施設、更生施設 ※ 精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
・社会福祉法（昭和 26 年法律第 45 号）に規定する施設	福祉に関する事務所、市町村社会福祉協議会 ※ 精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
・知的障害者福祉法（昭和 35 年法律第 37 号）に規定する施設	知的障害者更生相談所 ※ 精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
・障害者の雇用の促進等に関する法律（昭和 35 年法律第 123 号）に規定する施設	広域障害者職業センター、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター ※ 精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
・法務省設置法（平成 11 年法律第 93 号）に規定する施設	保護観察所 ※ 精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
・更生保護事業法（平成 7 年法律第 86 号）に規定する施設	更生保護施設 ※ 精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
・発達障害者支援法(平成 16 年法律第 167 号)に規定する施設	発達障害者支援センター ※ 精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
・障害者総合支援法（平成 17 年法律第 123 号）に規定する施設	障害福祉サービス事業（生活介護、短期入所、重度障害者等包括支援、自立訓練、就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援、自立生活援助又は共同生活援助を行うものに限る）、一般相談支援事業若しくは特定相談支援事業を行う施設、障害者支援施設、地域活動支援センター、福祉ホーム、基幹相談支援センター ※ 精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
・介護保険法（平成 9 年法律第 123 号）	地域包括支援センター
・前各号に掲げる施設に準ずる施設	【精神保健福祉士法第二条第十四号の規定に基づき厚生労働大臣が定める施設】（平成 23 年厚生労働省告示第 277 号）
一 精神障害者地域生活支援センター	
二 精神障害者が住み慣れた地域を拠点とし、本人が充実した生活を送ることができるよう、関係機関の連携の下で、医療、福祉等の支援を行うという観点から、統合失調症を始めとする入院患者の減少及び地域生活への移行に向けた支援並びに地域生活を継続するための支援を推進する事業を実施する施設	
三 いじめ、不登校、暴力行為、児童虐待など生徒指導上の課題に対応するため、教育分野に関する知識に加えて、社会福祉等の専門的な知識・技術を用いて、児童生徒の置かれた様々な環境に働きかけて支援を行うスクールソーシャルワーカーを配置し、教育相談体制を整備する事業を実施する施設	

四	ホームレスの自立の支援等に関する特別措置法（平成 14 年法律第 105 号）に規定するホームレス自立支援事業を実施する施設　※精神障害者に対してサービスを提供するものに限る
五	前各号に掲げるもののほか、厚生労働大臣が認める施設

★「精神保健福祉士短期養成施設等及び精神保健福祉士一般養成施設等指定規則第 3 条第 1 項第 10 号及び精神障害者の保健及び福祉に関する科目を定める省令第 1 条第 7 項の規定に基づき厚生労働大臣が別に定める施設及び事業」（平成 10 年厚生省告示第 10 号　最終改正　令和 2 年 4 月 1 日施行）

（5）　実習巡回指導・帰校指導について

本学実習担当教員は、各々の担当実習生の実習期間中に実習先へ巡回指導のため訪問をします。そこでは現場実習指導者と学生の実習実施状況を把握し、学生への指導を通して、学習レベルに応じた課題・学習内容などの調整・変更を行います。

大学と実習施設・機関との綿密な連携のもと、実習現場での学びをより一層意義深いものとするため、週 1 回以上の定期的巡回指導、またそれに代わる方法として帰校指導日を設定しています。

（6）　福祉専門職支援について

本学では、実習担当職員によって構成されるキャリア支援室を設置しており、皆さんの実習についての計画・指導実施や実習についての相談に随時応じています。

３．教育職員免許状の取得について

本学では、教員養成課程の認定を文部科学省より受けており、教員養成課程において定められた科目を履修すれば、下記の教育職員免許状を取得することが可能です。

教育職員免許法により授与される免許状は、教育職員免許法に定められている科目を履修し単位を修得した後、本人の申請に基づき、都道府県の教育委員会より与えられます。

取得できる免許状の種類		免許状の概略	取得が可能な学科
A	高等学校教諭一種免許状「福祉」	高等学校の「福祉科」の教諭となるために必要な免許状	社会福祉学科 ※保育児童学科 ※心理学科
B	高等学校教諭一種免許状「公民」	高等学校の「公民科」の教諭となるために必要な免許状	社会福祉学科 ※保育児童学科 ※教育学科学校教育専攻 ※心理学科
C	特別支援学校教諭一種免許状	特別支援学校の教諭となるために必要な免許状 基礎免許状の種類・教科に応じて特別支援学校の教諭となることが可能 例）基礎免許状が「高等学校教諭一種免許状」の場合は特別支援学校「高等部」の教諭となることが可能	
D	幼稚園教諭一種免許状	幼稚園の教諭となるために必要な免許状	保育児童学科 ※教育学科学校教育専攻
E F	小学校教諭一種免許状	小学校の教諭となるために必要な免許状	E：保育児童学科 ※社会福祉学科 F：教育学科 ※心理学科
G	養護教諭一種免許状	小学校、中学校、高等学校等の養護教諭となるために必要な免許状	教育学科学校教育専攻 ※社会福祉学科 ※保育児童学科 ※心理学科
H I	中学校･高等学校教諭一種免許状「保健」	中学校・高等学校の「保健科」の教諭となるために必要な免許状	
J K	中学校･高等学校教諭一種免許状「英語」	中学校・高等学校の「英語科」の教諭となるために必要な免許状	教育学科学校教育専攻 国際教育専攻国際教育コース
L	高等学校教諭一種免許状「情報」	高等学校の「情報科」の教諭となるために必要な免許状	教育学科学校教育専攻

注1）　※印の付いた学科は、他学科などの教員養成課程科目を履修することにより取得することが可能です。

注2）　EF の小学校教諭一種免許状の免許課程は、保育児童学科、教育学科でそれぞれ課程認定を受けています。履修科目などが異なりますので、十分に注意してください。なお、社会福祉学科の学生は保育児童学科の養成課程を、心理学科の学生は教育学科の養成課程を履修してください。

注3）　特別支援学校教諭一種免許状の取得には、基礎資格として、小学校、中学校、高等学校または幼稚園の教諭の普通免許状を有する必要があります。有しない場合は、小学校、中学校、高等学校または幼稚園の教諭の普通免許状を併せて取得する必要がありますので、注意してください。
ただし、採用試験受験の際には、幼稚園以外の小学校、中学校、高等学校免許状の取得が条件付けられていることが多くありますので、注意してください。

注4）　高等学校教諭一種免許状「福祉」、「情報」のいずれかを単独で取得希望する者は、採用試験受験の際に他の高等学校教諭免許状の取得が条件付けられている場合がありますので、注意してください。

注5）　高等学校教諭一種免許状「福祉」の取得希望者は、社会福祉士受験資格を同時に取得する必要があります。

（１）教育職員免許状を取得するための３条件について

教育職員免許状を取得するためには、下記の３条件が必要となります。

1) 学士の学位を有すること。

2) 基礎資格として定められている科目の最低修得単位数（８単位）を満たすこと。

基礎資格として「日本国憲法」「体育」「外国語コミュニケーション」および「「数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作」の各２単位、計８単位を満たすことが定められています（「教育職員免許法施行規則」第 66 条の 6)。本学では下表に示されている科目が開講されています。

免許法施行規則に定める科目		左記に対応する本学開講科目		
	単位	授業科目	単位	備考
日本国憲法	2	法学（憲法）	2	注 1) 注 2)
体育	2	健康・スポーツ	2	
外国語コミュニケーション	2	アメリカの文化と言語Ⅰ ※英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）	2 2	
数理、データ活用及び人工知能に関する科目又は情報機器の操作	2	情報処理演習Ⅰ	4	

注1) 教育学科で中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」を取得する場合は、「英語基礎演習Ⅰ（文法・読解)」も併せて２科目４単位履修してください。

注2) 教育学科で小学校教諭一種免許状を取得する場合は、「英語基礎演習Ⅰ（文法・読解)」も履修することが望ましいとしています。

3) 各免許状について定められている最低修得単位数を満たすように履修してください（免許状の種類ごとに、下記の表を参照してください)。

【社会福祉学科】

所要資格 / 免許状の種類	基礎資格	修得する科目及び最低修得単位数									
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		教育実践に関する科目		大学が独自に設定する科目	
		本学	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定
高等学校教諭一種免許状「福祉」	学士の学位	**48**	24	**12**	10	**10**	8	**5**	5	**0** 注 1)	12
高等学校教諭一種免許状「公民」	学士の学位	**26**	24	**12**	10	**10**	8	**5**	5	**6** 注 1)	12

注1)「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。「高等学校教諭一種免許状「公民」」希望者は、必修科目の他、「大学が独自に設定する科目」を含む選択科目から **6 単位以上を履修する必要があります。**

所要資格 免許状の種類	基礎資格	修得する科目及び最低修得単位数							
		特別支援教育の基礎理論に関する科目		特別支援教育領域に関する科目		免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目		心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	
		本学	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定
特別支援学校教諭一種免許状	学士の学位及び小学校、中学校、高等学校又は幼稚園の教諭の普通免許状を有すること。	**2**	2	**18**	16	**6**	5	**3**	3

【保育児童学科】

所要資格 免許状の種類	基礎資格	修得する科目及び最低修得単位数									
		領域及び保育内容の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		教育実践に関する科目		大学が独自に設定する科目	
		本学	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定
幼稚園教諭一種免許状	学士の学位	**26**	16	**12**	10	**6**	4	**7**	7	**0** 注1)	14

注1)「大学が独自に設定する科目」については、大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。

所要資格 免許状の種類	基礎資格	修得する科目及び最低修得単位数									
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		教育実践に関する科目		大学が独自に設定する科目	
		本学	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定
小学校教諭一種免許状	学士の学位	**40**	30	**12**	10	**12**	10	**7**	7	**0** 注1)	2

注1)「大学が独自に設定する科目」については、大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。

【教育学科】

所要資格 免許状の種類	基礎資格	修得する科目及び最低修得単位数									
		教科及び教科の指導法に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目		道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目		教育実践に関する科目		大学が独自に設定する科目	
		本学	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定
小学校教諭一種免許状	学士の学位	**44**	30	**12**	10	**12**	10	**7**	7	**0** 注1)	2
中学校教諭一種免許状「保健」	学士の学位	**30**	28	**12**	10	**12**	10	**7**	7	**0** 注1)	4
高等学校教諭一種免許状「保健」	学士の学位	**30**	24	**12**	10	**10**	8	**5**	5	**2** 注1)	12
中学校教諭一種免許状「英語」	学士の学位	**44**	28	**12**	10	**12**	10	**7**	7	**0** 注1)	4
高等学校教諭一種免許状「英語」	学士の学位	**44**	24	**12**	10	**10**	8	**5**	5	**0** 注1)	12
高等学校教諭一種免許状「情報」	学士の学位	**36**	24	**12**	10	**10**	8	**5**	5	**0** 注1)	12

注1)「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。「高等学校教諭一種免許状「保健」」希望者は、必修科目の他、「大学が独自に設定する科目」を含む選択科目から**2単位以上を履修する必要があります。**

所要資格 免許状の種類	基礎資格	修得する科目及び最低修得単位数									
		養護に関する科目		教育の基礎的理解に関する科目		道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目		教育実践に関する科目		大学が独自に設定する科目	
		本学	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定	**本学**	法定
養護教諭一種免許状	学士の学位	**30**	28	**12**	8	**12**	6	**7**	7	**0** 注1)	7

注1)「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「養護に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。

ＡＢＣ．社会福祉学科の科目履修で取得できる免許状

Ａ．高等学校教諭一種免許状「福祉」取得のための履修科目について

Ａ−①「教科及び教科の指導法に関する科目」（高等学校教諭一種免許状「福祉」）

高等学校教諭一種免許状「福祉」を取得するために修得が必要な本学の「教科及び教科の指導法に関する科目」とその単位数は次の通りです。48 単位以上が必要単位となります。

免許法施行規則に定める科目区分			左記に対応する開設授業科目			
			授業科目	単位		
				必修	選択	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	社会福祉学（職業指導を含む。）	社会福祉原論 社会福祉入門 社会保障論	4 2 4		注 1)
		高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉	高齢者福祉論 児童・家庭福祉論 障害者福祉論	2 2 2		
		社会福祉援助技術	ソーシャルワークの基盤と専門職 ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2 2		
		介護理論・介護技術	介護概論	2		
		社会福祉総合実習 （社会福祉援助実習及び社会福祉施設等における介護実習を含む。）	ソーシャルワーク実習 ソーシャルワーク実習指導Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅳ	6 2 2		注 2)
		人体構造に関する理解・日常生活行動に関する理解	人体の構造と機能及び疾病 身体構造と機能Ⅰ	2 2		
		加齢に関する理解・障害に関する理解	心理学概論 発達と老化の理解Ⅱ 認知症の理解Ⅰ 障害の理解Ⅰ	2 2 2 2		
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		福祉科指導法	4		
				48		

注1)　介護福祉コースでは、社会保障論の代わりに「社会保障制度Ⅰ」「社会保障制度Ⅱ」を受講してください。

注2)　ソーシャルワーク実習は、介護実習を行うことが可能な施設（下表）で行うことが必要です。配属を希望する際に注意してください。

法制上の区分	実習可能な施設種別
老人福祉法に規定する施設	特別養護老人ホーム、老人デイサービスセンター 老人短期入所施設、老人介護支援センター
児童福祉法に規定する施設	肢体不自由児施設、重症心身障害児施設、児童デイサービス事業を行う施設 指定国立療養所等（重症心身障害児施設・肢体不自由児施設）
身体障害者福祉法に規定する施設	身体障害者療護施設、身体障害者授産施設 身体障害者更生施設
老人福祉法第十条に規定する便宜又は、障害者自立支援法第八条に規定する改正前の身体障害者福祉法に規定する施設及び事業	身体障害者デイサービス事業を行う施設 老人デイサービス事業を行う施設
生活保護法に規定する施設	救護施設

Ａ−②「大学が独自に設定する科目」（高等学校教諭一種免許状「福祉」）

高等学校教諭一種免許状「福祉」を取得するために修得が必要な本学の**「大学が独自に設定する科目」**とその単位数は次の通りです。

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目			
	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	人権教育		2	注 1)
	ボランティア論		2	
	情報処理演習Ⅱ		4	

注1）「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。

Ｂ．高等学校教諭一種免許状「公民」取得のための履修科目について

Ｂ−①「教科及び教科の指導法に関する科目」（高等学校教諭一種免許状「公民」）

高等学校教諭一種免許状「公民」を取得するために修得が必要な本学の**「教科及び教科の指導法に関する科目」**とその単位数は次の通りです。26 単位以上が必要単位となります。

免許法施行規則に定める科目区分			左記に対応する開設授業科目			
			教科に関する科目	単位数		備考
				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	法律学（国際法を含む。）、政治学（国際政治を含む。）	法学概論	2		
			政治学（国際政治を含む）	2		
			国際関係論（国際法を含む）	2		
			法学Ⅱ（民法、行政法）	4		
			労働法（労働基準法）		2	
			国際社会と日本		2	
		社会学、経済学（国際経済を含む。）	社会学概論	2		
			経済学（国際経済を含む）	2		
			ジェンダー論		2	
			社会保障論	4		注 1)
			国際福祉論		2	
		哲学、倫理学、宗教学、心理学	哲学		2	1 科目必修注 2)
			倫理学		2	
			心理学概論	2		
			社会心理学		2	
	各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		公民科指導法Ⅰ	2		
			公民科指導法Ⅱ	2		
最低修得単位数				26		

注1）介護福祉コースでは、「社会保障論」の代わりに「社会保障制度Ⅰ」「社会保障制度Ⅱ」を受講してください。

注2）「哲学」「倫理学」のうち、いずれかを履修してください。

Ｂ-②「大学が独自に設定する科目」（高等学校教諭一種免許状「公民」）

高等学校教諭一種免許状「公民」を取得するために修得が必要な本学の**「大学が独自に設定する科目」**とその単位数は次の通りです。

高等学校教諭一種免許状「公民」を取得するためには「教科及び教科の指導法に関する科目」または、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」「大学が独自に設定する科目」の選択科目の中から、**6 単位以上を修得してください（必修科目だけの履修では法定単位不足です）。**

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目			
	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	人権教育		2	注 1）
	ボランティア論		2	
	情報処理演習Ⅱ		4	
	臨床心理学		2	
	障害児・者の心理		2	

注1）　「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されますが、**「公民」の場合は必修単位を全て履修した場合の超過分を含めても法定単位を満たしません。**「大学が独自に設定する科目」の法定単位数を満たすように、**選択科目の中から必要単位数を必ず履修してください。**

ＡＢ−③「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」（高等学校教諭一種免許状「福祉」「公民」共通）

高等学校教諭一種免許状「福祉」「公民」を取得するために修得が必要な本学社会福祉学科の「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」とその単位数は次の通りです。27単位以上の修得が必要となります。

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		
科目	各科目に含める必要事項	授業科目	単位 必修	単位 選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教師論	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規 教育行財政 学校経営 生涯学習概論	2	 2 2 4
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学 発達心理学	2	 2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別ニーズ教育論	2	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2	
	特別活動の指導法	特別活動の指導法	2	
	教育の方法及び技術	教育方法論（ICT 活用含む）	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談(カウンセリングを含む)	2	
	生徒指導の理論及び方法	児童生徒指導論(進路指導を含む)	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導(中等) 教育実習(中等)Ⅰ	1 2	
	教職実践演習	教職実践演習（中・高）	2	
最低修得単位数			27	

C．特別支援学校教諭一種免許状取得のために必要な履修科目（社会福祉学科）

特別支援学校教諭一種免許状の取得には、基礎資格として、小学校、中学校、高等学校または幼稚園の教諭の普通免許状を有する必要があります。有しない場合は、小学校、中学校、高等学校または幼稚園の教諭の普通免許状のいずれかを併せて取得する必要がありますので、注意してください。

C-①「特別支援教育に関する科目」（特別支援学校教諭一種免許状）

特別支援学校教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学の「特別支援教育に関する科目」とその単位数は次の通りです。29 単位以上が必要単位となります。

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位	
			必修	選択
特別支援教育の基礎理論に関する科目		障害児教育論	2	
特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害者の心理・生理・病理 肢体不自由者の心理・生理・病理 病弱者の心理・生理・病理	2 2 2	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害教育Ⅰ 知的障害教育Ⅱ 肢体不自由教育Ⅰ 肢体不自由教育Ⅱ 病弱教育Ⅰ 病弱教育Ⅱ	2 2 2 2 2 2	
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害教育総論 肢体不自由教育総論 病弱教育総論		2 2 2
免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	視覚障害者、聴覚障害者の心理・生理・病理	2	
	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	障害児教育課程論	2	
	・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	聴覚障害者の言語障害指導		2
		重複障害・ＬＤ等教育総論	2	
心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習		特別支援教育実習指導 特別支援教育実習	1 2	
最低修得単位数			29	

ＤＥ．保育児童学科の科目履修で取得できる免許状

ＤＥ．幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状取得のために必要な履修科目

Ｄ−①「領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園教諭一種免許状）」

幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学保育児童学科の「領域及び保育内容の指導法に関する科目（幼稚園）」とその単位数は次の通りです。幼稚園教諭一種免許状を取得するためには 26 単位以上が必要単位となります。

免許法施行規則に定める科目区分			左記に対応する開設授業科目			
			授業科目	単位数		備考
				必修	選択	
領域及び保育内容の指導法に関する科目	領域に関する専門的事項	健康	子どもと健康	2		
		人間関係	子どもと人間関係	2		
		環境	子どもと環境	2		
		言葉	子どもと言葉	2		
		表現	子どもと音楽 子どもと造形	2 2		
	保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）		保育内容総論 保育内容総論Ⅱ 保育内容（健康） 保育内容（人間関係） 保育内容（環境） 保育内容（言葉） 保育内容（表現）	2 2 2 2 2 2 2		
最低修得単位数			幼稚園教諭	26		

Ｅ-①「教科及び教科の指導法に関する科目（小学校教諭一種免許状）」

小学校教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学保育児童学科の「教科及び教科の指導法に関する科目（小学校）」とその単位数は次の通りです。小学校教諭一種免許状を取得するためには 40 単位以上が必要単位となります。

免許法施行規則に定める科目区分				左記に対応する開設授業科目			
				授業科目	単位数		備考
					必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）		国語（書写を含む）	2		
		社会		社会	2		
		算数		算数	2		
		理科		理科	2		
		生活		生活	2		
		音楽		音楽 音楽Ⅱ	2	 2	
		図画工作		図画工作Ⅰ 図画工作Ⅱ	2	 2	
		家庭		家庭	2		
		体育		体育	2		
		外国語		外国語	2		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		国語（書写を含む。）	国語科指導法（書写を含む）	2		
			社会	社会科指導法	2		
			算数	算数科指導法	2		
			理科	理科指導法	2		
			生活	生活科指導法	2		
			音楽	音楽科指導法	2		
			図画工作	図画工作科指導法	2		
			家庭	家庭科指導法	2		
			体育	体育科指導法	2		
			外国語	外国語の指導法	2		
最低修得単位数				小学校教諭	40		

ＤＥ-②「大学が独自に設定する科目」（幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状）

幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学保育児童学科の**「大学が独自に設定する科目」**とその単位数は次の通りです。

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目			
	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	障害児療育		2	注 1)
	児童文化論		2	
	人権教育		2	
	情報処理演習Ⅱ		4	
	外国語活動の指導法		2	小学校のみ

注1)　「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。

ＤＥ-③「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」（幼稚園教諭一種免許状・小学校教諭一種免許状）

幼稚園教諭一種免許状、小学校教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学保育児童学科の「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」とその単位数は次の通りです。幼稚園教諭一種免許状を取得するためには 25 単位以上、小学校教諭一種免許状を取得するためには 31 単位以上が必要単位となります。

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目			
		授業科目	単位数		備考
科目	各科目に含める必要事項		必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	2		
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営の対応を含む。）	保育者論注1)	2		幼稚園のみ
		教師論注1)	2		小学校必修 幼稚園選択
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規	2		
		教育行財政		2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学	2		
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別ニーズ教育論	2		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	保育カリキュラム論注1)	2		幼稚園のみ
		教育課程論注1)	2		小学校必修 幼稚園選択
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳の指導法	2		小学校のみ
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2		小学校のみ
	特別活動の指導法	特別活動の指導法	2		小学校のみ
	教育の方法及び技術	教育方法論（ICT 活用含む）	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法				
	幼児理解の理論及び方法	幼児理解	2		幼稚園のみ
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談（カウンセリングを含む）	2		
	生徒指導の理論及び方法	児童生徒指導論（進路指導を含む）	2		小学校のみ
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法				
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導（初等）Ⅰ	1		幼稚園のみ
		教育実習指導（初等）Ⅱ	1		小学校のみ
		教育実習（初等）Ⅰ注2・3) 教育実習（初等）Ⅱ注2・3)	2 2		
	教職実践演習	教職実践演習（幼稚園）注4)	2		幼稚園のみ
		教職実践演習（小学校）注4)	2		小学校のみ
最低修得単位数		幼稚園教諭	25		
		小学校教諭	31		

注1)　小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状の両方を取得する場合は、「保育者論」と「教師論」、「保育カリキュラム論」と「教育課程論」のすべてを修得してください。片方の免許状のみ希望する場合は、該当する科目を習得してください。

注2)　保育児童学科で小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状の両方を取得する場合は、「教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱ」の実習で一方を幼稚園、もう一方を小学校で実施します。教育実習指導（初等）は、「教育実習指導（初等）Ⅰ・Ⅱ」両方を修得する必要があります。

注3)　教育学科で小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状の両方を取得する場合は、教育学科開講の「教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱ」を小学校で実施し、保育児童学科の「教育実習（初等）Ⅰ」を幼稚園で実施してください。その場合、教育実習指導は、教育学科の「教育実習指導（初等）」と保育児童学科の「教育実習指導（初等）Ⅰ」を修得する必要があります。

注4)　小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状の両方を取得する場合、教職実践演習は「教職実践演習（小学校）」と「教職実践演習（幼稚園）」の両方を修得してください。

ＦＧＨＩＪＫＬ．教育学科の科目履修で取得できる免許状

Ｆ．小学校教諭一種免許状取得のために必要な履修科目

Ｆ-①「教科及び教科の指導法に関する科目」（小学校教諭一種免許状）

小学校教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学教育学科の「教科及び教科の指導法に関する科目」とその単位数は次の通りです。小学校教諭一種免許状を取得するためには 44 単位以上が必要単位となります。

免許法施行規則に定める科目区分				左記に対応する開設授業科目		
				授業科目	単位数	
					必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	国語（書写を含む。）		国語（書写を含む）	2	
		社会		社会	2	
		算数		算数	2	
		理科		理科	2	
		生活		生活	2	
		音楽		音楽 音楽Ⅱ	2 2	
		図画工作		図画工作Ⅰ 図画工作Ⅱ	2 2	
		家庭		家庭	2	
		体育		体育	2	
		外国語		外国語	2	
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		国語（書写を含む。） 社会 算数 理科 生活 音楽 図画工作 家庭 体育 外国語	国語科指導法（書写を含む） 社会科指導法 算数科指導法 理科指導法 生活科指導法 音楽科指導法 図画工作科指導法 家庭科指導法 体育科指導法 外国語の指導法	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	
最低修得単位数					44	

注1）　教育学科では、小学校教諭一種免許状の取得希望者は、「英語に関する科目」8 科目 16 単位を履修することが望ましいとしています。詳細は、JK-①「教科及び教科の指導法に関する科目」を参照してください。

Ｆ-②「大学が独自に設定する科目」（小学校教諭一種免許状）

小学校教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学教育学科の「大学が独自に設定する科目」とその単位数は次の通りです。

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目			
	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	発達相談 人権教育 臨床心理学 カウンセリング演習 外国語活動の指導法		2 2 2 4 2	注 1）

注1）　「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。

Ｆ-③「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」（小学校教諭一種免許状）

小学校教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学教育学科の「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」とその単位数は次の通りです。小学校教諭一種免許状を取得するためには 31 単位以上が必要単位となります。

免許法施行規則に定める科目区分等		左記に対応する開設授業科目		
		授業科目	単位数	
科目	各科目に含める必要事項		必修	選択
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育学概論	2	
	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）	教師論	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規	2	
		学校経営		2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育心理学 発達心理学	2 	 2
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別ニーズ教育論	2	
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）	教育課程論	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び、生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳の指導法	2	
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2	
	特別活動の指導法	特別活動の指導法	2	
	教育の方法及び技術	教育方法論（ICT 活用含む）	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法			
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談（カウンセリングを含む）	2	
	生徒指導の理論及び方法	児童生徒指導論（進路指導を含む）	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法			
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習指導（初等） 教育実習（初等）Ⅰ 教育実習（初等）Ⅱ	1 2 2	
	教職実践演習	教職実践演習（小学校）	2	
最低修得単位数			31	

G．養護教諭一種免許状取得のために必要な履修科目

G-①「養護に関する科目」（養護教諭一種免許状）

養護教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学の「養護に関する科目」とその単位数は次の通りです。30 単位以上の修得が必要となります。

免許法施行規則に定める科目区分		左記に対応する開設授業科目			
		授業科目	単位数		備考
			必修	選択	
養護に関する科目	衛生学・公衆衛生学（予防医学を含む。）	衛生学	2		
		公衆衛生	2		
	学校保健	学校保健学(学校安全を含む)	2		
		医学概論（小児保健を含む）		2	
		児童環境保健論		2	
	養護概説	養護教育学	2		
	健康相談活動の理論・健康相談活動の方法	臨床心理学	2		
		健康相談活動の理論と方法	2		
	栄養学（食品学を含む。）注1)	子どもの食と栄養		2	1 科 目
		栄養学（食品学含む）		2	必修注1)
	解剖学・生理学	解剖生理学Ⅰ	2		
		解剖生理学Ⅱ		2	
	「微生物学、免疫学、薬理概論」	病原微生物学	2		
		免疫学概論		2	
		薬理学概説（薬物乱用防止を含む）		2	
	精神保健	精神保健学	2		
		精神疾患とその治療		4	
	看護学(臨床実習及び救急処置を含む。)	看護学(救急処置を含む)	4		
		地域看護学	2		
		看護臨床実習指導	2		
		看護臨床実習	2		
最低取得単位数			30		

注1） 保育児童学科は「子どもの食と栄養」が必修、「栄養学（食品学含む)」は選択となります。社会福祉学科、教育学科は「栄養学（食品学を含む)」が必修、「子どもの食と栄養」は選択となります。心理学科は「栄養学（食品学を含む)」が必修となります。

G-②「大学が独自に設定する科目」養護教諭一種免許状）

養護教諭一種免許状を取得するために修得が必要な本学の「大学が独自に設定する科目」とその単位数は次の通りです。

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目			
	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	心理検査法		4	注 1)
	発達相談		2	
	障害児･者の心理		2	
	心理学研究法		4	
	心理療法概説		2	

注1） 「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。

ＨＩ. 中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「保健」取得のために必要な履修科目

ＨＩ-①「教科及び教科の指導法に関する科目」
（中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「保健」）

中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状「保健」を取得するために修得が必要な本学の**「教科及び教科の指導法に関する科目」**とその単位数は次の通りです。いずれも30単位以上の修得が必要となります。

免許法施行規則に定める科目区分			左記に対応する開設授業科目		
			授業科目	単位数	
				必修	選択
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	・中学 生理学・栄養学 ・高校 「生理学、栄養学、微生物学、解剖学」	解剖生理学Ⅰ	2	
			解剖生理学Ⅱ	2	
			病原微生物学	2	
			栄養学（食品学含む）	2	
			子どもの食と栄養		2
		衛生学・公衆衛生学	衛生学	2	
			公衆衛生	2	
		学校保健（小児保健、精神保健、学校安全及び救急処置を含む。）	医学概論（小児保健を含む）	2	
			精神保健学	2	
			精神疾患とその治療		4
			学校保健学（学校安全を含む）	2	
			児童環境保健論		2
			看護学（救急処置を含む）	4	
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		保健科指導法Ⅰ	4	
			保健科指導法Ⅱ	4	
最低修得単位数				30	

ＨＩ-②「大学が独自に設定する科目」（中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「保健」）

中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状「保健」を取得するために修得が必要な本学の**「大学が独自に設定する科目」**とその単位数は次の通りです。

高等学校教諭一種免許状「保健」を取得するためには「教科及び教科の指導法に関する科目」または、「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」「大学が独自に設定する科目」の選択科目の中から、**2単位以上を修得してください。（必修科目だけの履修では法定単位不足です）。**

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目			
	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	人権教育		2	注1）
	発達相談		2	
	カウンセリング演習		4	

注1）　「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されますが、**「高等学校教諭一種免許状「保健」」の場合は必修単位を全て履修した場合の超過分を含めても法定単位を満たしません。**「大学が独自に設定する科目」の法定単位数を満たすように、**選択科目の中から必要単位数を必ず履修してください。**

ＪＫ．中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」取得のために必要な履修科目

ＪＫ-①「教科及び教科の指導法に関する科目」
（中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」）

中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」を取得するために修得が必要な本学の「教科及び教科の指導法に関する科目」とその単位数は次の通りです。44 単位以上の修得が必要となります。

免許法施行規則に定める科目区分			左記に対応する開設授業科目			
			授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
教科及び教科の指導法に関する科目	教科に関する専門的事項	英語学	英語基礎演習Ⅱ（文法・読解）※	2		注 1) 注 2)
			英語基礎演習Ⅲ（文法・作文）	2		
			英語講読Ⅲ	2		
			英語講読Ⅵ	2		
			英語学Ⅰ（英語の歴史）		2	
			英語学Ⅱ（英語の発音と音声）※		2	
			英語学Ⅲ（英語の談話）		2	
			英語学演習Ⅰ(統語論)	2		
			英語学演習Ⅱ(意味論)		2	
		英語文学	英文学(作家・作品論)		2	
			米文学(作家・作品論)		2	
			英米文学と映像		2	
			英米児童文学(作品論)※		2	
			英米文学演習	2		
			英米児童文学演習	2		
			英語講読Ⅰ	2		
			英語講読Ⅱ※	2		
			英語講読Ⅳ	2		
			英語講読Ⅴ※	2		
		英語コミュニケーション	英語コミュニケーションⅠ※	2		
			英語コミュニケーションⅡ※	2		
			英語コミュニケーションⅢ	2		
			英語コミュニケーションⅣ	2		
			英語コミュニケーションⅤ	2		
			英語コミュニケーションⅥ	2		
		異文化理解	異文化理解	2		
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		英語科指導法Ⅰ	4		
			英語科指導法Ⅱ	4		
修得必要最低単位数				44		

注1） 選択科目も、英語科教諭として必須の内容であることから、すべての科目を履修することが望ましいとしています。

注2） 小学校教諭一種免許状の取得希望者は、「英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）」2 単位及び※印の付いた 7 科目 14 単位を履修することが望ましいとしています。

ＪＫ-②「大学が独自に設定する科目」（中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」）

中学校教諭一種免許状、高等学校教諭一種免許状「英語」を取得するために修得が必要な本学の「大学が独自に設定する科目」とその単位数は次の通りです。

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目			
	授業科目	単位数 必修	単位数 選択	備考
大学が独自に設定する科目	発達相談		2	注 1)
	人権教育		2	
	臨床心理学		2	

注1） 「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。

L．高等学校教諭一種免許状「情報」取得のために必要な履修科目

L-①「教科及び教科の指導法に関する項目」（高等学校教諭一種免許状「情報」）

高等学校教諭一種免許状「情報」を取得するために修得が必要な本学の「教科及び教科の指導法に関する項目」とその単位数は次の通りです。36 単位以上の修得が必要となります。

免許法施行規則に定める科目区分			左記に対応する開設授業科目			
			授業科目	単位数		備考
				必修	選択	
教科及び教科の指導法に関する項目	教科に関する専門的事項	情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	社会情報学	2		注 1)
			情報と職業	2		
			情報倫理		2	
			メディア社会論		2	
		コンピュータ・情報処理（実習を含む。）	情報処理演習Ⅱ	4		
			情報処理演習Ⅲ	4		
			データベース演習Ⅰ	2		
			データベース演習Ⅱ	2		
			コンピュータサイエンスⅠ	2		
			コンピュータサイエンスⅡ	2		
		情報システム（実習を含む。）	システム設計	2		
			システム設計演習	2		
		情報通信ネットワーク（実習を含む。）	コンピュータネットワークⅠ	2		
			コンピュータネットワークⅡ	2		
			情報セキュリティ	2		
		マルチメディア表現・マルチメディア技術（実習を含む。）	マルチメディア表現Ⅰ	2		
			マルチメディア表現Ⅱ		2	
			ヒューマンメディア		2	
			マルチメディアと学習環境		2	
	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）		情報科指導法Ⅰ	2		
			情報科指導法Ⅱ	2		
修得必要最低単位数				36		

注1） 選択科目についても、情報科教諭として必須の内容であることから、すべての科目を履修することが望ましいとしています。

L-②「大学が独自に設定する科目」（高等学校教諭一種免許状「情報」）

高等学校教諭一種免許状「情報」を取得するために修得が必要な本学の「大学が独自に設定する科目」とその単位数は次の通りです。

免許法施行規則に定める科目区分等	左記に対応する開設授業科目			
	授業科目	単位数		備考
		必修	選択	
大学が独自に設定する科目	発達相談		2	注 1)
	人権教育		2	
	臨床心理学		2	

注１） 「大学が独自に設定する科目」については、「大学が独自に設定する科目」の選択科目の他、法定単位を超えて履修した「教科及び教科の指導法に関する科目」「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」が充当されます。

ＧＨＩＪＫＬ-③「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」（養護教諭・中学校教諭「保健」「英語」・高等学校教諭「保健」「英語」「情報」一種免許状共通）

養護教諭一種免許状、中学校教諭「保健」「英語」一種免許状、高等学校教諭「保健」「英語」「情報」一種免許状を取得するために修得が必要な本学教育学科の「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」「教育実践に関する科目」とその単位数は次の通りです。養護教諭一種免許状は 31 単位以上、中学校教諭一種免許状は 31 単位以上、高等学校教諭一種免許状は 27 単位以上の修得が必要となります。

免許法施行規則に定める科目区分等			左記に対応する開設授業科目			備考
			授業科目	単位数		
科目	各科目に含める必要事項			必修	選択	
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想		教育学概論	2		
	教育の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。）		教師論	2		
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）		教育法規	2		
			教育行財政		2	中・高校のみ
			学校経営 生涯学習概論		2 4	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		教育心理学 発達心理学	2	 2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解		特別ニーズ教育論	2		
	教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）		教育課程論	2		
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目（中学校・高校） 道徳、総合的な学習の時間等の内容及び生徒指導、教育相談等に関する科目（養護）	道徳、総合的な学習の時間及び特別活動に関する内容（養護）	道徳の理論及び指導法	道徳の指導法	2		養護・中学校のみ
		総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の指導法	2		
		特別活動の指導法	特別活動の指導法	2		
	教育の方法及び技術		教育方法論（ICT 活用含む）	2		
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法					
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法		教育相談（カウンセリングを含む）	2		
	生徒指導の理論及び方法		児童生徒指導論（進路指導を含む）	2		
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法（中学校・高校）					
教育実践に関する科目	教育実習		教育実習指導（中等） 教育実習（中等）Ⅰ	1 2		中・高校のみ 注1・2)
			教育実習（中等）Ⅱ	2		中学校のみ 注1～3)
			養護実習指導 養護実習	1 4		養護のみ
	教職実践演習		教職実践演習（中・高）	2		中・高校のみ 注4)
			教職実践演習（養護教諭）	2		養護のみ注4)
最低修得単位数			養護教諭	31		
			中学校教諭	31		
			高等学校教諭	27		

注１） 中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「保健」を取得する場合は、教育実習指導（中等）を 2 年次に履修し、教育実習（中等）は、3 年次に履修してください。

注２） 中学校教諭一種免許状「英語」・高等学校教諭一種免許状「英語」「情報」の免許状を取得する場合は、教育実習指導（中等）を 3 年次に履修し、教育実習（中等）は、4 年次に履修してください。

注３） 小学校教諭一種免許状と中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状を併せて取得する場合は、「教育実習（初等）Ⅰ」「教育実習（初等）Ⅱ」と「教育実習（中等）Ⅰ」を履修してください。

注４） 教職実践演習には「中・高」「養護教諭」「小学校」「幼稚園」があるので、複数の免許を希望する場合はそれぞれの教職実践演習を履修してください。

（２）介護等体験について（小学校教諭一種免許状・中学校教諭一種免許状）

平成 9 年に「小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律」が施行され、小学校・中学校の教諭の普通免許状を取得しようとする者に、高齢者や障害者に対する介護等の体験を義務づけることにより、人の心の痛みのわかる人づくり､各人の価値観の相違を認められる心を持った人づくりの実現に資することを目的として、介護等の体験が義務づけられました。小学校・中学校の教育職員免許状を取得する場合は、教育職員免許状申請時に介護等の体験を行ったことの証明「介護等体験証明書」が必要になります。

同法で、介護等体験とは「障害者、高齢者等に対する介護、介助、これらの者との交流等の体験」とされ、「義務教育に従事する教員が個人の尊厳及び社会連帯の理念に関する認識を深めることの重要性にかんがみ、教員としての資質の向上を図り、義務教育の一層の充実を期する観点から」体験することが義務づけられています。（第 1 条）

なお、介護等体験を実施するためには、別途体験費用が必要です。

介護等体験についての詳細は、介護等体験説明会にて説明します。

（３）教職実践演習について（履修カルテについて）

平成 22 年度から教職実践演習が新設されました。教職実践演習は、学生個々の「教科及び教職に関する科目」の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得しているかを確認し、不足している知識や技能などを補うための演習科目です。

教員になるために、最小限必要な資質能力として、①使命感や責任感、教育的愛情、②社会性や対人関係能力、③幼児児童生徒理解や学級経営などの能力、④教科・保育内容等の指導力など、4 つの実践的な指導力が求められています。

教職実践演習をより効果的にするために、入学時からの教職課程の学習内容、理解度などを記録する「履修カルテ」の作成が義務付けられています。

（４）教育実習について

１）教育実習の概要

教育職員免許状を取得するためには､教育実習を行い､単位を修得することが必要です。本学において教育職員免許状を取得するために必要な実習とその概要は、次の通りです。実習は、3 年次若しくは 4 年次に行われます。

【社会福祉学科】

免許状の種類	実習科目	実習時期	実習期間	実習先等の種別等
高等学校教諭 一種免許状 「福祉」「公民」	教育実習(中等) I	4 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	高等学校 中学校
特別支援学校 教諭一種免許状	特別支援教育実習	4 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	特別支援学校 高等部・中学部・ 小学部・幼稚部

注1） 高等学校教諭一種免許状「福祉」と「公民」の両方を取得する場合は、教育実習（中等）を両方の免許状取得に必要な単位として充てることを可能とします。

【保育児童学科】

免許状の種類	実習科目	実習時期	実習期間	実習先等の種別等
幼稚園教諭 一種免許状	教育実習（初等）Ⅰ	(前半)3 年次 (2 月)	1 週間［5 日］	幼稚園 認定こども園 （幼稚園型・幼保連携型）
		(後半)4 年次 (6 月)	1 週間［5 日］	
	教育実習（初等）Ⅱ	4 年次 (6 月)	2 週間［10 日］	
小学校教諭 一種免許状	教育実習（初等）Ⅰ	4 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	小学校
	教育実習（初等）Ⅱ	4 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	

幼稚園教諭一種免許状及び小学校教諭一種免許状の両方を取得する場合、「教育実習（初等）Ⅰ」及び「教育実習（初等）Ⅱ」を履修します。「教育実習（初等）Ⅰ」は幼稚園、「教育実習（初等）Ⅱ」は小学校で実習を行い、いずれも４年次に実施します。その場合、教育実習指導も「教育実習指導（初等）Ⅰ」及び「教育実習指導（初等）Ⅱ」の両方を履修する必要があります。

【教育学科 学校教育専攻】

免許状の種類	実習科目	実習時期	実習期間	実習先等の種別等
小学校教諭 一種免許状	教育実習（初等）Ⅰ	3 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	小学校
	教育実習（初等）Ⅱ	3 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	
養護教諭 一種免許状	養護実習	4 年次 (6～11 月)	4 週間［20 日］	小学校・中学校・高等学校
	看護臨床実習	4 年次 (7～11 月)	2 週間［10 日］	医療機関など
高等学校教諭 一種免許状 「保健」	教育実習(中等)Ⅰ	3 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	高等学校 中学校
中学校教諭 一種免許状 「保健」	教育実習(中等)Ⅰ	3 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	高等学校 中学校
	教育実習(中等)Ⅱ	3 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	
高等学校教諭 一種免許状 「英語」「情報」	教育実習(中等)Ⅰ	4 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	高等学校 中学校
中学校教諭 一種免許状 「英語」	教育実習(中等)Ⅰ	4 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	高等学校 中学校
	教育実習(中等)Ⅱ	4 年次 (6～11 月)	2 週間［10 日］	

注1） 中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「保健」を取得する場合は、「教育実習指導（中等)」を 2 年次に履修し、「教育実習（中等)」は、3 年次に履修してください。

注2） 中学校教諭一種免許状・高等学校教諭一種免許状「英語」、高等学校教諭一種免許状「情報」の免許状を取得する場合は、「教育実習指導（中等)」を 3 年次に履修し、「教育実習（中等)」は、4 年次に履修してください。

注3） 中学校教諭一種免許状「保健」「英語」、高等学校教諭一種免許状「保健」「英語」「情報」「公民」の中で複数免許を取得する場合は、教育職員免許法施行規則に定める教育実践に関する科目の教育実習（3 単位又は 5 単位）をそれぞれの免許取得に必要な単位として充てることを可能とします。

注4） 教育学科学校教育専攻で小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状の両方を取得する場合は、教育学科開講の「教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱ」を小学校で実施し、保育児童学科の「教育実習（初等）Ⅰ」を幼稚園で実施してください。その場合、教育実習指導は、教育学科の「教育実習指導（初等)」と保育児童学科の「教育実習指導（初等）Ⅰ」を修得する必要があります。小学校教諭一種免許状と中学校教諭一種免許状「英語」「保健」の両方を取得する場合は、「教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱ」と「教育実習（中等）Ⅰ」を履修してください。

注5） 心理学科で小学校教諭一種免許状を取得する場合は、「教育実習指導（初等）」を 3 年次に履修し、「教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱ」を 4 年次に履修してください。

【教育学科 国際教育専攻 国際教育コース】

免許状の種類	実習科目	実習時期	実習期間	実習先等の種別等
小学校教諭 一種免許状	教育実習(初等)Ⅰ	4年次 (6～11月)	2週間［10日］	小学校
	教育実習(初等)Ⅱ	4年次 (6～11月)	2週間［10日］	
高等学校教諭 一種免許状 「英語」	教育実習(中等)Ⅰ	4年次 (6～11月)	2週間［10日］	高等学校 中学校
中学校教諭 一種免許状 「英語」	教育実習(中等)Ⅰ	4年次 (6～11月)	2週間［10日］	高等学校 中学校
	教育実習(中等)Ⅱ	4年次 (6～11月)	2週間［10日］	

２）教育実習基礎資格について

教育実習の受講資格は、定められた時期までに次の表に定める科目の単位を良好な成績で修得した者で、教育実習専門部会が教育実習の受講が適当であると認めた者とします。教育実習基礎資格を満たすことができない学生は、実習をすることができなくなりますので、注意してください。また、教育実習専門部会の協議により、通算及び実習前年度秋期のGPAが2.0に満たない者や素行に著しく問題のある者、及び心身の健康状態が教育実習に耐えられないと思量される者等は、実習の実施を認めない場合があります。

【社会福祉学科】

免許状の種類	時期	教科及び教科の指導法に関する項目		教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育実践に関する科目
		教科に関する専門的事項	各教科の指導法			
高等学校教諭 一種免許状「福祉」	3年次秋期終了時	30単位以上	4単位 (福祉科指導法)	8単位以上 (教師論含む)	8単位以上 (教育方法論を含む)	1単位 (教育実習指導(中等))
高等学校教諭 一種免許状「公民」	3年次秋期終了時	20単位以上	4単位 (公民科指導法Ⅰ・Ⅱ)	8単位以上 (教師論含む)	8単位以上 (教育方法論を含む)	1単位 (教育実習指導(中等))

免許状の種類	時期	特別支援に関する科目
特別支援学校教諭 一種免許状	3年次秋期終了時	21単位以上 (特別支援教育実習指導を含む)

注1) 「教育実習指導（中等)」について、実習前年度秋期に履修し、単位修得見込であることが必要です。

【保育児童学科】

免許状の種類	時期	領域及び保育の指導法に関する項目		教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育実践に関する科目
		保育に関する専門的事項	保育の指導法			
幼稚園教諭一種免許状	注 1) 注 2) 注 3)	10 単位以上	8 単位以上	8 単位以上 (保育者論含む)	4 単位以上	1 単位 (教育実習指導(初等) Ⅰ)

注1)　「教育実習（初等）Ⅰ（前半)」: 3 年次 11 月頃。「教育実習（初等）Ⅰ（後半)・Ⅱ」: 3 年次終了時。

注2)　「教育実習（初等）Ⅰ（前半)」については、上記の表の単位を修得済又は履修中でありかつ修得見込みである必要があります。

注3)　「教育実習（初等）Ⅰ（後半)・Ⅱ」については上記表の単位を修得済である必要があります。なお、「教育実習指導(初等)Ⅰ」について実習前年度秋期に履修し、単位修得見込であることが必要です。

免許状の種類	時期	教科及び教科の指導法に関する項目		教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育実践に関する科目
		教科に関する専門的事項	各教科の指導法			
小学校教諭一種免許状	3 年次秋期終了時	10 単位以上 (国語（書写を含む)、算数を含む)	8 単位以上 (国語科指導法(書写を含む)、算数科指導法を含む)	6 単位以上 (教師論を含む)	4 単位以上 (教育方法論、道徳の指導法を含む)	1 単位 (教育実習指導(初等) Ⅱ)

注1)　「教育実習指導(初等)Ⅱ」について実習前年度に履修し単位修得見込であることが必要です。

【教育学科 学校教育専攻】

免許状の種類	時期	教科及び教科の指導法に関する項目		教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育実践に関する科目
		教科に関する専門的事項	各教科の指導法			
小学校教諭一種免許状	2 年次秋期終了時	10 単位以上 (国語（書写を含む)、 算数を含む)	8 単位以上 (国語科指導法(書写を含む)、算数科指導法を含む)	6 単位以上 (教師論を含む)	4 単位以上 (教育方法論、道徳の指導法を含む)	1 単位 (教育実習指導(初等))
中学校・高等学校教諭一種免許状「保健」	2 年次秋期終了時	12 単位以上	8 単位 (保健科指導法Ⅰ・Ⅱ)	6 単位以上 (教師論を含む)	6 単位以上 (教育方法論を含む)	1 単位 (教育実習指導(中等))
中学校・高等学校教諭一種免許状「英語」	3 年次秋期終了時	30 単位以上	8 単位 (英語科指導法Ⅰ・Ⅱ)	6 単位以上 (教師論を含む)	6 単位以上 (教育方法論を含む)	1 単位 (教育実習指導(中等))
高等学校教諭一種免許状「情報」	3 年次秋期終了時	30 単位以上	4 単位 (情報科指導法Ⅰ・Ⅱ)	8 単位以上 (教師論を含む)	8 単位以上 (教育方法論を含む)	1 単位 (教育実習指導(中等))

注1)　小学校教諭一種免許状について、「道徳の指導法」は、実習開始時点で単位修得済又は履修中であることが必要です。

注2)　「教育実習指導（初等)」「教育実習指導（中等)」について実習前年度秋期に履修し単位修得見込であることが必要です。

免許状の種類	時期	養護に関する項目	教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育実践に関する科目
養護教諭一種免許状	3 年次秋期終了時	22 単位以上 (看護臨床実習指導を含む)	10 単位以上 (教師論含む)	8 単位以上 (教育方法論を含む)	1 単位 (養護実習指導)

注1)　「養護実習指導」について実習前年度秋期に履修し単位修得見込であることが必要です。

【教育学科 国際教育専攻 国際教育コース】

免許状の種類	時期	教科及び教科の指導法に関する項目		教育の基礎的理解に関する科目	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談に関する科目	教育実践に関する科目
		教科に関する専門的事項	各教科の指導法			
小学校教諭一種免許状	3 年次秋期終了時	10 単位以上（国語（書写を含む）、算数を含む）	8 単位以上（国語科指導法（書写を含む）、算数科指導法を含む）	6 単位以上（教師論を含む）	4 単位以上（教育方法論、道徳の指導法を含む）	1 単位（教育実習指導（初等））
中学校・高等学校教諭一種免許状「英語」	3 年次秋期終了時	30 単位以上	8 単位（英語科指導法Ⅰ・Ⅱ）	6 単位以上（教師論を含む）	6 単位以上（教育方法論を含む）	1 単位（教育実習指導（中等））

注1） 「教育実習指導（初等）」「教育実習指導（中等）」について実習前年度秋期に履修し単位修得見込であることが必要です。

３）実習の依頼方法

① 伊勢崎市や桐生市（伊勢崎キャンパス）、東京都（池袋キャンパス）において行う一部の教育実習や看護臨床実習については、大学が一括して教育委員会や医療機関に申請しますので、学生は大学に届け出ます。

② これらの地域以外において、教育実習または看護臨床実習を希望する学生は、原則として実習校や実習医療機関（養護教諭のみ）などを自ら探し、実習受け入れの依頼をします。各自で、実習を希望する学校や医療機関を訪問し、受け入れの内諾を得た上で、大学に届け出た後、大学から実習受け入れ校や医療機関に正式に依頼文書を提出することになります。

実習生を受け入れ、指導をすることは、受け入れる側にとっては、大きな負担となります。そのため、実習生を受け入れる基準として、**教員になる意志が強いこと（採用試験を必ず受けること）**を条件にあげる学校や医療機関が多く見られます。当然のことながら、実習校や実習医療機関に受け入れのお願いに行く際には、真剣な態度で臨む必要があります。実習の依頼方法については、教育実習依頼に関する説明会で詳しく説明します。

（５）教育職員免許状取得までの流れ

教育職員免許状取得までの流れを示してあります。学年を追って内容を確認して下さい。

教 職 課 程 履 修 計 画 表【社会福祉学科】

	1年次	2年次	3年次	4年次
共通	教職課程資格登録（4月）	教育実習内諾説明会(2月) 教育実習予備登録(2月) 実習希望校への依頼開始(3月～3年次5月)	実習内諾届提出(5月～6月) 内諾校などへ内諾依頼状発送＊(6月以降) 教育実習基礎資格判定＊(3月)	教育実習事前説明会(4月) 内諾校などへ委託依頼書発送＊(4月) 実習先オリエンテーション(4月～5月) 教員採用試験申込受付(4月) 教員採用試験1次選考(7月) 教員採用試験2次選考(8月) 教員採用試験合格発表(10月) 教員免許状一括申請説明会(10月～12月) 教員免許状一括申請＊ 教員免許状交付(卒業式当日)
高等学校教諭一種免許状「福祉」		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ(秋期) **「ソーシャルワーク実習」予備登録**	教育実習指導(中等)(秋期) **ソーシャルワーク実習**(秋期) ※介護福祉コース、精神保健福祉専攻の学生は4年次春期までに実施	教育実習(中等)(2週間)(6月～11月) 教育実習事後指導(12月～1月) 教職実践演習(中・高)(秋期)
高等学校教諭一種免許状「公民」			教育実習指導(中等)(秋期)	教育実習(中等)(2週間)(6月～11月) 教育実習事後指導(12月～1月) 教職実践演習(中・高)(秋期)
特別支援学校教諭一種免許状			特別支援教育実習指導(秋期)	特別支援教育実習(2週間)(6月～11月) 特別支援教育実習事後指導(12月～1月)

注１）　＊は大学が行います。

注２）　高等学校教諭一種免許状「福祉」を取得するためには、「ソーシャルワーク実習」の内容として「介護実習」が必要です。配属を希望する際に注意してください。

教 職 課 程 履 修 計 画 表【保育児童学科】

	1年次	2年次	3年次	4年次
共通	教職課程資格登録（4月）		教育実習基礎資格判定＊（3月）	教育実習事前説明会（4月） 内諾校などへ委託依頼書発送＊（4月） 実習先オリエンテーション（4月～5月） 教員採用試験申込受付（4月） 教員採用試験1次選考（7月） 教員採用試験2次選考（8月） 教員採用試験合格発表（10月） 教員免許状一括申請説明会（10月～12月） 教員免許状一括申請＊ 教員免許状交付（卒業式当日）
幼稚園教諭一種免許状		教育実習内諾説明会①(5月) 教育実習予備登録(5月) 実習希望園への依頼開始①（5月～6月） 実習内諾届提出①(6月～7月) 実習園などへの内諾依頼書発送①＊（7月以降）	教育実習内諾説明会②(4月) 実習希望園への依頼開始②（4月～5月） 実習内諾届提出②(6月～7月) 実習校などへの内諾依頼書発送②＊（7月以降） 教育実習指導(初等)Ⅰ(秋期) 教育実習基礎資格判定＊(11月) 実習園などへの委託依頼書発送①＊（12月） 教育実習事前説明会①(12月) 実習先オリエンテーション①（12月～1月） 教育実習(初等)Ⅰ(前半)(2月)	幼稚園教育実習事後指導①(4月) 教育実習(初等)Ⅰ(後半)・Ⅱ(6月) 教職実践演習(幼稚園)(秋期) 幼稚園教育実習事後指導②（12月～1月）
小学校教諭一種免許状		教育実習内諾説明会(2月) 教育実習予備登録(2月) 実習希望校への依頼開始（2月～3年次5月）	実習内諾届提出(4月～5月) 実習校などへ内諾依頼書発送＊（6月以降） 教育実習指導(初等)Ⅱ(秋期)	教育実習(初等)Ⅰ・Ⅱ(6月～11月) 小学校教育実習事後指導（12月～1月） 教職実践演習(小学校)(秋期)

注１）　＊は大学が行います。

注２）　教育実習の実施時期については、保育実習の実施時期を考慮してください。

注３）　小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状の両方を取得する場合は、教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱの単位を履修し、Ⅰ・Ⅱの実習のいずれかを幼稚園、もう一方を小学校にて実施します。その場合、教育実習指導は、教育実習指導（初等）Ⅰ・Ⅱの両方を履修する必要があります。

教 職 課 程 履 修 計 画 表【教育学科 学校教育専攻　「小学校」「保健」】

	1年次	2年次	3年次	4年次
共通	教職課程資格登録（4月） 教育実習内諾説明会（2月） 教育実習予備登録（2月） 実習希望校への依頼開始（2月～3年次5月）	実習内諾届提出（4月～5月） 内諾校などへ内諾依頼書発送＊（6月以降） 教育実習基礎資格判定＊(3月)	教育実習事前説明会（4月） 内諾校などへ委託依頼書発送＊（4月） 実習校オリエンテーション（4～5月）	教員採用試験申込受付（4月） 教員採用試験1次選考（7月） 教員採用試験2次選考（8月） 教員採用試験合格発表（10月） 教員免許状一括申請説明会（10月～12月） 教員免許状一括申請＊ 教員免許状交付（卒業式当日）
小学校教諭一種免許状		教育実習指導（初等）（秋期）	教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱ（6月～11月） 小学校教育実習事後指導(12月～1月)	教職実践演習（小学校）（秋期）
中学校・高等学校教諭一種免許状「保健」		教育実習指導（中等）（秋期）	教育実習（中等）Ⅰ（2週間）（6月～11月） 教育実習（中等）Ⅱ（2週間）（6月～11月） 教育実習事後指導（12月～1月）	教職実践演習（中・高）（秋期）

注１）　＊は大学が行います。

注２）　小学校教諭一種免許状と幼稚園教諭一種免許状の両方を取得する場合は、教育学科開講の「教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱ」を小学校で実施し、保育児童学科の「教育実習（初等）Ⅰ」を幼稚園で実施してください。その場合、教育実習指導は、教育学科の「教育実習指導（初等）」と保育児童学科の「教育実習指導（初等）Ⅰ」を修得する必要があります。

注３）　小学校教諭一種免許状と中学校教諭一種免許状の両方を取得する場合は、「教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱ」と「教育実習（中等）Ⅰ」の科目を履修してください。

教 職 課 程 履 修 計 画 表【教育学科 学校教育専攻　「養護」「英語」「情報」】

	1年次	2年次	3年次	4年次
共通	教職課程 資格登録 (4月)	教育実習内諾説明会 (2月) 教育実習予備登録 (2月) 実習希望校への依頼開始 (2月～3年次5月)	実習内諾届提出(4月～5月) 内諾校などへ内諾依頼書発送＊ (6月以降) 教育実習基礎資格判定＊(3月)	教育実習事前説明会(4月) 内諾校などへ委託依頼書発送＊ (4月) 実習先オリエンテーション (4月～5月) 教員採用試験申込受付(4月) 教員採用試験1次選考(7月) 教員採用試験2次選考(8月) 教員採用試験合格発表(10月) 教員免許状一括申請説明会 (10月～12月) 教員免許状一括申請＊ 教員免許状交付(卒業式当日)
養護教諭一種免許状			養護実習指導(秋期) 看護臨床実習指導(秋期) 教育実習基礎資格確認＊(3月)	養護実習(4週間)(6月～11月) 看護臨床実習(2 週間)(7 月～11月) 教職実践演習(養護教諭)(秋期) 養護実習事後指導(12月～1月) 看護臨床実習事後指導(12 月～1月)
中学校・高等学校教諭一種免許状「英語」 高等学校教諭一種免許状「情報」			教育実習指導(中等)(秋期) 教育実習基礎資格確認＊(3月)	教育実習(中等)Ⅰ(2週間) (6月～11月) 教育実習(中等)Ⅱ(2週間) (6月～11月) 教職実践演習(中・高)(秋期) 教育実習事後指導(12月～1月)

注１）　＊は大学が行います。

注２）　小学校教諭一種免許状と中学校教諭一種免許状の両方を取得する場合は、「教育実習（初等）Ⅰ・Ⅱ」と「教育実習（中等）Ⅰ」の科目を履修してください。

教 職 課 程 履 修 計 画 表【教育学科 国際教育専攻 国際教育コース 「小学校」「英語」】

	1年次	2年次	3年次	4年次
共通	教職課程 資格登録 (4月)	教育実習内諾説明会 (2月) 教育実習予備登録 (2月) 実習希望校への依頼開始(2月～3年次5月)	実習内諾届提出(4月～5月) 内諾校などへ内諾依頼書発送＊ (6月以降) 教育実習基礎資格判定＊(3月)	教育実習事前説明会(4月) 内諾校などへ委託依頼書発送＊ (4月) 実習先オリエンテーション (4月～5月) 教員採用試験申込受付(4月) 教員採用試験1次選考(7月) 教員採用試験2次選考(8月) 教員採用試験合格発表(10月) 教員免許状一括申請説明会 (10月～12月) 教員免許状一括申請＊ 教員免許状交付(卒業式当日)
小学校教諭一種免許状			教育実習指導(初等)(春期)	教育実習(初等)Ⅰ、Ⅱ(4週間) (6月～11月) 教職実践演習(小学校)(秋期) 小学校教育実習事後指導(12月～1月)
中学校・高等学校教諭一種免許状「英語」			教育実習指導(中等)(春期)	教育実習(中等)Ⅰ(2週間) (6月～11月) 教育実習(中等)Ⅱ(2週間) (6月～11月) 教職実践演習(中・高)(秋期) 教育実習事後指導(12月～1月)

注１） ＊は大学が行います。

（６）教育職員免許状申請手続き

① 一括申請

本学卒業予定者で、教育職員免許法に定められた所要資格を有する見込みの者は、卒業年次に免許状の授与申請（一括申請）をすることができます。

一括申請とは、卒業時に免許状が交付されるよう大学が代行してキャンパスが所在する都道府県の教育委員会へ申請する方法です（免許状の授与権者は各都道府県教育委員会となります)。

一括申請をしなければ、卒業と同時に免許状を取得することができません。「教育職員免許状一括申請説明会」を 4 年次秋期（12 月）に実施しますので、必ず出席し申請方法について説明を受けてください。

なお、教育職員免許状の申請手数料として 1 免許につき 3,300 円 (2022 年度申請時) が別途必要になります。

② 個人申請

一括申請をしなかった場合は、卒業と同時に免許状を受け取ることができず、卒業後、個人申請を行うことになります。

個人申請とは、卒業年の 4 月以降に本人が居住する都道府県の教育委員会へ申請する方法です。各教育委員会によって手続きや申請書類の様式が異なりますので、申請する前に教育委員会に問い合わせる必要があります。個人申請の場合、一括申請よりも手続きが繁雑になり免許状の交付まで日数がかかります。

なお、教育職員免許状の申請手数料として 1 免許につき 3,300 円 (2022 年度申請時) が別途必要になります。

（７）履修するために必要な費用

教職課程の履修には、課程履修費、実習諸経費が必要です。必要な費用は、以下の通りです。

◎ 社会福祉学科

取得免許状	履修費
高校教諭一種（福祉）	－
高校教諭一種（公民）	－
特別支援学校教諭一種	143,000 円
小学校教諭一種	220,000 円
養護教諭一種のみ	99,000 円
養護教諭一種・ 中学・高校教諭（保健） *	66,000 円

* 養護教諭一種履修費に加えて必要な履修費

実習	実習費	合計
教育実習（２週間）	20,000 円	20,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	20,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	163,000 円
教育実習（４週間）	40,000 円	260,000 円
教育実習（養護・看護）	60,000 円	159,000 円
教育実習（２・４週間） *	40,000 円	106,000 円

* 教育実習（養護・看護）に加えて必要な実習費

◎ 保育児童学科

取得免許状	履修費
幼稚園教諭一種	－

実習	実習費	合計
教育実習（４週間）	40,000 円	40,000 円

小学校教諭一種	66,000 円
養護教諭一種のみ	110,000 円
養護教諭一種・ 中学・高校教諭（保健） *	55,000 円
特別支援学校教諭一種	143,000 円
社会福祉士 +高校教諭一種（福祉）* *	22,000 円
高校教諭一種（公民）	55,000 円

教育実習（４週間）	40,000 円	106,000 円
教育実習（養護・看護）	60,000 円	170,000 円
教育実習（２・４週間）*	40,000 円	95,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	163,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	42,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	75,000 円

* 養護教諭一種履修費に加えて必要な履修費　　* 教育実習（養護・看護）に加えて必要な実習費
**社会福祉士履修費に加えて必要な履修費

◎ 教育学科

取得免許状	履修費
小学校教諭一種	―
養護教諭一種のみ	―
中学・高校教諭（保健）	―
中学・高校教諭（英語）	―
高校教諭一種（情報）	―
特別支援学校教諭一種	143,000 円
高校教諭一種（公民）	77,000 円
幼稚園教諭一種	110,000 円

実習	実習費	合計
教育実習（４週間）	40,000 円	40,000 円
教育実習（看護・養護）	60,000 円	60,000 円
教育実習（２・４週間） *	40,000 円	40,000 円
教育実習（２・４週間）	40,000 円	40,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	20,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	163,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	97,000 円
教育実習（４週間）	40,000 円	150,000 円

* 教育実習（養護・看護）に加えて必要な実習費

◎ 心理学科

取得免許状	履修費
高校教諭一種（福祉）	―
高校教諭一種（公民）	―
特別支援学校教諭一種	143,000 円
小学校教諭一種	220,000 円
養護教諭一種のみ	121,000 円
養護教諭一種・ 中学・高校教諭（保健） *	66,000 円

実習	実習費	合計
教育実習（２週間）	20,000 円	20,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	20,000 円
教育実習（２週間）	20,000 円	163,000 円
教育実習（４週間）	40,000 円	260,000 円
教育実習（養護・看護）	60,000 円	181,000 円
教育実習（２・４週間） *	40,000 円	106,000 円

*養護教諭一種履修費に加えて必要な履修費　　* 教育実習（養護・看護）に加えて必要な実習費

４．保育士資格の取得について（保育児童学科・社会福祉学科）

本学では、保育士養成施設としての指定を厚生労働省より受けており、定められた科目を修得し保育士登録申請を行い卒業すれば、保育士資格が取得できます。

（１） 保育士養成課程の履修について

保育児童学科では全学生が、社会福祉学科では保育児童福祉専修合格者が、児童福祉法施行規則に定められている科目を履修し、単位を修得し保育士登録申請を行うことによって、卒業時に保育士資格の取得が可能となります。

履修希望の届出は、1 年次の履修登録（資格登録）にて行います。

（２） 単位の修得について

保育士資格を取得するためには、本学で開講されている厚生労働省告示(平成 22 年第 278 号)に対応する下記の科目の単位を修得することが必要となります。

保育児童学科と社会福祉学科では、修得する単位が異なる場合があるので、注意してください。詳細は、それぞれの学科、専攻、コースのカリキュラム表にて確認してください。

① 総合教育科目の履修

本学で開講されている総合教育科目のうち、下記の保育士資格取得のための必修科目を含む 10 単位以上が必要単位となります。

告示による教科目			社会福祉学科開設科目				保育児童学科開設科目			
系列	教科目	単位数	左に対応して開設する教科目	単位数			左に対応して開設する教科目	単位数		
				必修	選択	計		必修	選択	計
教養科目	外国語、体育以外の科目	6 以上	法学概論		2	2	法学概論		2	2
			法学（憲法）	2		2	法学（憲法）	2		2
			文章表現	2		2	文章表現	2		2
			情報処理演習Ⅰ	4		4	情報処理演習Ⅰ	4		4
			ソーシャルワーク演習Ⅰ	2		2	保育児童基礎演習	2		2
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	2		2				
			社会福祉入門	2		2	社会福祉入門	2		2
			国際社会と日本		2	2	国際社会と日本		2	2
			政治学		2	2	日本史		2	2
			日本史		2	2	人体の構造と機能及び疾病		2	2
			統計学		2	2	レクリエーションワーク		2	2
			福祉と教育	2		2	福祉と教育	2		2
	外国語	2 以上	アメリカの文化と言語Ⅰ		2 注1)	2	アメリカの文化と言語Ⅰ	2		2
			中国の文化と言語Ⅰ		2 注1)	2	中国の文化と言語Ⅰ		2	2
	体　育	2	健康・スポーツ	2 注2)		2	健康・スポーツ	2 注2)		2
合　計		10 単位以上	単位数合計	18	14	32	単位数合計	18	12	30
			最低修得単位数　20 単位				最低修得単位数　18 単位			

注1） 社会福祉学科では、「アメリカの文化と言語Ⅰ」「中国の文化と言語Ⅰ」のいずれかを修得する必要があります。

注2） 「健康・スポーツ」は通常授業以外に大学行事の赤城山宿泊研修、合同スポーツデイに参加することで、単位が認定されます。

② 保育士資格取得のための必修科目の履修

本学で開講している「厚生労働省により指定されている必修科目」とその単位数は次の通りです。すべてが必要単位となります。

告示別表第１による教科目			社会福祉学科開設科目				保育児童学科開設科目			
系列	教科目	単位	左に対応して開設する教科目	単位 必修	単位 選択	単位 計	左に対応して開設する教科目	単位 必修	単位 選択	単位 計
保育の本質・目的に関する科目	保育原理(講義)	2	保育原理	2		2	保育原理	2		2
	教育原理(講義)	2	教育学概論	2		2	教育学概論	2		2
	子ども家庭福祉（講義）	2	児童・家庭福祉論	2		2	児童・家庭福祉論	2		2
	社会福祉(講義)	2	社会福祉原論	2/4		2/4	社会福祉	2		2
	子ども家庭支援論（講義）	2	子ども家庭支援論	2		2	子ども家庭支援論	2		2
	社会的養護Ⅰ（講義）	2	社会的養護Ⅰ	2		2	社会的養護Ⅰ	2		2
	保育者論(講義)	2	保育者論	2		2	保育者論	2		2
保育の対象の理解に関する科目	保育の心理学(講義)	2	保育の心理学	2		2	保育の心理学	2		2
	子ども家庭支援の心理学（講義）	2	子ども家庭支援の心理学	2		2	子ども家庭支援の心理学	2		2
	子どもの理解と援助（演習）	1	幼児理解	2		2	幼児理解	2		2
	子どもの保健(講義)	2	子どもの保健	2		2	子どもの保健	2		2
	子どもの食と栄養(演習)	2	子どもの食と栄養	2		2	子どもの食と栄養	2		2
保育の内容・方法に関する科目	保育の計画と評価（講義）	2	保育カリキュラム論	2		2	保育カリキュラム論	2		2
	保育内容総論(演習)	1	保育内容総論	2		2	保育内容総論	2		2
	保育内容演習(演習)	5	保育内容（健康）	2		2	保育内容（健康）	2		2
			保育内容（人間関係）	2		2	保育内容（人間関係）	2		2
			保育内容（環境）	2		2	保育内容（環境）	2		2
			保育内容（言葉）	2		2	保育内容（言葉）	2		2
			表現	2		2	保育内容（表現）	2		2
	保育内容の理解と方法（演習）	4	子どもと音楽	2		2	子どもと音楽	2		2
			子どもと造形	2		2	子どもと造形	2		2
			子どもと健康	2		2	子どもと健康	2		2
	乳児保育Ⅰ（講義）	2	乳児保育Ⅰ	2		2	乳児保育Ⅰ	2		2
	乳児保育Ⅱ（演習）	1	乳児保育Ⅱ	2		2	乳児保育Ⅱ	2		2
	子どもの健康と安全(演習)	1	子どもの健康と安全	2		2	子どもの健康と安全	2		2
	障害児保育(演習)	2	障害児療育	2		2	障害児療育	2		2
	社会的養護Ⅱ（演習）	1	社会的養護Ⅱ	2		2	社会的養護Ⅱ	2		2
	子育て支援（演習）	1	子育て支援	1/2		1/2	子育て支援	2		2
保育実習	保育実習Ⅰ(実習)	4	保育実習Ⅰ（保育所）	2		2	保育実習Ⅰ（保育所）	2		2
			保育実習Ⅰ（施設）	2		2	保育実習Ⅰ（施設）	2		2
	保育実習指導Ⅰ(演習)	2	保育実習指導Ⅰ	2		2	保育実習指導Ⅰ	2		2
総合演習	保育実践演習(演習)	2	保育実践演習	2		2	保育実践演習	2		2
合　計		51	単位数合計	63		63	単位数合計	64		64
			63 単位				64 単位			

③ 保育士資格取得のための選択必修科目の履修

本学で開講している「厚生労働省により指定されている選択必修科目」とその単位数は次の通りです。「保育実習指導Ⅱ」と「保育実習指導Ⅲ」、「保育実習Ⅱ」と「保育実習Ⅲ」のいずれかを含む、社会福祉学科は 13 単位、保育児童学科は 16 単位が必要単位となります。

別表第２による教科目			社会福祉学科開設科目				保育児童学科開設科目			
系　列	教 科 目	単位数	左に対応して開設する教科目	単　位　数			左に対応して開設する教科目	単　位　数		
				必修	選択	計		必修	選択	計
保育の本質･目的に関する科目	各指定保育士養成施設において設定	6単位以上	児童・家庭福祉論Ⅱ		2	2	児童・家庭福祉論Ⅱ	2		2
			社会福祉原論	2/4		2/4				
			ソーシャルワークの基盤と専門職	2		4				
			ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）	2						
保育の対象の理解に関する科目			臨床心理学		2	2	臨床心理学	2		2
			保育の心理学Ⅱ		2	2	保育の心理学Ⅱ	2		2
保育の内容･方法に関する科目			子育て支援	1/2		1/2	保育内容総論Ⅱ	2		2
							保育児童専門演習	2		2
			音楽		2	2	音楽		2	2
			図画工作Ⅰ	2		2	図画工作Ⅰ	2		2
			音楽Ⅱ		2	2	音楽Ⅱ		2	2
							音楽Ⅲ		2	2
			図画工作Ⅱ		2	2	図画工作Ⅱ		2	2
保育実習	保育実習Ⅱ 保育実習Ⅲ	2単位以上	保育実習Ⅱ		2 注1)	2	保育実習Ⅱ		2 注1)	2
			保育実習Ⅲ		2 注1)	2	保育実習Ⅲ		2 注1)	2
	保育実習指導Ⅱ 保育実習指導Ⅲ	1単位以上	保育実習指導Ⅱ		2 注2)	2	保育実習指導Ⅱ		2 注2)	2
			保育実習指導Ⅲ		2 注2)	2	保育実習指導Ⅲ		2 注2)	2
合　　計		9単位以上	単位数合計	9	１６	２５	単位数合計	１２	１２	２４
			最低修得単位数　１３単位				最低修得単位数　１６単位			

注1）保育実習Ⅱ（保育所実習）または保育実習Ⅲ（施設実習）のいずれかを修得する必要があります。
注2）保育実習指導Ⅱ（保育所実習）または保育実習指導Ⅲ（施設実習）のいずれかを修得する必要があります。

（３） 保育実習について

保育士資格を取得するためには、保育実習を行い、単位を修得することが必要です。保育実習は、3 つの種類に分かれており、それぞれ定められた施設、日数において実習を行います。保育実習指導Ⅰのほか、保育実習Ⅰ（必修）は、保育所における実習、その他の施設における実習を行うことにより履修します。

さらに、保育所における保育実習Ⅱ（保育実習指導Ⅱ）、あるいは施設における保育実習Ⅲ（保育実習指導Ⅲ）を行うことにより履修します。（選択必修）

なお、保育実習参加資格を満たすことができない学生は、参加することが出来なくなりますので、十分に注意してください。

① 実習目的について

保育実習は、大学の講義を通して習得した科目全体の知識、技能を基礎とし、これらを総合的に実践する応用能力を養うこと、また、児童に対する理解を通じて保育の理論と実践の関係について習熟することを目的として行います。

② 保育実習の概要

1) 保育児童学部　保育児童学科（希望者のみ）

保育実習（実習施設の配属を含めて）については、2 年次春期に実施される保育実習ガイダンス、2 年次秋期に履修する「保育実習指導Ⅰ」の中で、具体的な指導が行われます。「保育実習指導Ⅰ」の授業の中で、「保育実習の手引き」が配付されますので、よく読んで確認してください。

<table>
<tr><th colspan="2">区　　分</th><th>資格要件</th><th colspan="2">履 修 時 期</th><th>実習日数・実習時間数</th></tr>
<tr><td colspan="2">保育実習指導Ⅰ</td><td>必修</td><td>2 年次
秋期</td><td>10 月
～2 月</td><td></td></tr>
<tr><td rowspan="2">保育実習Ⅰ</td><td>保育実習Ⅰ(保育所)</td><td>必修</td><td>2 年次
秋期
(春休み)</td><td>2 月
～3 月</td><td>12 日間　90 時間以上</td></tr>
<tr><td>保育実習Ⅰ(施設)</td><td>必修</td><td>3 年次
春期
(夏休み)</td><td>7 月
～8 月</td><td>12 日間　90 時間以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">保育実習指導Ⅱ（保育所）</td><td rowspan="2">選択
必修</td><td rowspan="2">4 年次
春期</td><td rowspan="2">4 月
～9 月</td><td rowspan="2"></td></tr>
<tr><td colspan="2">保育実習指導Ⅲ（施設）</td></tr>
<tr><td colspan="2">保育実習Ⅱ（保育所）</td><td rowspan="2">選択
必修</td><td rowspan="2">4 年次
春期
(夏休み)</td><td rowspan="2">7 月
～8 月</td><td rowspan="2">12 日間　90 時間以上</td></tr>
<tr><td colspan="2">保育実習Ⅲ（施設）</td></tr>
</table>

＜注意＞

① 「保育実習Ⅰ（保育所）」（2年次秋期）と「保育実習Ⅰ（施設）」（3年次春期）の履修には、「保育児童基礎演習」「児童・家庭福祉論」「社会福祉」「保育原理」の単位を履修する必要があり、「保育実習Ⅰ（保育所）」は「保育実習指導Ⅰ」と併行して履修すること。

② 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」(4年次春期)の履修には、「保育実習Ⅰ（保育所）」と「保育実習Ⅰ（施設）」の単位を修得した上で、「保育実習指導Ⅱ」または「保育実習指導Ⅲ」を併行して履修すること。

③ 実習の実施は福祉実習専門部会の協議を経て決定する。福祉実習専門部会の協議により、上記①②の理由以外（通算 GPA が 2.0 未満、社会性が身についていないと判断される場合など）によっても、実習の実施を認めない場合がある。

2) 社会福祉学部　社会福祉学科　社会福祉専攻　社会福祉コース、精神保健福祉専攻（保育児童福祉専修）

保育実習（実習施設の配属を含めて）については、2 年次秋期に実施される保育実習ガイダンス、3 年次春期に履修する「保育実習指導Ⅰ」の中で、具体的な指導が行われます。保育実習ガイダンスの中で、「保育実習の手引き」が配付されますので、よく読んで確認してください。

区　　分		資格要件	履 修 時 期		実習日数・実習時間数
保育実習指導Ⅰ		必修	3 年次 春期	4 月 ～9 月	
保育実習Ⅰ	保育実習Ⅰ(保育所)	必修	3 年次 春期 (夏休み)	7 月 ～8 月	12 日間　90 時間以上
	保育実習Ⅰ(施設)	必修	3 年次 秋期 (春休み)	2 月 ~3 月	12 日間　90 時間以上
保育実習指導Ⅱ（保育所）		選択 必修	4 年次 春期	4 月 ～9 月	
保育実習指導Ⅲ（施設）					
保育実習Ⅱ（保育所）		選択 必修	4 年次 春期 (夏休み)	7 月 ～8 月	12 日間　90 時間以上
保育実習Ⅲ（施設）					

＜注意＞

① 「保育実習Ⅰ（保育所）」（3年次春期）と「保育実習Ⅰ（施設）」（3年次秋期）の履修には、「ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ」「児童・家庭福祉論」「社会福祉原論」「ソーシャルワークの基盤と専門職」「ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）」「保育原理」の単位を履修する必要があり、「保育実習Ⅰ（保育所）」は「保育実習指導Ⅰ」と、併行して履修すること。

② 「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」(4年次春期)の履修には、「保育実習Ⅰ（保育所）」と「保育実習Ⅰ（施設）」の単位を修得した上で、「保育実習指導Ⅱ」または「保育実習指導Ⅲ」を併行して履修すること。

③ 実習の実施は福祉実習専門部会の協議を経て決定する。福祉実習専門部会の協議により、上記①②の理由以外（通算 GPA が 2.0 未満、社会性が身についていないと判断される場合など）によっても、実習の実施を認めない場合がある。

（4） 保育実習を履修するために必要な費用

保育士養成課程（保育児童福祉専修）の履修に必要な費用は以下の通りです。保育児童学科では保育実習費が、社会福祉学科では課程履修費と保育実習費が必要となります。

学科	履修費	実習	実習費	合計
保育児童学科	－	保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習ⅡまたはⅢ	20,000 円 20,000 円 20,000 円	60,000 円
社会福祉学科 （保育児童福祉専修）	170,500 円	保育実習Ⅰ（保育所） 保育実習Ⅰ（施設） 保育実習ⅡまたはⅢ	20,000 円 20,000 円 20,000 円	230,500 円

※ 保育実習Ⅰ（保育所実習・施設実習）は必修、保育実習Ⅱ（保育所実習）と保育実習Ⅲ（施設実習）はいずれかを選択必修すること。

（５） 実習施設について

実習施設は、内閣府（こども家庭庁）により定められている以下の種別となる。

保育実習の種類	実習施設の種別
保育実習Ⅰ（保育所）	保育所、幼保連携型認定こども園又は児童福祉法第６条の３第１０項の小規模保育事業（ただし、「家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準」（平成２６年厚生労働省令第６１号）第３章第２節に規定する小規模保育事業Ａ型及び同基準同章第３節に規定する小規模保育Ｂ型に限る）若しくは同条第１２項の事業所内保育事業であって同法第３４条の１５第１項の事業及び同法同条第２項の認可を受けたもの（以下「小規模保育Ａ・Ｂ型及び事業所内保育事業」という）
保育実習Ⅰ（施設）	乳児院、母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター(児童発達支援及び医療型児童発達支援を行うものに限る)、障害者支援施設、指定障害福祉サービス事業所(生活介護、自立訓練、就労移行支援又は就労継続支援を行うものに限る)、児童養護施設、情緒障害児短期治療施設、児童自立支援施設、児童相談所一時保護施設又は独立行政法人国立重度知的障害者総合施設のぞみの園
保育実習Ⅱ（保育所）	保育所又は幼保連携型認定こども園或いは小規模保育Ａ・Ｂ型及び事業所内保育事業
保育実習Ⅲ（施設）	保育実習Ⅰ（施設）の対象施設に加えて、下記の施設も対象となる。 児童厚生施設（児童館）　他

（６） 実習巡回指導について

本学実習担当教員は、各々の担当実習生の実習期間中に実習先へ巡回指導のため訪問をします。そこでは現場実習指導者と学生の実習実施状況を把握し、学生への指導を通して、学習レベルに応じた課題・学習内容などの調整・変更を行います。

（７） 福祉専門職支援について

本学では、実習担当職員によって構成されるキャリア支援室を設置しており、皆さんの実習についての計画・指導実施や実習についての相談に随時応じています。

（８） 保育士資格の登録について

保育士とは、保育士の名称を用いて、専門的知識及び技術をもって、児童の保育及び児童の保護者に対する保育に関する指導を行うことを業とする者と定義されています。

保育士として業務を行うには、都道府県の備える保育士登録簿に氏名、生年月日その他厚生労働省令で定める事項を登録しなければなりません。

本学において、厚生労働省の定める教科目を修めて当該年度の３月に卒業することが見込まれる者については、本学が発行する卒業見込証明書をもって事前に保育士登録申請が行えます。これにより、当該年度の３月末に申請先都道府県において登録決定がなされ、新年度当初より保育士としての就業が可能となります。

保育士の登録は、本学から一括して、各都道府県知事から委託を受けている「社会福祉法人 日本保育協会　登録事務処理センター」に申請します。卒業後に、保育士としての業務に就く予定のある学生は、必ず登録を行ってください。

なお、保育士としての業務を行わない場合は、登録をする必要が生じた際に、個人申請をすることができます。

５．第一種衛生管理者免許の取得について（社会福祉学科）

衛生管理者は、職場における労働者の健康管理、快適な職場環境づくりを行うための国家資格です。常時 50 人以上の労働者を使用する事業場には、労働安全衛生法により衛生管理者の選任が義務づけられています。

衛生管理者には第一種と第二種があり、本学社会福祉学科では、群馬労働局から認可を受け、指定科目を修得し卒業することにより、第一種の免許を無試験で取得することが可能です。

職場環境と働く人々の健康管理は、今後の福祉政策に必要不可欠な条件であると言えます。本学では、「福祉の心」と社会的ニーズを十分に踏まえ、福祉・医療および教育の場で働く人々の「職域保健」を中心に、また、多様な職種、多様な職場環境の衛生管理に十分に対応出来うる衛生管理者の養成を目指しています。

(1)　衛生管理者が統括管理する主な業務（労働安全衛生法）

1) 労働者の危険又は健康障害を防止するための措置に関すること。
2) 労働者の安全又は衛生のための教育の実施に関すること。
3) 健康診断の実施その他健康の保持増進のための措置に関すること。
4) 労働災害の原因の調査及び再発防止対策に関すること。
5) その他、労働災害を防止するため必要な業務で、厚生労働省令で定めるもの。

(2)　開設科目

第一種衛生管理者免許を取得するためには、下記の指定科目の単位をすべて修得しなければなりません。

本学開講科目	単位
労働衛生学	4
健康管理学（健康相談活動を含む）	2
生理学	4
労働法（労働基準法）	2
労働安全衛生法（じん肺法を含む）	2

(3)　履修するために必要な費用

第一種衛生管理者指定科目の履修に必要な費用は、以下の通りです。

納入年次	履修費
3 年次春期	22,000 円
4 年次春期	22,000 円
合計	44,000 円

(4)　第一種衛生管理者免許の交付について

第一種衛生管理者免許の交付を希望する場合は、卒業後に各自の居住地を管轄する労働局で申請を行う必要があります。交付には、3 週間から 1 ヵ月程度の日数が必要です。詳細は、各労働局及び各監督署に問い合わせてください。
（厚生労働省・都道府県労働局：http://www.mhlw.go.jp/bunya/roudoukijun/pref.html）

① 提出先　　申請者の住所地を管轄する都道府県労働局
（群馬県内に住所がある場合は、群馬労働局）

② 提出書類　　本学が発行する「卒業証明書」「単位修得証明書」
（無試験で交付を受けるための資格を有することを証明する書面）

その他、必要な書類などの例（詳細は各労働局に問い合わせてください）

1)　免許申請書
（各労働局に備え付けてあります）
2)　収入印紙 1,500 円分（郵便局で購入。国発行のもので消印はしない）
3)　証明写真 1 枚
（縦 3 センチ、横 2.4 センチ、6 ヵ月以内に撮影したもの、上三分身、脱帽、無背景、鮮明なもの。デジカメ、ポラロイド写真不可）
4)　404 円分の切手（免許証郵送用）
発行された免許証は、専用の窓付き封筒（労働局及び各監督署に備え付け）で郵送（簡易書留）により交付されます。
5)　本人を確認するための証明証（氏名、生年月日、本籍地、住所を確認できるもの）※写真が無い公的証明書の場合は原則として 2 つ提示
例：本籍地が記載されている自動車運転免許証・パスポート・本籍地記載の住民票（6 ヵ月以内に発行したもの）・現在所持している労働安全衛生法関係免許証など
6)　他に持っている労働安全衛生法関係既得免許証
（持っていなければ不要）

６．社会教育主事【基礎資格】（社会教育士）の取得について

社会教育主事になるためには、まず大学で基礎資格を取得する必要があります。基礎資格取得後、地方公務員として採用されてから社会教育や生涯教育関係の職務に１年以上従事することにより、社会教育主事に任用されるための資格が得られます。その後、**都道府県及び市町村の教育委員会から社会教育主事として発令を受けてはじめて、その職務に就くことができます。**

この基礎資格を取得するためには、下記の規定科目に該当する科目の単位を修得しなければなりません。本学では、社会福祉学部の養成課程が文部科学省に認定されています。保育児童学部、心理学部、教育学部教育学科学校教育専攻では、社会福祉学部開講科目を履修することにより、基礎資格を取得します。

また、社会教育主事課程修了者は、「社会教育士」と称することができるようになります。

	法令上の科目	単位数	本学開講科目（読替科目）		単位数	
					必修	選択
必修科目	生涯学習概論	4	生涯学習概論		4	
	生涯学習支援論	4	生涯学習支援論		4	
	社会教育経営論	4	社会教育経営論		4	
	社会教育特講	8	高齢者支援展開論	高齢化と社会教育		2
			児童・家庭福祉論	家庭環境と社会教育		2
			地域福祉論	社会福祉と社会教育		4
			レクリエーションワーク	健康環境と社会教育		2 注1)
			ボランティア論	ボランティア活動と社会教育		2
			特別ニーズ教育論	特別支援教育と社会教育		2
	社会教育実習	1	社会教育実習注3)		1	
選択科目	社会教育演習 社会教育実習 社会教育課題研究 のうち一以上の科目	3	社会教育課題研究		2	
			社会教育演習		1	
	計	24	計		24	

注1）　心理学部及び、教育学部教育学科学校教育専攻は原則として必修。
注2）　規定科目に対応する「本学開講科目」を各科目分の必要単位を満たすように 24 単位以上、履修すること。
注3）　「社会教育実習」参加要件として、「生涯学習概論」「生涯学習支援論」「社会教育経営論」「社会教育演習」を受講しておくこと。

(1)　履修するために必要な費用

社会教育主事課程科目の履修に必要な費用は、以下の通りです。

	履修費	納入年次
社会福祉学部 保育児童学部 心　理　学　部	44,000 円	3 年次春期
教　育　学　部	55,000 円	

社会教育実習費

	社会教育実習費	納入年次
―	10,000 円	4 年次春期

７．認定心理士資格の取得について　（心理学科・社会福祉学科心理福祉専攻・教育学科学校教育専攻）

心理学科と社会福祉学科心理福祉専攻、教育学科学校教育専攻の学生が、下記の指定科目に該当する科目の単位を修得することにより、日本心理学会認定心理士資格を取得することができます。

日本心理学会認定心理士とは、「心理学の専門家として仕事をするために必要な、最小限の標準的基礎学力と技能を修得している」と日本心理学会が認定した資格のことです。

区分	必要科目		心理学科・社会福祉学科心理福祉専攻		単位	教育学科学校教育専攻		単位
基礎科目	(a) 心理学概論 (b) 心理学研究法 (c) 心理学実験・実習	a、c 領域それぞれ 4 単位以上 b、c 領域の合計が 8 単位以上	a	心理学入門	2	a	心理学入門	2
				心理学概論	2		心理学概論	2
			b	心理学統計法	2	b	心理統計法	2
				心理学研究法	4		心理学研究法	4
				心理的アセスメント	4		心理検査法	4
			c	心理学実験	4	c	心理学基礎実験	4
選択科目	(d) 知覚心理学･学習心理学 (e) 生理心理学･比較心理学 (f) 教育心理学･発達心理学 (g) 臨床心理学･人格心理学 (h) 社会心理学･産業心理学	3 領域以上でそれぞれ 4 単位以上合計 16 単位以上	d	知覚・認知心理学	4	d	認知心理学	2
			e	神経・生理心理学*	2	f	教育心理学	2
			f	教育・学校心理学	4		発達心理学	2
				発達心理学	4	g	臨床心理学	2
			g	臨床心理学概論	4		心理療法概説	2
				心理学的支援法（演習）	2		カウンセリング演習	4
				障害者･障害児心理学	2		障害児・者の心理	2
							教育相談(カウンセリングを含む)	2
			h	社会・集団・家族心理学（社会・集団）	4	h	社会心理学	2
							家族心理学	2
その他	(i) 心理学関連科目 卒業論文・卒業研究	4 単位まで	i	卒業研究*	4			
	36 単位以上		合計		42	合計		40

※　心理学科、心理福祉専攻は、*印の科目以外のすべてを修得する必要があります。

※　教育学科学校教育専攻は、指定科目すべてを修得する必要があります。

（１）　資格認定の条件

下記の条件を卒業見込みの学年度において満たしている者は、申請することができます。

①　16 才以降少なくとも 2 年以上日本国に滞在した経験を有する者。

②　学校教育法により定められた大学、または大学院における心理学専攻、教育心理学専攻、または心理学関連専攻の学科において、別表に掲げる科目を履修し、必要単位（36 単位以上）を修得し、卒業または修了した者、および、それと同等以上の学力を有すると認められた者。

（２）　認定の手続き

①　申請書類の申込

認定心理士資格の取得希望者は、公益社団法人 日本心理学会ホームページから申請書をダウンロードするか、郵送によって申請書類を入手します。なお、郵送の場合は、

手数料（1,650 円）を指定口座に振り込んだことが確認されると、書類一式と申請の手引きが送付されます。

② 申請と認定の手続き

送付または、ダウンロードした申請書類に必要事項を記入し、下記の審査料とともに認定委員会に送付すると所定の審査の上、可否が通知されます。認定後、認定料を送金すると、公益社団法人 日本心理学会 認定心理士 認定証と ID カードが送付されます。

申請に必要な書類などについては、卒業時に配付する資料にて、確認をしてください。

費　用	
審査料	11,000 円
認定料	30,000 円

③ 連絡先・送付先

公益社団法人 日本心理学会
〒113-0033 東京都文京区本郷 5-23-13 田村ビル内
TEL 03-3814-3953　FAX 03-3814-3954
http://www.psych.or.jp/index.html

※ 日本心理学会は、心理学の進歩普及を図ることを目的として 1927 年（昭和 2 年）4 月 7 日に創立された、全国規模の心理学の総合学会では最も歴史のある学会。基礎領域から応用領域まで広い専門領域にわたった会員を擁し、一貫して日本の心理学の発展に貢献してきた。1994 年（平成 6 年）9 月 20 日には、文部省から社団法人の認可を受けている。また、2011 年（平成 23 年）4 月 1 日からは、内閣府の認定を受け、公益社団法人となった。

８．公認心理師受験資格の取得について（公認心理師受験基礎資格（大学））
（心理学科・社会福祉学科心理福祉専攻）

公認心理師国家試験受験資格を得るためには、大学において公認心理師になるために必要と定められた科目を全て履修した後、大学院に進学し、省令で定める科目を修得、または特定の養成プログラムを擁すると国に認定された施設で働くことが必要です。

本学開設の受験資格取得に必要な科目は以下のとおりです。

	公認心理師法における科目	本学開講科目	単位
1	公認心理師の職責	公認心理師の職責	2
2	心理学概論	心理学概論	2
3	臨床心理学概論	臨床心理学概論	4
4	心理学研究法	心理学研究法	4
5	心理学統計法	心理学統計法	2
6	心理学実験	心理学実験	4
7	知覚･認知心理学	知覚･認知心理学	4
8	学習･言語心理学	学習･言語心理学	2
9	感情･人格心理学	感情･人格心理学	2
10	神経･生理心理学	神経･生理心理学	2
11	社会･集団･家族心理学	社会･集団･家族心理学(社会･集団)	4
		社会･集団･家族心理学(家族)	2
12	発達心理学	発達心理学	4
13	障害者･障害児心理学	障害者･障害児心理学	2
14	心理的アセスメント	心理的アセスメント	4
15	心理学的支援法	心理学的支援法(基礎)	2
		心理学的支援法(演習)	2
		心理学的支援法(心理療法)	2
16	健康･医療心理学	健康･医療心理学	2
17	福祉心理学	福祉心理学	2
18	教育･学校心理学	教育･学校心理学	4
19	司法･犯罪心理学	司法･犯罪心理学	2
20	産業･組織心理学	産業･組織心理学	2
21	人体の構造と機能及び疾病	人体の構造と機能及び疾病	2
22	精神疾患とその治療	精神疾患とその治療	4
23	関係行政論	関係行政論	2
24	心理演習	心理演習	2
25	心理実習	心理実習	2

（1） 心理実習参加条件について

心理実習の参加には3年次秋期終了時に以下の条件を満たしていることが必要です。

修得科目	通算GPA
「人体の構造と機能及び疾病」、「心理学概論」、「心理学統計法」、「発達心理学」「臨床心理学概論」、「社会・集団・家族心理学（社会・集団）」、「心理学的支援法（基礎）」、「心理学実験」、「知覚・認知心理学」、「精神疾患とその治療」、「心理学研究法」、「教育・学校心理学」、「心理的アセスメント」、「障害者・障害児心理学」、「心理学的支援法（演習）」、「関係行政論」、「健康・医療心理学」、「心理学的支援法（心理療法）」、「心理演習」、「公認心理師の職責」 （20科目）	3.0以上

（2） 心理実習について

4年次通年に80時間以上の実習指導を含む心理実習を行います。

心理実習は、実習（5日[30時間]）＋実習事前事後指導（34回[51時間]）の計81時間の実施を予定しています。詳細については、3年次秋期に開講する心理演習で説明します。

区　　分	資格要件	履修時期		実習時間数	
心理実習	必修	4年次	4月 ～2月	30時間	1日6時間 × 5日間
				51時間	実習事前事後指導 90分（1コマ）×34回

（3） 履修するために必要な費用について

心理実習に必要な費用は、以下の通りです。

実習費	納入年次
40,000円	4年次春期

９．レクリエーション・インストラクター資格の取得について

レクリエーション・インストラクターとは、「レクリエーションの技術指導の方法を習得し、さまざまな遊びを多くの人に提供することのできる入門的な資格」として、＜公財＞日本レクリエーション協会が認定した資格です。資格取得後は、＜公財＞日本レクリエーション協会が公認する指導者資格ということで、公認指導者とよばれるようになります。

本学では、希望者が、指定科目の単位を修得し、実習、事業に参加することにより、レクリエーション・インストラクター資格を取得できます。**ただし、編入生は除きます。**

（１） 資格取得の方法

<table>
<tr><th>区　分</th><th colspan="4">指定科目および行事</th></tr>
<tr><td>理　論</td><td colspan="4">レクリエーション理論　(2 単位)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">実　技</td><td colspan="4">レクリエーションワーク（2 単位）
生活支援技術・余暇（2 単位）（介護コースのみ）
※いずれか 1 科目を修得すること</td></tr>
<tr><td colspan="4">東京福祉大学合同スポーツデイ</td></tr>
<tr><td>現場実習
(A 群に参加しない場合は、B 群よりいずれか 1 行事に参加すること)</td><td>A 群</td><td>①ソーシャルワーク基礎実習
②介護実習
③保育実習
④教育実習
※いずれかの実習に参加すること</td><td>B 群</td><td>①赤城山宿泊研修学生スタッフ
②社会福祉協議会主催スタッフ
③教育委員会主催スタッフ</td></tr>
<tr><td>事業参加
(いずれかの事業･行事に 2 回以上参加)</td><td colspan="4">東京福祉大学赤城山宿泊研修(全員参加)
群馬県レクリエーション大会
日本・各都道府県・各市町村レクリエーション協会主催事業
各レクリエーション協会加盟団体の主催事業
東京福祉大学合同スポーツデイ学生スタッフ</td></tr>
</table>

（２） 赤城山宿泊研修について（全員参加）

1 年次に「赤城山研修センター」において、2 泊 3 日の日程で行われ宿泊研修に参加します。グループに分かれてハイキングや野外炊飯、キャンプファイヤーでのダンスなどを行います。自然の中で行動することにより、自然と人間とのかかわり方、集団生活、リーダーシップなどについて直接的に体験し、その意義を学ぶことを目的としています。

詳しい日程、内容の詳細については、オリエンテーションなどで説明します。

※　赤城山宿泊研修は、費用（14,000 円）がかかります。

（３） 資格の申請手続きについて

公認指導者は、＜公財＞日本レクリエーション協会に登録し、各都道府県レクリエーション協会の会員になることが必要です。「有効期限」は 2 年間となります。更新手続きなどは、＜公財＞日本レクリエーション協会に、各自で行ってください。

① 申請書類は、本学で取りまとめ、一括して＜公財＞日本レクリエーション協会へ提出します。

② 申請には、資格登録費用（16,000 円＋税）が必要となります。(2022 年度現在)

③ 3 年目以降の更新料は、11,000 円＋税となります。(2022 年度現在)

10. スクールソーシャルワーカー資格の取得について

本学では、＜一社＞日本社会福祉士養成校協会よりスクール（学校）ソーシャルワーク教育課程の認定を受けており、社会福祉学部社会福祉学科の社会福祉専攻社会福祉コースと精神保健福祉専攻、経営福祉専攻の学生が取得可能です。

下記の指定科目の単位を修得し、社会福祉士または精神保健福祉士国家試験に合格し、その登録証の写しを＜一社＞日本社会福祉士養成校協会に提出することにより、教育課程修了証の交付を受けることにより資格を取得します。

指定科目	本学開講科目	単位 (時間数)
スクールソーシャルワーク論	スクールソーシャルワーク論	2
スクールソーシャルワーク演習	スクールソーシャルワーク演習	1
スクールソーシャルワーク実習指導	スクールソーシャルワーク実習指導	1
スクールソーシャルワーク実習	スクールソーシャルワーク実習	2(80 時間)
教育の基礎的理解に関する科目のうち、「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む科目（１科目以上）	教育法規	2
	教師論	2
「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」のうち「教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識をを含む。）の理論及び方法」を含む科目（１科目以上）	教育相談（カウンセリングを含む）	2
	教育心理学	2
	特別ニーズ教育論	2
	児童生徒指導論（進路指導を含む）	2
児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童・家庭福祉論	2
精神保健学	精神保健学＊	2/4
貧困に対する支援	公的扶助論	2

＊　「精神保健学」は、社会福祉コース・経営福祉専攻は 2 単位、精神保健福祉専攻、心理福祉専攻は 4 単位を取得すること。

（１）　履修資格について

社会福祉士または精神保健福祉士国家試験に合格することが必須であることから、教育課程を履修するためには下記の条件を満たしている必要があります。資格登録は、3 年次春期に行います。

専攻・コース	2 年次秋期終了時の GPA
社会福祉専攻　社会福祉コース 精神保健福祉専攻 経営福祉専攻 心理福祉専攻	3.5 以上

（２）　スクールソーシャルワーク実習について

4 年次春期に、10 日間（80 時間）の実習を履修する必要があります。詳細については、3 年次秋期に開講するスクールソーシャルワーク実習指導で説明します。

（３）　履修するために必要な費用について

スクールソーシャルワーク教育課程の履修に必要な費用は、以下の通りです。

履修費	実習費	納入年次
22,000 円	20,000 円	4 年次秋期

11. 任用資格の取得について

任用資格とは、その職種につくための適性や条件を満たしていることを法的に認める任用基準です。卒業と同時に取得できますが、地方公務員に採用され、それぞれの機関・職種等に配属されることが必要です。

任用資格を取得するためには、厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修めて卒業する必要があります。下記、表にある、指定科目に対応した本学で開講されている科目から、社会福祉主事任用資格を取得する場合は3科目、身体障害者福祉司任用資格・知的障害者福祉司任用資格を取得する場合は 1 科目を修得し、卒業することにより、資格の取得が可能になります。

資格名	取得条件
社会福祉主事任用資格 ※	厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目3科目を修得し卒業する。
児童指導員任用資格	福祉系大学、もしくは心理学、教育学、社会学を専修する学科等を卒業する。
児童福祉司任用資格 ※資格証明書の発行はしていない（取得条件の波線部が学外での事項のため）	下記のいずれかに該当する。 ①福祉系大学、もしくは心理学、教育学、社会学を専修する学科等を卒業し、厚生労働省が定める施設において、1年以上相談援助業務に従事する。 ②社会福祉士を取得する。 ③精神保健福祉士を取得する。
身体障害者福祉司任用資格	厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目1科目を修得し卒業する。
知的障害者福祉司任用資格	厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目1科目を修得し卒業する。

※ 社会福祉学科・保育児童学科・国際教育専攻日本語教育コースの学生は、必修科目に該当科目が3科目以上含まれているため、他に該当科目を履修する必要はありません。

※ 教育学科学校教育専攻学校教育コース・国際教育専攻国際教育コース・心理学科の学生は、必修科目に含まれる該当科目が3科目未満のため、社会福祉主事任用資格を取得する場合は専攻・コースに応じた科目数の選択履修が必要です（教員免許状を希望しない教育学科学校教育専攻及び、心理学科については、2科目の選択履修が必要。教員免許状を希望する教育学科学校教育専攻及び、教育学科国際教育専攻国際教育コースについては、1科目の選択履修が必要）。

＜厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目＞

指定科目	本学開講科目
社会福祉概論	社会福祉原論、社会福祉、社会福祉Ⅰ・Ⅱ ※
社会福祉事業史	
社会福祉援助技術論	
社会福祉調査論	社会調査法
社会福祉施設経営論	
社会福祉行政論	
社会保障論	社会保障論、社会保障制度Ⅰ・Ⅱ※
公的扶助論	公的扶助論
児童福祉論	
家庭福祉論	
保育理論	保育原理
身体障害者福祉論	
知的障害者福祉論	
精神障害者保健福祉論	精神保健学
老人福祉論	高齢者福祉論
医療社会事業論	
地域福祉論	地域福祉論
法学	法学概論
民法	
行政法	
経済学	
社会政策	社会政策論
経済政策	
心理学	心理学概論
社会学	社会学概論
教育学	教育学概論
倫理学	倫理学
公衆衛生学	公衆衛生
医学一般	人体の構造と機能及び疾病
リハビリテーション論	
看護学	
介護概論	介護概論
栄養学	
家政学	

※　Ⅰ・Ⅱと区分された科目は、全て修得することで１科目に該当する。

Ⅷ. 卒業研究　（社会福祉学科・心理学科のみ）

卒業研究は、総合教育科目及び専門教育科目で履修した講義・演習・実習科目を踏まえ、学生が主体的に研究・学習を行う科目です。詳細な内容は、各学科などで異なりますが、概要は以下の通りです。

なお、履修にあたっては、国家試験の受験、大学院への進学、就職など、自らの将来の展望を踏まえ、熟慮する必要があることは言うまでもありません。

(1)　指導教員の決定（3年次）

学生は、3年次秋期に各自で研究計画書を作成した上で、アカデミックアドバイザーに相談してください。アカデミックアドバイザーと3年次春期までの成績などを勘案し、卒業研究を履修するのに無理はないか、また、卒業研究として相応しい内容であるかを検討します。卒業研究を履修することが決定した後に、研究内容の専門に近い専任教員を選び、指導教員（主査）の依頼を行い、教員の承認を得なければなりません。

アカデミックアドバイザーと指導教員（主査）の承認が得られるまで、学生は何度も研究計画書を作成します。承認が得られた学生は、2名の教員から承認印を得た研究計画書を3年次12月初旬の定められた期間に教務課に提出し、卒業研究の仮登録を行います。4年次春期の履修登録において、指導教員（主査）を登録することによって、正式な登録を行います。

指導教員（主査）からは、読んでおく必要のある参考文献など、4年次までにしておかなければならない準備学習・研究などの指導を必ず受けてください。

(2)　研究題目・計画の決定（4年次）

学生は、4年次4月から履修する卒業研究（週1コマ・通年科目）の時間に、指導教員（主査）から指導を受け、題目を決定し、6月中旬までに卒業研究の研究計画書を指導教員（主査）に提出します。研究計画の修正が指示された場合は、修正した研究計画書を再度提出し、指導教員（主査）の承認を得なければなりません。

研究計画書は、7月中旬までに完成させ、指導教員（主査）に提出します。研究題目などを変更する場合は、随時指導教員（主査）に届け出なければなりません。

(3)　研究計画の実施（4年次）

学生は、10月初旬に指導教員（主査）に卒業研究中間報告を行います。

さらに、11月末日までに第一回草稿を指導教員（主査）に提出し、指導教員（主査）より問題点・修正箇所の指摘を受けます。第二回草稿は、12月中旬までに提出し、指導教員（主査）から最終原稿に向けて指導を受けます。

(4)　卒業研究の提出（4年次）

卒業研究は、1月中旬の指定された期日までに、指導教員（主査）に提出しなければなりません。提出する部数は、指導教員（主査）に確認してください。

(5)　卒業研究の評価（4年次）

卒業研究を提出した学生は、2 月上旬に各学科・専攻の卒業研究委員会による口頭試問などの試験を受け、合格しなければなりません。

評価は、指導教員（主査）と、副査として選出された他の教員が協議して行います。

注1）：**日程は、メール、掲示板などで必ず確認してください。**

注2）：**万一、不合格になったことを想定し、単位は余裕を持って履修登録してください。**

研究計画書の作成について

1. 研究題目の設定

卒業研究において、研究題目（テーマ・題名）の設定は最も重要な意味を持っていると言えます。題目が決まっていなければ研究を開始することも、計画を進めて行くこともできません。卒業研究では、学生自らが、今までの学習や経験の中で持った問題意識や関心について、探究の末に自分なりの解答を導き出すことに意義があります。すなわち、より良い卒業研究を行うためには、「自分はどのようなことに問題意識や関心を持っているのか」に注目し、題目を設定する必要があります。

題目を設定する方法の一つに、研究の目的と成果がわかる題名にするという方法があります。抽象的な題目や、扱う範囲が大きすぎるテーマを題目に設定すると、ポイントを絞りきれずに中途半端な研究になったり、単なる事象の羅列に終わってしまうことがあります。このようなことを避けるために、研究の目的と成果がわかる「具体的なテーマ」を設定する必要があります。

研究題目は、副題を含み 40 字以内で設定してください。副題を付す場合は、副題の前後に「－」を記入してください。

【研究題目の例】

- 身体障害者の社会的自立に関する一考察　－就労問題を中心として－
- 障害児を持つ親の心情についての研究

2. 研究計画

研究計画は、設定した研究題目を、論証していくための具体的な方向付けとなります。論文は、「序論」、「本論」、「結論」で構成されますが、この研究計画では、論文の骨組みを形成することを目的としています。

【研究の目的・意義】

研究の目的・意義は、論文の構成の中では、序論と結論にあたると言えます。

①なぜ、この研究題目を取り上げることになったのか、何をどこまで明らかにしようとするのか、②この研究（計画）の特色、予想される結果と意義（現代の社会福祉や人々の生活、その心理などにいかに有益となるのか）について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記入する必要があります。

【研究の計画・方法】

研究の計画・方法は、論文の構成の中では、本論にあたると言えます。

①既存の著書、論文などに基づく文献研究の方法（特定の問題に関する学会の研究現状を把握する）、②自ら作業仮説を設定し、これを調査研究の資料に基づいて検証する実証的研究の方法、③具体的な事例に対する面接診断あるいは諸種の援助技術を用いて得た実践結果を分析評価する事例研究など、研究を進めていくには、いくつかの方法があります。さらに、データを収集する方法、分析・解析する方法など、具体的な研究方法は多岐にわたります。

また、自分が興味のあるテーマを選び（例:DV－ドメスティックバイオレンスの問題など）、ソーシャルワーク実習Ⅱにおいて、ニーズアセスメントを行い、プロジェクト計画を作成・実践し、コンプリヘンシブペーパーにまとめる方法もあります。

すなわち、卒業研究は、4 年間の学習の中で学んできた知識・技術の集大成であると言えます。各自の能力の持てる力すべてを集結しなければなりません。

指導教員と相談の上、設定した題目や自らの結論を導きだすのに最も相応しい方法を選択する必要があります。また、中間報告、提出期限などのスケジュールを踏まえ、実行可能な計画を作成する必要があります。

コンプリヘンシブペーパーとは

学生が 4 年間に大学の授業、及び現場実習で学んだことを総合して、4 年間の実績の「まとめ」として書く論文のことを言います。
研究や文献での調査を主とする論文とは異なり、主題に沿った、実習現場での経験が必要となります。

3. 参考文献

どのような研究方法を採るにしても、既存の著書、論文などに基づく文献研究は必要不可欠です。関連する研究の中で、自分が行おうとしている研究は、どのように位置づけられるのかを把握しておかなければなりません。
常に変化する社会の中で生じる諸問題について研究するには、最新の情報、研究が不可欠となります。つまり、活用する参考文献（著書、論文、調査報告書、統計資料、「白書」、地方自治体の答申・計画書など）は、年代の新しいものから遡及的に収集する必要があります。また、偏った見方でなく、客観的な立場から研究を進めていくためには、参考文献を網羅的に収集する必要もあると言えます。参考文献にあたることで、これまでの既存の理論や研究、調査、歴史など、様々なことが吸収できるはずです。参考文献の収集、読解は、3 年次に終了していることが望ましいと言えます。
研究計画書には、参考文献を最低 3 冊は記入してください。

情 報 収 集 の 方 法

「学生生活の手引き」内の図書館利用案内にも詳細な説明が掲載されています。

図書・雑誌などの資料を探す

本学図書館の資料は OPAC（図書館内）や WebOPAC（図書館外）で検索することができます。OPAC とは Online Public Access Catalog の略でオンラインで資料を検索することができるシステムです。従来のカード目録では困難であった網羅的・多角的な検索をすることができます。

各図書館ホームページ（検索もこちら）
伊勢崎本館：https://libise-tokyo-fukushi.opac.jp/opac/top
池袋分室：https://libike-tokyo-fukushi.opac.jp/opac/top/
王子分室：https://liboji-tokyo-fukushi.opac.jp/opac/top/

また、国立国会図書館では、原則として日本国内で出版された全ての出版物を収集しています。（https://www.ndl.go.jp/）
また、国立情報学研究所の学術情報コンテンツ（CiNii）では　国内の大学図書館等が所蔵している図書や雑誌、日本の論文などの検索ができます。

本学図書館に所蔵されていない資料については ILL（図書館間相互協力）により、他大学・機関の図書館資料の利用（複写・貸借）や訪問利用（紹介状の発行）が可能です。利用できる範囲は資料や相手先図書館などにより異なります。詳しくは図書館カウンターに相談してください。

その他下記国立国会図書館のデータベースでも様々な分野の情報検索が可能です。

○ 国立国会図書館作成の無料検索サービスのリンク集「リサーチナビ」
(https://rnavi.ndl.go.jp/jp/index.html)

日本語の論文・記事を探す

本学図書館契約データベース

○ CiNii Research
国立情報学研究所(NII)が運営する国内の学術論文情報等を集めたサイトです。また、文献だけでなく研究データやプロジェクト情報など、研究活動に関わる多くの情報を検索できます

海外の論文・記事を探す

本学図書館契約データベース

○ PsycINFO、Social Work Abstract、Medline (伊勢崎キャンパスのみ利用可)
文献の書誌情報と抄録を幅広く収録する国際的な文献検索データベース。このデータベースは論文への手がかりとなる書誌情報と抄録を提供します。論文本文そのものを提供するものではありません。書誌情報と抄録は無料で検索することができます。

その他

○ Google Scholar
Google 社が提供している学術論文・学術誌、出版物を検索できる検索サービス。膨大な学術資料を分野や発行元を問わず簡単に検索できます。

論文を入手する

読みたい論文が特定できたら、その論文を入手しましょう。データベースによっては、本文へのリンクが表示され、全文をオンラインで読むことができるものもあります。また、インターネットの検索エンジンを使って、論文が提出された大学や学術誌などの蔵書目録や検索システムなどを探してみましょう。最近は全文がウェブ上で公開され無料で閲覧できたり、オンラインで販売するサービスが増えてきています。有料の場合、費用は個人負担となりますが、PDF形式でダウンロード、プリント版を送付してもらうなどの方法で論文を購入できます。オンラインで入手できない場合は、その論文・記事が掲載されている雑誌などを探します。次に所蔵館を探して文献複写依頼の申し込みをしてください。(ILL の利用)

新聞記事を探す

本学図書館には全国紙、地元紙などの新聞が所蔵されています。また、縮刷版を所蔵しています。朝日新聞は本学図書館契約データベース**朝日新聞クロスサーチ**で過去の記事を検索することができます(伊勢崎本館・池袋分室のみ)。

統計資料を探す

官公庁による統計資料については総務省統計局統計センターのホームページで一覧表を作成し公開しています（http://www.stat.go.jp/）。また各省庁のホームページから「白書」を見ることもできます。

卒業研究　作成上の留意事項

1. パソコンを必ず使用すること。（A4判・横書き）
   文 字 数 …　24,000字（17枚以上）
   書式設定 …　40字×35行（1枚1,400字）
   文字サイズ…　10.5ポイント
   書　　体 …　明朝体
   余　　白 …　上端　35㎜　下端　30㎜
   　　左端　30㎜　右端　30㎜
   ページ番号…　位置　中央下
2. 章、節には必ずタイトルをつけ、前後1行をあけること。
   章は、左から2字、節は3字あけて記入すること。
3. 西暦などの算用数字やアルファベットは、半角で記入すること。
4. 強調したい用語や、会話文については「　」で囲むこと。
   「　」の中に、さらに何かを引用する場合は、『　』を使用すること。
5. 学説、論文などの一部を引用する場合は、本文中に必ず「　」をつけ、「　」の後に番号を入れた（　）を記入すること。その上で、論文の最後に、「注記」として、（　）について、著者名・論者名・編者名、著書名・論文名・資料名、引用ページ、出版社名、発行年などを必ず明記すること。
6. 論文作成で参考にした文献についても、論文の最後に「参考文献」として、明記すること。
7. 製本して提出すること（ステープル止め、フラットファイルなど）。
8. 表紙には、「令和○○年度（20○○年度）　卒業研究」、「研究題目」、「主査教員氏名」、「副査教員氏名」、「東京福祉大学　○○学部　○○学科　○○専攻　○○コース」、「学籍番号・氏名」を記入すること。

履修モデル

履修モデル

履修モデルは、皆さんが所属している学科・専攻・コースに定められている授業科目を、４年間でどのように履修し、卒業するのに必要な単位を修得していくかのひとつのモデルです。

これらのモデルを参考に、皆さんは、それぞれの学科・専攻・コースのカリキュラムに従いながら、将来の目標に即して、履修計画を立てる必要があります。

社会福祉学部

1. ≪社会福祉専攻　社会福祉コース≫　（社会福祉士＋福祉科教諭（高校））
2. ≪精神保健福祉専攻≫　（精神保健福祉士＋社会福祉士）
3. ≪経営福祉専攻≫　（社会福祉士）
4. ≪心理福祉専攻≫　（認定心理士＋公認心理師）

保育児童学部

5. ≪保育児童学科≫　保育・幼児教育コース（保育士＋幼稚園教諭）
6. ≪保育児童学科≫　保育・初等教育コース（保育士＋幼稚園教諭＋小学校教諭）
7. ≪保育児童学科≫　子ども福祉コース（保育士＋社会福祉士）
8. ≪保育児童学科≫　子ども発達心理コース　（保育士）
9. ≪保育児童学科≫　芸術福祉コース

心理学部

10. ≪心理学科≫ 総合心理学コース（認定心理士）
11. ≪心理学科≫ 発達・教育心理学コース（認定心理士＋養護教諭一種教員免許状）
12. ≪心理学科≫ 臨床心理学コース（認定心理士＋公認心理師）
13. ≪心理学科≫ 犯罪心理学コース（認定心理士）

14-1. ≪心理学科≫ 福祉心理学コース①（認定心理士＋社会福祉士受験資格）

14-2. ≪心理学科≫ 福祉心理学コース②（認定心理士＋精神保健福祉士受験資格）

15. ≪心理学科≫ 社会・ビジネス心理学コース（認定心理士）

教育学部

16-1. ≪教育学科学校教育専攻≫　（小学校教諭）

16-2. ≪教育学科学校教育専攻≫　（小学校教諭＋英語科教諭（中学・高校））

16-3. ≪教育学科学校教育専攻≫　［ICTコース］（小学校教諭＋情報科教諭（高校））

17. ≪教育学科学校教育専攻≫　（英語科教諭（中学・高校））
18. ≪教育学科学校教育専攻≫　（情報科教諭（高校））
19. ≪教育学科学校教育専攻≫　（養護教諭＋保健科教諭（中学・高校））
20. ≪教育学科学校教育専攻≫　（認定心理士＋養護教諭）
21. ≪教育学科学校教育専攻≫　（教育心理）
22. ≪教育学科国際教育専攻国際教育コース≫　（小学校教諭＋海外留学）
23. ≪教育学科国際教育専攻国際教育コース≫（英語科教諭（中学・高校）＋海外留学）
24. ≪教育学科国際教育専攻　日本語教育コース≫（日本語教員モデル）

※　履修モデルは資格や免許の取得に必要な科目を全て含んだうえで、法定単位を満たすように組んであります。よく参考にしながら科目を選択してください。

特に教員免許の中には、必修科目を履修しただけでは免許の取得に必要な法定単位に満たない免許もあります（詳細は「Ⅵ.取得できる資格　４.教育職員免許状の取得について」を参照）。その場合は選択科目を履修し法定単位を満たす必要がありますので、履修モデルをよく確認した上で十分に注意をしながら履修科目を決定するようにしてください。

科目については基本的に通常の開講年次に記載されていますが、必ずその年次に履修しなければならない訳ではありません。履修上限単位を考慮に入れ、何年次に履修を行うか、アカデミックアドバイザーと十分に相談の上、履修計画を行うようにしてください。

1. ≪社会福祉専攻　社会福祉コース≫（社会福祉士受験資格＋福祉科教諭一種教員免許状（高校）モデル）

区分			1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目		**社会福祉入門□☆◎**	2							2科目 6単位必修
			情報処理演習Ⅰ☆＊	4							
	健康教育科目		健康・スポーツ☆＊	2							1科目 2単位修得
	コミュニケーション科目		アメリカの文化と言語Ⅰ＊★	2							2科目 4単位以上 修得
			アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	教養教育科目		**文章表現☆**	2							必修 6科目12単位 を含む 8科目16単位 修得
			心理学概論□◎△	2							
			人体の構造と機能及び疾病□◎	2							
			社会学概論□△	2							
			教育学概論☆◎△○	2							
			法学（憲法）☆＊	2							
			福祉と教育☆	2							
			教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目						**社会福祉士養成演習Ⅰ□**	2	**社会福祉士養成演習Ⅱ□**	4	必修 4科目12単位 を含む 8科目26単位 修得
			教養基礎演習Ⅱ	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4					
			教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	
小計			**32 単位**		**8 単位**		**6 単位**		**8 単位**		**54単位**
専門教育科目	専門基幹科目	社会福祉専攻　社会福祉コース	**社会福祉原論□◎☆**	4	**ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□☆◎**	2	**ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□**	4	**社会福祉運営管理論□**	2	26科目 66単位必修
			高齢者福祉論□◎	2	**ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□**	4	**権利擁護と成年後見□**	2	**更生保護□**	2	
			ソーシャルワーク演習Ⅰ□☆	2	**障害者福祉論□◎**	2	**ソーシャルワーク演習Ⅳ□◎**	2	**ソーシャルワーク演習Ⅴ□**	2	
			ソーシャルワークの基盤と専門職□☆◎	2	**児童・家庭福祉論□☆◎♪※**	2	**ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□**	2			
					地域福祉論□※	4	**ソーシャルワーク基礎実習　□**	2			
					社会保障論□◎△	4	**ソーシャルワーク実習指導Ⅲ◎□**	2			
					公的扶助論□	2	**ソーシャルワーク実習◎□**	6			
					ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□	2	**社会調査法□**	2			
					ソーシャルワーク演習Ⅱ□☆	2					
					ソーシャルワーク演習Ⅲ□	2					
					保健医療□	2					
	専門展開科目	福祉関連			発達と老化の理解Ⅱ◎	2					19科目 39単位修得
					認知症の理解Ⅰ◎	2					
					障害の理解Ⅰ◎	2					
					身体構造と機能Ⅰ◎	2					
					教育心理学◎△○	2					
					介護概論◎	2					
		教育	教師論◎△○	2	児童生徒指導論（進路指導を含む）◎△○	2	教育相談（カウンセリングを含む）◎△○♪	2	教職実践演習（中・高）◎△	2	
			教育課程論◎△○	2	特別活動の指導法◎△○	2	教育実習指導（中等）◎△	1	教育実習（中等）Ⅰ◎△	2	
					教育方法論（ICT活用含む）◎△○	2	福祉科指導法◎	4			
					教育法規◎△○♪	2					
					特別ニーズ教育論◎△○※	2					
					総合的な学習の時間の指導法◎△○	2					
修得単位			**46 単位**		**60 単位**		**35 単位**		**18 単位**		**159単位**

注1）単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）□（社会福祉士受験資格）、☆（保育士資格　☆必修　★選択必修）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」　△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、■（第一種衛生管理者免許）、♪（スクールソーシャルワーカー）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注4）教育職員免許状の修得に必要な科目については、「Ⅶ. 資格取得の方法　4. 教育職員免許状の取得について」を参照すること。
教育職員免許状等資格の取得にかかる科目については、資格課程登録をしていない場合は履修不可。

2. ≪精神保健福祉専攻≫（精神保健福祉士受験資格＋社会福祉士受験資格モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**社会福祉入門□◇☆◎**	2							2科目 6単位必修
		情報処理演習Ⅰ☆＊	4							
	健康教育科目	健康・スポーツ☆＊	2							1科目 2単位以上修得
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊★	2							2科目 4単位以上修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	教養教育科目	**文章表現☆**	2							6科目 12単位必修
		心理学概論□◇◎△	2							
		人体の構造と機能及び疾病□◇◎	2							
		社会学概論□◇△	2							
		福祉と教育☆	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目					**精神保健福祉士養成演習Ⅰ◇**	2	**精神保健福祉士養成演習Ⅱ◇**	4	8科目 26単位修得
						社会福祉士養成演習Ⅰ□	2	社会福祉士養成演習Ⅱ□	4	
		教養基礎演習Ⅱ	2	**教養基礎演習Ⅲ（教養）**	4	キャリア開発演習Ⅰ（教養）	4	キャリア開発演習Ⅱ（教養）	4	
小計		**26 単位**		**4 単位**		**8 単位**		**12 単位**		**50単位**
専門教育科目	専門基幹科目 精神保健福祉専攻	**社会福祉原論□◇◎☆**	4	**地域福祉論◇□※**	4	**権利擁護と成年後見□◇**	2	**精神保健福祉演習Ⅲ◇**	2	24科目 68単位必修
		精神保健学◇♪	4	**社会保障論◇□◎△**	4	**ソーシャルワークの理論と方法（専門）◇**	4	**更生保護◇□**	2	
		ソーシャルワーク演習Ⅰ□◇☆	2	**ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ◇□**	4	**精神保健福祉演習Ⅱ◇**	2			
		ソーシャルワークの基盤と専門職◇□☆◎	2	**障害者福祉論◇□◎**	2	**精神保健福祉実習指導Ⅱ◇**	2			
				精神疾患とその治療◇☯	4	**精神保健福祉実習指導Ⅲ◇**	2			
				精神障害リハビリテーション論◇	2	**ソーシャルワーク基礎実習◇□**	2			
				精神保健福祉の原理◇	4	**精神保健福祉実習◇**	6			
				精神保健福祉制度論◇	2	**社会調査法◇□**	2			
				精神保健福祉実習指導Ⅰ◇	2					
				精神保健福祉演習Ⅰ◇	2					
	専門基幹科目 社会福祉専攻 社会福祉コース	高齢者福祉論□◎	2	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□☆◎	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□	4	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ◎□	2	15科目 36単位修得
				児童・家庭福祉論□☆◎♪※	2	ソーシャルワーク演習Ⅲ□	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ◎□	2	
				公的扶助論□	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□	2	ソーシャルワーク実習◎□	6	
				ソーシャルワーク演習Ⅱ□☆	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ□	2	
				保健医療□	2			社会福祉運営管理論□	2	
修得単位		**40 単位**		**44 単位**		**40 単位**		**30 単位**		**154単位**

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3） □（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格必修）、☆（保育士資格　☆必修　★選択必修）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」　△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事　◆必修　※選択）、■（第一種衛生管理者免許）、♪（スクールソーシャルワーカー）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注4） 精神保健福祉専攻では、社会福祉士受験資格の取得に必要な科目（□）であるソーシャルワーク実習指導Ⅲ、ソーシャルワーク演習Ⅳ、ソーシャルワーク実習は、4年次に履修すること。

3. ≪経営福祉専攻≫（社会福祉士受験資格モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**社会福祉入門□◎** **情報処理演習Ⅰ＊**	2 4							2科目6単位 必修
	健康教育科目	健康・スポーツ＊	2							1科目2単位 修得
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊ アメリカの文化と言語Ⅱ	2 2							2科目4単位 以上修得
	教養教育科目	**文章表現** **心理学概論□◎△** **人体の構造と機能及び疾病□◎** **社会学概論□△** **福祉と教育** **教養基礎演習Ⅰ**	2 2 2 2 2 2							6科目12単位 必修
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）** 社会福祉士養成演習Ⅰ□	4 2	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）** 社会福祉士養成演習Ⅱ□	4 4	6科目20単位 修得
小計		**26 単位**		**4 単位**		**6 単位**		**8 単位**		**44単位**
専門教育科目	専門基幹科目	**社会福祉原論□◎** **ソーシャルワークの基盤と専門職□◎**	4 2	**ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□◎** **ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□** **地域福祉論□※** **社会保障論□◎△** **公的扶助論**	2 4 4 4 2	**ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ** **社会調査法□**	4 2	**社会福祉運営管理論□**	2	10科目 30単位必修
		高齢者福祉論□◎	2	障害者福祉論□◎ 児童・家庭福祉論□◎♪※ ソーシャルワーク演習Ⅰ□ ソーシャルワーク演習Ⅱ□ 保健医療□	2 2 2 2 2	権利擁護と成年後見□ ソーシャルワーク演習Ⅲ□ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□ ソーシャルワーク演習Ⅳ□◎ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□ ソーシャルワーク基礎実習　□	2 2 2 2 2 2	更生保護□ ソーシャルワーク演習Ⅴ□ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ◎□ ソーシャルワーク実習◎□	2 2 2 6	16科目 36単位修得
	専門展開科目（経営）	**社会福祉経営論** **暮らしと経済** **経営学（非営利組織の経営含む）** **福祉と経営Ⅰ** **福祉と経営Ⅱ**	2 2 2 2 2	**医療経営論** **会計学** **簿記** **マーケティング論** **社会政策論** **金融論**	2 2 4 2 2 2	**経営管理論** **経営組織論** **企業統治論（非営利企業を含む）** **経営戦略論** **開発経済論**	2 2 2 2 2	**人事管理論** **起業経営論**	2 2	18科目 38単位必修
修得単位		**44 単位**		**44 単位**		**34 単位**		**26 単位**		**148単位**

注1）単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）□（社会福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」　△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、■（第一種衛生管理者免許）、♪（スクールソーシャルワーカー）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

4.≪心理福祉専攻≫（認定心理士＋公認心理師モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	基礎演習Ⅰ	1	基礎演習Ⅱ	1					5科目10単位必修
		心理学入門☆	2							
		社会福祉入門□◇◎	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
	健康教育科目	健康・スポーツ＊	2							1科目2単位修得
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							2科目4単位以上修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	教養教育科目	文章表現	2							必修7科目14単位修得
		心理学概論□◇◎△㊙☆	2							
		人体の構造と機能及び疾病 □◇◎㊙	2							
		社会学概論□◇△	2							
		統計学	2							
		福祉と教育	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	教養基礎演習Ⅱ	2	教養基礎演習Ⅲ	4	キャリア開発演習Ⅰ（教養）	4	キャリア開発演習Ⅱ（教養）	4	必修4科目14単位修得
小計		31 単位		5 単位		4 単位		4 単位		44単位
専門教育科目	専門基幹科目	社会福祉原論□◇◎	4	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□◎	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□	4	社会福祉運営管理論□	2	10科目30単位必修
		ソーシャルワークの基盤と専門職□◇◎	2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□◇	4	社会調査法□◇	2			
				地域福祉論□※◇	4					
				社会保障論□◇◎△	4					
				公的扶助論□♪	2					
	専門基幹科目	心理学統計法㊙☆	2	社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊙☆	4					6科目22単位必修
		発達心理学㊙☆	4	心理学実験㊙☆	4					
				臨床心理学概論㊙☆	4					
				知覚・認知心理学㊙☆	4					
	専門展開科目（心理）	心理学を活かしたキャリアデザイン	2	学習・言語心理学㊙	2	教育・学校心理学㊙☆	4	心理実習㊙	2	公認心理師受験基礎資格20科目48単位修得＋5科目12単位修得
				精神疾患とその治療◇☯㊙	4	心理学的支援法（演習）㊙☆	2	心理学研究法演習Ⅱ	2	
				心理学的支援法（基礎）㊙	2	障害者・障害児心理学㊙☆	2	卒業研究	4	
				心理学を活かしたキャリアマネジメント	2	心理学研究法☯㊙☆	4			
						心理的アセスメント㊙☆	4			
						神経・生理心理学㊙	2			
						健康・医療心理学㊙	2			
						産業・組織心理学㊙	2			
						司法・犯罪心理学㊙	2			
						感情・人格心理学㊙	2			
						社会・集団・家族心理学（家族）㊙	2			
						心理学的支援法（心理療法）㊙	2			
						福祉心理学㊙	2			
						関係行政論㊙	2			
						心理演習㊙	2			
						公認心理師の職責㊙	2			
						心理学研究法演習Ⅰ	2			
修得単位		45 単位		47 単位		50 単位		14 単位		156単位

注1）　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）　□（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」　△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、㊙（公認心理師受験基礎資格）、☆（認定心理士資格）、■（第一種衛生管理者免許）、♪（スクールソーシャルワーカー）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

5. ≪保育児童学科≫【保育・幼児教育コース】（保育士資格＋幼稚園教諭一種免許状モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	保育児童学概論 人権教育 ▲▼	2 2	保育児童基礎演習☆	2					3科目 6単位必修
	健康教育科目	健康・スポーツ☆＊	2							1科目 2単位必修
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ☆＊ 情報処理演習Ⅰ☆＊	2 4							2科目 6単位必修
	教養教育科目	社会福祉入門☆□ 文章表現☆ 法学（憲法）☆＊ 福祉と教育 教養基礎演習Ⅰ	2 2 2 2 2							5科目 10単位必修
	キャリア開発教育科目	保育キャリア基礎演習☆	2	保育キャリア応用演習☆	4	保育キャリア展開演習☆	4	保育キャリア実践演習☆	4	4科目 14単位必修
小計		24 単位		6 単位		4 単位		4 単位		38単位
専門教育科目	専門基幹科目	児童・家庭福祉論□☆※ 教育学概論☆△▽	2 2	社会福祉☆ 教育心理学△▽	2 2					4科目 8単位必修
	専門科目Ⅰ	保育者論☆△ 保育の心理学☆	2 2	保育原理☆ 社会的養護Ⅰ☆ 保育の心理学Ⅱ☆ 子どもの保健☆ 子どもの健康と安全☆ 乳児保育Ⅰ☆ 障害児療育☆▲▼	2 2 2 2 2 2 2	子ども家庭支援論☆ 子ども家庭支援の心理学☆ 子どもの食と栄養☆〇 児童・家庭福祉論Ⅱ☆ 臨床心理学☆〇	2 2 2 2 2			14科目 28単位必修
	専門科目Ⅱ	保育内容（表現）☆△ 保育内容（健康）☆△ 図画工作Ⅰ☆★▽ 音楽実践演習☆ 子どもと音楽☆△	2 2 2 2 2	社会的養護Ⅱ☆ 保育内容（言葉）☆△ 保育内容総論☆△ 音楽実践演習Ⅱ 子どもと健康☆△ 子どもと造形☆△	2 2 2 2 2 2	保育内容（人間関係）☆△ 保育内容（環境）☆△	2 2	保育児童専門演習☆ 保育内容総論Ⅱ☆△	2 2	14科目28単位 必修を含む 20科目 40単位修得
				幼児理解☆△ 教育方法論（ICT活用含む）△▽	2 2	保育カリキュラム論☆△ 子育て支援☆ 乳児保育Ⅱ☆	2 2 2			
	専門展開科目			保育実習指導Ⅰ☆ 保育実習Ⅰ（保育所）☆	2 2	保育実習Ⅰ（施設）☆	2	保育実習指導Ⅱ☆注4) 保育実習Ⅱ（保育所）☆注4) 保育実践演習☆	2 2 2	10科目 20単位修得
		子どもと言葉△	2	子どもと人間関係△ 子どもと環境△	2 2	教育相談（カウンセリングを含む）△▽	2			
資格科目	教職（初等）			教育法規△▽ 特別ニーズ教育論△▽※	2 2			教職実践演習（幼稚園）△	2	6科目 11単位修得
	幼稚園					教育実習指導（初等）Ⅰ△ 教育実習（初等）Ⅰ△▽	1 2	教育実習（初等）Ⅱ△▽	2	
修得単位		44 単位		52 単位		31 単位		18 単位		145単位

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3） ☆（保育士資格　☆必修　★選択必修）、▽（小学校教諭教諭　▽必修　▼選択）、●（特別支援学校教諭　必修）、〇（養護教諭教諭　〇必修　☯選択）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）□（社会福祉士受験資格　必修）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、△（幼稚園教諭　△必修、▲選択）、の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注4） 保育士資格取得のためには、保育実習Ⅱ・Ⅲのいずれか、ならびに保育実習指導Ⅱ・Ⅲのいずれかを選択必修のこと。

6. ≪保育児童学科≫【保育・初等教育コース】（保育士資格＋幼稚園教諭一種免許状＋小学校教諭一種免許状モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	保育児童学概論 人権教育 ▲▼	2 2	保育児童基礎演習☆	2					3科目 6単位必修
	健康教育科目	健康・スポーツ☆＊	2							1科目 2単位必修
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ☆＊ 情報処理演習Ⅰ☆＊	2 4							2科目 6単位必修
	教養教育科目	社会福祉入門☆□ 文章表現☆ 法学（憲法）☆＊ 福祉と教育 教養基礎演習Ⅰ	2 2 2 2 2							5科目 10単位必修
	キャリア開発教育科目	保育キャリア基礎演習☆ 教員基礎演習Ⅰ▽●○	2 2	保育キャリア応用演習☆ 教員基礎演習Ⅱ▽●○	4 4	保育キャリア展開演習☆ 教員開発演習Ⅰ▽●○	4 4	保育キャリア実践演習☆ 教員開発演習Ⅱ▽●○	4 4	4科目14単位 必修を含む 8科目28単位 修得
小計		26 単位		10 単位		8 単位		8 単位		52単位
専門教育科目	専門基幹科目	児童・家庭福祉論□☆※ 教育学概論☆△▽	2 2	社会福祉☆ 教育心理学△▽	2 2					4科目 8単位必修
	専門科目Ⅰ	保育者論☆△ 保育の心理学☆	2 2	保育原理☆ 社会的養護Ⅰ☆ 保育の心理学Ⅱ☆ 子どもの保健☆ 子どもの健康と安全☆ 乳児保育Ⅰ☆ 障害児療育☆▲▼	2 2 2 2 2 2 2	子ども家庭支援論☆ 子ども家庭支援の心理学☆ 子どもの食と栄養☆〇 児童・家庭福祉論Ⅱ☆ 臨床心理学☆〇	2 2 2 2 2			14科目 28単位必修
	専門科目Ⅱ	保育内容（表現）☆△ 保育内容（健康）☆△ 図画工作Ⅰ☆▽ 音楽実践演習 子どもと音楽☆△ 音楽★▽	2 2 2 2 2 2	保育内容（言葉）☆△ 保育内容総論☆△ 音楽実践演習Ⅱ 子どもと健康☆△ 子どもと環境☆△ 教育方法論（ICT活用含む）△▽	2 2 2 2 2 2	保育内容（人間関係）☆△ 保育内容（環境）☆△ 社会的養護Ⅱ☆ 体育▽ 体育科指導法▽ 音楽科指導法▽ 図画工作科指導法▽	2 2 2 2 2 2 2	保育児童専門演習☆ 保育内容総論Ⅱ☆△ 子育て支援☆ 幼児理解☆△ 保育カリキュラム論☆△ 乳児保育Ⅱ☆	2 2 2 2 2 2	14科目28単位 必修を含む 25科目 50単位修得
	専門展開科目	子どもと言葉△ 国語（書写を含む）▽ 算数▽	2 2 2	保育実習指導Ⅰ☆ 保育実習Ⅰ（保育所）☆ 子どもと人間関係△ 子どもと環境△ 国語科指導法（書写を含む）▽ 算数科指導法▽ 児童生徒指導論（進路指導を含む）▽ 総合的な学習の時間の指導法▽	2 2 2 2 2 2 2 2	保育実習Ⅰ（施設）☆ 教育相談（カウンセリングを含む）△▽ 生活▽ 道徳の指導法▽ 生活科指導法▽	2 2 2 2 2	保育実習指導Ⅱ☆注4) 保育実習Ⅱ（保育所）☆注4) 保育実践演習☆	2 2 2	19科目 38単位修得
資格科目	教職（初等）	教師論▽ 教育課程論▽	2 2	教育法規△▽ 特別活動の指導法▽ 特別ニーズ教育論△▽※	2 2 2			教職実践演習（幼稚園）△ 教職実践演習（小学校）▽	2 2	7科目 14単位修得
	幼稚園					教育実習指導（初等）Ⅰ△ 教育実習指導（初等）Ⅱ▽ 教育実習（初等）Ⅰ△▽	1 1 2	教育実習（初等）Ⅱ△▽	2	4科目 6単位修得
	小学校	外国語▽	2	外国語の指導法▽	2	社会▽ 理科▽ 家庭▽ 社会科指導法▽ 理科指導法▽ 家庭科指導法▽	2 2 2 2 2 2			8科目 16単位 修得
修得単位		58 単位		64 単位		58 単位		32 単位		212単位

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3） ☆（保育士資格　☆必修）、□（社会福祉士受験資格　必修）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、△（幼稚園教諭　△必修　▲選択）、▽（小学校教諭　▽必修　▼選択）、●（特別支援学校教諭　必修）、〇（養護教諭教諭　〇必修　☯選択）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注4） 保育士資格取得のためには、保育実習Ⅱ・Ⅲのいずれか、ならびに保育実習指導Ⅱ・Ⅲのいずれかを選択必修のこと。

7. ≪保育児童学科≫【子ども福祉コース】（保育士資格＋社会福祉士受験資格 モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	保育児童学概論 人権教育▲▼	2 2	保育児童基礎演習☆	2					3科目 6単位必修
	健康教育科目	健康・スポーツ☆＊	2							1科目 2単位必修
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ☆＊ 情報処理演習Ⅰ☆＊	2 4							2科目 6単位必修
	教養教育科目	社会福祉入門☆□ 文章表現☆ 法学（憲法）☆＊ 福祉と教育 心理学概論□ 人体の構造と機能及び疾病□ 社会学概論□ 教養基礎演習Ⅰ	2 2 2 2 2 2 2 2							5科目 10単位必修 を含む 8科目 16単位修得
	キャリア開発教育科目	保育キャリア基礎演習☆	2	保育キャリア応用演習☆	4	保育キャリア展開演習☆ 社会福祉士養成演習Ⅰ□	4 2	保育キャリア実践演習☆ 社会福祉士養成演習Ⅱ□	4 4	4科目14単位 必修を含む 6科目20単位 修得
小計		30 単位		6 単位		6 単位		8 単位		50単位
専門教育科目	専門基幹科目	児童・家庭福祉論□☆※ 教育学概論☆△▽	2 2	社会福祉☆ 教育心理学△▽	2 2					4科目 8単位必修
	専門科目Ⅰ（児童の理解と発達支援）	保育者論☆△ 保育の心理学☆	2 2	保育原理☆ 社会的養護Ⅰ☆ 保育の心理学Ⅱ☆ 子どもの保健☆ 子どもの保健と安全☆ 乳児保育Ⅰ☆ 障害児療育☆▲▼	2 2 2 2 2 2 2	子ども家庭支援論☆ 子ども家庭支援の心理学☆ 子どもの食と栄養☆〇 児童･家庭福祉論Ⅱ☆ 臨床心理学☆〇	2 2 2 2 2			14科目 28単位必修
	専門科目Ⅱ（保育の内容・方法）	保育内容（表現）☆△ 保育内容（健康）☆△ 図画工作Ⅰ☆▽ 音楽実践演習 子どもと音楽☆△	2 2 2 2 2	社会的養護Ⅱ☆ 保育内容（言葉）☆△ 保育内容総論☆△ 音楽実践演習Ⅱ 子どもと健康☆△ 子どもと造形☆△ 幼児理解☆△	2 2 2 2 2 2 2	保育内容（人間関係）☆△ 保育内容（環境）☆△ 保育カリキュラム論☆△ 子育て支援☆ 乳児保育Ⅱ☆	2 2 2 2 2	保育児童専門演習☆ 保育内容総論Ⅱ☆△	2 2	14科目28単位 必修を含む 19科目 38単位修得
	専門展開科目			保育実習指導Ⅰ☆ 保育実習Ⅰ（保育所）☆	2 2	保育実習Ⅰ（施設）☆ 社会保障論□	2 4	保育実習指導Ⅱ☆ 注3) 保育実習Ⅱ（保育所）☆注3) 保育実践演習☆	2 2 2	保育士 6科目12単位修得 (☆印) 合計 16単位修得
社会福祉学科科目	社会福祉士	高齢者福祉論□	2	社会福祉原論□ ソーシャルワークの基盤と専門職□ ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□ 障害者福祉論□ ソーシャルワーク演習Ⅰ□ ソーシャルワーク演習Ⅱ□ 保健医療□	4 2 2 2 2 2 2	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□ ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□ 公的扶助論□ 権利擁護と成年後見□ 地域福祉論※□ ソーシャルワーク演習Ⅲ□ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□ 社会調査法□	4 4 2 2 4 2 2 2 2	社会福祉運営管理論□ 更生保護□ ソーシャルワーク演習Ⅳ□ ソーシャルワーク演習Ⅴ□ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ□ ソーシャルワーク実習□	2 2 2 2 2 6	23科目 58単位 修得
修得単位		50 単位		58 単位		56 単位		34 単位		198単位

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。☆（保育士資格　☆必修）、□（社会福祉士受験資格　必修）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、△（幼稚園教諭　△必修　▲選択）、▽（小学校教諭　▽必修　▼選択）、●（特別支援学校教諭　必修）、〇（養護教諭教諭　〇必修　☯選択）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※⁂選択）、の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注3） 保育士資格取得のためには、保育実習Ⅱ・Ⅲのいずれか、ならびに保育実習指導Ⅱ・Ⅲのいずれかを選択必修のこと。

注4） 社会福祉士の国家試験を受験する学生は、「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること。

8.≪保育児童学科≫【子ども発達心理コース】（保育士資格モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	保育児童学概論 人権教育 ▲▼	2 2	保育児童基礎演習☆	2					3科目 6単位必修
	健康教育科目	健康・スポーツ☆＊	2							1科目 2単位必修
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ☆＊ 情報処理演習Ⅰ☆＊	2 4							2科目 6単位必修
	教養教育科目	社会福祉入門☆□ 文章表現☆ 法学（憲法）☆＊ 福祉と教育 心理学概論□ 教養基礎演習Ⅰ	2 2 2 2 2 2							5 科目10 単位 必修を含む6 科目12 単位修得
	キャリア開発教育科目	保育キャリア基礎演習☆	2	保育キャリア応用演習☆	4	保育キャリア展開演習☆	4	保育キャリア実践演習☆	4	4科目 14単位必修
小計		26 単位		6 単位		4 単位		4 単位		40単位
専門教育科目	専門基幹科目	児童・家庭福祉論□☆※ 教育学概論☆△▽	2 2	社会福祉☆ 教育心理学△▽	2 2					4科目 8単位必修
	専門科目Ⅰ	保育者論☆△ 保育の心理学☆	2 2	保育原理☆ 社会的養護Ⅰ☆ 保育の心理学Ⅱ☆ 子どもの保健☆ 子どもの健康と安全☆ 乳児保育Ⅰ☆ 障害児療育☆▲▼	2 2 2 2 2 2 2	子ども家庭支援論☆ 子ども家庭支援の心理学☆ 子どもの食と栄養☆〇 児童･家庭福祉論Ⅱ☆ 臨床心理学☆〇	2 2 2 2 2			14科目 28単位必修
	専門科目Ⅱ	保育内容（表現）☆△ 保育内容（健康）☆△ 図画工作Ⅰ☆▽ 音楽実践演習 子どもと音楽☆△	2 2 2 2 2	社会的養護Ⅱ☆ 保育内容（言葉）☆△ 保育内容総論☆△ 音楽実践演習Ⅱ 子どもと健康☆△ 子どもと造形☆△	2 2 2 2 2 2	保育内容（人間関係）☆△ 保育内容（環境）☆△	2 2	保育児童専門演習☆	2	14科目28単位 必修を含む 22科目 44単位修得
				幼児理解☆△	2	保育カリキュラム論☆△ 子育て支援☆ 乳児保育Ⅱ☆ 家族心理学 障害児・者の心理 発達相談	2 2 2 2 2 2	保育内容総論Ⅱ☆△	2	
	専門展開科目			保育実習指導Ⅰ☆ 保育実習Ⅰ（保育所）☆	2 2	保育実習Ⅰ（施設）☆	2	保育実習指導Ⅱ☆注3) 保育実習Ⅱ（保育所）☆注3) 保育実践演習☆	2 2 2	6科目 12単位修得
修得単位		44 単位		42 単位		32 単位		14 単位		132単位

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。☆（保育士資格　☆必修）、□（社会福祉士受験資格　必修）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂ 選択）、△（幼稚園教諭　△必修　▲選択）、▽（小学校教諭　▽必修　▼選択）、●（特別支援学校教諭　必修）、〇（養護教諭教諭　〇必修　☯選択）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注3） 保育士資格取得のためには、保育実習Ⅱ・Ⅲのいずれか、ならびに保育実習指導Ⅱ・Ⅲのいずれかを選択必修のこと。

9. ≪保育児童学科≫【芸術福祉コース】

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	保育児童学概論 人権教育▲▼	2 2	保育児童基礎演習☆	2					3科目 6単位必修
	健康教育科目	健康・スポーツ☆＊	2							1科目 2単位必修
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ☆＊ 情報処理演習Ⅰ☆＊	2 4							2科目6単位 必修
		＄日本の文化と言語Ⅰ＆ ＄日本の文化と言語Ⅱ＆	2 2							外国人留学生 のみ
	教養教育科目	社会福祉入門☆□ 文章表現☆ 法学（憲法）☆＊ 福祉と教育 教養基礎演習Ⅰ	2 2 2 2 2							5科目10単位 必修を含む 7科目18単位 修得
				文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			
	キャリア開発教育科目	教養基礎演習Ⅱ	2	教養基礎演習Ⅲ	4	キャリア開発演習Ⅰ(教養)	4	キャリア開発演習Ⅱ(教養)	4	4科目 14単位必修
小計		28 単位		10 単位		8 単位		4 単位		48単位
専門教育科目	専門基幹科目	児童・家庭福祉論□☆※ 教育学概論☆△▽	2 2	社会福祉☆ 教育心理学△▽	2 2					4科目 8単位必修
	専門科目Ⅰ	保育者論☆△ 保育の心理学☆	2 2	保育原理☆ 社会的養護Ⅰ☆ 保育の心理学Ⅱ☆ 子どもの保健☆ 子どもの健康と安全☆ 乳児保育Ⅰ☆ 障害児療育☆▲▼	2 2 2 2 2 2 2	子ども家庭支援論☆ 子ども家庭支援の心理学☆ 子どもの食と栄養☆〇 児童・家庭福祉論Ⅱ☆ 臨床心理学☆〇	2 2 2 2 2			14科目 28単位必修
	専門科目Ⅱ	保育内容（表現）☆△ 保育内容（健康）☆△ 図画工作Ⅰ☆▽ 音楽実践演習 子どもと音楽☆△	2 2 2 2 2	社会的養護Ⅱ☆ 保育内容（言葉）☆△ 保育内容総論☆△ 音楽実践演習Ⅱ 子どもと健康☆△ 子どもと造形☆△	2 2 2 2 2 2	保育内容（人間関係）☆△ 保育内容（環境）☆△	2 2	保育児童専門演習☆	2	14科目28単位 必修を含む 19科目38単位 修得
		音楽★▽	2	音楽Ⅱ★▼ 図画工作Ⅱ★▼	2 2	音楽Ⅲ★	2	保育実践演習☆	2	
	専門展開科目	造形芸術Ⅰ 音楽芸術Ⅰ	2 2	造形芸術Ⅱ 音楽芸術Ⅱ	2 2					4科目 8単位修得
修得単位		52 単位		48 単位		24 単位		8 単位		132単位

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。
注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。
注3） 「日本の文化と言語Ⅰ」「日本の文化と言語Ⅱ」は外国人留学生のみ履修。
注4） ＆ 外国人留学生は履修することが望ましい。

10.≪心理学科≫　［総合心理学コース］（認定心理士モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
	基礎教育科目	**基礎演習Ⅰ**	1	**基礎演習Ⅱ**	1					4科目8単位 必修
		心理学入門	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
	健康教育科目	**レクリエーションワーク※**	2							2科目4単位 必修
		レクリエーション理論	2							
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2	情報処理演習Ⅱ ⁂	4					3科目8単位 修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	教養教育科目	**文章表現**	2	生理学	4					必修 5 科目10 単位 を含む 9 科目20 単位 修得
		統計学	2							
		心理学概論□◇◎△㊫	2							
		福祉と教育	2							
		ボランティア論※⁂	2							
		死生学	2							
		ヒューマンライフとサービス	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）**	4	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）**	4	4科目14単位 必修
小計		**33 単位**		**13 単位**		**4 単位**		**4 単位**		**54単位**
専門教育科目	専門基幹科目	**心理学統計法㊫**	2	**社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊫**	4	**教育・学校心理学㊫**	4			14科目 44単位 必修
		発達心理学㊫	4	**心理学的支援法（基礎）㊫**	2	**心理学的支援法（演習）㊫**	2			
		心理学を活かしたキャリアデザイン	2	**心理学実験㊫**	4	**障害者・障害児心理学㊫**	2			
				臨床心理学概論㊫	4	**心理学研究法☯㊫**	4			
				知覚・認知心理学㊫	4	**心理的アセスメント㊫**	4			
				心理学を活かしたキャリアマネジメント	2					
	専門展開科目（心理）			学習・言語心理学㊫	2	神経・生理心理学㊫	2			12 科目 26 単位 修得
				精神疾患とその治療◇☯㊫	4	健康・医療心理学㊫	2			
						産業・組織心理学㊫	2			
						司法・犯罪心理学㊫	2			
						感情・人格心理学㊫	2			
						社会・集団・家族心理学（家族）㊫	2			
						心理学的支援法（心理療法）㊫	2			
						心理検査法演習	2			
						福祉心理学	2			
						自殺対策論	2			
	専門展開科目（関連）									
修得単位		**41 単位**		**39 単位**		**40 単位**		**4 単位**		**124単位**

注1）単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）□（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、㊫（公認心理師受験基礎資格）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

11.≪心理学科≫［発達・教育心理学コース］（認定心理士＋養護教諭一種教員免許状モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**基礎演習Ⅰ**	1	**基礎演習Ⅱ**	1					4科目8単位 必修
		心理学入門	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
	健康教育科目	**レクリエーションワーク※**	2							必修 2科目4単位 を含む 3科目6単位修得
		レクリエーション理論	2							
		健康・スポーツ＊	2							
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							2科目4単位 以上修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	教養教育科目	**文章表現**	2							必修 5 科目10 単位 を含む 6 科目12 単位 修得
		統計学	2							
		心理学概論□◇◎△㊙	2							
		福祉と教育	2							
		法学（憲法）＊	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）**	4	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）**	4	必修 4科目14単位 含む 11科目38単位 修得
		教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	
				養護教諭基礎演習Ⅰ○	2	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	4	
小計		33 単位		11 単位		12 単位		12 単位		68 単位
専門教育科目	専門基幹科目	**心理学統計法㊙**	2	**社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊙**	4	**教育・学校心理学㊙**	4			14科目 44単位 必修
		発達心理学㊙	4	**心理学的支援法（基礎）㊙**	2	**心理学的支援法（演習）㊙**	2			
		心理学を活かしたキャリアデザイン	2	**心理学実験㊙**	4	**障害者・障害児心理学㊙**	2			
				臨床心理学概論㊙	4	**心理学研究法☯㊙**	4			
				知覚・認知心理学㊙	4	**心理的アセスメント㊙**	4			
				心理学を活かしたキャリアマネジメント	2					
	専門展開科目（心理）									
	専門展開科目（関連）									
	教育（中等）	教師論◎△○	2	教育方法論（ICT活用含む）◎△○	2	道徳の指導法＊＊○	2	教職実践演習（養護）○	2	13科目26単位 修得
		教育学概論◎△○	2	児童生徒指導論（進路指導を含む）◎△○	2	教育相談（カウンセリングを含む）◎△○	2			
		教育課程論◎△○	2	特別活動の指導法◎△○	2					
				教育心理学◎△○	2					
				教育法規◎△○	2					
				特別ニーズ教育論◎△○※	2					
				総合的な学習の時間の指導法◎△○	2					
	養護教諭科目			衛生学○	2	公衆衛生○	2	養護実習○	4	16科目35単位 修得
				学校保健学（学校安全を含む）○	2	栄養学（食品学含む）○	2	看護臨床実習○	2	
				養護教育学○	2	臨床心理学○▲	2			
				解剖生理学Ⅰ○	2	健康相談活動の理論と方法　○	2			
				病原微生物学○	2	看護学（救急処置を含む）○	4			
				精神保健学○	2	地域看護学○	2			
						養護実習指導○	1			
						看護臨床実習指導○	2			
修得単位		47 単位		57 単位		49 単位		20 単位		173 単位

注1）　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）　□（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、㊙（公認心理師受験基礎資格）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

12.≪心理学科≫［臨床心理学コース］（認定心理士＋公認心理師モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**基礎演習Ⅰ**	1	**基礎演習Ⅱ**	1					4科目8単位 必修
		心理学入門	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
	健康教育科目	**レクリエーションワーク※**	2							2科目4単位 修得
		レクリエーション理論	2							
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							2科目4単位 以上修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	教養教育科目	**文章表現**	2							必修 5 科目10 単位 を含む 6 科目12 単位 修得
		統計学	2							
		心理学概論□◇◎△㊙	2							
		福祉と教育	2							
		人体の構造と機能及び疾病 □◇◎㊙	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）**	4	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）**	4	必修 4科目14単位修得
小計		**29 単位**		**5 単位**		**4 単位**		**4 単位**		**42 単位**
専門教育科目	専門基幹科目	**心理学統計法㊙**	2	**社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊙**	4	**教育・学校心理学㊙**	4			14科目 44単位 必修
		発達心理学㊙	4	**心理学的支援法（基礎）㊙**	2	**心理学的支援法（演習）㊙**	2			
		心理学を活かしたキャリアデザイン	2	**心理学実験㊙**	4	**障害者・障害児心理学㊙**	2			
				臨床心理学概論㊙	4	**心理学研究法☯㊙**	4			
				知覚・認知心理学㊙	4	**心理的アセスメント㊙**	4			
				心理学を活かしたキャリアマネジメント	2					
	専門展開科目（心理）			学習・言語心理学㊙	2	神経・生理心理学㊙	2	心理学研究法演習Ⅱ	2	18科目40単位 修得
				精神疾患とその治療◇☯㊙	4	健康・医療心理学㊙	2	卒業研究	4	
						産業・組織心理学㊙	2	心理実習㊙	2	
						司法・犯罪心理学㊙	2			
						感情・人格心理学㊙	2			
						社会・集団・家族心理学（家族）㊙	2			
						心理学的支援法（心理療法）㊙	2			
						心理検査法演習	2			
						心理学研究法演習Ⅰ	2			
						福祉心理学㊙	2			
						関係行政論㊙	2			
						心理演習㊙	2			
						公認心理師の職責㊙	2			
	専門展開科目（関連）									
修得単位		**37 単位**		**31 単位**		**46 単位**		**12 単位**		**126 単位**

注4） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注5） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注6） □（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、㊙（公認心理師受験基礎資格）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

13.≪心理学科≫［犯罪心理学コース］（認定心理士モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**基礎演習Ⅰ**	1	**基礎演習Ⅱ**	1					4科目8単位 必修
		心理学入門	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
	健康教育科目	**レクリエーションワーク※**	2							2科目4単位 必修
		レクリエーション理論	2							
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							2科目4単位 以上修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	教養教育科目	**文章表現**	2	法学Ⅱ（民法、行政法）△	4	国際関係論（国際法を含む）△	2			必修 5科目10単位 を含む 16科目36単位 修得
		統計学	2	経済学（国際経済を含む）△	2					
		心理学概論□◇◎△㊙	2	生理学	4					
		福祉と教育	2							
		社会学概論□◇△	2							
		法学概論△	2							
		法学（憲法）＊	2							
		倫理学▼	2							
		人権教育⁂	2							
		死生学	2							
		少年と犯罪	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）**	4	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）**	4	必修 4科目14単位 修得
小計		**41 単位**		**15 単位**		**6 単位**		**4 単位**		**66単位**
専門教育科目	専門基幹科目	**心理学統計法㊙**	2	**社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊙**	4	**教育・学校心理学㊙**	4			14科目 44単位 必修
		発達心理学㊙	4	**心理学的支援法（基礎）㊙**	2	**心理学的支援法（演習）㊙**	2			
		心理学を活かしたキャリアデザイン	2	**心理学実験㊙**	4	**障害者・障害児心理学㊙**	2			
				臨床心理学概論㊙	4	**心理学研究法☯㊙**	4			
				知覚・認知心理学㊙	4	**心理的アセスメント㊙**	4			
				心理学を活かしたキャリアマネジメント	2					
	専門展開科目（心理）			学習・言語心理学㊙	2	神経・生理心理学㊙	2			5科目10単位 修得
						司法・犯罪心理学㊙	2			
						感情・人格心理学㊙	2			
						社会・集団・家族心理学㊙	2			
	専門展開科目（関連）			薬理学概説（薬物乱用防止を含む）☯	2	社会病理	2			2科目4単位 修得
修得単位		**49 単位**		**39 単位**		**32 単位**		**4 単位**		**124単位**

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3） □（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、㊙（公認心理師受験基礎資格）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

14-1.≪心理学科≫［福祉心理学コース①］　（認定心理士＋社会福祉士受験資格モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**基礎演習Ⅰ**	1	**基礎演習Ⅱ**	1					4科目8単位 必修
		心理学入門	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
	健康教育科目	**レクリエーションワーク※**	2							2科目4単位 必修
		レクリエーション理論	2							
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							2科目4単位 以上修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	教養教育科目	**文章表現**	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ□◇	2					必修 5科目10単位 を含む 10科目20単位 修得
		統計学	2	ソーシャルワーク演習Ⅱ□	2					
		心理学概論□◇◎△㊝	2							
		福祉と教育	2							
		人体の構造と機能及び疾病 □◇◎㊝	2							
		社会学概論□◇△	2							
		社会福祉入門□◇◎	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）**	4	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）**	4	必修4科目14単位 を含む、 6科目20単位修得
						社会福祉士養成演習Ⅰ□	2	社会福祉士養成演習Ⅱ□	4	
小計		33 単位		9 単位		6 単位		8 単位		56単位
専門教育科目	専門基幹科目	**心理学統計法㊝**	2	**社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊝**	4	**教育・学校心理学㊝**	4			14科目 44単位 必修
		発達心理学㊝	4	**心理学的支援法（基礎）㊝**	2	**心理学的支援法（演習）㊝**	2			
		心理学を活かしたキャリアデザイン	2	**心理学実験㊝**	4	**障害者・障害児心理学㊝**	2			
				臨床心理学概論㊝	4	**心理学研究法☯㊝**	4			
				知覚・認知心理学㊝	4	**心理的アセスメント㊝**	4			
				心理学を活かしたキャリアマネジメント	2					
	専門展開科目（心理）									
	専門展開科目（関連）									
	専門展開科目（福祉）	社会福祉原論□◇◎	4	障害者福祉論□◇◎	2	権利擁護と成年後見□◇	2	更生保護□◇	2	24科目62単位 修得
		高齢者福祉論□◎	2	社会保障論□◇◎△	4	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ□	4	社会福祉運営管理論□	2	
		ソーシャルワークの基盤と専門職□◇◎	2	地域福祉論□◇※	4	ソーシャルワーク演習Ⅲ□	2	ソーシャルワーク演習Ⅴ□	2	
				公的扶助論□	2	ソーシャルワーク演習Ⅳ□◎	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ□◎	2	
				ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）□◎	2	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ□	2	ソーシャルワーク実習□◎	6	
				ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□	4	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ□	2			
				児童・家庭福祉論□◎※	2	ソーシャルワーク基礎実習　□	2			
				保健医療□	2	社会調査法□◇	2			
修得単位		49 単位		51 単位		40 単位		22 単位		162 単位

注1）　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）　□（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、㊝（公認心理師受験基礎資格）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注4）　社会福祉士の国家試験を受験する学生は、「社会福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること。

14-2.≪心理学科≫［福祉心理学コース②］（認定心理士＋精神保健福祉士受験資格モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**基礎演習Ⅰ**	1	**基礎演習Ⅱ**	1					4科目8単位 必修
		心理学入門	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4							
	健康教育科目	**レクリエーションワーク※**	2							2科目4単位 必修
		レクリエーション理論	2							
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							2科目4単位 以上修得
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
	教養教育科目	**文章表現**	2	ソーシャルワーク演習Ⅰ□◇	2					必修 5 科目10 単位 を含む 9 科目18 単位 修得
		統計学	2							
		心理学概論□◇◎△㊙	2							
		福祉と教育	2							
		人体の構造と機能及び疾病 □◇◎㊙	2							
		社会学概論□◇△	2							
		社会福祉入門□◇◎	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ（教養）**	4	**キャリア開発演習Ⅱ（教養）**	4	必修4科目14単位を含む、6科目20単位修得
						精神保健福祉士養成演習Ⅰ◇	2	精神保健福祉士養成演習Ⅱ◇	4	
小計		33 単位		7 単位		6 単位		8 単位		54 単位
専門教育科目	専門基幹科目	**心理学統計法㊙**	2	**社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊙**	4	**教育・学校心理学㊙**	4			14科目 44単位 必修
		発達心理学㊙	4	**心理学的支援法（基礎）㊙**	2	**心理学的支援法（演習）㊙**	2			
		心理学を活かしたキャリアデザイン	2	**心理学実験㊙**	4	**障害者・障害児心理学㊙**	2			
				臨床心理学概論㊙	4	**心理学研究法☯㊙**	4			
				知覚・認知心理学㊙	4	**心理的アセスメント㊙**	4			
				心理学を活かしたキャリアマネジメント	2					
	専門展開科目（心理）			精神疾患とその治療◇☯㊙	4					1科目4単位 修得
	専門展開科目（関連）									
	専門展開科目（福祉）	社会福祉原論□◇◎	4	障害者福祉論□◇◎	2	権利擁護と成年後見□◇	2	精神保健福祉演習Ⅲ◇	2	21 科目60単位 修得
		ソーシャルワークの基盤と専門職□◇#◎	2	社会保障論□◇◎△	4	ソーシャルワークの理論と方法（専門）◇	4	精神保健福祉実習指導Ⅲ◇	2	
				ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ□◇	4	精神保健福祉演習Ⅰ◇	2	精神保健福祉実習◇	6	
				地域福祉論□◇※	4	精神保健福祉演習Ⅱ◇	2	更生保護◇□	2	
				精神保健福祉の原理◇	4	精神保健福祉実習指導Ⅰ◇	2			
				精神保健福祉制度論◇	2	精神保健福祉実習指導Ⅱ◇	2			
				精神障害リハビリテーション論◇	2	社会調査法◇□	2			
				精神保健学◇	4					
修得単位		47 単位		57 単位		38 単位		20 単位		162 単位

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3） □（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通 ＊必修 ⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」△必修 ▼選択必修 ▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭 ○必修 ☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格 ◆必修 ※選択）、㊙（公認心理師受験基礎資格）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

注4） 精神保健福祉士の国家試験を受験する学生は、「精神保健福祉士養成演習Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること。

15.≪心理学科≫［社会・ビジネス心理学コース］（認定心理士モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	基礎教育科目	**基礎演習Ⅰ** **心理学入門** **情報処理演習Ⅰ＊**	1 2 4	**基礎演習Ⅱ**	1					4科目8単位 必修
	健康教育科目	**レクリエーションワーク※** **レクリエーション理論**	2 2							2科目4単位 必修
	コミュニケーション科目	アメリカの文化と言語Ⅰ＊ アメリカの文化と言語Ⅱ	2 2	情報処理演習Ⅱ⁂	4	情報処理演習Ⅲ⁂	4			4科目12単位 以上修得
	教養教育科目	**文章表現** **統計学** **心理学概論□◇◎△㊙** **福祉と教育** 社会学概論□◇△ 国際社会と日本▲ 多文化理解入門 多文化コミュニケーション 経営学入門 会計学入門 **教養基礎演習Ⅰ**	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	＆文章表現Ⅱ 経済学（国際経済を含む）△	4 2	＆文章表現Ⅲ	4			必修 5 科目10 単位 を含む 14科目32単位 修得
	キャリア開発教育科目	**教養基礎演習Ⅱ**	2	**教養基礎演習Ⅲ**	4	**キャリア開発演習Ⅰ(教養)**	4	**キャリア開発演習Ⅱ(教養)**	4	必修 4科目14単位 修得
小計		**39 単位**		**15 単位**		**12 単位**		**4 単位**		**70単位**
専門教育科目	専門基幹科目	**心理学統計法㊙** **発達心理学㊙** 心理学を活かしたキャリアデザイン	2 4 2	**社会・集団・家族心理学（社会・集団）㊙** **心理学的支援法（基礎）㊙** **心理学実験㊙** **臨床心理学概論㊙** **知覚・認知心理学㊙** 心理学を活かしたキャリアマネジメント	4 2 4 4 4 2	**教育・学校心理学㊙** **心理学的支援法（演習）㊙** **障害者・障害児心理学㊙** **心理学研究法☯㊙** **心理的アセスメント㊙**	4 2 2 4 4			14科目 44単位 必修
	専門展開科目（心理）			学習・言語心理学㊙	2	産業・組織心理学㊙ 感情・人格心理学㊙	2 2			3科目6単位 修得
	専門展開科目（関連）					社会政策 労働法（労働基準法）▲	2 2			2科目4単位 修得
修得単位		**47 単位**		**37 単位**		**36 単位**		**4 単位**		**124単位**

単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注1） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注2） □（社会福祉士受験資格）、◇（精神保健福祉士受験資格）、＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、◎（高等学校教諭「福祉」）、△（高等学校教諭「公民」△必修　▼選択必修　▲選択）、●（特別支援学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、▽（小学校教諭）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）、㊙（公認心理師受験基礎資格）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細は、「Ⅶ. 資格取得の方法について」を参照すること。

16-1. ≪教育学科学校教育専攻≫（小学校教諭一種免許状モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		**文章表現**	2							必修 13 科目30 単位 を含め 17 科目44 単位 修得
		人権教育♪ ▼#	2							
		健康・スポーツ＊	2							
		レクリエーション理論	2							
		レクリエーションワーク※	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4	**情報処理演習Ⅱ◇♪▲**	4					
		アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
		法学（憲法）＊	2							
		法学概論■	2							
		福祉と教育	2							
		音楽▽	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
		教員基礎演習Ⅰ▽○□◎◇●■	2	教員基礎演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅰ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	
専門教育科目	教育（初等）	**教師論▽**	2	**教育方法論（ICT 活用含む）▽**	2	**教育相談（カウンセリングを含む）▽☆**	2			小学校教諭 必修 12科目24単位 修得
		教育課程論▽	2	**教育法規▽**	2	道徳の指導法▽	2			
		教育学概論▽	2	**教育心理学▽☆**	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	2					
				特別活動の指導法▽	2					
				特別ニーズ教育論▽※	2					
				総合的な学習の時間の指導法▽	2					
	教育分野（小学校）	図画工作Ⅰ▽	2	国語(書写を含む) ▽	2	社会▽	2			小学校教諭 必修 21科目42単位 修得
				算数▽	2	理科▽	2			
				音楽Ⅱ▽	2	生活▽	2			
				図画工作Ⅱ▽	2	家庭▽	2			
				体育▽	2	社会科指導法▽	2			
				外国語▽	2	理科指導法▽	2			
				国語科指導法(書写を含む) ▽	2	生活科指導法▽	2			
				算数科指導法▽	2	家庭科指導法▽	2			
				音楽科指導法▽	2					
				図画工作科指導法▽	2					
				体育科指導法▽	2					
				外国語の指導法▽	2					
	教育分野（英語）	英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）□▼	2	英語講読Ⅴ□▼	2					8科目16単位 修得
		英語基礎演習Ⅱ（文法・読解）□▼	2	英語学Ⅱ（英語の発音と音声）▼	2					
		英語講読Ⅱ□▼	2	英米児童文学（作品論）▼	2					
		英語コミュニケーションⅠ□▼	2							
		英語コミュニケーションⅡ□▼	2							
	演習・実習			教育実習指導（初等）▽	1	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	**専門演習**	2	必修1科目2単 位を含め5科目 9単位修得
						教育実習（初等）Ⅱ▽	2	教職実践演習（小学校）▽	2	
修得単位		**46 単位**		**53 単位**		**28 単位**		**8 単位**		**135 単位**

単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注1） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注2） ＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、▽（小学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、□（英語科教諭）、◎（保健科教諭）、◇（情報科教諭）、☆（認定心理士資格）、◆（社会教育主事　◆必修　※選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注3） 幼稚園教諭（△必修　▲選択）、特別支援学校教諭（●）、高等学校公民科教諭（■必修　♪選択）については、資格課程科目等を履修することによって取得可能。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注4） 小学校教諭課程履修者は、教育分野（英語）の中から▼印の付された８科目 16 単位を履修することが望ましい。

16-2. ≪教育学科学校教育専攻≫（小学校教諭一種免許状＋英語科教諭一種免許状（中学・高校）モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		**文章表現** **人権教育♪▼♯** **健康・スポーツ＊** **情報処理演習Ⅰ＊** **アメリカの文化と言語Ⅰ＊** **法学（憲法）＊** **法学概論■** **福祉と教育** 音楽▽ **教養基礎演習Ⅰ** **教員基礎演習Ⅰ▽○□◎◇●■**	2 2 2 4 2 2 2 2 2 2 2	**情報処理演習Ⅱ◇♪▲** 教員基礎演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4 4	教員開発演習Ⅰ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	必修 11 科目26 単位 を含め 15 科目40 単位 修得
専門教育科目	教育（初等）	**教師論▽** **教育課程論▽** **教育学概論▽**	2 2 2	**教育方法論（ICT 活用含む）▽** **教育法規▽** **教育心理学▽☆** **児童生徒指導論（進路指導を含む）▽** 特別活動の指導法▽ 特別ニーズ教育論▽※ 総合的な学習の時間の指導法▽	2 2 2 2 2 2 2	**教育相談（カウンセリングを含む）▽☆** 道徳の指導法▽	2 2			小学校教諭 必修 12科目24単位 修得
	教育（中等）	**教師論○□◎◇■** **教育課程論○□◎◇■** **教育学概論○□◎◇■**	2 2 2	**教育方法論（ICT 活用含む）○□◎◇■** **教育法規○□◎◇■** **教育心理学○□◎◇■☆** **児童生徒指導論（進路指導を含む）○□◎◇■** 特別活動の指導法○□◎◇■ 特別ニーズ教育論○□◎◇■※ 総合的な学習の時間の指導法○□◎◇■	2 2 2 2 2 2 2	**教育相談（カウンセリングを含む）○□◎◇■☆** 道徳の指導法＊＊○	2 2			英語科教諭 必修 12科目24単位 修得
	教育分野（小学校）	図画工作Ⅰ▽	2	国語(書写を含む) ▽ 算数▽ 音楽Ⅱ▽ 図画工作Ⅱ▽ 体育▽ 外国語▽ 国語科指導法(書写を含む) ▽ 算数科指導法▽ 音楽科指導法▽ 図画工作科指導法▽ 体育科指導法▽ 外国語の指導法▽	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	社会▽ 理科▽ 生活▽ 家庭▽ 社会科指導法▽ 理科指導法▽ 生活科指導法▽ 家庭科指導法▽	2 2 2 2 2 2 2 2			小学校教諭 必修 21科目42単位 修得
	教育分野（英語）	英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）□▼ 英語基礎演習Ⅱ（文法・読解）□▼ 英語講読Ⅰ□ 英語講読Ⅱ□▼ 英語講読Ⅲ□ 英語コミュニケーションⅠ□▼ 英語コミュニケーションⅡ□▼	2 2 2 2 2 2 2	英語基礎演習Ⅲ（文法・作文）□ 英語講読Ⅳ□ 英語講読Ⅴ□▼ 英語講読Ⅵ□ 英語コミュニケーションⅢ□ 英語コミュニケーションⅣ□	2 2 2 2 2 2	英米文学演習□ 英米児童文学演習□ 英語コミュニケーションⅤ□ 英語コミュニケーションⅥ□ 異文化理解□ 英語科指導法Ⅰ□ 英語科指導法Ⅱ□ 英語学演習Ⅰ（統語論）□	2 2 2 2 2 4 4 2			英語科教諭 必修 21科目46単位 修得
	演習・実習			教育実習指導（初等）▽	1	教育実習（初等）Ⅰ▽ 教育実習（初等）Ⅱ▽ 教育実習指導（中等）□◇■	2 2 1	**専門演習** 教職実践演習（中・高）□◎◇■ 教職実践演習（小学校）▽ 教育実習（中等）Ⅰ□◇■	2 2 2 2	必修1科目2単 位を含め 8科目14単位 修得
修得単位		52 単位		73 単位		53 単位		12 単位		190 単位

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。
注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。
注3） レクリエーションワーク、レクリエーション理論は、小学校教諭取得者で、2 種類以上の免許状を取得する場合は、選択科目となる。ただし、レクリエーション・インストラクター資格の取得を希望する場合は、必修科目となる。
注4） ＊（教職課程共通　＊必修　♣選択）、▽（小学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、□（英語科教諭）、◎（保健科教諭）、◇（情報科教諭）、☆（認定心理士資格）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。
注5） ＊＊道徳の指導法は、中学校教諭免許状を取得する場合は、必修のこと。
注6） 小学校教諭課程履修者は、教育分野（英語）の中から▼印の付された 8 科目 16 単位を、情報科教諭課程履修者は、教育分野（情報）に開講されている選択科目 5 科目 10 単位を履修することが望ましい。
注7） 幼稚園教諭（△必修　▲選択）、特別支援学校教諭（●）、高等学校公民科教諭（■必修　♪選択）については、資格課程科目を履修することによって取得可能。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

16-3. ≪教育学科学校教育専攻≫［ICTコース］（小学校教諭一種免許状＋情報科教諭一種免許状（高校）モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		**文章表現**	2							必修 11 科目26 単位 を含め 18 科目48 単位 修得
		人権教育♪▼#	2							
		健康・スポーツ＊	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4	**情報処理演習Ⅱ◇♪▲**	4	情報処理演習Ⅲ◇	4			
		アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
		法学（憲法）＊	2							
		法学概論■	2							
		福祉と教育	2							
		音楽▽	2							
		ITパスポート演習Ⅰ注5)	2							
		ITパスポート演習Ⅱ注5)	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
		教員基礎演習Ⅰ▽○□◎◇●■	2	教員基礎演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅰ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	
専門教育科目	教育（初等）	**教師論▽**	2	**教育方法論（ICT活用含む）▽**	2	**教育相談（カウンセリングを含む）▽☆**	2			小学校教諭 必修 12科目24単位 修得
		教育課程論▽	2	**教育法規▽**	2	道徳の指導法▽	2			
		教育学概論▽	2	**教育心理学▽☆**	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	2					
				特別活動の指導法▽	2					
				特別ニーズ教育論▽※	2					
				総合的な学習の時間の指導法▽	2					
	教育（中等）	**教師論○□◎◇■**	2	**教育方法論（ICT活用含む）○□◎◇■**	2	**教育相談（カウンセリングを含む）○□◎◇■☆**	2			情報科教諭 必修 11科目22単位 修得
		教育課程論○□◎◇■	2	**教育法規○□◎◇■**	2					
		教育学概論○□◎◇■	2	**教育心理学○□◎◇■☆**	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）○□◎◇■	2					
				特別活動の指導法○□◎◇■	2					
				特別ニーズ教育論○□◎◇■※	2					
				総合的な学習の時間の指導法○□◎◇■	2					
	教育分野（小学校）	図画工作Ⅰ▽	2	国語(書写を含む)▽	2	社会▽	2			小学校教諭 必修 21科目42単位 修得
				算数▽	2	理科▽	2			
				音楽Ⅱ▽	2	生活▽	2			
				図画工作Ⅱ▽	2	家庭▽	2			
				体育▽	2	社会科指導法▽	2			
				外国語▽	2	理科指導法▽	2			
				国語科指導法(書写を含む)▽	2	生活科指導法▽	2			
				算数科指導法▽	2	家庭科指導法▽	2			
				音楽科指導法▽	2					
				図画工作科指導法▽	2					
				体育科指導法▽	2					
				外国語の指導法▽	2					
	教育分野（情報）	社会情報学◇	2	コンピュータネットワークⅠ◇	2	データベース演習Ⅰ◇	2			情報科教諭 必修 14科目28単位 修得
		コンピュータサイエンスⅠ◇	2	コンピュータネットワークⅡ◇	2	データベース演習Ⅱ◇	2			
		コンピュータサイエンスⅡ◇	2	マルチメディア表現Ⅰ◇	2	システム設計◇	2			
		情報と職業◇	2			システム設計演習◇	2			
						情報セキュリティ◇	2			
						情報科指導法Ⅰ◇	2			
						情報科指導法Ⅱ◇	2			
	演習・実習			教育実習指導（初等）▽	1	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	**専門演習**	2	必修 1科目2単位 を含め 8科目14単位 修得
						教育実習（初等）Ⅱ▽	2	教職実践演習（中・高）□◎◇■	2	
						教育実習指導（中等）□◇■	1	教職実践演習（小学校）▽	2	
								教育実習(中等)Ⅰ□◇■	2	
修得単位		50 単位		67 単位		49 単位		12 単位		178 単位

注1) 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。
注2) **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。
注3) レクリエーションワーク、レクリエーション理論は、小学校教諭取得者で、2種類以上の免許状を取得する場合は、選択科目となる。ただし、レクリエーション・インストラクター資格の取得を希望する場合は、必修科目となる。
注4) ＊（教職課程共通　＊必修　♣選択）、▽（小学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、□（英語科教諭）、◎（保健科教諭）、◇（情報科教諭）、☆（認定心理士資格）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。
注5) ITパスポート演習ⅠⅡは、小学校教諭と高校教諭（情報）の両方を履修する者（ICTコース）は必ず履修すること。

17.≪教育学科学校教育専攻≫　（英語科教諭一種免許状（中学・高校）モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		文章表現	2							必修 13 科目30 単位 を含め 16 科目42 単位 修得
		人権教育♪▼＃	2							
		健康・スポーツ＊	2							
		レクリエーション理論	2							
		レクリエーションワーク※	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4	情報処理演習Ⅱ◇♪▲	4					
		アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
		法学（憲法）＊	2							
		法学概論■	2							
		福祉と教育	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
		教員基礎演習Ⅰ▽○□◎◇●■	2	教員基礎演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅰ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	
専門教育科目	教育（中等）	教師論○□◎◇■	2	教育方法論（ICT活用含む）○□◎◇■	2	教育相談（カウンセリングを含む）○□◎◇■☆	2			英語科教諭 必修 12科目24単位 修得
		教育課程論○□◎◇■	2	教育法規○□◎◇■	2	道徳の指導法＊＊○	2			
		教育学概論○□◎◇■	2	教育心理学○□◎◇■☆	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）○□◎◇■	2					
				特別活動の指導法○□◎◇■	2					
				特別ニーズ教育論○□◎◇■※	2					
				総合的な学習の時間の指導法○□◎◇■	2					
	教育分野（英語）	英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）□▼	2	英語基礎演習Ⅲ（文法・作文）□	2	英米文学演習□	2			英語科教諭 必修 21科目46単位 修得
		英語基礎演習Ⅱ（文法・読解）□▼	2	英語講読Ⅲ□	2	英米児童文学演習□	2			
		英語講読Ⅰ□	2	英語講読Ⅳ□	2	英語コミュニケーションⅤ　□	2			
		英語講読Ⅱ□▼	2	英語講読Ⅴ□▼	2	英語コミュニケーションⅥ　□	2			
		英語コミュニケーションⅠ□▼	2	英語講読Ⅵ□	2	異文化理解□	2			
		英語コミュニケーションⅡ□▼	2	英語コミュニケーションⅢ　□	2	英語科指導法Ⅰ□	4			
				英語コミュニケーションⅣ　□	2	英語科指導法Ⅱ□	4			
						英語学演習Ⅰ（統語論）□	2			
				英語学Ⅱ（英語の発音と音声）▼	2	英語学演習Ⅱ（意味論）	2			8科目16単位 修得
				英米児童文学（作品論）▼	2	英語学Ⅰ（英語の歴史）	2			
				英米文学と映像	2	英語学Ⅲ（英語の談話）	2			
						英文学（作家・作品論）	2			
						米文学（作家・作品論）	2			
	演習・実習					教育実習指導（中等）□◇■	1	専門演習	2	必修 1科目2単位 を含め 5科目9単位 修得
								教職実践演習（中・高）□◎◇■	2	
								教育実習（中等）Ⅰ□◇■	2	
								教育実習（中等）Ⅱ□◇■	2	
修得単位		44 単位		42 単位		39 単位		12 単位		137 単位

注1）　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）　＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、▽（小学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、□（英語科教諭）、◎（保健科教諭）、◇（情報科教諭）、☆（認定心理士資格）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注4）　幼稚園教諭（△必修　▲選択）、特別支援学校教諭（●）、高等学校公民科教諭（■必修　♪選択）については、資格課程科目等を履修することによって取得可能。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注5）　＊＊道徳の指導法は、中学校教諭免許状を取得する場合は、必修のこと。

18.≪教育学科学校教育専攻≫　（情報科教諭一種免許状（高校）モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		**文章表現**	2							必修 13 科目30 単位 を含め 21科目54単位 修得
		人権教育♪▼＃	2							
		健康・スポーツ＊	2							
		レクリエーション理論	2							
		レクリエーションワーク※	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4	**情報処理演習Ⅱ◇♪▲**	4	情報処理演習Ⅲ◇	4			
		アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
		法学（憲法）＊	2	心理学概論☆■	2					
		法学概論■	2	社会学概論■	2					
		福祉と教育	2	統計学	2					
		ITパスポート演習Ⅰ	2	少年と犯罪	2					
		ITパスポート演習Ⅱ	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
		教員基礎演習Ⅰ▽○□◎◇●■	2	教員基礎演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅰ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	
専門教育科目	教育（中等）	**教師論○□◎◇■**	2	**教育方法論（ICT活用含む）○□◎◇■**	2	**教育相談（カウンセリングを含む）○□◎◇■☆**	2			情報科教諭 必修 11科目22単位 修得
		教育課程論○□◎◇■	2	**教育法規○□◎◇■**	2					
		教育学概論○□◎◇■	2	**教育心理学○□◎◇■☆**	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）○□◎◇■	2					
				特別活動の指導法○□◎◇■	2					
				特別ニーズ教育論○□◎◇■※	2					
				総合的な学習の時間の指導法○□◎◇■	2					
	教育分野（情報）	社会情報学◇	2	コンピュータネットワークⅠ◇	2	データベース演習Ⅰ◇	2			情報科教諭 必修 14科目28単位 修得
		コンピュータサイエンスⅠ　◇	2	コンピュータネットワークⅡ◇	2	データベース演習Ⅱ◇	2			
		コンピュータサイエンスⅡ　◇	2	マルチメディア表現Ⅰ◇	2	システム設計◇	2			
		情報と職業◇	2			システム設計演習◇	2			
						情報セキュリティ◇	2			
						情報科指導法Ⅰ◇	2			
						情報科指導法Ⅱ◇	2			
				マルチメディア表現Ⅱ	2	ヒューマンメディア	2			5科目10単位 修得
				メディア社会論	2	マルチメディアと学習環境	2			
				情報倫理	2					
	心理・発達			発達心理学☆⁂ ♪	2	臨床心理学☆○▼♪	2			2科目4単位 修得
	演習・実習					教育実習指導（中等）□◇■	1	**専門演習**	2	必修 1科目2単位 を含め 4科目7単位 修得
								教職実践演習（中・高）□◎◇■	2	
								教育実習（中等）Ⅰ□◇■	2	
修得単位		**44　単位**		**40　単位**		**31 単位**		**10 単位**		**125単位**

注1）　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）　＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、▽（小学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、□（英語科教諭）、◎（保健科教諭）、◇（情報科教諭）、☆（認定心理士資格）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注4）　幼稚園教諭（△必修　▲選択）、特別支援学校教諭（●）、高等学校公民科教諭（■必修　♪選択）については、資格課程科目等を履修することによって取得可能。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

19.≪教育学科学校教育専攻≫　（養護教諭・保健科教諭一種免許状（中学・高校）モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		文章表現	2							必修 13科目30単位 を含め 19科目52単位 修得
		人権教育♪▼＃	2							
		健康・スポーツ＊	2							
		レクリエーション理論	2							
		レクリエーションワーク※	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4	情報処理演習Ⅱ◇♪▲	4					
		アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
		法学（憲法）＊	2							
		法学概論■	2							
		福祉と教育	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
		教員基礎演習Ⅰ▽○□◎◇●■	2	教員基礎演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅰ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	
				養護教諭基礎演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	2	
専門教育科目	教育（中等）	教師論○□◎◇■	2	教育方法論（ICT活用含む）○□◎◇■	2	教育相談（カウンセリングを含む）○□◎◇■☆	2			○養護教諭 ◎保健科教諭 12科目24単位 修得
		教育課程論○□◎◇■	2	教育法規○□◎◇■	2	道徳の指導法＊＊○	2			
		教育学概論○□◎◇■	2	教育心理学○□◎◇■☆	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）○□◎◇■	2					
				特別活動の指導法○□◎◇■	2					
				特別ニーズ教育論○□◎◇■※	2					
				総合的な学習の時間の指導法○□◎◇■	2					
	保健・養護			衛生学○◎	2	公衆衛生○◎	2			○養護教諭 必修 11科目24単位 修得 ◎保健科教諭 必修 4科目12単位 追加修得 計15科目 36単位必修
				学校保健学（学校安全を含む）○◎	2	栄養学（食品学含む）○◎	2			
				養護教育学○	2	看護学（救急処置を含む）○◎	4			
				精神保健学○◎	2	健康相談活動の理論と方法　○	2			
				病原微生物学○◎	2	地域看護学○	2			
				解剖生理学Ⅰ○◎	2					
				解剖生理学Ⅱ◎☯	2					
				保健科指導法Ⅰ◎	4					
				保健科指導法Ⅱ◎	4					
				医学概論（小児保健を含む）☯◎	2					
	心理・発達					臨床心理学☆○▼♪	2			1科目2単位 修得
	演習・実習			教育実習指導（中等）「保健」◎	1	教育実習（中等）Ⅰ「保健」◎	2	専門演習	2	必修 1科目2単位 を含め 10科目20単位 修得
						教育実習（中等）Ⅱ「保健」◎	2	教職実践演習（養護）○	2	
								教職実践演習（中・高）□◎◇■	2	
						養護実習指導○	1	養護実習○	4	
						看護臨床実習指導○	2	看護臨床実習○	2	
修得単位		32 単位		51 単位		33 単位		18 単位		134 単位

注1）　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）　＊（教職課程共通　＊必修　♣選択）、▽（小学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、□（英語科教諭）、◎（保健科教諭　◎必修　＃選択）、◇（情報科教諭）、☆（認定心理士資格）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※☆選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注4）　幼稚園教諭（△必修　▲選択）、特別支援学校教諭（●）、高等学校公民科教諭（■必修　♪選択）については、資格課程科目等を履修することによって取得可能。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注5）　＊＊道徳の指導法は、中学校教諭免許状を取得する場合は、必修のこと。

20.≪教育学科学校教育専攻≫　（認定心理士＋養護教諭一種免許状モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		**文章表現**	2							必修 13 科目30 単位 を含め 21 科目56 単位 修得
		人権教育♪▼＃	2							
		健康・スポーツ＊	2							
		レクリエーション理論	2							
		レクリエーションワーク※	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4	**情報処理演習Ⅱ◇♪▲**	4					
		アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
		法学概論■	2							
		法学（憲法）＊	2							
		福祉と教育	2							
		心理学入門☆	2							
		心理学概論☆■	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
		教員基礎演習Ⅰ▽○□◎◇●■	2	教員基礎演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅰ▽○□◎◇●■	4	教員開発演習Ⅱ▽○□◎◇●■	4	
				養護教諭基礎演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅰ○	4	養護教諭開発演習Ⅱ○	2	
専門教育科目	教育（中等）	**教師論○□◎◇■**	2	**教育方法論（ICT 活用含む）○□◎◇■**	2	**教育相談（カウンセリングを含む）○□◎◇■☆**	2			○養護教諭 必修 12科目24単位 修得
		教育課程論○□◎◇■	2	**教育法規○□◎◇■**	2	道徳の指導法＊＊○	2			
		教育学概論○□◎◇■	2	**教育心理学○□◎◇■☆**	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）○□◎◇■	2					
				特別活動の指導法○□◎◇■	2					
				特別ニーズ教育論○□◎◇■※	2					
				総合的な学習の時間の指導法○□◎◇■	2					
	保健・養護			衛生学○◎	2	公衆衛生○◎	2			○養護教諭 必修 11科目24単位 修得
				学校保健学（学校安全を含む）○◎	2	栄養学（食品学含む）○◎	2			
				養護教育学○	2	健康相談活動の理論と方法○	2			
				精神保健学○◎	2	看護学（救急処置を含む）○◎	4			
				病原微生物学○◎	2	地域看護学○	2			
				解剖生理学Ⅰ○◎	2					
	心理・発達	心理統計法☆	2	発達心理学☆⁂ ♪	2	臨床心理学☆○▼♪	2			☆認定心理士 必修 12科目32単位 修得
				心理学基礎実験☆	4	カウンセリング演習☆▼＃	4			
				社会心理学☆♪	2	家族心理学☆	2			
						心理学研究法☆☯	4			
						心理検査法☆☯	4			
						心理療法概説☆☯	2			
						認知心理学☆	2			
						障害児・者の心理☆☯♪	2			
	演習・実習					養護実習指導○	1	**専門演習**	2	必修 1科目2単位 を含め 6科目13単位 修得
						看護臨床実習指導○	2	教職実践演習（養護教諭）○	2	
								養護実習○	4	
								看護臨床実習○	2	
修得単位		**38 単位**		**46 単位**		**49 単位**		**16 単位**		**149 単位**

注1）　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）　＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、▽（小学校教諭）、○（養護教諭　○必修　☯選択）、□（英語科教諭）、◎（保健科教諭）、◇（情報科教諭）、☆（認定心理士資格）、◆（社会教育主事資格　◆必修　※選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注4）　幼稚園教諭（△必修　▲選択）、特別支援学校教諭（●）、高等学校公民科教諭（■必修　♪選択）については、資格課程科目等を履修することによって取得可能。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

21.≪教育学科学校教育専攻≫（教育心理モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		**文章表現**	2	＆文章表現Ⅱ	4	＆文章表現Ⅲ	4			必修 13 科目30 単位 を含め 23科目60単位 修得
		人権教育♪ ▼#	2							
		健康・スポーツ＊	2							
		レクリエーション理論	2							
		レクリエーションワーク※	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4	**情報処理演習Ⅱ◇♪▲**	4					
		アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
		法学（憲法）＊	2							
		法学概論■	2							
		福祉と教育	2							
		心理学概論☆■	2							
		心理学入門☆	2							
		多文化理解入門	2							
		多文化コミュニケーション	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
		教養基礎演習Ⅱ	2	教養基礎演習Ⅲ	4	キャリア開発演習Ⅰ（教養）	4	キャリア開発演習Ⅱ（教養）	4	
		教員基礎演習Ⅰ▽○□◎◇●■	2							
専門教育科目	教育（中等）	**教師論○□◎◇■**	2	**教育方法論（ICT 活用含む）○□◎◇■**	2	**教育相談（カウンセリングを含む）○□◎◇■☆**	2			12科目24単位 修得
		教育課程論○□◎◇■	2	**教育法規○□◎◇■**	2	道徳の指導法＊＊	2			
		教育学概論○□◎◇■	2	**教育心理学○□◎◇■☆**	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）○□◎◇■	2					
				特別活動の指導法○□◎◇■	2					
				特別ニーズ教育論○□◎◇■※	2					
				総合的な学習の時間の指導法○□◎◇■	2					
	教育分野（英語）	英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）□▼	2	英語基礎演習Ⅲ（文法・作文）□	2	英語コミュニケーションⅤ□	2			16科目32単位 修得
		英語基礎演習Ⅱ（文法・読解）□▼	2	英語講読Ⅳ□	2	英語コミュニケーションⅥ□	2			
		英語講読Ⅰ□	2	英語講読Ⅴ□▼	2	異文化理解□	2			
		英語講読Ⅱ□▼	2	英語講読Ⅵ□	2					
		英語講読Ⅲ□	2	英語コミュニケーションⅢ□	2					
		英語コミュニケーションⅠ□▼	2	英語コミュニケーションⅣ□	2					
		英語コミュニケーションⅡ□▼	2							
	心理・発達	心理統計法☆	2	発達心理学☆⁂	2	臨床心理学☆○▼♪	2			11科目26単位 修得
				社会心理学☆♪	2	カウンセリング演習☆▼#	4			
				心理学基礎実験☆	4	家族心理学☆	2			
						心理療法概説☆☯	2			
						認知心理学☆	2			
						障害児・者の心理☆☯♪	2			
						発達相談⁂	2			
	演習・実習							**専門演習**	2	必修 1科目2単位 修得
修得単位		**58単位**		**46 単位**		**34 単位**		**6 単位**		**144単位**

注1） 単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。
注2） **ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。
注3） ＊（教職課程共通 ＊必修 ⁂選択）、▽（小学校教諭）、○（養護教諭 ○必修 ☯選択）、□（英語科教諭）、◎（保健科教諭）、◇（情報科教諭）、☆（認定心理士資格）、◆（社会教育主事 ◆必修 ※選択）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

22.≪教育学科国際教育専攻　国際教育コース≫（小学校教諭一種免許状＋海外留学モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		**文章表現**	2							必修 18 科目40 単位 を含め 22 科目54 単位 修得
		人権教育	2							
		健康・スポーツ＊	2							
		レクリエーション理論	2							
		レクリエーションワーク	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4	**情報処理演習Ⅱ**	4					
		アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
		法学（憲法）＊	2							
		法学概論	2							
		福祉と教育	2							
		音楽▽	2							
		国際社会と日本	2							
		多文化理解入門	2							
		多文化コミュニケーション	2							
		アジア文化論	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
		教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	
専門教育科目	教育（初等）	**教師論▽**	2	**教育方法論（ICT 活用含む）▽**	2	**教育相談（カウンセリングを含む）▽**	2			小学校教諭 必修 12科目24単位 修得
		教育課程論▽	2	**教育法規▽**	2	道徳の指導法▽	2			
		教育学概論▽	2	**教育心理学▽**	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）▽	2					
				特別活動の指導法▽	2					
				特別ニーズ教育論▽	2					
				総合的な学習の時間の指導法▽	2					
	教育（国際）	**日本文化研究**	2	**国際社会理解入門**	2	**国際保健学入門**	2	**国際社会理解研究Ⅰ**	2	必修 13科目26単位 修得
		言語学概論	2	**海外留学入門**	2	**異文化理解**	2	**国際社会理解研究Ⅱ**	2	
				人間環境学入門	2	**異文化コミュニケーション教育演習**	2			
				日本語教育の理論と方法	2					
				社会言語学	2					
				異文化コミュニケーション教育	2					
	教育分野（小学校）	図画工作Ⅰ▽	2	社会▽	2	社会科指導法▽	2			小学校教諭 必修 21科目42単位 修得
		国語(書写を含む）▽	2	理科▽	2	理科指導法▽	2			
		算数▽	2	生活▽	2	生活科指導法▽	2			
		図画工作Ⅱ▽	2	家庭▽	2	家庭科指導法▽	2			
		体育▽	2	外国語▽	2					
		音楽Ⅱ▽	2	国語科指導法(書写を含む）▽	2					
				算数科指導法▽	2					
				音楽科指導法▽	2					
				図画工作科指導法▽	2					
				体育科指導法▽	2					
				外国語の指導法▽	2					
	演習・実習					教育実習指導（初等）▽	1	**専門演習**	2	必修 1科目2単位 を含め 7科目26単位 修得
						国際理解実習指導	1	教育実習（初等）Ⅰ▽	2	
						国際理解実習	16	教育実習（初等）Ⅱ▽	2	
								教職実践演習（小学校）▽	2	
修得単位		60 単位		56 単位		40 単位		16 単位		172 単位

注1）　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）　＊（教職課程共通　＊必修　♣選択）、▽（小学校教諭）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注4）　海外留学を希望する場合は、国際理解実習指導を3年次春期に履修し、国際理解実習は3年次秋期に履修すること。

注5）　「国際理解実習」は半年の協定校への海外留学につき16単位までの単位認定とする。

23.≪教育学科国際教育専攻　国際教育コース≫　（英語科教諭一種免許状（中学・高校）＋海外留学モデル）

区分		1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目		文章表現	2							必修 18 科目40 単位 を含め 21 目52 単位 修得
		人権教育	2							
		健康・スポーツ＊	2							
		レクリエーション理論	2							
		レクリエーションワーク	2							
		情報処理演習Ⅰ＊	4	情報処理演習Ⅱ	4					
		アメリカの文化と言語Ⅰ＊	2							
		アメリカの文化と言語Ⅱ	2							
		法学（憲法）＊	2							
		法学概論	2							
		福祉と教育	2							
		国際社会と日本	2							
		多文化理解入門	2							
		多文化コミュニケーション	2							
		アジア文化論	2							
		教養基礎演習Ⅰ	2							
		教員基礎演習Ⅰ＊	2	教員基礎演習Ⅱ＊	4	教員開発演習Ⅰ＊	4	教員開発演習Ⅱ＊	4	
専門教育科目	教育（中等）	教師論□	2	教育方法論（ICT 活用含む）□	2	教育相談（カウンセリングを含む）□	2			英語科教諭 必修 12科目24単位 修得
		教育課程論□	2	教育法規□	2	道徳の指導法＊＊	2			
		教育学概論□	2	教育心理学□	2					
				児童生徒指導論（進路指導を含む）□	2					
				特別活動の指導法□	2					
				特別ニーズ教育論□	2					
				総合的な学習の時間の指導法□	2					
	教育（国際）	日本文化研究	2	国際社会理解入門	2	国際保健学入門	2	国際社会理解研究Ⅰ	2	必修 13科目26単位 修得
		言語学概論	2	海外留学入門	2	異文化理解□	2	国際社会理解研究Ⅱ	2	
				人間環境学入門	2	異文化コミュニケーション教育演習	2			
				日本語教育の理論と方法	2					
				社会言語学	2					
				異文化コミュニケーション教育	2					
	教育分野（英語）	英語基礎演習Ⅰ（文法・読解）□▼	2	英語基礎演習Ⅲ（文法・作文）□	2	英米文学演習□	2			英語科教諭 必修 20科目44単位 修得
		英語基礎演習Ⅱ（文法・読解）□▼	2	英語講読Ⅳ□	2	英米児童文学演習□	2			
		英語講読Ⅰ□	2	英語講読Ⅴ□▼	2	英語コミュニケーションⅤ　□	2			
		英語講読Ⅱ□▼	2	英語講読Ⅵ□	2	英語コミュニケーションⅥ　□	2			
		英語講読Ⅲ□	2	英語コミュニケーションⅢ　□	2	英語科指導法Ⅱ□	4			
		英語コミュニケーションⅠ□▼	2	英語コミュニケーションⅣ□	2	英語学演習Ⅰ（統語論）□	2			
		英語コミュニケーションⅡ□▼	2	英語科指導法Ⅰ□	4					
				英語学Ⅱ（英語の発音と音声）	2	英語学演習Ⅱ（意味論）	2			8科目16単位 修得
				英米文学と映像	2	英語学Ⅰ（英語の歴史）	2			
				英米児童文学（作品論）	2	英語学Ⅲ（英語の談話）	2			
						英文学（作家・作品論）	2			
						米文学（作家・作品論）	2			
	演習・実習					教育実習指導（中等）□	1	専門演習	2	必修 1科目2単位 を含め 7科目26単位 修得
								教育実習（中等）Ⅰ□	2	
						国際理解実習指導	1	教育実習（中等）Ⅱ□	2	
						国際理解実習	16	教職実践演習（中・高）□	2	
修得単位		60 単位		56 単位		56 単位		16 単位		188 単位

注1）　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2）　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3）　＊（教職課程共通　＊必修　⁂選択）、□（英語科教諭）の印が付された科目は、資格・免許状取得に関する科目。詳細については、「Ⅶ. 資格取得の方法」を参照すること。

注4）　＊＊道徳の指導法は、中学校教諭免許状を取得する場合は、必修のこと。

注5）　海外留学を希望する場合は、国際理解実習指導を３年次春期に履修し、国際理解実習は３年次秋期に履修すること。

注6）　国際理解実習は半年の協定校への海外留学につき16単位までの単位認定とする。

24. ≪教育学科国際教育専攻　日本語教育コース≫（日本語教員モデル）

区分	1年次	単位	2年次	単位	3年次	単位	4年次	単位	備考
総合教育科目	文章表現	2	文章表現Ⅱ＆	4	文章表現Ⅲ＆	4			必修 17科目38単位 選択必修 １科目２単位 を含め 24科目62単位 修得
	人権教育	2							
	健康・スポーツ	2							
	レクリエーション理論	2							
	レクリエーションワーク	2							
	情報処理演習Ⅰ	4	情報処理演習Ⅱ	4					
	アメリカの文化と言語Ⅰ■◆☆	2							
	日本の文化と言語Ⅰ□◇	2							
	日本の文化と言語Ⅱ	2							
	法学（憲法）	2							
	法学概論	2							
	経済学（国際経済を含む）	2							
	日本史	2							
	国際経済と日本	2							
	社会学概論	2							
	福祉と教育	2							
	教養基礎演習Ⅰ	2							
	教員基礎演習Ⅰ	2	教員基礎演習Ⅱ	4	教員開発演習Ⅰ	4	教員開発演習Ⅱ	4	
専門教育科目【共通】	教師論	2	教育方法論（ICT 活用含む）	2	教育相談（カウンセリングを含む）	2			必修 9科目18単位 修得
	教育課程論	2	教育法規	2					
	教育学概論	2	教育心理学	2					
			児童生徒指導論（進路指導を含む）	2					
専門教育科目【演習】							専門演習	2	
専門教育科目【日本語教育関連科目】	日本語学概論□◇	2	日本語学Ⅰ（音声・音韻）□◇	2	日本語教授法Ⅱ□◇	2	日本語教育実習Ⅰ□◇	2	必修 14科目28単位 を含む、30単位 修得
	日本語教育概論□◇	2	日本語学Ⅱ（語彙・意味）□◇	2	第二言語習得理論演習□◇	2			
	言語学概論□◇	2	日本語学史□◇	2					
	異文化接触と文化学習□◇	2	日本語教授法Ⅰ□◇	2					
	日本文化研究□◇	2	東アジアの中の日本文化□◇	2					
			異文化コミュニケーション教育□◇	2					
			第二言語習得理論□◇	2					
			日本語学Ⅲ（文法・文体）□	2	日本語学Ⅴ（談話）□	2			主専攻必修 8科目16単位 修得
			日本語学Ⅳ（文字・表記）□	2	日本語教育演習□	2			
			社会言語学□	2	異文化コミュニケーション教育演習□	2			
			比較日本文化論□	2					
			日本語学習とマルチメディア□	2					
			日本文学と文化	2	対象言語学	2	日本語教育実習Ⅱ	2	主専攻選択 8科目16単位 修得
					比較文化学演習	2			
					日本近代文学史	2			
					日本語学演習Ⅰ（文法・文体）	2			
					日本語学演習Ⅱ（文字・表記）	2			
					日本語学演習Ⅲ（談話）	2			
修得単位	54単位		46 単位		32 単位		10 単位		142単位

注1)　単位数を□で囲まれた科目は、指定された年次に履修すること。

注2)　**ゴシック体**で記載された科目は、必修科目。

注3)　専門教育科目【共通】は初等分野・中等分野のいずれかより同一科目を含まない8科目16単位を履修すること。

注4)　□（日本語教員　主専攻必修）、■（日本語教員　主専攻選択必修）、◇（日本語教員　副専攻必修）、◆（日本語教員　副専攻選択必修）

参考資料

学費納入（予定）について

4 年間に必要な学費（予定）は、毎学期ごとに納入する授業料 402,500 円（半期分）・施設設備費 160,000 円（半期分）のほか、以下のとおり資格課程履修費や実習諸経費などの諸経費を納入することになりますので参考にしてください。なお、資格課程履修費、実習諸経費は学科別に記載していますので注意してください。

＜1 年次秋期＞　全学科対象

項目	摘要	金額
赤城山宿泊研修費用		14,000 円

＜2 年次春期＞　全学科対象

項目	摘要	金額
学友会費	年会費	5,000 円
キャリア支援費		10,000 円

＜3 年次春期＞　全学科対象

項目	摘要	金額
学友会費	年会費	5,000 円

＜4 年次春期＞　全学科対象

項目	摘要	金額
学友会費	年会費	5,000 円

＊　学費は「東京福祉大学授業料等の学費の納付等に関する規程」に基づき、願い出によって延納（最長 3 か月）ができます。

＊　この学費の金額は 2022 年 3 月 31 日現在のものであり、変更されることもあります（変更は事前に通知いたします）。

≪　資格取得にかかわる費用　≫

社会福祉学科

＜2 年次春期＞―資格課程登録者―（　**社会福祉学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
ソーシャルワーク基礎実習費 《社会福祉専攻社会福祉コースの全学生》 《経営福祉専攻は登録者のみ》 《心理福祉専攻は登録者のみ》	社会福祉士資格または教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者	23,000 円
ソーシャルワーク基礎実習費 《精神保健福祉専攻の全学生》	精神保健福祉士資格登録者	23,000 円
介護実習費 《社会福祉専攻介護福祉コースの全学生》	介護実習の実習諸経費 介護福祉士資格登録者	70,000 円

＜2 年次秋期＞―資格課程登録者―（　**社会福祉学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
教職課程履修費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者（1 回目）	75,000 円
教職課程履修費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者（1 回目）	33,000 円
保育士養成課程履修費	保育士養成課程登録者のみ（1 回目）	71,000 円

＜3 年次春期＞―資格課程登録者―（　**社会福祉学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
ソーシャルワーク実習費 《社会福祉専攻社会福祉コースの全学生》 《介護福祉コースは登録者のみ》 《経営福祉専攻は登録者のみ》 《心理福祉専攻は登録者のみ》	社会福祉士資格または教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者	53,000 円
精神保健福祉援助実習費 《精神保健福祉専攻の全学生》 《心理福祉専攻は登録者のみ》	精神保健福祉士登録者	53,000 円
教職課程履修費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者（2 回目）	70,000 円
教育実習費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者	40,000 円
教職課程履修費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者（2 回目）	33,000 円
教職課程履修費 （中学・高校教諭一種「保健」）	教職課程（中学・高校教諭一種「保健」）登録者 ※教職課程（養護教諭一種）に加えて履修する場合	66,000 円
保育士養成課程履修費	保育士養成課程登録者（2 回目）	39,500 円
保育実習費	保育士養成課程登録者 保育実習Ⅰ（保育所）（施設）	40,000 円
社会教育主事課程履修費	社会教育主事課程登録者	44,000 円
第一種衛生管理者資格課程履修費	第一種衛生管理者資格課程登録（1 回目）	22,000 円

＜4 年次春期＞―資格課程登録者―（　**社会福祉学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
教育実習費（高校教諭一種「福祉」）	教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者	20,000 円
教育実習費（高校教諭一種「公民」）	教職課程（高校教諭一種「公民」）登録者	20,000 円
教職課程履修費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者（1 回目）	73,000 円
教職課程履修費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者（3 回目）	75,000 円
教職課程履修費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者（3 回目）	33,000 円
看護臨床実習費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者	20,000 円
教育実習費（中学・高校教諭一種「保健」）	教職課程（中学・高校教諭一種「保健」）登録者 ※教職課程（養護教諭一種）に加えて履修する場合	40,000 円
心理実習費	公認心理師受験基礎資格登録者	40,000 円
保育士養成課程履修費	保育士養成課程登録者（3 回目）	60,000 円
保育実習費	保育士養成課程登録者 保育実習Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）	20,000 円
第一種衛生管理者資格課程履修費	第一種衛生管理者資格課程登録者（2 回目）	22,000 円
ソーシャルワーク実習費 《精神保健福祉専攻の資格登録者》	社会福祉士資格または教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者	53,000 円
社会教育主事実習費	社会教育主事課程登録者	10,000 円

＜4 年次秋期＞―資格課程登録者―（　**社会福祉学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
養護実習費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者	40,000 円
教職課程履修費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者（2 回目）	70,000 円
教育実習費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者	20,000 円
ソーシャルワーク実習費Ⅱ 《履修希望者のみ》	ソーシャルワーク実習Ⅱの実習諸経費	53,000 円
スクールソーシャルワーカー課程履修費 《社会福祉コースおよび精神保健福祉専攻の資格登録者》	スクールソーシャルワーカー登録者	22,000 円
スクールソーシャルワーク実習費 《社会福祉コースおよび精神保健福祉専攻の資格登録者》	スクールソーシャルワーカー登録者	20,000 円
レクリエーションインストラクター資格登録費用	レクリエーションインストラクター登録者	17,600 円

保育児童学科

＜2年次秋期＞―資格課程登録者―（　**保育児童学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
教職課程履修費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者（1回目）	50,000円
教職課程履修費（高校教諭一種「福祉」）	教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者 ※社会福祉士資格に加えて履修する場合	22,000円
社会福祉士資格課程履修費	社会福祉士資格登録者（1回目）	80,000円

＜3年次春期＞―資格課程登録者―（　**保育児童学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
保育実習費　《保育児童学科の全学生》	保育実習Ⅰ（保育所）（施設）	40,000円
教育実習費（幼稚園教諭一種）　※注	教職課程（幼稚園教諭一種）登録者	40,000円
教職課程履修費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者（1回目）	30,000円
教育実習費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者	40,000円
教職課程履修費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者（2回目）	40,000円
教職課程履修費 （中学・高校教諭一種「保健」）	教職課程（中学・高校教諭一種「保健」）登録者 ※教職課程（養護教諭一種）に加えて履修する場合	55,000円
教職課程履修費（高校教諭一種「公民」）	教職課程（高校教諭一種「公民」）登録者	55,000円
社会福祉士資格課程履修費	社会福祉士資格登録者（2回目）	71,000円
ソーシャルワーク実習費	社会福祉士資格および教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者	53,000円
社会教育主事課程履修費	社会教育主事課程登録者	44,000円

＜4年次春期＞―資格課程登録者―（　**保育児童学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
保育実習費　《保育児童学科の全学生》	保育実習Ⅱ（保育所）または保育実習Ⅲ（施設）	20,000円
教職課程履修費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者（2回目）	36,000円
教職課程履修費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者（3回目）	20,000円
看護臨床実習費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者	20,000円
教育実習費（中学・高校教諭一種「保健」）	教職課程（中学・高校教諭一種「保健」）登録者 ※教職課程（養護教諭一種）に加えて履修する場合	40,000円
教職課程履修費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者（1回目）	73,000円
教育実習費（高校教諭一種「公民」）	教職課程（高校教諭一種「公民」）登録者	20,000円
教育実習費（高校教諭一種「福祉」）	教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者 ※社会福祉士資格に加えて履修する場合	20,000円
社会福祉士資格課程履修費	社会福祉士資格登録者（3回目）	80,000円
社会教育主事実習費	社会教育主事課程登録者	10,000円

＜4年次秋期＞―資格課程登録者―（　**保育児童学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
養護実習費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者	40,000円
教職課程履修費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者（2回目）	70,000円
教育実習費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者	20,000円
レクリエーションインストラクター資格登録費用	レクリエーションインストラクター登録者	17,600円

※　「幼稚園教諭一種免許状」と「小学校教諭一種免許状」の両方の免許状取得を希望する場合は、「教育実習費（幼稚園教諭一種）」の納入の必要はありません。

教育学科

＜2 年次秋期＞―資格課程登録者―（　**教育学部 教育学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
教職課程履修費（幼稚園教諭一種）	教職課程（幼稚園教諭一種）登録者（1 回目）	55,000 円

＜3 年次春期＞―資格課程登録者―（　**教育学部 教育学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
教育実習費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者	40,000 円
教育実習費（幼稚園教諭一種）	教職課程（幼稚園教諭一種）登録者	40,000 円
教職課程履修費（高校教諭一種「公民」）	教職課程（高校教諭一種「公民」）登録者（1 回目）	40,000 円
社会教育主事課程履修費	社会教育主事課程登録者	55,000 円

＜4 年次春期＞―資格課程登録者―（　**教育学部 教育学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
教職課程履修費（幼稚園教諭一種）	教職課程（幼稚園教諭一種）登録者（2 回目）	55,000 円
看護臨床実習費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者	20,000 円
教育実習費（中学・高校教諭一種「保健」）	教職課程（中学・高校教諭一種「保健」）登録者 ※教職課程（養護教諭一種）に加えて履修する場合	40,000 円
教育実習費（中学・高校教諭一種「英語」）	教職課程（中学・高校教諭一種「英語」）登録者	40,000 円
教育実習費（高校教諭一種「情報」）	教職課程（高校教諭一種「情報」）登録者	20,000 円
教職課程履修費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者（1 回目）	73,000 円
教職課程履修費（高校教諭一種「公民」）	教職課程（高校教諭一種「公民」）登録者（2 回目）	37,000 円
教育実習費（高校教諭一種「公民」）	教職課程（高校教諭一種「公民」）登録者	20,000 円
社会教育主事実習費	社会教育主事課程登録者	10,000 円

＜4 年次秋期＞―資格課程登録者―（　**教育学部 教育学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
養護実習費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者	40,000 円
教職課程履修費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者（2 回目）	70,000 円
教育実習費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者	20,000 円
レクリエーションインストラクター資格登録費用	レクリエーションインストラクター登録者	17,600 円

心理学科

＜2 年次秋期＞―資格課程登録者―（　**心理学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
ソーシャルワーク基礎実習費	社会福祉士資格、教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者	23,000 円
教職課程履修費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者（1 回目）	75,000 円
教職課程履修費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者（1 回目）	50,000 円

＜3 年次春期＞―資格課程登録者―（　**心理学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
ソーシャルワーク実習費 精神保健福祉援助実習費	社会福祉士資格、精神保健福祉士資格、教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者	53,000 円
教職課程履修費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者（2 回目）	70,000 円
教育実習費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者	40,000 円
教職課程履修費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者（2 回目）	40,000 円
教職課程履修費 （中学・高校教諭一種「保健」）	教職課程（中学・高校教諭一種「保健」）登録者 ※教職課程（養護教諭一種）に加えて履修する場合	66,000 円
社会教育主事課程履修費	社会教育主事課程登録者	44,000 円

＜4 年次春期＞―資格課程登録者―（　**心理学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
教育実習費（高校教諭一種「福祉」）	教職課程（高校教諭一種「福祉」）登録者	20,000 円
教育実習費（高校教諭一種「公民」）	教職課程（高校教諭一種「公民」）登録者	20,000 円
教職課程履修費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者（1 回目）	73,000 円
教職課程履修費（小学校教諭一種）	教職課程（小学校教諭一種）登録者（3 回目）	75,000 円
教職課程履修費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者（3 回目）	31,000 円
看護臨床実習費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者	20,000 円
教育実習費（中学・高校教諭一種「保健」）	教職課程（中学・高校教諭一種「保健」）登録者 ※教職課程（養護教諭一種）に加えて履修する場合	40,000 円
心理実習費	公認心理師受験基礎資格登録者	40,000 円
ソーシャルワーク実習費	※社会福祉士資格と精神保健福祉士資格の両方を履修する場合	53,000 円
社会教育主事実習費	社会教育主事課程登録者	10,000 円

＜4 年次秋期＞―資格課程登録者―（　**心理学科**の学生対象　）

項目	摘要	金額
養護実習費（養護教諭一種）	教職課程（養護教諭一種）登録者	40,000 円
教職課程履修費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者（2 回目）	70,000 円
教育実習費（特別支援学校教諭一種）	教職課程（特別支援学校教諭一種）登録者	20,000 円
レクリエーションインストラクター資格登録費用	レクリエーションインストラクター登録者	17,600 円